

TFIN52

財務会計 II

SAP ERP - Financials

日付 _____
会場 _____
講師 _____

Web サイト _____

受講者用ハンドブック

コースバージョン: 92
コース期間: 10 日数
製品番号: 50095445



An SAP course - use it to learn, reference it for work

著作権

著作権 © 2010 SAP AG. All rights reserved.

本書のいかなる部分もSAP AG の明確な許可なく複製、転記を行うことは形態を問わず禁じられています。本文書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP AG、またはその販売代理店が販売するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社が所有権を有するソフトウェアコンポーネントが含まれています。

商標

- Microsoft®、WINDOWS®、NT®、EXCEL®、Word®、PowerPoint® および SQL Server® は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- IBM®、DB2®、OS/2®、DB2/6000®、Parallel Sysplex®、MVS/ESA®、RS/6000®、AIX®、S/390®、AS/400®、OS/390® および OS/400® は IBM Corporation の登録商標です。
- ORACLE® は、ORACLE Corporation の登録商標です。
- INFORMIX ®-OnLine for SAP および INFORMIX® Dynamic ServerTM は、Informix Software Incorporated の登録商標です。
- UNIX®、X/Open®、OSF/I®、Motif® は Open Group の登録商標です。
- Citrix®、Citrix のロゴ、ICA®、Program Neighborhood®、MetaFrame®、WinFrame®、VideoFrame®、MultiWin®、およびその他の Citrix 製品名は Citrix Systems, Inc. の登録商標です。
- HTML、DHTML、XML、XHTML は、Massachusetts Institute of Technology、World Wide Web Consortium W3C® の商標または登録商標です。
- Java® は、Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。
- JAVASCRIPT® は Netscape の開発および実現技術をライセンスを受けて使用した Sun Microsystems, Inc., の登録商標です。
- SAP、SAP のロゴ、R/2、RIVA、R/3、ABAP、SAP ArchiveLink、SAP Business Workflow、WebFlow、SAP EarlyWatch、BAPI、SAPPHIRE、マネジメントコックピット、mySAP.com のロゴ、および mySAP.com は、ドイツおよび世界各国における SAP AG の商標または登録商標です。本文書に記載されたこれ以外の各製品は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

免責事項

これらのマテリアルは、'現状のまま' 提供されるものであり、SAP は、これらのマテリアルとサービス、情報、テキスト、グラフィック、リンク、およびここに記載された他のすべてのマテリアルと製品に関し、限定されない製造物責任と特定の目的への適合性の保証を含め、明示か黙示かを問わず、いかなる保証もいたしません。これらのマテリアルまたは含まれるソフトウェアコンポーネントの使用により発生した、無制限の営業利益の損失や不利益を含め、いかなる種類の直接損害、間接損害、もしくは特別の損害、偶発的損害、懲罰的損害についても、一切の責任を負わないものとします。

g20100609125349

使用上の注意

このハンドブックは、このコースにおける講師の説明を補足することを目的としています。このハンドブックは自習用に作成されたものではありません。

凡例

このガイドで使用する書体の凡例を以下に示します。

書体	説明
サンプルテキスト	画面上に表示される語や文字列。これらのテキストには、項目名、画面の表題、押ボタン、メニュー名、メニューパス、およびオプションが含まれます。 これらのテキストは、他の文書へのクロスリファレンスとして内部的にも、外部的にも使用されます。
サンプルテキスト	本体テキスト、グラフィックの表題、および表における強調された語または語句。
EXAMPLE TEXT	システムにおけるエレメント名。本体テキストで囲まれた場合、プログラミング言語の各キーワード (SELECT、INCLUDEなど) や、レポート名、プログラム名、トランザクションコード、テーブル名などが含まれます。
Example text	画面出力。ファイルやディレクトリ名とそのパス、メッセージ、変数名やパラメータ、およびプログラムのソーステキストの一部などが含まれます。
Example text	正確なユーザエントリ。これらの語や文字は、文書で表示されるとおりシステムに入力します。
<Example text>	可変のユーザエントリ。括弧 <> は、その中の語および文字が適切なエントリで置き換えられることを示します。

本文で使用される記号の凡例

このハンドブックでは次のアイコンが使用されます。

アイコン	凡例
	追加情報、ヒント、または背景説明
	前述の注記または追加説明
	例外または注意事項
	手順
	講師のプレゼンテーションで表示される項目

内容

コースの概要.....	vii
コースの目標	vii
コースの目的	vii
1 章: 組織構造.....	1
割当: 会社コード – 勘定コード表 – 償却表	2
管理会計割当	17
資産クラスの概要	20
償却領域/金額の転記	24
2 章: マスタデータ	35
資産クラスの機能	36
資産マスタレコード	63
一括変更	82
3 章: 資産取引.....	87
資産取得	88
資産除却	125
資産振替 (会社間/関連会社間)	136
建設仮勘定 (AuC).....	154
臨時償却	164
4 章: 定期処理および定期評価.....	171
償却領域、償却キー、減価償却計算、および転記	172
固定資産管理での会計年度変更と年度末処理	206
5 章: 情報システム	221
レポート選択	222
金額シミュレーション	230
資産台帳	242
6 章: 総勘定元帳、債権管理、および債務管理の標準レポート ...	249
情報管理	250
レポートバリエントとレポート変数	255
7 章: リストビューア.....	273
SAP リストビューアのデザイン	274
選択	281

は
↑

画面レイアウトの変更	296
8 章: 財務会計のドリルダウンレポート	307
ドリルダウンレポートのアーキテクチャ	308
特性とキー数値	313
書式タイプ	317
レポート内のナビゲーション	322
書式とレポートの定義	330
レポート間インターフェースとレポート割当	345
9 章: 特殊仕訳取引	353
特殊仕訳取引のアプリケーションビュー	354
特殊仕訳取引の設定	386
10 章: 未転記伝票	403
未転記伝票と仮伝票の基礎	404
伝票の未転記入力と未転記伝票の処理	419
未転記伝票とワークフロー	431
11 章: チェック/代入	451
チェック/代入の基礎	452
財務会計でのチェックの定義と実行	461
財務会計での代入の定義と実行	476
代入/チェックの追加の技法	491
コード組合せのチェックルール	506
12 章: FI におけるアーカイブ	511
データアーカイブの基礎と分類	512
準備アクティビティ - システム設定	518
例を使用した財務会計でのアーカイブの実行	534
13 章: 補足	573
代入/チェックに関する追加情報	574
付録 1: メニューパス	587
用語集	591
目次	593

コースの概要

TFIN52 では、まず固定資産管理 (FI-AA) の設定と適用について説明します。その後、財務会計の標準レポートおよびその他のレポートツールの使用方法を学習します。また、財務会計における 2 つの追加の転記/入力テクニックとして、特殊仕訳取引および未転記伝票について学習します。このコースの最後には、財務会計におけるチェック、代入、およびアーカイブについて説明します。

対象グループ

このコースの対象者は、以下のとおりです。

- SAP ERP Financials を使用した財務会計の導入を担当するソリューションコンサルタント

コース受講のための前提条件

前提条件

- 会計の知識
- TFIN50、財務会計 I

コースの目標



このコースの目標は、以下のとおりです。

- 固定資産管理の設定および使用
- 固定資産管理の統合に関する側面の理解および導入
- SAP によって提供される標準レポートに加え、さまざまなレポートツールからの正しいオプションの選択
- 特殊仕訳取引、未転記伝票、チェック、代入の使用箇所の特定
- 財務会計におけるアーカイブの要素の説明

コースの目的



このコースの目的は、以下のとおりです。

- 固定資産管理の設定
- 固定資産管理の使用
- システムでの特殊仕訳取引の照会
- システムでの未転記伝票機能の使用とその適切な定義
- SAP ERP Financials でのアーカイブ機能の使用
- チェックと代入の財務会計への適用

1 章

組織構造

章の概要

組織構造の章では、固定資産管理 (FI-AA) が内部会計と外部会計の構造にどのように組み込まれているかについての概要を示します。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ... 重要な組織ユニットの列挙および区別
- ... 償却表の重要性についての説明
- ... 会社コードに償却表を割り当てる重要性についての説明
- ... さまざまな償却領域の列挙および区別
- ... 固定資産管理と管理会計の統合についての説明
- ... SAP システムでの資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスの紹介
- ... 資産クラスの要素の列挙およびその要素の機能についての説明
- ... 総勘定元帳に金額を転記する償却領域の定義
- ... 資産価額と減価償却/償却額との区別
- ... さまざまな金額を総勘定元帳に転記する方法についての説明

章の内容

レッスン: 割当: 会社コード – 勘定コード表 – 償却表	2
演習問題 1: 割当: 会社コード – 勘定コード表 – 償却表	9
レッスン: 管理会計割当	17
レッスン: 資産クラスの概要	20
レッスン: 償却領域/金額の転記	24
演習問題 2: 償却領域/総勘定元帳への金額の転記	29

レッスン：割当：会社コード – 勘定コード表 – 償却表

レッスンの概要

このレッスンでは、会社コード、勘定コード表、および償却表について説明します。また、償却表の定義、および会社コードへの勘定コード表と償却表の割当方法について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 重要な組織ユニットの列挙および区別
- ... 債却表の重要性についての説明
- ... 会社コードに債却表を割り当てる重要性についての説明
- ... さまざまな債却領域の列挙および区別

ビジネスシナリオ

(外部の)コンサルタントによって、グループ構造のマッピングのために以下の SAP 組織構造が提案されました。FI-AA プロジェクトチームでは、この提案を検討し、決定を下そうとしています。

クライアント、会社コード、事業領域



クライアント

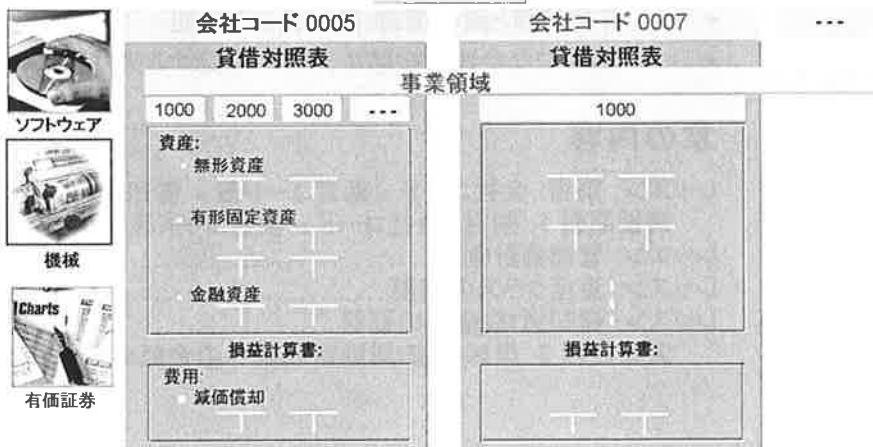
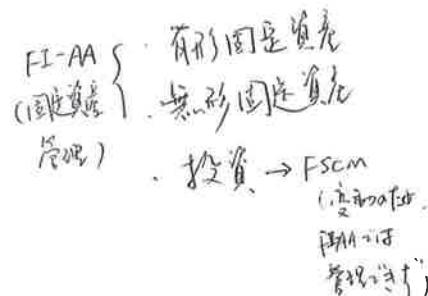


図 1: クライアント/会社コード

該定資産の種類



クライアントは、SAP システム階層の最上位レベルです。また、クライアントは、作業中の特定の論理システムを示しています。このレベルでの定義内容は、すべての会社コードに適用されます。

会社コードは、それが独立会計単位です。法定の貸借対照表および損益計算書はこのレベルで作成します。

各事業領域は財務会計上の独立した単位と見なされ、内部向け貸借対照表および損益計算書を作成することができます。事業領域特性を使用する場合は、最初に、FI カスタマイジングで、使用する事業領域を定義し、属性を設定する必要があります。この処理を行うには、SAP カスタマイジング導入ガイド (IMG) → 企業構造 → 定義 → 財務会計 → 定義: 事業領域を選択します。

伝票分割(新総勘定元帳の機能)によって、事業領域特性の(完全)残高を登録できるようになります(この機能については、次ページも参照。また、このコースの末尾にある付録2でより詳細に説明しています)。

新総勘定元帳が含まれる標準システムで残高を登録できるその他の(FI)特性には、利益センタおよびセグメントがあります。



ヒント: 新総勘定元帳の基本的な機能は、固定資産管理では重要な役割を果たさないため、AC305 コースでは詳しく説明しません。

図に示されている理由により、AA## 会社コードに対しては伝票分割が有効化されません。



ヒント: 新総勘定元帳によって新しいマッピングオプションが提供されるか、または資産処理に代わる機能が使用可能になる場合は、文書に、対応する説明が含まれています。

この他に、このコースの **付録2** では新総勘定元帳の特殊機能について説明します。



注記: 上記の図は、若干古い Enjoy SAP GUI (図の右側) と比較的新しい SAP Signature Design SAP GUI (図の左側)との相違点を示しています。

SAP GUI は、通常は SAP フロントエンドディレクトリで選択することができます。トレーニングシステム(少なくとも、Walldorf トレーニングルーム)では、スタート → プログラム → SAP フロントエンド → SAP GUI 設定でこの選択を行うことができます。

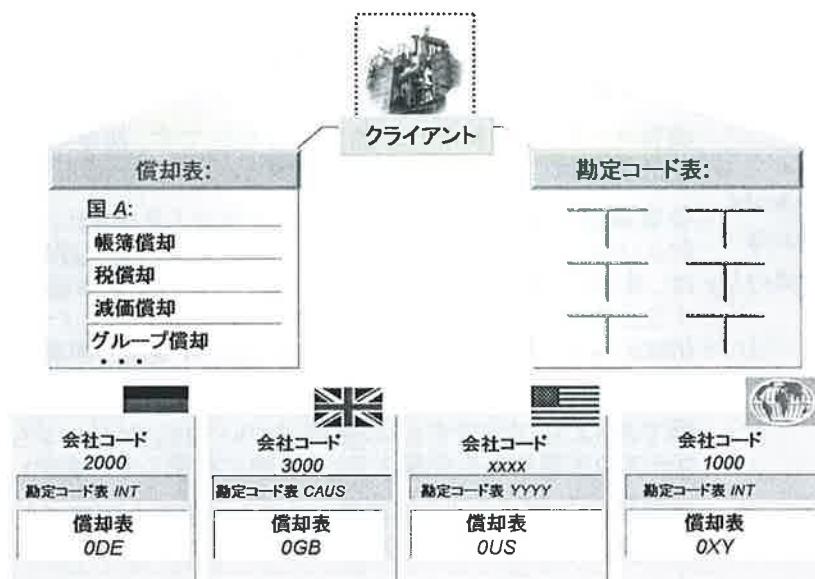


図 2: 勘定コード表/借却表

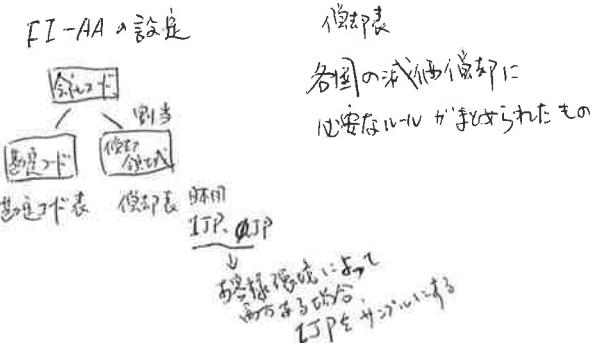
すべての G/L 勘定は、勘定コード表に定義されています。固定資産管理 (FI-AA) では、財務会計 (FI) の会社コードに割り当てられている勘定コード表を使用します。勘定コード表は、要件 (グローバル、業種別、国依存など) に合うように修正することができます。

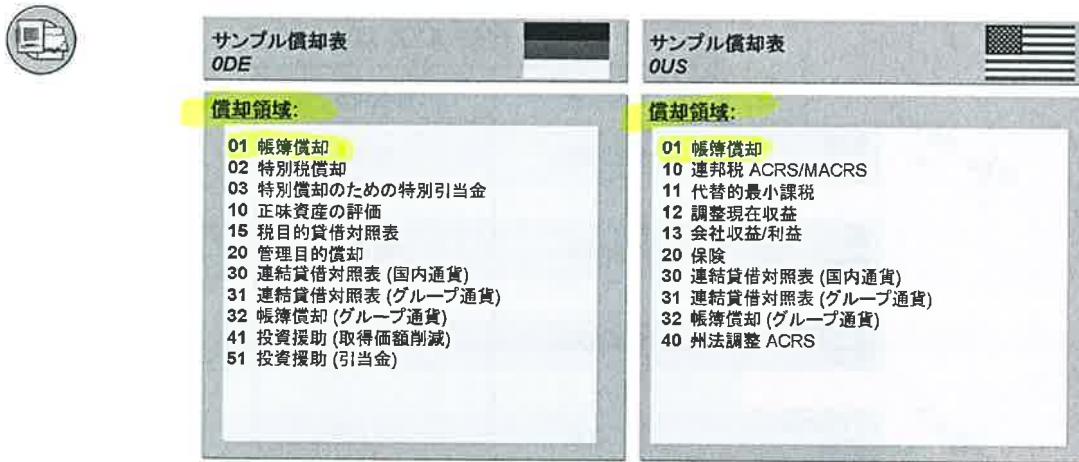
借却表は国依存である必要があるため、SAP は数多くの国向けにサンプル借却表を提供しています。サンプル借却表には、**借却領域**があらかじめ定義されています。これらの国依存のサンプル借却表を使用して、会社固有の借却表を登録することができます。

各借却領域は、特定のタイプの評価 (帳簿借却や税借却など) を表しています。借却表に対して独自の借却領域を定義することもできます。

各会社コードは、(有効な) 勘定コード表と借却表を 1 つずつ使用します。

複数の会社コードで、同一の勘定コード表および借却表を使用することもできます。





AC305で使用している(サンプル)償却表については、このスライドの説明を参照してください。

図 3: (国依存の) サンプル償却表

償却表の償却領域は、2桁の数字キーとともに定義されています。償却領域01は、常に、いわゆるリーディング償却領域と呼ばれるものになります。この領域には特殊な役割があり、このコースではさまざまなコンテキストでその役割について説明します。(現時点で)リーディング償却領域01は、各サンプル償却表の国会計原則を反映したものとなっています。

その他の償却領域には、たとえば、以下のような評価を含めることができます

- ・ 税貸借対照表評価
 - ・ 原価ベース評価
 - ・ 他の通貨での評価アプローチまたはグループ評価などの評価アプローチ
 - ・ キャピタル税評価
 - ・ 帳簿償却と国別税償却との差額

注意: 少なくともドイツでは、コース AC305 には、提供されている国依存のサンプル償却を使用した操作が含まれていません。これは、トレーニングシステムで扱うドイツのサンプル償却表が標準 SAP システムに対応しなくなっているためです。

少なくともドイツでは、(演習問題ではコピーテンプレートとして) 償却表 IAC を使用します。

(ただし) 償却表 *IAC* は、サンプル償却表 *ODE* のコピーであり、推奨値が追加されています。

假想領域 固定資産の令嬢を 管理する単位



資産 XYZ 2005 年度

	取得価額	評価調整	正味簿価
帳簿 償却	100,000.--	40,000.--	60,000.--
税 償却	100,000.--	40,000.--	60,000.--
管理目的 償却	100,000.--	20,000.--	80,000.--
IFRS など パラレル 償却	100,000.--	50,000.--	50,000.--
⋮			

図 4: 債却領域

資産価額と取引は個々に異なる目的で評価される場合があります。たとえば、以下の目的によって異なる評価アプローチを使用する必要があります。

- … (国の要件に準拠した) 帳簿償却
- … 税目的貸借対照表(別の評価が有効な場合)
- … 内部会計(=> 管理会計)
- … パラレル会計(IFRS や米国会計基準に従って連結貸借対照表を登録する場合など)

これらのさまざまな評価アプローチは、債務領域によって SAP システム内でマッピングされています。

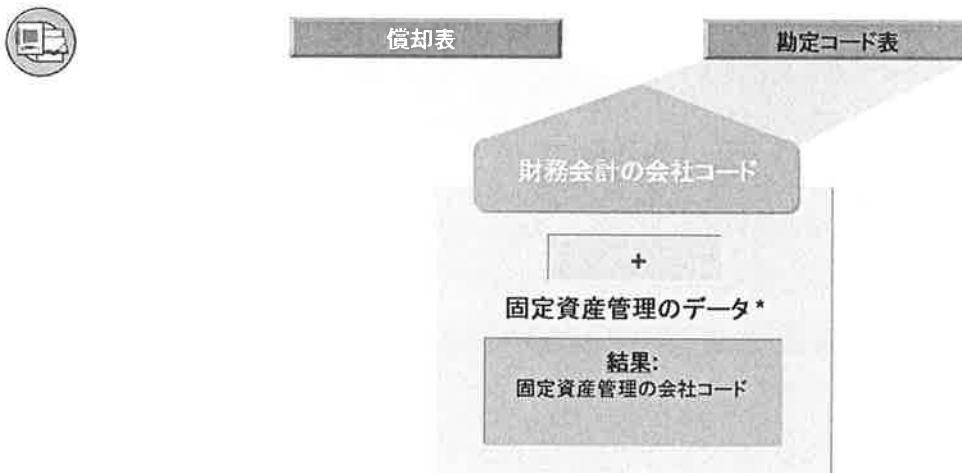


図 5: 固定資産管理の会社コード

概要:

まず、財務会計での会社コードの設定を完了します。

次に、(可能な場合は別個のプロジェクトで) 会社コードに償却表を割り当てます。

* 会社コードは、さまざまな IMG アクティビティによって、必要なデータおよび情報が含まれるように拡張されます。

これで、固定資産管理で会社コードを使用するための“準備が完了”しました。

演習問題 1: 割当: 会社コード – 勘定コード表 – 償却表

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- カスタマイジング導入ガイド (IMG) での国依存モデル勘定コード表の検索
- 償却表の定義
- FI-AA で使用するための会社コードの準備

ビジネスシナリオ

会社では、総勘定元帳 (FI) に加えて、固定資産管理を SAP システムでマッピングする必要があります。このためには、テストシステムの償却表オブジェクトと償却領域オブジェクトを処理および分析します。その後、(別個の) 償却表にテスト会社コードを割り当てます。

タスク 1:



ヒント: 一連の演習問題の後に解答セクションが続きます。解答セクションには、問題文が再度記載されています。

“ターゲット指向型” の方法で取り組みたい場合は、いつでもすぐに解答セクションに進むことができます。

割当: 償却表の定義と設定: まず、償却表が必要になります。償却表は、固定資産管理に影響を及ぼす他の数多くの設定の前提条件となります。以下の演習問題を完了します。

1. **償却表 IAC をコピーすることによって (少なくともドイツ語でのコースすべてでは)、内容に AA## (## は、PC、モニタ、またはグループの番号) を指定して 償却表を別途登録します。**



ヒント: 償却表 IAC は、SAP トレーニングコースのみで使用されます。実際には、コピーテンプレートとして国依存のサンプル償却表 OXY を使用することになります。ここで、XY は国を表します。以下はその例です。一般に、ドイツでは ODE、米国では OUS、英国では OGB というように、サンプル償却表を使用します。



注記: ドイツ語でのコースにおいては、償却表 ODE (および IDE) は、(ドイツの) トレーニングシステムの SAP 標準出荷に対応しなくなるため、テンプレートとして使用されなくなります。このため、ドイツでは 償却表 IAC を使用します。IAC は、国依存のサンプル償却表 (ODE) を正確にコピーしたものです。



注意: AC305 コースをドイツ語圏以外で実施する場合は、この演習問題を始める前に、どの償却表をテンプレートとして使用すればよいかを講師にお問い合わせください。

2. 次に、登録した 償却表 AA## のテキストを変更します。たとえば、償却表 グループ##などに変更します。
•
3. 次に、償却表 AA## から、コースに不要な償却領域を削除します。削除できる償却領域、削除が必要な償却領域が不明な場合は、講師に質問してください。

次へ

タスク 2:

会社コードに償却表を割り当てます。

- 自分で作成した(新規)償却表 AA##をSAPシステムの固定資産管理で使用するには、その償却表を(少なくとも)1つの会社コードにリンクする必要があります。この割当には、会社コード AA##を使用してください(この場合も##はPC、モニタ、またはグループ番号です)。

タスク 3:

オプション: システム分析

- 各会社コードに償却表が割り当てられているテーブル(タスク 2 を参照)を分析するときに、FI会社コードに償却表が割り当てられていないことに気付きます。これはなぜでしょうか。

解答 1: 割当: 会社コード – 勘定コード表 – 債却表

タスク 1:



ヒント: 一連の演習問題の後に解答セクションが続きます。解答セクションには、問題文が再度記載されています。

“ターゲット指向型” の方法で取り組みたい場合は、いつでもすぐに解答セクションに進むことができます。

割当: 債却表の定義と設定: まず、債却表が必要になります。債却表は、固定資産管理に影響を及ぼす他の数多くの設定の前提条件となります。以下の演習問題を完了します。

1. **債却表 IAC をコピーすることによって (少なくともドイツ語でのコースすべてでは)、内容に AA## (## は、PC、モニタ、またはグループの番号) を指定して 債却表を別途登録します。**



ヒント: 債却表 IAC は、SAP トレーニングコースのみで使用されます。実際には、コピーテンプレートとして国依存のサンプル債却表 0XY を使用することになります。ここで、XY は国を表します。以下はその例です。一般に、ドイツでは 0DE、米国では 0US、英国では 0GB というように、サンプル債却表を使用します。



注記: ドイツ語でのコースにおいては、債却表 0DE (および 1DE) は、(ドイツの) トレーニングシステムの SAP 標準出荷に対応しなくなるため、テンプレートとして使用されなくなります。このため、ドイツでは債却表 IAC を使用します。IAC は、国依存のサンプル債却表 (0DE) を正確にコピーしたものです。



注意: AC305 コースをドイツ語圏以外で実施する場合は、この演習問題を始める前に、どの債却表をテンプレートとして使用すればよいかを講師にお問い合わせください。

- a) SAP システムのカスタマイジングで、SAP Easy Access → ツール → カスタマイジング → IMG → プロジェクト実行に移動します。
表示されるウィンドウで、SAP 完全版 IMG の照会をクリックするか、または F5 を押します。

次へ

カスタマイジングで、財務会計(新規)→固定資産管理→組織構造→コピー: 参照債却表/債却領域を選択します。



注意: 以降の解答では、固定資産管理のカスタマイジングへのパスは最初から記述されているわけではなく、固定資産管理のカスタマイジングから始まるソリューションパスが記述されています。

アクティビティ選択ダイアログボックスが表示されます。コピー: 参照債却表を選択します(たとえば、ダブルクリックします)。

組織オブジェクト債却表画面で、(メニュー>オプション)組織オブジェクト→組織オブジェクトコピーを選択します。

コピーダイアログボックスで以下のデータを入力し、エントリを確認します。以下のデータ(または講師から指定されたそれ以外のデータ)を入力し、入力内容を確認します。

項目名/データ型	値
開始債却表	1AC 演習問題/解答を開始するときは、メモ、コメント、および警告に注意してください。
終了債却表	AA## (## は、PC、モニタ、またはグループ番号を表します)

コピートランザクションが正常に終了したという内容の情報がシステムから返されるため、その内容を確認し、緑色の矢印(F3ボタン)を使用して戻ります。アクティビティ選択ダイアログボックスに戻ります。

2. 次に、登録した債却表 AA## のテキストを変更します。たとえば、債却表グループ##などに変更します。

- a) アクティビティ選択ダイアログボックスで、指定: 債却表名という行を選択します。

債却表 AA## および AC コース向けのサンプル債却表 (ODE のコピー) というテキストが含まれている行を検索し、以下のようにテキスト列を上書きします。

項目名/データ型	値
債却表 (ChDep)	AA##

次へ

項目名/データ型	値
テキスト	償却表 グループ ##

変更内容を保存し、緑色の矢印ボタン(F3)を使用して戻ります。アクティビティ選択ダイアログボックスに戻ります。

3. 次に、償却表 AA## から、コースに不要な償却領域を削除します。削除できる償却領域、削除が必要な償却領域が不明な場合は、講師に質問してください。

- a) アクティビティ選択ダイアログボックスで、**コピー/削除: 債却領域**を選択します。

作業領域決定: エントリダイアログボックスが開き、償却表を入力するためのオプションが表示されます。デフォルト値がない場合は、(自分で登録した) 債却表 AA## を入力し、エントリを確認します。

AC305 コースでは、償却領域 10, 41、および 51 を削除することができます(削除しても問題ありません)。削除するには、左側の行頭から 3 つの領域を選択します。これで行が強調表示されます。

同じ画面で、メニューの**編集 → 削除**を選択します。

保存を押し、表示されるメッセージを確認します。

これにより、固定資産管理のカスタマイジングのメイン画面に戻ることができます。

タスク 2:

会社コードに償却表を割り当てます。

1. 自分で作成した(新規) 債却表 AA## を SAP システムの固定資産管理で使用するには、その償却表を(少なくとも)1 つの会社コードにリンクする必要があります。この割当には、会社コード AA## を使用してください(この場合も## は PC、モニタ、またはグループ番号です)。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 割当: 債却表 -> 会社コードを選択します。

表示されるテーブルで会社コード AA## を見つけ、償却表(Chrt dep)列に以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
償却表	AA## (自分で登録した償却表)

保存を押し、カスタマイジングのメイン画面に戻ります。

次へ

タスク 3:

オプション：システム分析

1. 各会社コードに償却表が割り当てられているテーブル（タスク 2 を参照）を分析するときに、FI 会社コードに償却表が割り当てられていないことに気付きます。これはなぜでしょうか。

- a) **解答：**固定資産管理コンポーネントでは、償却表が割り当てられない会社コードを使用することはできません。このような会社コードは、その規模のために、別個の補助元帳として固定資産管理を必要としているか、または外部システムで固定資産管理を実行しています。

↓ FI では固定資産管理いません



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 重要な組織ユニットの列挙および区別
- ... 償却表の重要性についての説明
- ... 会社コードに償却表を割り当てる重要性についての説明
- ... さまざまな償却領域の列挙および区別

レッスン：管理会計割当

レッスンの概要

固定資産への管理会計対象の割当



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 固定資産管理と管理会計の統合についての説明

ビジネスシナリオ

固定資産管理に焦点が置かれていますが、アプリケーション間の統合を理解するために会計管理全体について話し合う必要があります。

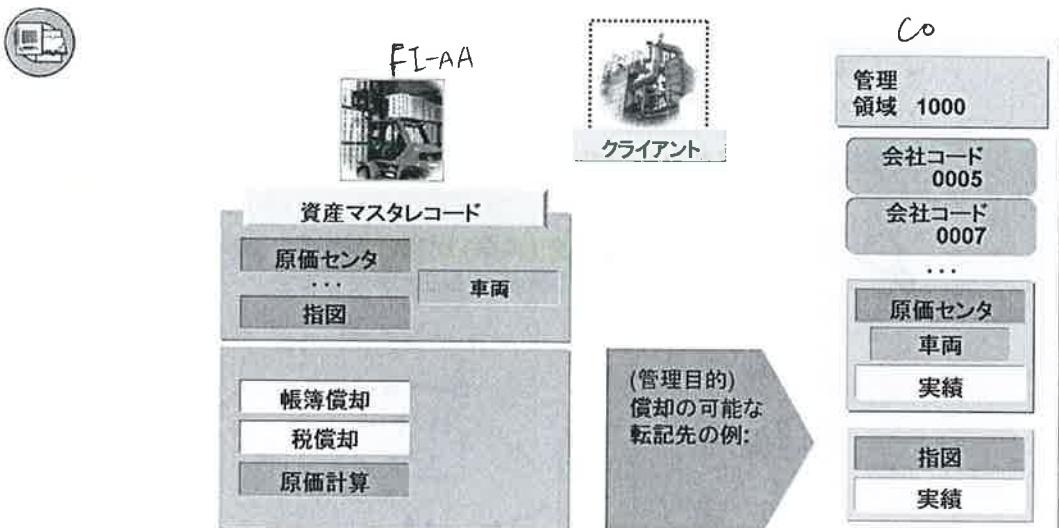


図 6: 管理会計割当

マスタレコードでは、資産に以下の基本管理会計対象を割り当てることがあります。

- 原価センタ (部署)
- (内部) 指図: 指図は“実績指図”または“統計指図”となります。
- 活動タイプ: 統計情報としてのみ使用されます。

これらの管理会計対象は、1つ以上の会社コードを含む1つの管理領域に割り当てられます。

ただし、SAP ERP ソリューション以降では、元の管理会計対象に加えて、(管理会計機能が含まれる)他のアプリケーションからも対象を割り当てることができます。以下に例を示します。

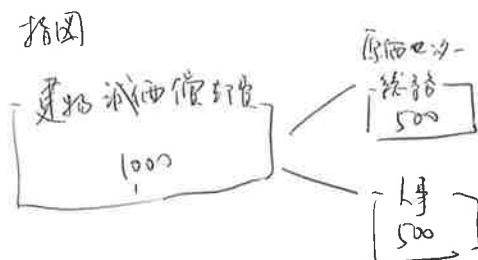
- WBS 要素
- 不動産管理対象
- 保全指図: 統計情報としてのみ使用されます。
- 公共セクター管理 (PSM) の対象

基本的に、どの償却領域からでも管理会計に減価償却を転記することができます。以下の(管理会計)対象に転記することができます。

- 原価センタ
- (実績) 指図
- 原価センタおよび統計指図
- WBS 要素
- 原価センタおよび統計 WBS 要素
- 不動産管理対象
- 公共セクター管理の対象

ただし、1つの資産を2つの原価センタに割り当てるることはできません。

 ヒント: 代わりに、資産を(実績)指図に割り当て、その後(定期的に)それぞれの原価センタに決済することができます。(この処理)





レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 固定資産管理と管理会計の統合についての説明

レッスン：資産クラスの概要

レッスンの概要

資産クラスは資産を分類するための主要な基準です。このレッスンでは、資産クラスを紹介するとともに資産クラスを資産に割り当てる方法を学習します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... SAP システムでの資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスの紹介
- ... 資産クラスの要素の列挙およびその要素の機能についての説明

ビジネスシナリオ

企業の固定資産を分類し、資産クラスの一覧を作成するように依頼されました。

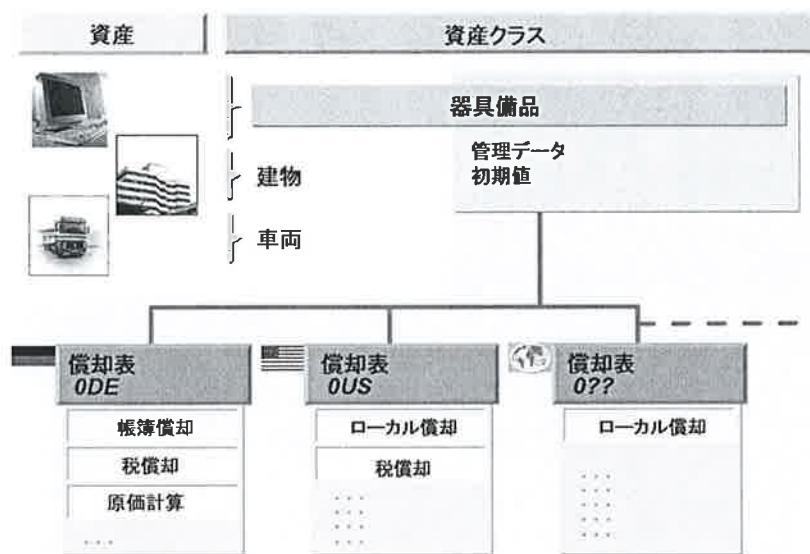


図 7: 資産クラス

資産は資産クラスに割り当てられます。資産クラスの例としては、車両クラス、器具備品クラス、機械クラスなどがあります。

資産の種類をもう1つ
(リカルド)

資産クラスは、マスタデータセクションと償却領域セクションで構成されています。

資産クラスはクライアントレベルで登録されます。資産クラスは、少なくとも1つの償却表に割り当てられることもできるため*、償却領域ごとに償却条件の初期値を資産クラスに入力することができます。

資産クラスで個々の償却領域を無効化することができます。たとえば、特定の資産クラスだけで使用する投資援助用償却領域を無効化することができます。

各償却領域について、資産の償却属性を提案することも、システムによって指定されるようにすることもできます。償却属性を提案する場合は、必要に応じてそれらを上書きすることができます。償却属性がシステムによって指定される場合は、変更できません。

* 1つの資産クラスを複数の償却表にリンクすることもできます。これにより、償却領域が異なってもクラスカタログをグローバルに統一することができます。

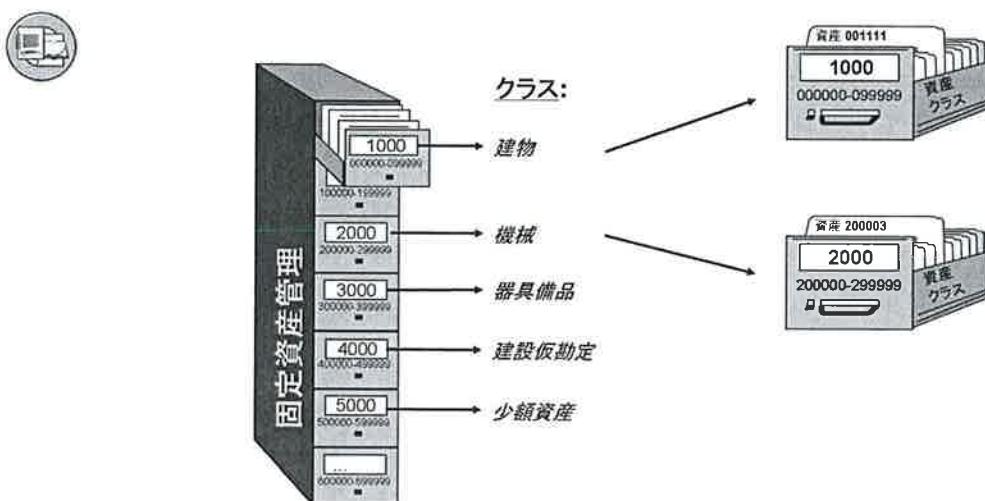


図 8: 資産クラスと資産マスタレコード

資産クラスは資産を分類するための主要な基準となるものです。つまり、各資産は1つの資産クラスにのみ割り当てられます。各資産クラスで減価償却計算の制御パラメータやマスタデータの初期値を指定することができます。

p/s

異なる箇所に表示する必要のある資産、つまり、異なる貸借対照表項目(建物や機械など)は、別々の資産クラスに割り当てる必要があります。

また、建設仮勘定と少額資産にはそれぞれ特別な資産クラスを使用します。この点については、次の章でさらに詳しく取り上げます。

↓
P45

↓
P46

資産面に基礎知識
をうけたか

また、無形資産(特許やソフトウェアなど)またはリース資産、あるいはその両方を登録し、FI-AA で基本的なマッピングを実行することができます。

資産の技術的な管理は、(ロジスティクスの) プラント保全を使用して行われます。SAP 技術文書には、ソリューション名**企業資産管理 (EAM)**も記載されています。

財務/資金管理システムは、**金融資産の管理**に使用されます。このシステムは、**SAP Financial Supply Chain Management (FSCM)** の一部となっています。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... SAP システムでの資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスの紹介
- ... 資産クラスの要素の列挙およびその要素の機能についての説明

レッスン： 償却領域/金額の転記

レッスンの概要

このレッスンでは、償却表の償却領域とそこで管理する金額の総勘定元帳への転記について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 総勘定元帳に金額を転記する償却領域の定義
 - ... 資産価額と減価償却/償却額との区別
 - ... さまざまな金額を総勘定元帳に転記する方法についての説明



ビジネスシナリオ

業務上および法律上のさまざまな視点から資産を評価します。

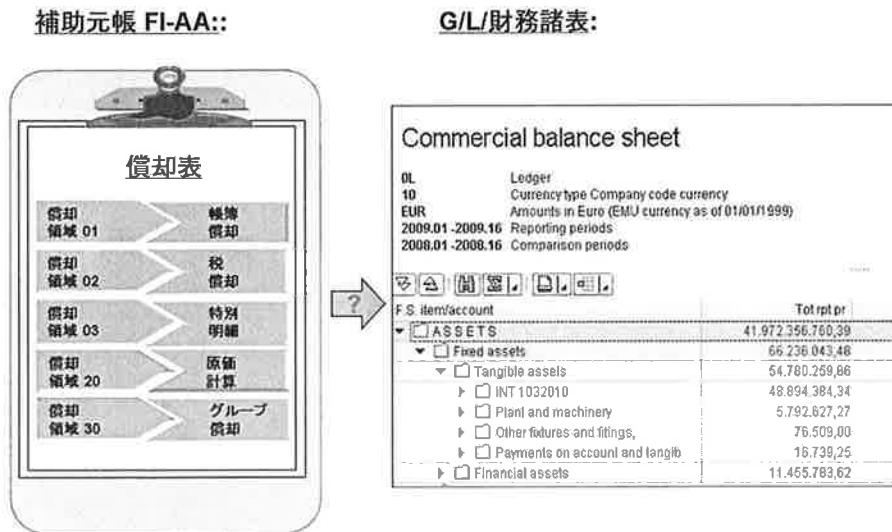


図 9: 償却領域および財務諸表

固定資産は業務上および(税)法上のさまざまな目的のために評価されます。

FI-AA では、償却領域により資産ごとに異なる評価アプローチを管理することができます。

ただし、すべての償却領域の金額に対して財務諸表が登録されたり、財務諸表が必要になったりするわけではありません。

このため、カスタマイジングには、どの金額をどのようにFIに転送するかを定義する設定が必要です。



帳簿償却 (01)	原価計算 (20)	貸借対照表値		償却期間 (常に定期的)	原価償却費用 (リル 時にはべきませ)	転記済 金額/償却なし
		リアルタイム	定期 (または直接)			
ユーザー 定義 領域			X	X		
領域 ZZ						X
レポート				定期資産転記	償却記帳実行	FI-AA 情報管理

図 10: 総勘定元帳への転記の定義

固定資産管理の「償却領域」からの金額を総勘定元帳に転記するかどうか、およびどのように転記するかを指定します。

勘定アプローチを使用する場合は(定期処理および減価償却の章を参照)、以下のオプションが用意されています。

- (0) 債却領域による転記なし(金額がFIに転記されません)
- (1) 債却領域によるリアルタイムの転記(資産価額がオンラインでFIに転記されます(定期償却))
- (2) 債却領域による定期的な資産価額と償却の転記
- (3) 債却領域による償却額のみ転記(定期的) 資産価額は流れません
- (4) 債却領域による資産価額の直接転記と償却転記(減価償却は定期転記)



ヒント: 設定(5)および設定(6)は、新総勘定元帳での複数元帳アプローチを使用する場合にのみ必要です。パラレル決算報告に代わるこのマッピング方法は、AC305ではなく、AC210(新総勘定元帳)で取り上げています。

償却領域 01 では、資産価額が総勘定元帳にリアルタイムで転記されます。この償却領域では、帳簿償却、つまりローカル GAAP をマッピングするのが標準となっています。ただし、実際には、償却領域 01 によって国際評価アプローチがマッピングされるため、国際会計原則がリアルタイムで入力される頻度が増えています。

定期資産価額転記 (プログラム RAPERB2000) では、領域 01 以外の償却領域から総勘定元帳に資産価額を転記することができます。

減価償却は常に、定期的に転記されます。このためにはプログラム RAPOST2000 を使用します。

また、レポート作成目的で償却領域を定義することができます。この領域によって金額が総勘定元帳に転記されることはありません。

詳細については、定期処理の章を参照してください。

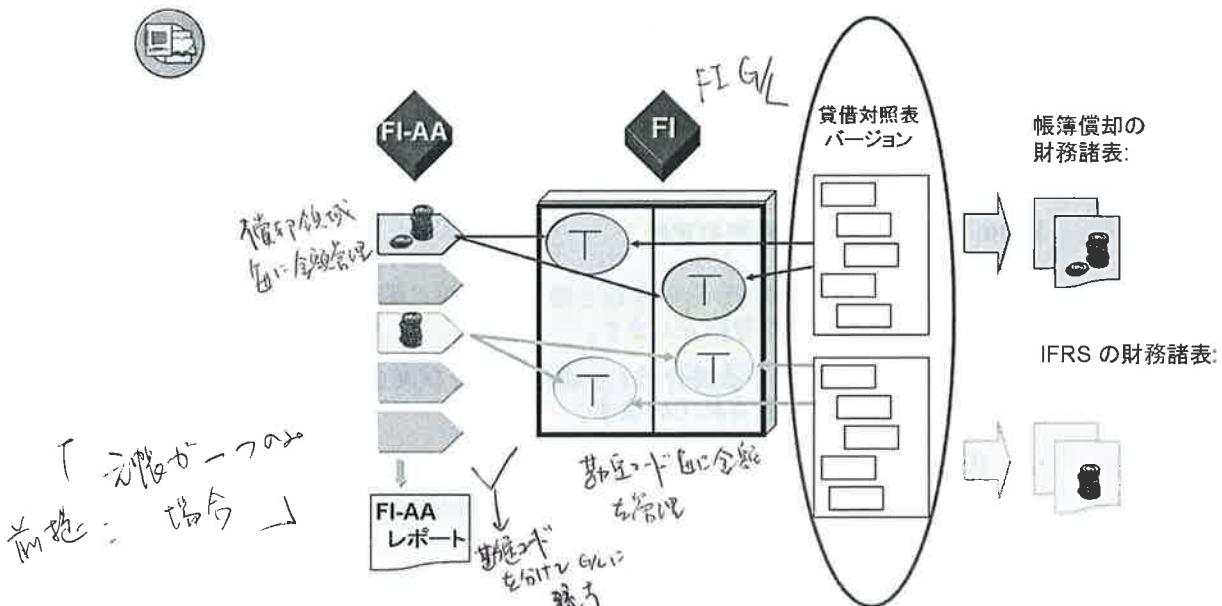


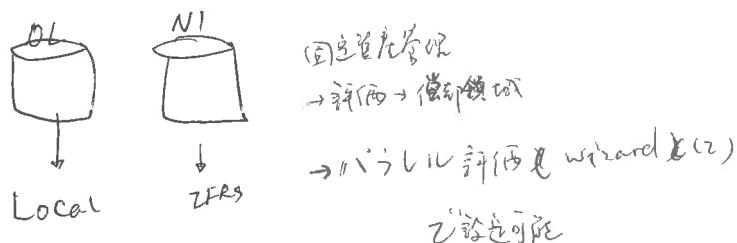
図 11: 債却領域および財務諸表バージョン

個々の償却領域から別個の財務諸表勘定または損益勘定に資産価額と償却額の両方を転記することができます。

FI (総勘定元帳) で勘定コード表ごとに財務諸表バージョンをいくつでも定義することができます。財務諸表バージョンには、勘定価額を表示する財務諸表明細または損益計算書科目を指定します。

資産レポートで、FI-AA レポートの償却領域の財務諸表明細も登録されるようになる場合は、固定資産管理のカスタマイジングで、各償却領域に使用する財務諸表バージョンを入力します。この処理を実行するには、ソート基準を使用することができます。詳細については、情報管理の章を参照してください。

この手順によって、たとえば年度末処理時に、財務諸表の貸借対照表勘定の明細間の整合性に加えて、資産台帳の各資産の配列の整合性も確保されるようになります。



演習問題 2: 債却領域/総勘定元帳への金額の転記

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 債却領域に関するさまざまな設定およびその説明

ビジネスシナリオ

FI-AA プロジェクトチームが、使用され、かつ必要とされる償却領域の設定およびタイプに関する提案に合意しようとしています。

タスク 1:

償却領域から総勘定元帳への転記方法の定義

1. 債却領域の金額(資産価額または減価償却、あるいはその両方)は常に FI 総勘定元帳に転記されるわけではありません。償却表 AA## の償却領域から総勘定元帳への転記方法をチェックします。

資産価額が総勘定元帳にリアルタイムで転記される FI-AA 債却領域はどれですか。

減価償却のみが転記される債却領域はどれですか。

(現在)レポート作成用に予約されており、金額を総勘定元帳に転記できない償却領域はどれですか。

 ヒント: これらのエントリを変更しないでください。

タスク 2:

オプション: 外貨の償却領域の定義:

1. 債却計画 AA## の償却領域 31 と 32 (グループ通貨でレポートされる償却領域) の資産価額が US ドル (USD) で表示されるように定義します。

次へ

タスク 3:

オプション: 資産レポートの財務諸表バージョンの指定

1. 固定資産管理の標準レポート機能では、(後で)財務諸表明細または財務諸表バージョンに従って任意の数の資産レポートをグループ化したり、財務諸表明細を資産レポートに含めたりすることができます。

→ **注記:** このためには、単に、項目財務諸表明細を含めたレポートの選択画面でソートバリアントを選択します (構造 ANLAV/項目 ERGSO)。このトピックとソートバリアントについては、コースの最終日に情報管理の章で説明します。

後で償却領域との財務諸表バージョンと一緒に一覧に表示するかがシステムによって認識されるように、対応する財務諸表バージョンを償却領域に割り当てる必要があります。(ほぼ)すべての償却領域に財務諸表バージョン INT を割り当ててください。償却領域 30 および 31 (連結貸借対照表の標準領域) のみが、財務諸表バージョン CAUS を受け取るようにします。

タスク 4:

オプション: 正誤問題

1. 債却表はクライアントレベルで定義されます。
この文章の内容は正しいですか。
 正
 誤
2. SAP から提供されている国依存のモデル勘定コード表は、独自の“要件”に合わせて調整することはできません。
この文章の内容は正しいですか。
 正
 誤
3. さまざまな会社コードを債却表に割り当てることができます。
この文章の内容は正しいですか。
 正
 誤

解答 2: 債却領域/総勘定元帳への金額の転記

タスク 1:

債却領域から総勘定元帳への転記方法の定義

1. 債却領域の金額(資産価額または減価償却、あるいはその両方)は常にFI総勘定元帳に転記されるわけではありません。債却表AA##の債却領域から総勘定元帳への転記方法をチェックします。

資産価額が総勘定元帳にリアルタイムで転記されるFI-AA債却領域はどれですか。

減価償却のみが転記される債却領域はどれですか。

(現在)レポート作成用に予約されており、金額を総勘定元帳に転記できない債却領域はどれですか。



ヒント: これらのエントリを変更しないでください。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合→定義: 転記方法(債却領域->総勘定元帳)を選択します。

リアルタイムに転記する領域: 債却領域 01

債却のみの転記: 債却領域 20 (資産価額は流れません)

(現在)レポート機能の実行: 債却領域: 02, 15, 30, 31, 32(転記なし)

タスク 2:

オプション: 外貨の債却領域の定義: → 債却領域に外貨が設定されないように

1. 債却計画AA##の債却領域31と32(グループ通貨でレポートされる債却領域)の資産価額がUSドル(USD)で表示されるように定義します。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、評価→通貨→定義: 外貨の債却領域を選択します。

右側に表示されるテーブルで、会社コードAA##を選択し、ダイアログ構造で債却領域通貨を選択します。

債却領域31と32について、表示されている通貨をUSDに置き換えます。

保存します。

次へ

タスク 3:

オプション: 資産レポートの財務諸表バージョンの指定

1. 固定資産管理の標準レポート機能では、(後で)財務諸表明細または財務諸表バージョンに従って任意の数の資産レポートをグループ化したり、財務諸表明細を資産レポートに含めたりすることができます。

→ **注記:** このためには、単に、項目財務諸表明細を含めたレポートの選択画面でソートバリアントを選択します (構造 ANLAV/項目 ERGSO)。このトピックとソートバリアントについては、コースの最終日に情報管理の章で説明します。

後で償却領域との財務諸表バージョンと一緒に一覧に表示するかがシステムによって認識されるように、対応する財務諸表バージョンを償却領域に割り当てる必要があります。(ほぼ)すべての償却領域に財務諸表バージョン INT を割り当ててください。償却領域 30 および 31 (連結貸借対照表の標準領域) のみが、財務諸表バージョン CAUS を受け取るようにします。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 定義: 資産レポートの財務諸表バージョンを選択します。

テーブルで会社コード AA## を選択し、ダイアログ構造で財務諸表バージョン割当を選択します。

問題文に従って、償却領域に指定された財務諸表バージョンを入力します。

保存します。

タスク 4:

オプション: 正誤問題

1. 債却表はクライアントレベルで定義されます。

解答: 正

2. SAP から提供されている国依存のモデル勘定コード表は、独自の“要件”に合わせて調整することはできません。

解答: 誤

3. さまざまな会社コードを債務表に割り当てることができます。

解答: 正



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 総勘定元帳に金額を転記する債却領域の定義
- ... 資産価額と減価償却/償却額との区別
- ... さまざまな金額を総勘定元帳に転記する方法についての説明



章のまとめ

以下について学習しました。

- ... 重要な組織ユニットの列举および区別
- ... 償却表の重要性についての説明
- ... 会社コードに償却表を割り当てる重要性についての説明
- ... さまざまな償却領域の列举および区別
- ... 固定資産管理と管理会計の統合についての説明
- ... SAP システムでの資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスの紹介
- ... 資産クラスの要素の列举およびその要素の機能についての説明
- ... 総勘定元帳に金額を転記する償却領域の定義
- ... 資産価額と減価償却/償却額との区別
- ... さまざまな金額を総勘定元帳に転記する方法についての説明

2 章

マスタデータ

章の概要

マスタデータの章では、資産クラスの機能と、資産クラスに対して用意されている制御メカニズムについて、より詳しく説明します。マスタデータの登録と変更の機能を実習します。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ... 資産クラスの登録による資産の構成
- ... 主分類基準としての資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスのコンポーネントの列挙と説明、およびカスタマイジングでのコンポーネントの検索と更新
- ... 特別な資産クラス“建設仮勘定”および“少額資産”的性の説明と理解
- ... 固定資産管理におけるマスタデータの登録と変更
- ... ワークリストを使用した資産マスタデータに対する一括変更の実行

章の内容

レッスン: 資産クラスの機能	36
演習問題 3: 資産クラスの機能	49
レッスン: 資産マスタレコード	63
演習問題 4: 資産マスタレコード	71
レッスン: 一括変更	82

レッスン: 資産クラスの機能

レッスンの概要

このレッスンでは、資産クラスの機能と制御方法に関する詳細情報を説明します。資産クラスを登録することによって、資産を(グローバルに)構造化する方法について説明します。



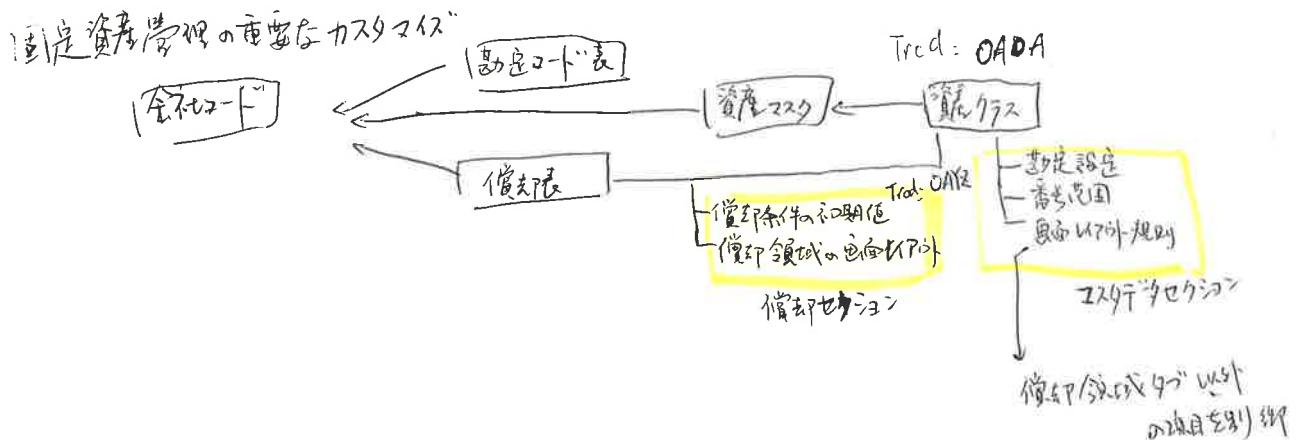
レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 資産クラスの登録による資産の構成
- ... 主分類基準としての資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスのコンポーネントの列挙と説明、およびカスタマイジングでのコンポーネントの検索と更新
- ... 特別な資産クラス“建設仮勘定”および“少額資産”的性の説明と理解

ビジネスシナリオ

コンサルティング部門から企業グループ内の資産クラスに関する提案がありました。FI-AAプロジェクトチームが集まってその提案について話し合い、関連する機能のさまざまな影響をテストします。資産クラスは、後に登録する資産マスターとコードのテンプレートとして使用されます。そのため、資産の一貫性が確保されるように資産クラスに保存する初期値を決定する必要があります。



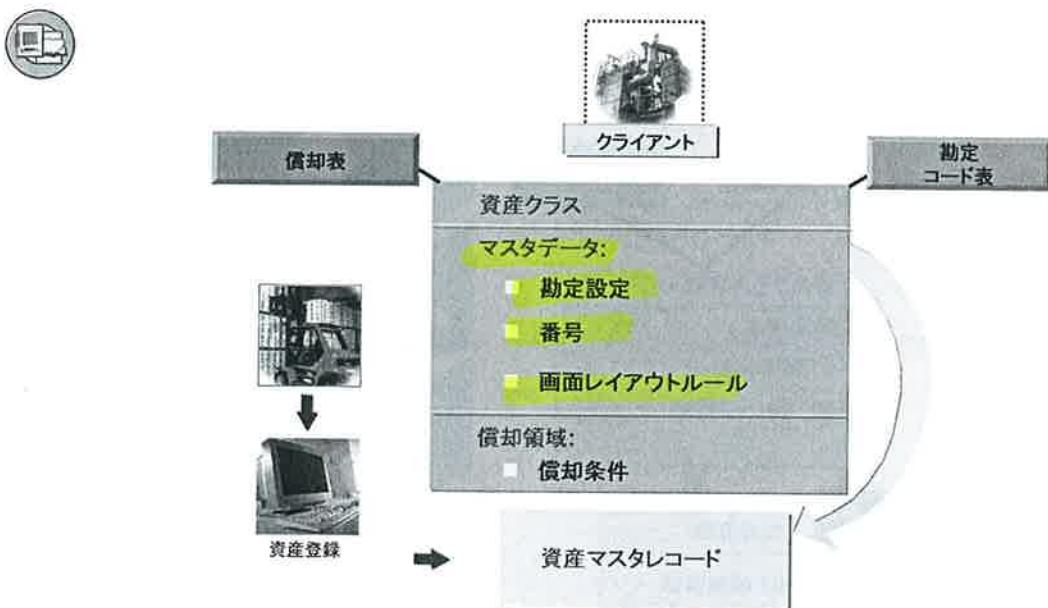


図 12: 資産クラスの機能

資産クラスは、企業の要件に応じて固定資産を構成するために使用する最も重要な要素です。注記：資産クラスの定義は、1つのクライアント内のすべての会社コードに適用されます。

資産クラスは、以下の2つの主なセクションで構成されます。

- 資産マスタレコードの管理に関する管理データと初期値を含むマスターデータセクション
- 各償却領域の償却条件の制御パラメータおよび初期値を含む償却セクション

資産マスタレコードを登録する際には、指定した資産クラスからこれらのデータが自動的に採用されます。初期値を入力することにより、新しい資産マスタレコードを登録するための時間や労力を軽減することができます。また、これによって同じ資産クラスのレコードが同じ状態で登録されます。使用する評価の種類に応じた数の資産クラスを定義することをお奨めします。

資産クラスは、FI-AA のすべての標準レポートにおける主選択基準の1つです。

個々の資産クラスの登録を開始する前に、まず、完成した資産クラス一覧がどのような形式になるべきかを検討します。

次に、FI の担当者とともに、対応する G/L 勘定がすでに存在するかどうか、存在する場合にはそれがどの勘定であるかを確認します。また、対応する勘定が存在しても別途勘定を登録する必要があるかどうかを確認します。

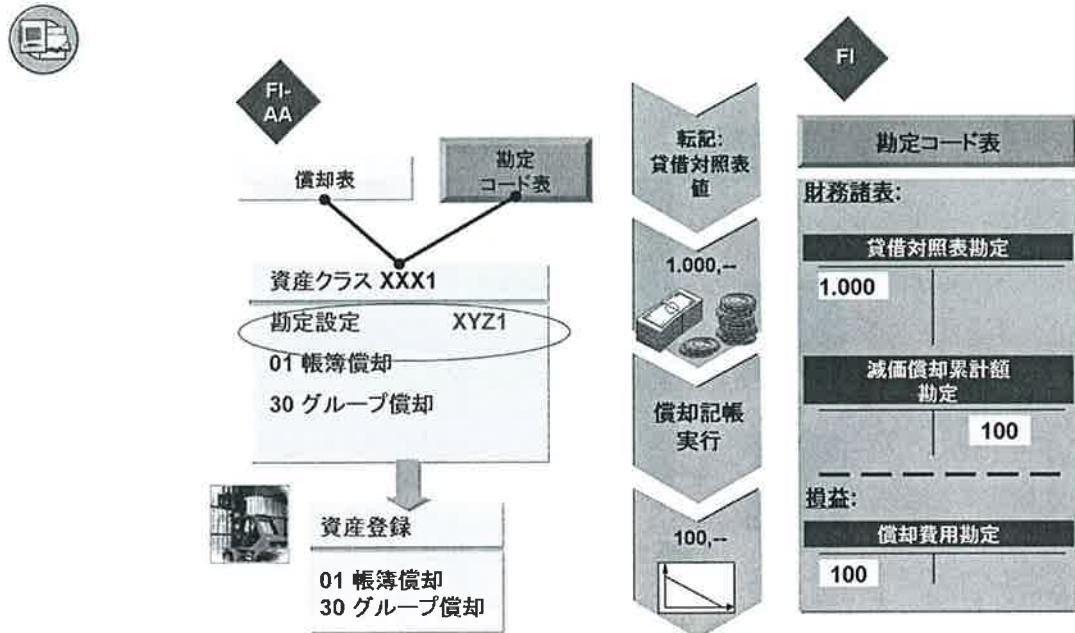


図 13: 資産クラス: 勘定設定/勘定割当

マスター登録
登録確認
登録確認
登録確認

資産クラスの重要な機能の1つは、資産マスタレコードおよびその金額と、関連する資産価額および減価償却の転記先となるG/L勘定との間のリンクを確立することです。これは、勘定設定(勘定割当とも呼ばれる)によって制御されます。

→ 債却領域に割当

資産価額を総勘定元帳の1つの債却領域のみに転送し、資産クラス一覧が比較的小さい場合、カスタマイジングにより、資産クラスに定義された勘定設定キーを、固定資産の貸借対照表勘定の勘定コードと同じものにすることができます。ただし、実際にはこのようなケースはめったにありません。

類似の資産クラスがいくつかある場合、複数の資産クラスで同じ勘定設定キーを使用して、複数の資産価額を財務諸表の1つの固定資産の貸借対照表勘定に振り替えることができます。

ただし、異なる会社コードごとに異なる勘定コード表を使用する場合も、ある資産クラスの複数の資産価額をそれぞれ異なる勘定コード表の異なる勘定に転記するために必要な勘定設定キーは1つのみです。

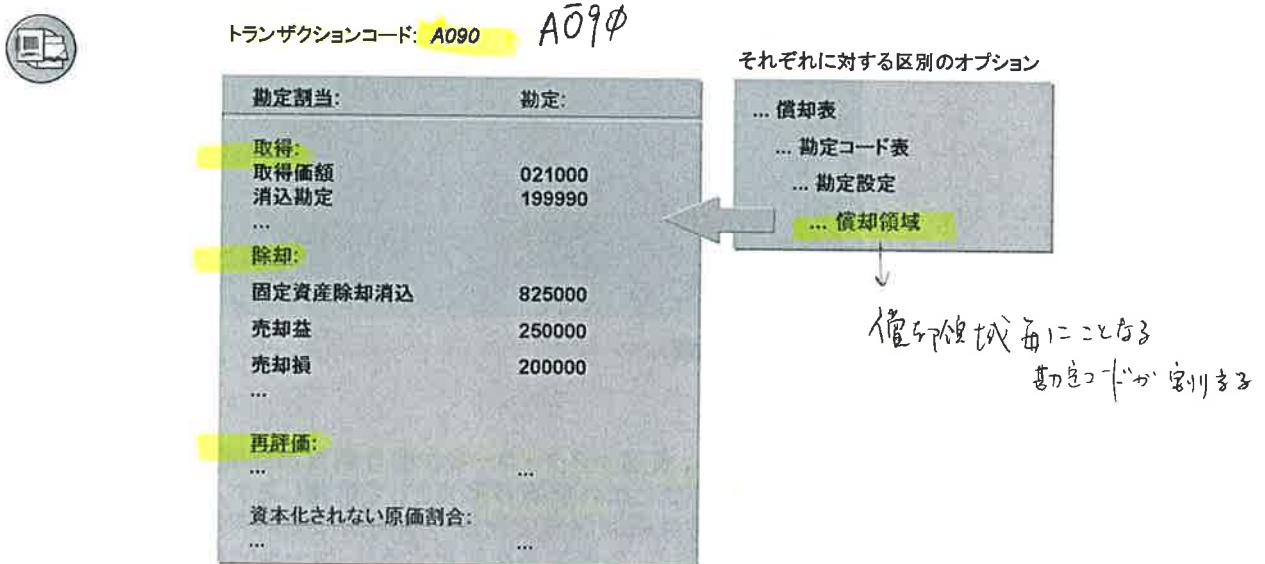


図 14: G/L 勘定の割当

勘定設定または勘定設定キーを使用して、入力するすべての資産取引/資産処理に必要な G/L 勘定をすべて定義します。

勘定設定を更新するには、固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 割当: 総勘定元帳勘定を選択します。

総勘定元帳に減価償却を転記する償却領域には、以下の追加の G/L 勘定を割り当てる必要があります。

- 通常償却の場合:
 - 減価償却累計額勘定
 - 費用勘定
 - 評価増の収益勘定
- 臨時償却の場合:
 - 減価償却累計額勘定
 - 費用勘定
 - 評価増の収益勘定
- 債却再評価および金利(管理会計領域)が必要になる場合



会社コード	番号範囲番号	開始...終了...	外番?
1000	02	2000 2999	<input type="checkbox"/>
	03	3000 3999	<input type="checkbox"/>

図 15: 番号範囲間隔

番号範囲によって、資産マスタレコードの番号割当が制御されます。番号割当は内部番号割当または外部番号割当として定義します。内部採番を使用すると、定義した番号範囲間隔で数値の順に次に使用可能な番号が自動的に割り当てられます。外部採番を使用すると、ユーザまたは別のシステムによって番号が割り当てられます。

AOII

会社コードごとに独自の番号範囲を割り当てたり、会社間で同じ番号割当を指定したりすることができます。

資産番号割当用の番号範囲間隔を定義するには、固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 割当: 採番 -> 会社コードを選択します。

マスト

内部割当

外部割当

複数会社

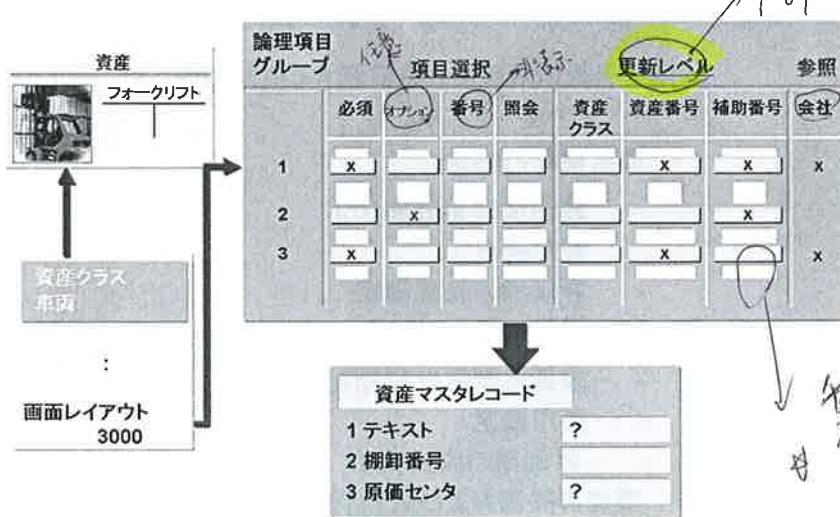


図 16: 資産マスタデータの画面レイアウト

（例）画面レイアウトによって、資産マスタレコードでどの入力項目を処理することができるか、それらの項目を必須項目として定義するか、非表示項目とするかが決定されます。

これにより、特定の資産クラスにのみ必要なマスタデータ項目を削減したり、重要な制御情報が確実に入力されるようにしたりすることができます。

画面レイアウトでは、**項目選択**に関する情報(入力必須、入力任意、照会のみ、非表示)に加えて、マスタデータ項目の**更新レベル**も指定します。また、マスタデータ項目を**参照**として使用できるようにするかどうかも指定します。

更新レベルは、各データ項目の更新をどのレベルで許可するかを指定するものです。有効な更新レベルは以下のとおりです。

- 資産クラス
- 資産番号
- 補助番号

参照は、テンプレートを使用して資産を登録するときに、項目内容を新しいマスタレコードにコピーすることができるかどうかを示すものです。

時間依存

期間: 1990/01/01 ~ 9999/12/31

事業領域	T-F05A00
原価セント	
内部指図	
保全指図	
プラント	
所在地	
部屋	
WBS 要素 (原価)	
不動産管理キー	
<input type="checkbox"/> 資産休止	
その他の選択	

画面レイアウト: 3000
論理項目グループ: 3 (時間依存データ)

FTD	項目グループ名	必須	任意	番号	照会	資産クラス	資産番号	補助番号	コピー
15	原価セント	●	○	○			☒	□	☒
16	プラント	○	●	○			☒	□	□

1. 勘定割当オブジェクトを資産マスタレコードに表示するには、カスタマイジングで有効化する必要があります:

勘定割当オブジェクト	オブジェクト名割当	有効	残高	A
CAUFN	内部指図	☒		
EAUFN	設備投資指図	☒		
IAUFN	保全指図	☒		
IMKEY	不動産対象	☒		
KOSTL	原価セント	☒		
PS_PSP_PNR	設備投資プロジェクト	☒		
PS_PSP_PNR2	WBS 要素	☒		

2. 画面レイアウト (カスタマイジング) で、勘定割当オブジェクトをマスタレコードにどのように (必須項目としてなど) 表示するかは、有効化した後にのみ指定することができます (上記 1 を参照)。

図 17: 勘定割当オブジェクトを有効化します。

リリース 4.7 以降では、勘定割当オブジェクトを画面レイアウトまたは資産マスタレコード、あるいはその両方で更新するには、その勘定割当オブジェクトを有効化しておく必要があります。

固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合→追加勘定割当対象→有効化: 勘定割当対象を選択します。

勘定割当オブジェクトは、**償却費**(管理目的)が転記される一方で、(IMコンポーネントも使用している場合)設備投資案件の一部としての直接資本化などの定期記帳や資産購入のための(統計的)予算監視に使用することもできます。

SAP ERP ソリューションでは、勘定割当オブジェクトの数が増加しています。たとえば、以下の対象に(管理目的)償却を転記することができます。

- 原価センタ(リリース 4.7 以前と同様)
- CO 内部指図(リリース 4.7 以前と同様)
- WBS 要素
- 不動産管理対象(たとえば、建物や土地)
- 公共セクタ管理(PSM)コンポーネントのさまざまな対象(予算センタ、ファンド、補助金など)



図 18: 資産マスタレコードのタブページ/レイアウト

リリース 4.5A 以降では、タブページは資産マスタレコードを表示するために使用します。以前のリリースでは資産マスタレコードのさまざまなビューにあったデータが、複数のタブページに分散されています。

資産クラスごとにマスタデータのレイアウトを指定することができます。レイアウトでは、以下が定義されます。

- タブページの番号
- タブページの名称
- タブページに表示される論理項目グループ（上の図に表示されている論理項目グループ一般データや転記情報などのグループ/項目グループボックス）。

このレイアウトを使用して、要件に最も適した資産マスタレコードのレイアウトを定義することができます。

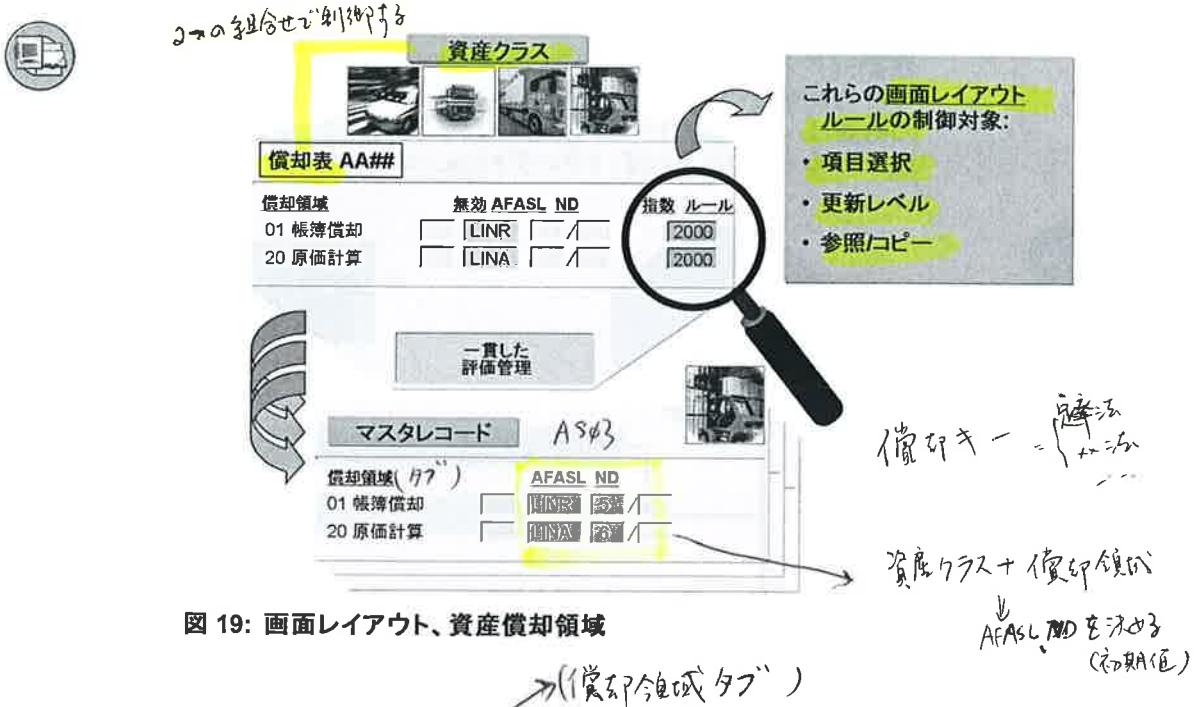


図 19: 画面レイアウト、資産償却領域

各資産クラスでは、**償却領域ごとに**画面レイアウト規則を入力します。これらのルールは、償却データセクション/償却領域の(入力)項目に適用されます。

SAP では、標準システムに画面レイアウトルール 1000 と 2000 が提供されています。

これらの画面レイアウトルールには、**更新レベル**も含まれています。更新レベルによって、減価償却の一貫した管理が可能です。以下の 3 つのオプションがあります。

1. **資産クラス:** この更新レベルによって、資産クラスレベルの一貫した評価管理が保証されます。
2. **資産番号:** 資産マスタレコードのレベルで一貫した評価管理が行われます。資産クラスで登録された入力値は資産マスタレコードに採用されますが、変更することも可能です。この資産マスタレコードに属するすべての資産補助番号に資産番号のこれらの値が採用されます。
3. **資産補助番号:** より柔軟に評価を管理することができます。資産補助番号に、独自の償却条件を設定することができます。

注記: (ダブルクリックするなどして) 債却領域の詳細画面に分岐すると、個々の債却領域について詳細な情報や入力可能値を参照することができます。この処理は、資産番号レベル (たとえば、トランザクションコード AS02) および資産クラスレベル (たとえば、トランザクションコード OAYZ) でも機能します。

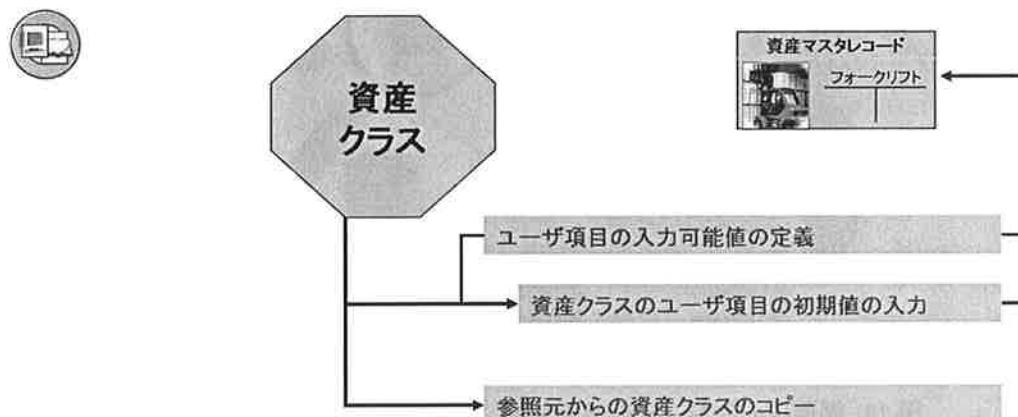


図 20: 資産クラスの追加機能

参照元からの資産クラスのコピー: 単に既存の資産クラスをコピーして、資産クラスを新規登録することができます。コピーは、クラスのマスタデータセクションからトリガします (カスタマイジングトランザクション OOA)。債却領域セクションの初期値も自動的にコピーされます。コピー後、初期値に変更を加えることができます。

ユーザ項目や他の情報項目に対する許可入力の定義: 資産マスタレコードでは、以下の項目を固定資産の一般的な構造およびユーザ固有の構造の標準として使用することができます。

- **評価グループ** (評価グループ 1 から 5): これらは、ユーザ定義の情報/得意先固有の情報をマッピングするために使用する資産マスタレコード項目です。
- **環境保護フラグ**: この項目では、環境保護関連投資の理由 (たとえば、新しい気候保護規制) を保存することができます。
- **投資理由**: この項目では、投資の説明 (たとえば、再取得) を入力することができます。
- **資産グループコード**: 1 つの資産に割り当てることができます。これは、たとえば、複数の資産を 1 つの資産グループコード (たとえば、事業単位や生産ライン) に割り当てる場合に役立ちます。

FI-AA のレポートの選択基準として上記のすべての項目を使用することができます。

資産クラスの初期値の保存: 入力可能値を定義すると、これらの値を初期値としてカスタマイジングに保存することができます。

また、保険価額、正味資産の評価、リース、および償却パラメータの初期値を償却データセクション (償却キー、耐用年数) および指数集に入力することができます。

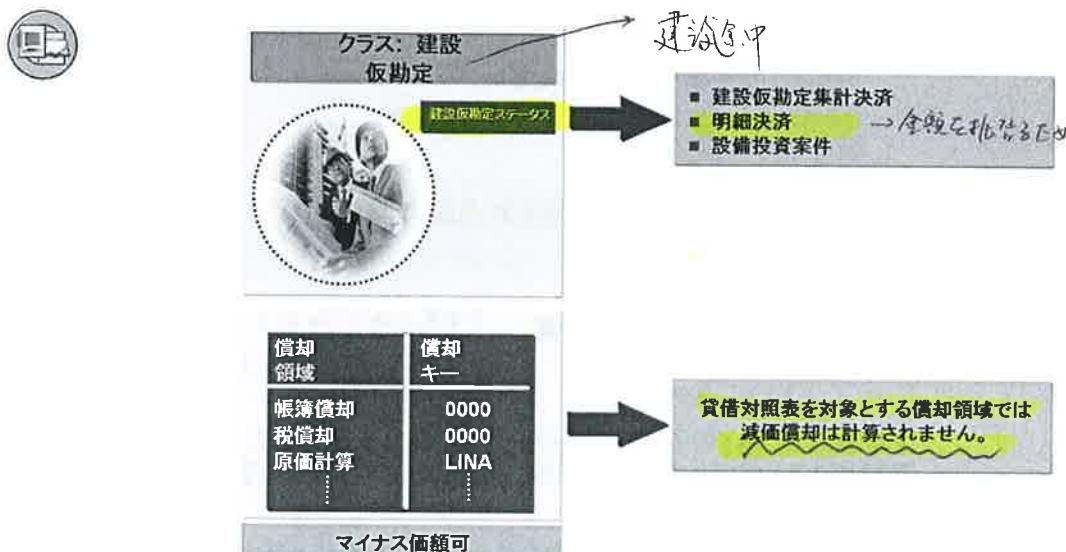


図 21: 特別資産クラス: 建設仮勘定

建設仮勘定 (AuC) には、個別の資産クラスおよび対応する G/L 勘定が必要です。これは、財務諸表で建設仮勘定を別個に表示する必要があるためです。

標準償却キー 0000 を選択すると、償却領域 (少なくとも財務諸表の償却領域) では建設仮勘定の減価償却計算を不要にすることができます。

ただし、特別税償却と投資援助では建設仮勘定でも償却する場合があります。

また、債務管理プロセスで建設仮勘定に前払金を入力することができます。

建設仮勘定をすべて資本化した後でも、クレジットメモを転記することができます。このためには、償却データセクションの詳細画面でマイナス (APC) 値を許可する必要があります。

設備予算管理 (IM) は、より広範な資産投資を管理するために使用します。内部指図とプロジェクトが建設仮勘定に統合されます。



各会社コード (および償却領域) の設定



- **個別管理の LVA:**
マスタレコードごとに 1 つの資産

または

- **集合管理の LVA:**
マスタレコードごとに任意の数の資産



転記時: 許容される限度額 のチェック

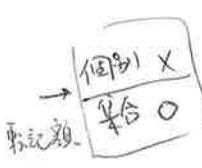


図 22: 特別資産クラス: 少額資産

(日本語は 10 万円)

資産といふ計上せし、費用といふ計上

Low Value Asset

少額資産 (LVA) の管理では個別管理と集合管理のどちらを使用するかを選択することができます。各管理方法に対して、別個の資産クラスを設定しなければなりません。

少額資産の集合管理を選択する場合は、この資産クラスの基準数量単位を指定する必要があります。この指定は、資産クラスのマスタデータで行います (トランザクションコード OAOA)。

会社コードごとに限度額を保存するには、固定資産管理のカスタマイジングで、評価→金額詳細→定義: 少額資産 + 資産クラスの最大限度額を選択します。



ヒント: ドイツでは、2008年1月1日の企業税制改革の一環として、少額資産の手順に関する法的要件が変更されました。SAPシステムでこの新しい法的要件をマッピングする方法については、SAPノート**1082378**を参照してください。

演習問題 3: 資産クラスの機能

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 資産クラスの機能と要素の説明とデモンストレーション、およびカスタマイジングでの要件に合わせた資産クラスの調整
- ユーザ定義の資産クラスの登録
- 特別資産クラス (AuC や LVA) の機能の説明とカスタマイジングでのこれらの制御

ビジネスシナリオ

コンサルタントから企業グループの組織構造に関する提案がありました。FI-AA プロジェクトチームが集まって、画面レイアウト、勘定設定、および番号割当に関する資産クラスの数や設定についての提案を話し合います。



ヒント: 資産クラスは、後で登録される有効な資産マスタレコードのテンプレートのようなものです。資産クラスで初期値を割り当て、入力必須、オプション、または非表示にするかどうかを画面レイアウトツールで指定することができます。また、資産クラスを使用して、資産補助元帳から転記される G/L 勘定、およびマスタレコードに付与する資産番号を定義します。

タスク 1:

固定資産管理の番号割当:

- コンポーネント FI-AA で会社コード AA## で使用するには、番号割当の設定を行う必要があります。

以下の方法のいずれかを使用することができます。

別個の番号範囲間隔を定義するか (この場合の最も簡単な方法は、会社コード 1000 の番号範囲間隔をコピーすることです)、または会社コード 1000 (および AC305 の他のグループ) とともに会社間番号割当を選択します。

タスク 2:

固定資産管理のカスタマイジングで、既存の資産クラスすべての概要を表示するトランザクションを最初に呼び出す必要があります。

- トランザクションコードは何ですか。

次へ

タスク 3:

資産クラス(資産クラス 3000 など)の詳細画面に移動します。

- この画面では、資産クラスにどの管理パラメータが定義されていますか。
- 資産クラス 3000 にはどの番号範囲/番号範囲間隔が割り当てられていますか。
- 変更ビュー“資産クラス”: 詳細画面を開いたまま、項目 勘定設定にカーソルを合わせ、F1 ヘルプを呼び出して勘定設定の機能に関する詳細情報を確認します。

タスク 4:

勘定設定/勘定割当:

- トレーニングシステムでは、クラス 2000 にどの勘定設定が入力されていますか。
- 勘定設定 20000 に関して、資産取得の場合に(償却領域 01 で勘定コード表 INT を使用して)転記される貸借対照表勘定はどれですか。
- 勘定コード表 INT を使用した場合、クラス 2100 の資産の管理目的償却(償却領域 20)に使用される費用勘定はどの(FI) 勘定コードにありますか。

タスク 5:

画面構造:

- トランザクション OAOA を再度実行し、F1 キーでたとえばクラス 2100 のヘルプ機能を呼び出して、そのクラスにどのような画面レイアウトルールが使用されているのかを確認します。
- トレーニングシステムでは、クラス 2100 にどの画面レイアウトルールが割り当てられていますか。

次へ

3. 資産マスタレコード項目 テキスト1(論理項目グループ一般データ内)と原価センタ(論理項目グループ 時間依存データ内)には、常に、後で資産マスタレコードを新規登録する際にデータを入力する必要があります。そのため、これらの項目が画面レイアウトルール 2000 に入力必須項目として定義されているかどうかをチェックします。



ヒント: リリース R/3 4.7 以降から: CO 内部指図// 原価指図などと同様に、画面レイアウトルールで論理項目グループ 時間依存データ内に入力項目 原価センタが更新目的で表示されるのは、カスタマイジングで原価割当対象原価センタが**有効化**されている場合のみです。有効化されていない場合は、画面レイアウトルールでも資産マスタレコードでも入力項目 原価センタを見つけることはできません。

このために必要なカスタマイジング設定については、第 5 章(**定期処理**)で説明します。

4. 画面レイアウトルール 3000 では、後で“参照によって資産を登録する”際に入力項目 テキスト1 が参照からコピーされますか。



ヒント: コピーされなくても、カスタマイジングエントリを変更しないでください。

5. オプション: 入力項目 保険タイプは、画面レイアウトルール 3000 によりコピーされますか。

タスク 6:

資産クラスのマスタデータセクションに習熟した後は、**償却領域データセクション**に進みます。カスタマイジングで関連するトランザクションを呼び出します。

1. このトランザクションコードは何ですか。
2. 資産クラス 2100 の償却キーの初期値は何ですか。
3. 資産クラス 3000 の償却データセクションにはどの画面レイアウトルールが保存されていますか。
4. 画面レイアウトルール 1000 の償却キーは**必須項目**として指定されますか。

次へ

タスク 7:

資産クラスのコピー:

- 条件:** システムで資産をマッピングするには、機械用の別個の資産クラスが必要となります。そのため、クラス 2100 をコピーして資産クラス MA## (## は“自分の”グループ番号) を登録します。



ヒント: 単に既存の資産クラスをコピーし、そのコピーを変更して新しい資産クラスを生成するだけで、マスター セクションと償却領域セクションを含む完全な資産クラスが生成されます。

参照を使用せずに資産クラスを新規登録した場合は、マスター セクションのみが登録されるため、その後のステップで償却領域セクションを完全に設定する必要があります。

タスク 8:

- 固定資産管理部門の同僚が、SAP システムで建設仮勘定を適切に更新できるかどうかを懸念しています。

その同僚は、特に、決済にさまざまなプロセスがあるのかどうかを知りたいと思っています。このため、ステータス“建設仮勘定”に関する資産クラス 4000 (建設仮勘定) の設定を他の標準資産クラスの機能と比較し、同僚 (ここでは隣の席の受講者) にその相違点を説明してください。

タスク 9:

オプション(ドイツ固有): 今後は、固定資産管理部門も少額資産 (LVA) を入力し、管理することが必要になります。そのため、現時点では会社コード AA## に少額資産最大額を定義する必要があります。

- **注記:** 使用する最大額が不明な場合は、講師に質問してください。



ヒント: LVA 額が国依存であることに留意してください。少額資産最大額は、通常の取得転記に加え、購買発注による取得についても設定することができます。

- 2008 年 1 月 1 日にドイツで導入された規制を SAP システムにマッピングするために、以下の処理を実行することができます。償却領域 15 で会社コード AA## に最大 LVA 額として 1,000 ヨーロを定義します。
- ここで、定義した限度額に対してクラス 3005 がチェックされるかどうかを確認します。通常、この設定が償却表テンプレート IAC から採用したものである場合には、何も設定する必要がありません。

解答 3: 資産クラスの機能

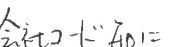
タスク 1:

固定資産管理の番号割当:

- コンポーネント FI-AA で会社コード AA## で使用するには、番号割当の設定を行う必要があります。

以下の方法のいずれかを使用することができます。

別個の番号範囲間隔を定義するか（この場合の最も簡単な方法は、会社コード 1000 の番号範囲間隔をコピーすることです）、または会社コード 1000（および AC305 の他のグループ）とともに会社間番号割当を選択します。

- 1 つ目のソリューション - 会社コード 1000 の間隔のコピー: 

固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 資産クラス → 定義: 番号範囲間隔を選択します。

資産の番号範囲画面で、会社コード 1000 を入力します。

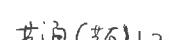
同じ画面で、メニューバーからユーティリティ → コピーを選択します。

コピー: 会社コードダイアログボックスが表示されます。

以下のデータを入力し、エントリを確認します。

項目名またはデータ型	値
開始	1000
終了	AA##

表示されたダイアログボックスで、ステータスラインの下に表示されているメッセージを確認します。

- 2 つ目のソリューション - 会社コードが 1000 の会社間番号割当: 

固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 割当: 採番 -> 会社コードを選択します。

会社コード AA## を含む行を探し、以下のデータを入力します。

項目名またはデータ型	値
採番 Cd	1000

保存します。

次へ

タスク 2:

固定資産管理のカスタマイジングで、既存の資産クラスすべての概要を表示するトランザクションを最初に呼び出す必要があります。

1. トランザクションコードは何ですか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造→資産クラス→定義: 資産クラスを選択します。

解決策: トランザクションコードは *OA0A* です。

タスク 3:

資産クラス(資産クラス 3000 など)の詳細画面に移動します。

1. この画面では、資産クラスにどの管理パラメータが定義されていますか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造→資産クラス→定義: 資産クラスを選択します。

クラス 3000 を含む行にカーソルを合わせ、メニュー「オプション」→「詳細」を選択します(またはこの行をダブルクリックしてクラスを選択します)。

制御パラメータとして、勘定設定、画面レイアウトルール、および番号範囲が表示されます。

2. 資産クラス 3000 にはどの番号範囲/番号範囲間隔が割り当てられていますか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造→資産クラス→定義: 資産クラスを選択します。

たとえば、クラス 3000 を含む行にカーソルを合わせ、メニュー「オプション」→「詳細」を選択します(またはその行をダブルクリックしてクラスを選択します)。

解答: 番号範囲間隔 03 が表示されます。

3. 変更ビュー“資産クラス”: 詳細画面を開いたまま、項目「勘定設定」にカーソルを合わせ、F1 ヘルプを呼び出して勘定設定の機能に関する詳細情報を確認します。

- a) 演習問題の説明に従って進めてください。

次へ

タスク 4:

勘定設定/勘定割当:

- トレーニングシステムでは、クラス **2000** にどの 勘定設定が入力されていますか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造→資産クラス→定義: 資産クラスを選択します。

クラス 2000 を含む行にカーソルを合わせ、メニュー オプション ジャンプ → 詳細を選択します (またはこの行をダブルクリックします)。

解答: クラス 2000 の勘定設定は 20000 です。

- 勘定設定 **20000** について、資産取得の場合に (償却領域 01 で勘定コード表 INT を使用して) 転記される **貸借対照表勘定** はどれですか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合→割当: 総勘定元帳勘定を選択します。

テーブルで、エントリ INT を選択します。

ダイアログ構造で、勘定設定をダブルクリックして選択します。

テーブルで、エントリ 20000 を選択します。

ダイアログ構造で、貸借対照表勘定をダブルクリックして選択します。

解答: 勘定コードは 11000 です。

- 勘定コード表 INT を使用した場合、クラス **2100** の資産の管理目的 債却 (債却領域 20) に使用される費用勘定はどの (FI) 勘定コードにありますか。

- a) まず、クラス 2100 について保存されている勘定設定を確認する必要があります。

結果: クラス 2100 にも、勘定設定 20000 が定義されています。

このためには、以下の処理を実行します。固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合→割当: 総勘定元帳勘定を選択します。

テーブルで、エントリ INT を選択します。

ダイアログ構造で、勘定設定をダブルクリックして選択します。

テーブルで、エントリ 20000 を選択します。

ダイアログ構造で、減価償却をダブルクリックして選択します。

たとえば、債務領域 20 の行にカーソルを合わせ、メニュー オプション ジャンプ → 詳細を選択します。

解答: 勘定コードは 481000 です。

通常 債却の 費用勘定

次へ

タスク 5:

画面構造:

1. トランザクション *OAOA* を再度実行し、**F1** キーでたとえばクラス 2100 のヘルプ機能を呼び出して、そのクラスにどのような画面レイアウトルールが使用されているのかを確認します。
 - a) 左上にあるコマンドフィールドに、トランザクション /*mOA OA* を入力します。クラス 2100 の行にカーソルを合わせ、メニュー「オプション」→「ジャンプ」→「詳細」を選択します。
F1 を使用してヘルプ機能を呼び出します。
2. トレーニングシステムでは、クラス 2100 にどの画面レイアウトルールが割り当てられていますか。
 - a) 左上にあるコマンドフィールドに、トランザクション /*nOA OA* を入力します。クラス 2100 の行にカーソルを合わせ、メニュー「オプション」→「ジャンプ」→「詳細」を選択します。

解答: 画面レイアウトルール 2000

次へ

3. 資産マスタレコード項目テキスト1(論理項目グループ一般データ内)と原価センタ(論理項目グループ時間依存データ内)には、常に、後で資産マスタレコードを新規登録する際にデータを入力する必要があります。そのため、これらの項目が画面レイアウトルール2000に入力必須項目として定義されているかどうかをチェックします。



ヒント: リリース R/3 4.7 以降から: CO 内部指図// 原価指図などと同様に、画面レイアウトルールで論理項目グループ 時間依存データ内に入力項目原価センタが更新目的で表示されるのは、カスタマイジングで原価割当対象原価センタが有効化されています**場合のみです。有効化されていない場合は、画面レイアウトルールでも資産マスタレコードでも入力項目原価センタを見つけることはできません。**

このために必要なカスタマイジング設定については、**第5章(定期処理)**で説明します。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、マスタデータ→画面レイアウト→定義: 資産マスタデータの画面レイアウトを選択します。
アクティビティ選択ダイアログボックスで、定義: 資産マスタデータの画面レイアウトを選択します。
テーブルで、画面レイアウトルール2000を選択します。
ダイアログ構造で、論理項目グループをダブルクリックして選択します。
テーブルで、演習問題に記載されている論理項目グループを選択します。
ダイアログ構造で、項目グループ規則をダブルクリックして選択します。

次へ

4. 画面レイアウトルール 3000 では、後で“参照によって資産を登録する”際に入力項目 テキスト1 が参照からコピーされますか。



ヒント: コピーされなくても、カスタマイジングエントリを変更しないでください。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、マスター→画面レイアウト→定義: 資産マスターの画面レイアウトを選択します。
アクティビティ選択ダイアログボックスで、定義: 資産マスターの画面レイアウトを選択します。
テーブルで、画面レイアウトルール 3000 を選択します。
ダイアログ構造で、論理項目グループをダブルクリックして選択します。
テーブルで、論理項目グループ一般データを選択します。
ダイアログ構造で、項目グループ規則をダブルクリックして選択します。

解答: いいえ。項目 テキスト1 はコピーされません。

5. オプション: 入力項目 保険タイプは、画面レイアウトルール 3000 によりコピーされますか。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、マスター→画面レイアウト→定義: 資産マスターの画面レイアウトを選択します。
アクティビティ選択ダイアログボックスで、定義: 資産マスターの画面レイアウトを選択します。
テーブルで、画面レイアウトルール 3000 を選択します。
ダイアログ構造で、論理項目グループをダブルクリックして選択します。
テーブルで、論理項目グループ 保険を選択します。
ダイアログ構造で、項目グループルールをダブルクリックして選択します。

解答: はい。入力項目 保険タイプはコピーされます。

次へ

タスク 6:

資産クラスのマスタデータセクションに習熟した後は、**償却領域データセクション**に進みます。カスタマイジングで関連するトランザクションを呼び出します。

1. このトランザクションコードは何ですか。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、評価→ 定義: 資産クラスの 儻却領域を選択します。

 **注記:** ログオン後初めてこのトランザクションを起動する場合でも、償却表の選択ダイアログボックスに償却表 AA## を入力し、エントリを確認する必要があります。
 - b) **解答:** このトランザクションの名称は OAYZ です。
2. 資産クラス 2100 の償却キーの初期値は何ですか。
 - a) テーブルで、クラス 2100 を選択します。

ダイアログ構造で、償却領域をダブルクリックして選択します。

解答: 儻却キーの名称は LINK であり、領域 20 にキー LINA が保存されています。
3. 資産クラス 3000 の償却データセクションにはどの画面レイアウトルールが保存されていますか。
 - a) **解答:** すべての領域について、画面レイアウトルール 1000 が保存されています。
4. 画面レイアウトルール 1000 の償却キーは必須項目として指定されますか。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、マスタデータ→ 画面レイアウト→ 定義: 資産償却領域の画面レイアウトを選択します。

テーブルで、画面レイアウトルール 1000を選択します。

ダイアログ構造で、項目グループルールをダブルクリックして選択します。

解答: はい。償却キーは入力必須項目として定義されています。

次へ

タスク 7:

資産クラスのコピー:

- 条件:** システムで資産をマッピングするには、機械用の別個の資産クラスが必要となります。そのため、クラス 2100 をコピーして資産クラス MA## (## は“自分の”グループ番号) を登録します。



ヒント: 単に既存の資産クラスをコピーし、そのコピーを変更して新しい資産クラスを生成するだけで、マスタデータセクションと償却データセクションを含む完全な資産クラスが生成されます。

参照を使用せずに資産クラスを新規登録した場合は、マスタデータセクションのみが登録されるため、その後のステップで償却領域セクションを完全に設定する必要があります。

- 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 資産クラス → 定義: 資産クラスを選択します。
クラス 2100 を選択します。同じ画面で、メニュー項目編集 → 別名コピー... を選択します。
入力項目 資産クラスのエントリ 2100 をエントリ MA## で上書きし、エントリを確認します。
保存します。

タスク 8:

- 固定資産管理部門の同僚が、SAP システムで建設仮勘定を適切に更新できるかどうかを懸念しています。

その同僚は、特に、決済にさまざまなプロセスがあるのかどうかを知りたいと思っています。このため、ステータス“建設仮勘定”に関する資産クラス 4000 (建設仮勘定) の設定を他の標準資産クラスの機能と比較し、同僚(ここでは隣の席の受講者)にその相違点を説明してください。

- 固定資産管理のカスタマイジングで、組織構造 → 資産クラス → 定義: 資産クラスを選択します。
クラス 4000 をダブルクリックします。

最も重要な違い: クラス 4000 は、項目グループ 建仮ステータスでは建設仮勘定を集計決済として処理するのではなく、明細ごとに決済するということを指定しています。

次へ

タスク 9:

オプション(ドイツ固有): 今後は、固定資産管理部門も少額資産 (**LVA**) を入力し、管理することが必要になります。そのため、現時点で会社コード **AA##** に少額資産最大額を定義する必要があります。

→ **注記:** 使用する最大額が不明な場合は、講師に質問してください。

 **ヒント:** LVA 額が国依存であることに留意してください。少額資産最大額は、通常の取得転記に加え、購買発注による取得についても設定することができます。

1. 2008年1月1日にドイツで導入された規制を SAP システムにマッピングするために、以下の処理を実行することができます。償却領域 15 で会社コード **AA##** に最大 LVA 額として 1,000 ユーロを定義します。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、評価 → 金額詳細(会社コード/償却領域) → 定義: 少額資産 + 資産クラスの最大限度額を選択します。

アクティビティ選択ダイアログボックスで、少額資産額指定を選択します。

テーブルで、会社コード **AA#** を選択します。

ダイアログ構造で、少額資産額をダブルクリックして選択します。

演習問題で領域 15 に指定した金額を **LVA** 額列に入力します。
 2. ここで、定義した限度額に対してクラス **3005** がチェックされるかどうかを確認します。通常、この設定が償却表テンプレート IAC から採用したものである場合には、何も設定する必要がありません。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、評価 → 金額詳細(会社コード/償却領域) → 定義: 少額資産 + 資産クラスの最大限度額を選択します。

アクティビティ選択ダイアログボックスで、少額資産クラス指定を選択します。

テーブルで、資産クラス **3005** を選択します。

ダイアログ構造で、少額資産チェックをダブルクリックして選択します。
- 解答:** 債却領域 15 が金額基準の限度額に対してチェックされます。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 資産クラスの登録による資産の構成
- ... 主分類基準としての資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスのコンポーネントの列挙と説明、およびカスタマイジングでのコンポーネントの検索と更新
- ... 特別な資産クラス“建設仮勘定”および“少額資産”的性の説明と理解

レッスン：資産マスタレコード

レッスンの概要

資産マスタレコードを登録する際には、さまざまなオプションがあります。このレッスンでは、固定資産管理におけるマスタデータの登録と変更について学習します。



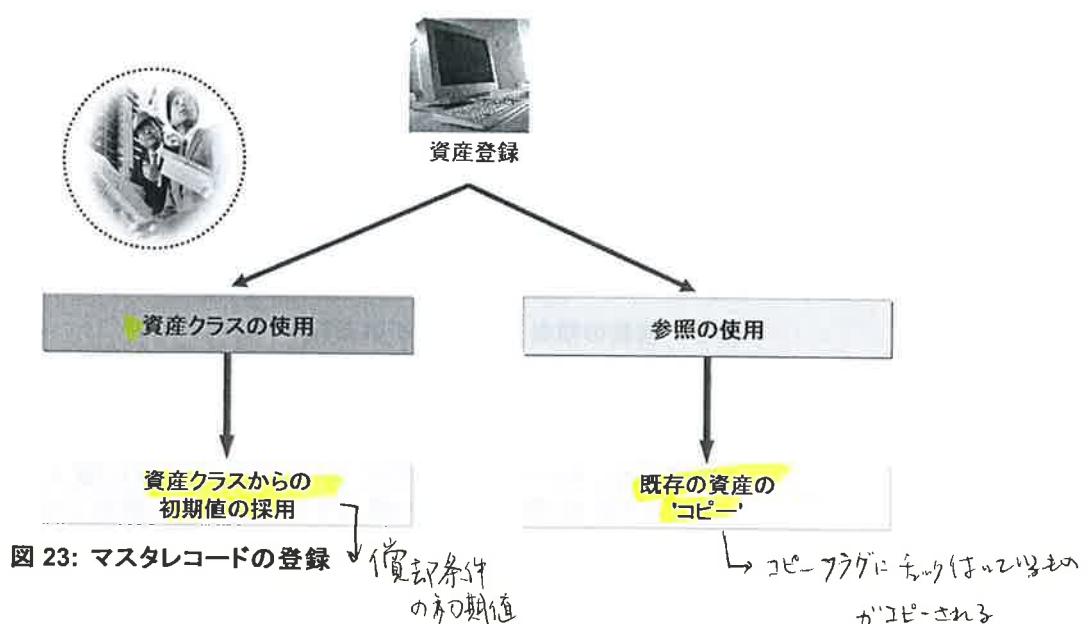
レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 固定資産管理におけるマスタデータの登録と変更

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門は、SAP 固定資産管理でさまざまな取引が発生する仕組みについて学習したいと考えています。このためには、さまざまな資産マスタレコードが必要となります。



資産マスタレコードを登録する際には、以下の2つの選択肢があります。

- 新しい資産マスタレコードに会社コードおよび資産クラスを入力します。資産クラスにより、最も重要な初期値が資産マスタレコードに提供されます。
- 既存の資産マスタレコードを参照元として使用します。参照資産からは資産クラスからよりも適切な初期値が提供されることがあります。“参照資産”から不要なデータ（資本化日付など）をコピーしないようにしてください。

どちらの場合も、すべての必須項目およびそれ以外の必要な情報をマスタレコードに入力し、新しい資産マスタレコードを保存します。エントリを保存すると、資産番号が返されます。

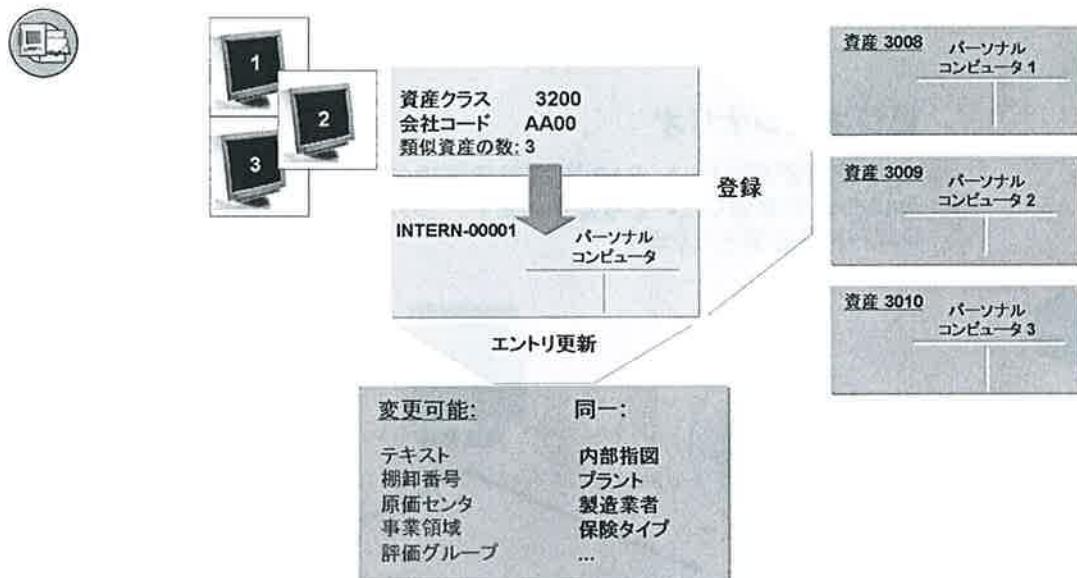


図 24: 複数の類似資産レコードの登録

資産マスタレコードを登録する際に、類似した資産を複数まとめて登録することができます。

この機能は、トレーニング部門に20台のPCを一度に購入する場合や、新しいオフィスに12個のデスクを購入する場合などに便利です。

以下の項目では、資産ごとに異なる入力値を登録することができます。

- 資産のテキスト
- 棚卸番号
- 事業領域
- 原価センタ
- 評価グループ 1 ~ 5

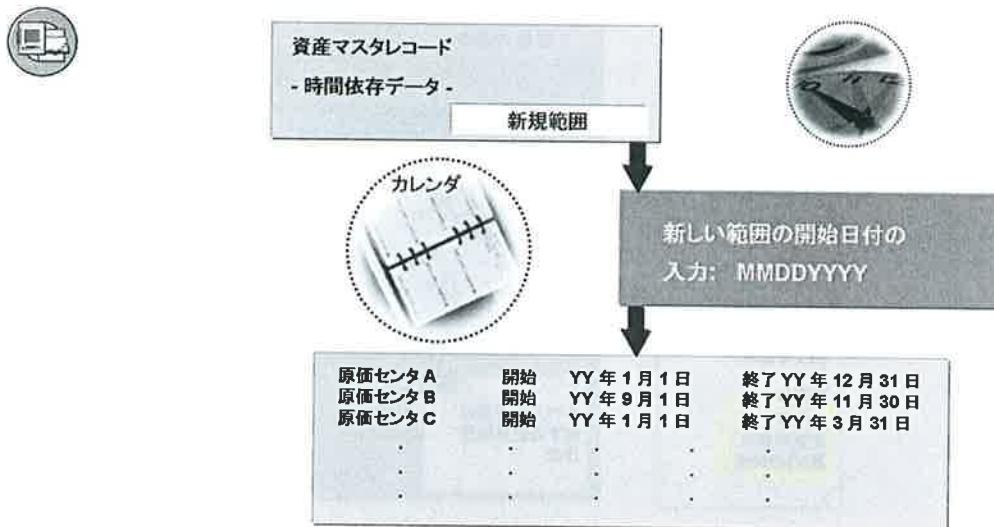


図 25: 時間依存データ

資産マスタレコードの情報には、**時間依存データ**として管理できるものがあります。これは、原価センタやプロジェクトなどの管理会計組織ユニットに資産を割り当てる場合には特に重要です。

シフト因数と資産休止は、減価償却に直接影響することもあります。そのため、これらを**時間依存データ**として入力して、月単位で**変更**できるようにする必要があります。

~2/21 原セ A } 2月分の原価償却費は B に流れ
3/22 ~ 原セ B } (該プログラムが実行
されるたび)

時間依存データを保存した後、**時間依存タブ**ページの**追加間隔**ボタンを選択することによって、マスタレコードでさまざまな時間依存の割当/間隔を登録、編集、および呼び出すことができます。

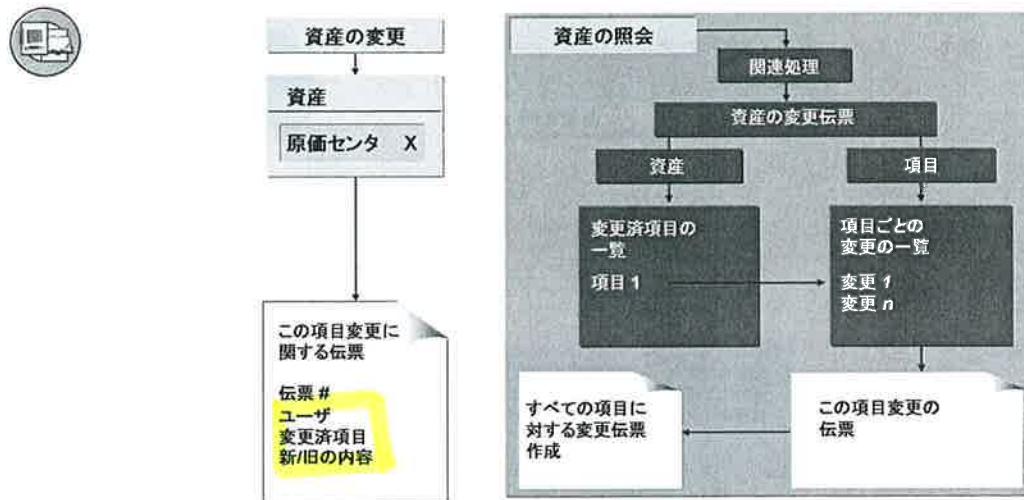


図 26: 資産の変更

資産マスタレコードを変更するたびに、**変更伝票が登録されます**。変更伝票には、変更された項目の一覧と項目に対する変更の番号が記載されます。また、**ユーザ名と項目の新/旧の内容も保存されます**。

変更伝票は、関連する資産マスタレコードから直接呼び出すことも(トランザクションコード AS02)、標準レポート RAAEND01 を使用して呼び出すこともできます。標準レポートを使用するには、固定資産管理情報システムで、**固定資産管理レポート→決算処理の準備→国際→資産マスタレコードへの変更を選択します**。

数多くの資産マスタレコードが変更の対象となる場合は、一括変更を実行することができます。詳細については、次のレッスンも参照してください。

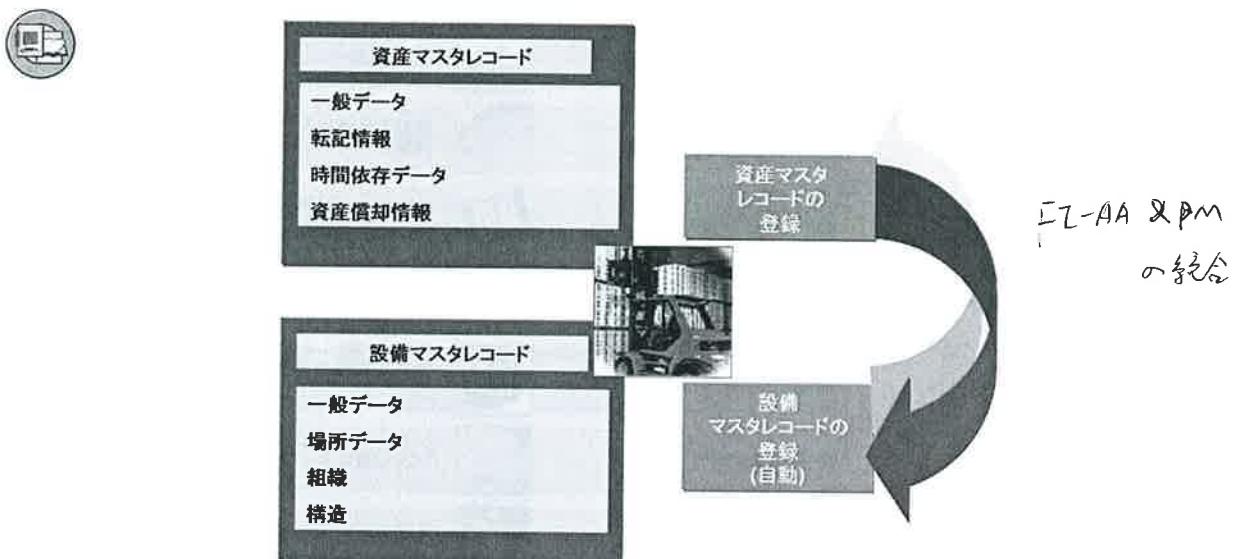


図 27: 資産マスタレコードと設備マスタレコード

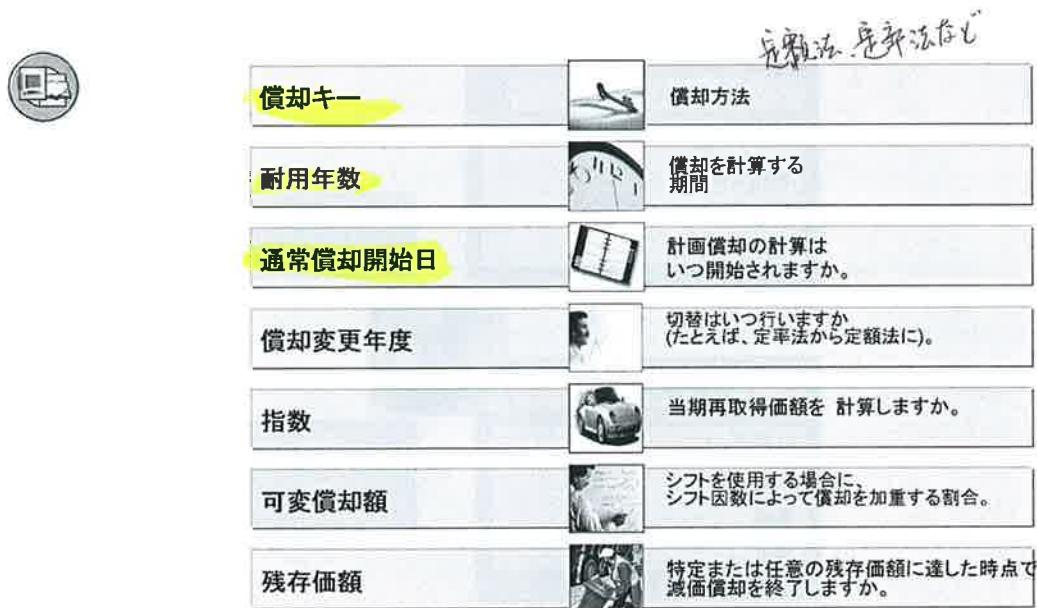
これまで、設備を資産に割り当てる方法は、資産番号を関連するマスタレコードに入力するというものでした。この機能は引き続き有効です。設備の一部を資産に割り当てることができますが、設備の一部が属することができますのは 1 つの資産のみです。

リリース 4.6C 以降では、設備と資産を同時に登録したり変更したりすることによって、FI-AA コンポーネントとプラント保全 (PM) コンポーネントとの統合を実現することができます。

資産マスタレコードを登録すると、自動的に設備マスタレコードが登録されて特定のマスタデータ項目（たとえば、会社コードや棚卸番号）の値がコピーされるように、システムを設定することができます。後で資産マスタデータを変更すると、設備マスタレコードの項目が自動的に更新されます。その逆も同様です。また、たとえば、資産の登録や変更時に PM の担当者に通知するワークフローを設定することもできます。

関連するカスタマイジングパスは、財務会計(新規) → 固定資産管理 → マスター → 自動登録: 設備マスタレコードです。

詳細については、SAP ノート 370884 と 549929 を参照してください。



 傷却キー	 傷却方法
耐用年数	 傷却を計算する期間
通常償却開始日	 計画償却の計算はいつ開始されますか。
償却変更年度	 切替はいつ行いますか(たとえば、定率法から定額法に)。
指数	 当期再取得価額を計算しますか。
可変償却額	 シフトを使用する場合に、シフト因数によって償却を加重する割合。
残存価額	 特定または任意の残存価額に達した時点で減価償却を終了しますか。

図 28: 資産マスタレコードおよび資産クラスの償却領域

資産マスタレコードの償却データセクションの初期値は資産クラスから設定されます。この初期値は、資産マスタレコードのさまざまな償却領域で変更または追加することができるようになっています。

資産の償却領域のデータ/情報の一部は、取得転記から取り込まれます。

指数、可変償却部分、残存価額などの情報は、主に管理目的償却領域で使用し、必要になる追加パラメータです。



ヒント: SAP ERP 6.0 では、選択した償却条件の時間依存定義を行うこともできます。詳細については、定期処理セクションを参照してください。

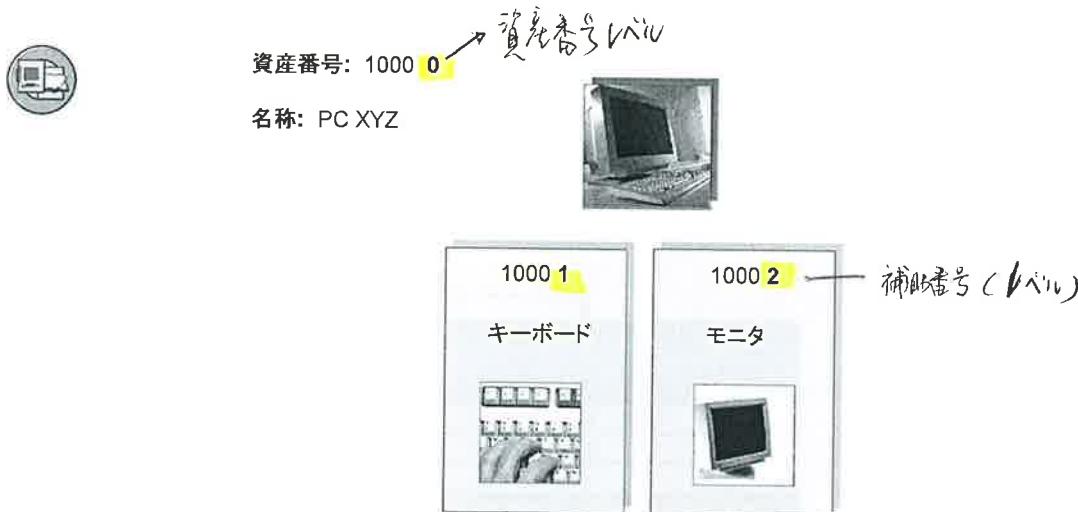


図 29: 資産補助番号

固定資産がさまざまな資産構成要素で構成されている場合、これらの資産構成要素を別個の補助番号で管理することができます。これは、技術的な理由からも会計管理上の理由からも便利です。

資産補助番号には外部採番を使用することも、内部採番を使用することもできます。この指定は資産クラスで行います。たとえば、旧資産データの転送時に外部採番を使用し、旧資産データの転送が完了してから内部採番に切り替えることができます。データの転送後に、内部採番に移すことができます。

「*Trcl: DADA*」

以下の場合には、補助番号で資産を分けることができます。

- 後続年度における追加取得の価額を別に管理することができる(建物など)。
- 資産の個々の部分の価額を別々に管理することができる。
- さまざまな技術的側面に従って資産を分割することができる。

資産クラスの画面レイアウトを使用して、補助番号レベルで更新レベルを指定することができます。これによって、補助番号で償却条件の初期値を変更することができます。

「*D40*」

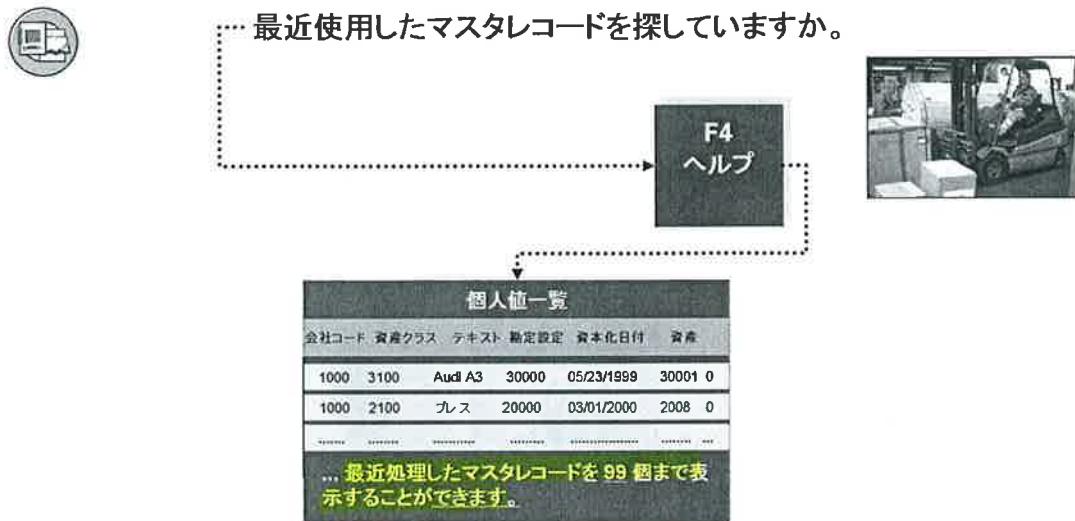


図 30: 履歴一覧/個人ワークリスト

リリース 4.6 以降では、頻繁に使用する値を個人値一覧に保存することができます。

個人値一覧を使用しない場合は無効にすることができます（マスタデータ管理でメニュー設定→インターフェースを選択します）。“入力可能値”押ボタンを選択すると、一般入力ヘルプが直接表示されます。

演習問題 4: 資産マスタレコード

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 固定資産管理におけるあらゆる種類のマスタレコードの登録と変更

ビジネスシナリオ

マスタレコードを使用して、システムで会社の資産をマッピングします。

タスク 1:

マスタレコードを登録します。

- 2台のフォークリフトを発注したことを同僚から知らされました。資産クラス3100(車両)と会社コードAA##を使用して、フォークリフトグループ##という名称のマスタレコードを登録します。
マスタレコードに原価センタ T-F05E##(オートバイ製造)を割り当てます。
資産マスタレコードの番号を書き留めてください。
- 最初のマスタレコードを参照として使用して、2つ目のマスタレコードを登録します。マスタレコードのテキストはフォークリフト2 / グループ##とします。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

タスク 2:

コピー機の資産マスタレコードを別途登録します。

- コーポレートサービス部門(原価センタ T-F05A##)の同僚が新しいコピー機を必要としています。
該当する資産クラスに資産マスタレコードを登録し、適切なテキストを入力します。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

タスク 3:

次のタスクを実行します。

- 製造部門が新しいコンピュータを5台受け取ります。最も簡単な方法で、該当する資産クラスに類似資産マスタレコードを登録します。
テキストとしてPC 1からPC 5を入力します。PCの棚卸番号0001から0005を入力し、マスタレコードに原価センタを割り当てます。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

次へ

タスク 4:

最も簡単方法で以下の資産マスタレコードを登録します。

1. クラス *1100* (建物): 2 つの資産マスタレコード
2. クラス *2100* (機械、定額法): 10 個の資産マスタレコード。テキストを機械 *01* から 機械 *10*、棚卸番号を *01* から *10* とします。
3. クラス *3000* (器具備品): 1 台の FAX マシン
4. クラス *3100* (車両): 2 台の社用車。テキストをそれぞれ社用車 #/1、社用車 #/2 とします。
5. クラス *4000* (建設仮勘定)建設仮勘定
6. 前の章の少額資産の限度額に関するオプションの演習問題を完了している場合にのみ、必要に応じて実行してください。それ以外の場合は、この演習を行わないでください。クラス *3005* (器具備品領域の LVA (個別管理)): オフィスキッキン用の 1 台のコーヒーメーカー

タスク 5:

以下のタスクを実行します。

1. 別の社用車の資産マスタレコードを別個に登録します。ここでは(誤つて) 正しくない資産クラス *3000* を使用します。テキストは 車両 *3000* グループ ## です。

タスク 6:

以下のタスクを実行します。

1. 変更します。PC 1 の資産番号および会社コード AA## を入力します。確認します。資産マスタレコードのテキストを Supralux Scenic 4000 グループ ## に変更します。
2. PC *Supralux Scenic 4000* グループ ## について、方法がわかっている場合は、シングルステップでさらに 2 つの補助番号を登録します。テキストをそれぞれモニタ、キーボードとします。



ヒント: 補助番号は、個々の資産クラスの設定に応じて内部または外部で割り当てることができます。シングルステップで 2 つの補助番号を登録する必要があるため、トレーニングシステムではクラス *3200* を内部補助番号割当で設定します。区別/設定は、トランザクション *AOA* を使用して資産クラスの詳細画面で照会することができます。

関連する画面レイアウトルールの設定によって、一部の入力項目のデータは資産番号レベルでしか更新できない場合があります。

次へ

タスク 7:

登録したマスタデータの概要を照会します。

1. 会社コード AA## のレポート未転記資産のディレクトリを呼び出して、登録したマスタデータの概要を照会します。このレポートは、固定資産管理情報管理のメニュー「オプション 固定資産管理レポート」の日次アクリビティ(国際版)にあります。
このレポートの技術名称は RAANLA_ALV01 です。

タスク 8:

オプション:以下のタスクを実行します。

1. 管理会計部門が、器具備品の一部について原価センタ割当を変更しました。コピー機資産(このセクションの演習 2 を参照)は現在、原価センタ T-F05A##(コーポレートサービス)に割り当てられています。

今年度の 6 月 1 日から 10 月 31 日まで、取締役会(原価センタ T-F05B##)がそのコピー機を必要としています。

ドラフトを保存した後、コピー機に対するもう 1 つの変更をマッピングします。今年度の 11 月 1 日以降、コピー機は元の部門に返却されます。それに伴い、時間依存データを変更します。

2. 関連する変更伝票をチェックします。

解答 4: 資産マスタレコード

タスク 1:

マスタレコードを登録します。

1. 2台のフォークリフトを発注したことを同僚から知らされました。資産クラス3100(車両)と会社コードAA##を使用して、フォークリフトグループ##という名称のマスタレコードを登録します。

マスタレコードに原価センタT-F05E##(オートバイ製造)を割り当てます。

資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

- a) 解答に進む前に、ナビゲーションに関する基本情報および一般情報を再確認します。

固定資産管理アプリケーション(アプリケーションFI-AA)のメニュー
パス: SAP Easy Access → SAP メニュー → 会計管理 → 財務会
計 → 固定資産

固定資産管理のカスタマイジング(FI-AA カスタマイジング)のメ
ニューパス: SAP Easy Access メニュー → ツール → カスタマイジン
グ → IMG → プロジェクト実行。SAP 完全版IMG 押ボタンを選択
し、SAP カスタマイジング導入ガイド(IMG)で財務会計(新規) →
固定資産管理にナビゲートします。



ヒント: 必要に応じて、登録する必要がある資産マスタレコードの番号を別のシートに書き留めてください。

ただし、いつでも“F4 ヘルプ”を使用して資産番号を検索
し、照会することができます。

マスタレコードは、この後の演習問題でも必要になります。

会社コードAA##のマスタレコードを登録します。

資産マスタレコードにドリル##のようなテキストがある場合があります。



注記: 入力項目で入力する情報(たとえば、原価センタ
や、後で使用する転記金額など)について演習問題に詳
細が記載されていない場合は、エントリを自由に選択する
ことができます。

演習問題の解答: 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録
→ 資産を選択します。

以下のデータを入力します。

次へ

項目名/データ型	値
資産クラス	3100
会社コード	AA##

データを確認し、続行します。

テキスト	フォークリフトグループ##
原価センタ	T-F05A##

すべてのマスタデータを入力したら、エントリを保存します。

2. 最初のマスタレコードを参照として使用して、2つ目のマスタレコードを登録します。マスタレコードのテキストはフォークリフト2/グループ##とします。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。
 a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録 → 資産を選択します。
 「3000」
 「3001」

タスク 2:

コピー機の資産マスタレコードを別途登録します。

1. コーポレートサービス部門(原価センタ T-F05A##)の同僚が新しいコピー機を必要としています。

該当する資産クラスに資産マスタレコードを登録し、適切なテキストを入力します。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録 → 資産を選択します。

資産クラス 3000 を使用し、演習問題の説明に従ってデータを入力します。

「3002」

タスク 3:

次のタスクを実行します。

1. 製造部門が新しいコンピュータを 5 台受け取ります。最も簡単な方法で、該当する資産クラスに類似資産マスタレコードを登録します。

次へ

テキストとして *PC 1* から *PC 5* を入力します。PC の棚卸番号 *0001* から *0005* を入力し、マスタレコードに原価セントを割り当てます。資産マスタレコードの番号を書き留めてください。

3003 → 3007

- 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録 → 資産を選択します。

第一画面で、資産クラス *3200* と、類似資産の数として *5* を入力します。

(最初の資産について記載された) 演習問題の指示に従ってデータを入力します。

保存します。

複数資産登録ダイアログボックスで、更新を選択します。

テキストと棚卸番号を更新し、エントリを確認します。

複数資産登録ダイアログボックスで、登録を選択します。

タスク 4:

最も簡単方法で以下の資産マスタレコードを登録します。

- クラス *1100* (建物): 2 つの資産マスタレコード
 - 前の演習の解答に従って進めます。
- クラス *2100* (機械、定額法): 10 個の資産マスタレコード。テキストを機械 *01* から 機械 *10*、棚卸番号を *01* から *10* とします。
 - 前の演習の解答に従って進めます。
- クラス *3000* (器具備品): 1 台の FAX マシン
 - 前の演習の解答に従って進めます。
- クラス *3100* (車両): 2 台の社用車。テキストをそれぞれ社用車##/1、社用車##/2 とします。
 - 前の演習の解答に従って進めます。
- クラス *4000* (建設仮勘定)建設仮勘定
 - 前の演習の解答に従って進めます。
- 前の章の少額資産の限度額に関するオプションの演習問題を完了している場合にのみ、必要に応じて実行してください。それ以外の場合は、この演習を行わないでください。クラス *3005* (器具備品領域の LVA (個別管理)): オフィスキッキン用の 1 台のコーヒーメーカー
 - 前の演習の解答に従って進めます。

次へ

タスク 5:

以下のタスクを実行します。

1. 別の社用車の資産マスタレコードを別個に登録します。ここでは(誤つて)正しくない資産クラス **3000** を使用します。テキストは **車両 3000 グループ #** です。
 - a) 前の演習の解答に従って進めます。

タスク 6:

以下のタスクを実行します。

1. **変更します。** PC 1 の資産番号および会社コード AA## を入力します。確認します。資産マスタレコードのテキストを **Supralux Scenic 4000 グループ #** に変更します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、**資産 → 変更 → 資産** を選択します。

資産マスタレコードのテキストを **Siemens Scenic 400 グループ #** に変更します。

次へ

2. PC *Supralux Scenic 4000 グループ##*について、方法がわかっている場合は、シングルステップでさらに2つの補助番号を登録します。テキストをそれぞれモニタ、キーボードとします。



ヒント: 補助番号は、個々の資産クラスの設定に応じて内部または外部で割り当てることができます。シングルステップで2つの補助番号を登録する必要があるため、トレーニングシステムではクラス3200を内部補助番号割当で設定します。区別/設定は、トランザクション OAOA を使用して資産クラスの詳細画面で照会することができます。

関連する画面レイアウトルールの設定によって、一部の入力項目のデータは資産番号レベルでしか更新できない場合があります。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録 → 資産補助番号 → 資産を選択します。

入力項目 資産に正しいPCの資産番号が表示されていることを確認します。

入力項目類似補助番号の数に数値2を入力し、エントリを確認します。

補助番号のテキストをモニタに変更します。

保存します。

複数資産登録ダイアログボックスで、更新を選択します。

2つ目の補助番号のテキストをキーボードに変更し、エントリを保存します。

複数資産登録ダイアログボックスで、登録を選択します。

タスク7:

登録したマスタデータの概要を照会します。

1. 会社コード AA## のレポート未転記資産のディレクトリを呼び出して、登録したマスタデータの概要を照会します。このレポートは、固定資産管理情報管理のメニューオプション 固定資産管理レポートの日次アクリティビティ(国際版)にあります。

↓ 検査時に
使われます。

次へ

このレポートの技術名称は *RAANLA_ALV01* です。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理→固定資産管理レポート→日次アクティビティ→国際版→未転記資産のディレクトリを選択します。

以下のデータを入力してレポートを実行します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
資産クラス	(エントリなし)
ソートバージョン	0013

タスク 8:

オプション:以下のタスクを実行します。 P65 . P66

1. 管理会計部門が、器具備品の一部について原価センタ割当を変更しました。コピー機資産(このセクションの演習 2 を参照)は現在、原価センタ *T-F05A##* (コーポレートサービス) に割り当てられています。

今年度の 6 月 1 日から 10 月 31 日まで、取締役会(原価センタ *T-F05B##*)がそのコピー機を必要としています。

次へ

ドラフトを保存した後、コピー機に対するもう1つの変更をマッピングします。今年度の11月1日以降、コピー機は元の部門に返却されます。それに伴い、時間依存データを変更します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→変更→資産を選択します。

登録したコピー機の資産番号を入力し、エントリを確認します。資産マスタレコードで時間依存タブページを選択します。

スクロールダウンします。

追加間隔ボタンを押します。

間隔追加ボタンを押します。

新規範囲登録ダイアログボックスで、今年度6月1日と入力します。

テーブルの1行目で、演習問題の説明に従って原価センタを変更し、変更内容を保存します。

ここでもう一度資産の時間依存データの間隔更新を呼び出し、再度追加間隔ボタンを押します。再度間隔追加ボタンを押します。

新規範囲登録ダイアログボックスで、今年度11月1日と入力します。

テーブルの1行目で、原価センタを原価センタ T-F05A##に戻し、保存します。

2. 関連する変更伝票をチェックします。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→変更→資産を選択します。

資産変更画面で、ML 環境→変更伝票→資産を選択します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 固定資産管理におけるマスタデータの登録と変更

レッスン: 一括変更

レッスンの概要

資産マスタデータを変更するには、いくつかの方法があります。その1つに、一括変更の実行があります。このレッスンでは、一括変更の処理方法について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... ワークリストを使用した資産マスタデータに対する一括変更の実行

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門は、一括処理を使用して資産の原価センタを変更したいと考えており、システムサポートを必要としています。

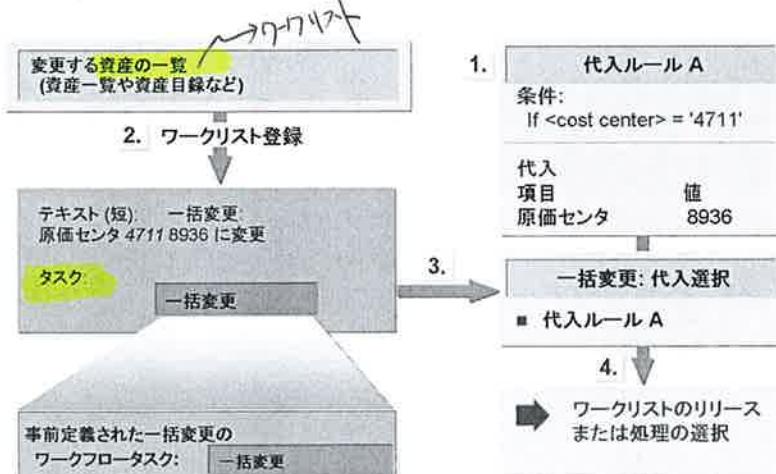


図 31: ワークリストを使用した資産マスタデータに対する一括変更

一括変更を実行するために、リリース 4.0 以降では、FI-AA アプリケーションメニューからワークリストを編集することができます。ただし、このアプリケーショントランザクションに対する権限が必要です。

したがって、この機能にアクセスするのに(カスタマイジングでの)ワークフロータスク割当が必ずしも必要となるわけではありません。

一括変更

1. 代入ルール

$Tred = OA02$

2. ワークリスト

3. 代入とワーキリストの割り当て

4. ワークリスト登録 $Tred = AR31$

宛

資産マスタデータに対する一括変更の各ステップの概要は、以下のようになります。

- 変更する項目とその変更内容を指定する代入ルールを登録します。固定資産管理で、環境 → 一括変更規則を選択します。次に、代入押ボタンを選択します。代入登録押ボタンおよび少なくとも 1 つのステップを使用して、“If-then 条件”、つまり要件を満たす代入ルールを登録します。 $AR01$ 以下のスライドでは、この点についてさらに詳しく説明します。
- 次に、保存した代入ルールを(ステップ 1 と同じトランザクション [トランザクションコード $OA02$] で)会社コードに割り当てる必要があります。
- 変更する資産の一覧 (ワーキリスト) を登録します。このためには、いずれかの ABAP 資産レポートを呼び出すか、または固定資産管理アプリケーションメニューのメニューパス 環境 → ワーキリスト → 生成を使用します。
- 呼び出したプログラムを使用して、変更するマスタデータを選択し、結果画面のワーキリスト登録押ボタンを押します。
- テキストを入力し、ワーキリストの目的を選択します。目的は、システムで事前定義されている標準タスクです (マスタデータ変更など)。
- 表示されたダイアログウィンドウで、一括変更用に定義した代入ルールを選択し、データを保存します。
- ここでワーキリスト (のみ) をさらに処理する必要があります。固定資産管理で、環境 → ワーキリスト → 編集を選択します。
- 資産を照会するか、適切なレポートを実行して、一括変更が正常に完了したかどうかをチェックします。



$Tred = OA02$

代入名	COST 1
ステップ	001
原価センタ 4711 から 8936 への変更	
前提条件	
<input checked="" type="checkbox"/> ANLZ-KOSTL = 4711 (エキスパートモード) または: <input checked="" type="checkbox"/> 原価センタ = 4711 (フォームビルダを使用)	
代入 (前提条件を満たす場合)	
項目	定数値
■原価センタ	8936
■有効開始日	YYYY/01/01
代入 Exit	
エントリ 1/1	
条件の定義	
条件を満たしている場合、定数値または Exit プログラム	

→ 代入を含む

(二割引率がかかる)

図 32: 一括変更の代入ルール

代入ルールは、以下の 2 つの部分で構成されます。

1. 選択レコードを特定する条件: フォームエディタまたはエキスパートモードで、条件を登録することができます。エキスパートモードを使用するには、関連する入力項目の(技術)項目テキストとテーブルテキストを知っている必要があります。
2. 再取得価額を特定する代入(条件を満たしている場合)。定数値、項目間割当、ユーザ Exit のいずれかになります。

(時間依存の)資産マスタデータに対する一括変更用代入ルールの使用方法については、SAP ノート 210897 を参照してください。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... ワークリストを使用した資産マスタデータに対する一括変更の実行



章のまとめ

以下について学習しました。

- ... 資産クラスの登録による資産の構成
- ... 主分類基準としての資産クラスの重要性についての理解
- ... 資産クラスのコンポーネントの列挙と説明、およびカスタマイジングでのコンポーネントの検索と更新
- ... 特別な資産クラス“建設仮勘定”および“少額資産”的性の説明と理解
- ... 固定資産管理におけるマスタデータの登録と変更
- ... ワークリストを使用した資産マスタデータに対する一括変更の実行

3 章

資産取引

章の概要

資産取引の章では、MM 統合だけでなく、債務管理および債権管理のコンテキストで、資産取得および資産除却をマッピングするためのオプションについて説明します。

固定資産の“使用期間”の間には、資産価額に影響を及ぼすさまざまな変更があります。

FI-AA では多種多様な取引が区別されており、特に、(固定資産管理の) 移動タイプをさまざまな方法で処理することができます。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ... システムでの統合および非統合の資産取得の登録/転記
- ... 資産エクスプローラによるシステムでの資産取得の分析
- ... FI 伝票についての理解
- ... システムでの統合および非統合資産除却の入力
- ... SAP システムでの資産振替(会社間/関連会社間)の照会
- ... システムでの建設仮勘定の表示、付替、および決済
- ... システムでの臨時償却の入力および分析

章の内容

レッスン: 資産取得	88
演習問題 5: 資産取得	103
レッスン: 資産除却	125
演習問題 6: 資産除却	129
レッスン: 資産振替(会社間/関連会社間)	136
演習問題 7: 資産振替(会社間/関連会社間)	143
レッスン: 建設仮勘定(AuC)	154
演習問題 8: 建設仮勘定(AuC)	157
レッスン: 臨時償却	164
演習問題 9: 臨時償却	167

レッスン: 資産取得

レッスンの概要

資産取得: 債務管理(および在庫/購買管理)との統合および非統合



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... システムでの統合および非統合の資産取得の登録/転記
- ... 資産エクスプローラによるシステムでの資産取得の分析
- ... FI 伝票についての理解

ビジネスシナリオ

固定資産管理の従業員は、資産取得の転記に関してさまざまな方法が提示されることを望んでいます。

資産取得

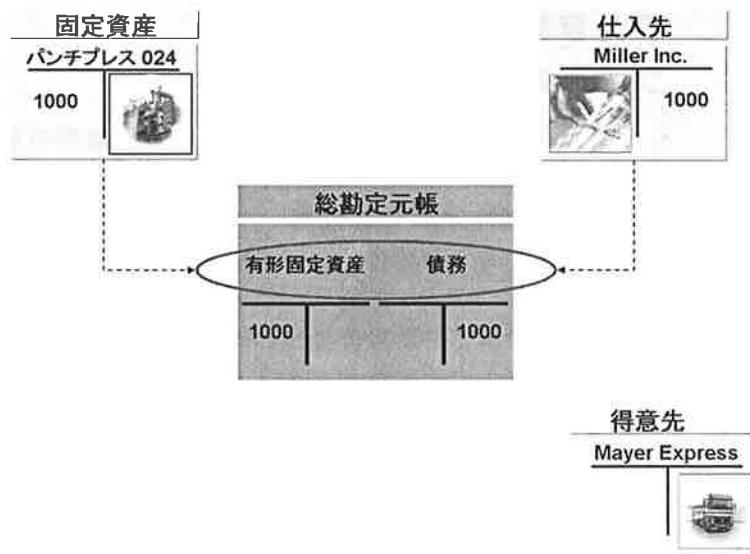


図 33: 固定資産管理(およびその他の補助元帳)

総勘定元帳と補助元帳の統合は、会計管理機能とロジスティクス機能の統合と同様に重要です。

債務管理補助元帳と債権管理補助元帳の仕入先コードと得意先コード、および資産勘定のすべての取引は、総勘定元帳の対応する勘定に直接影響を及ぼします。つまり、補助元帳は常に G/L 統制勘定と連携しています。

G/L 統制勘定は、固定資産管理部門とともに前もって設定しておく必要があります。

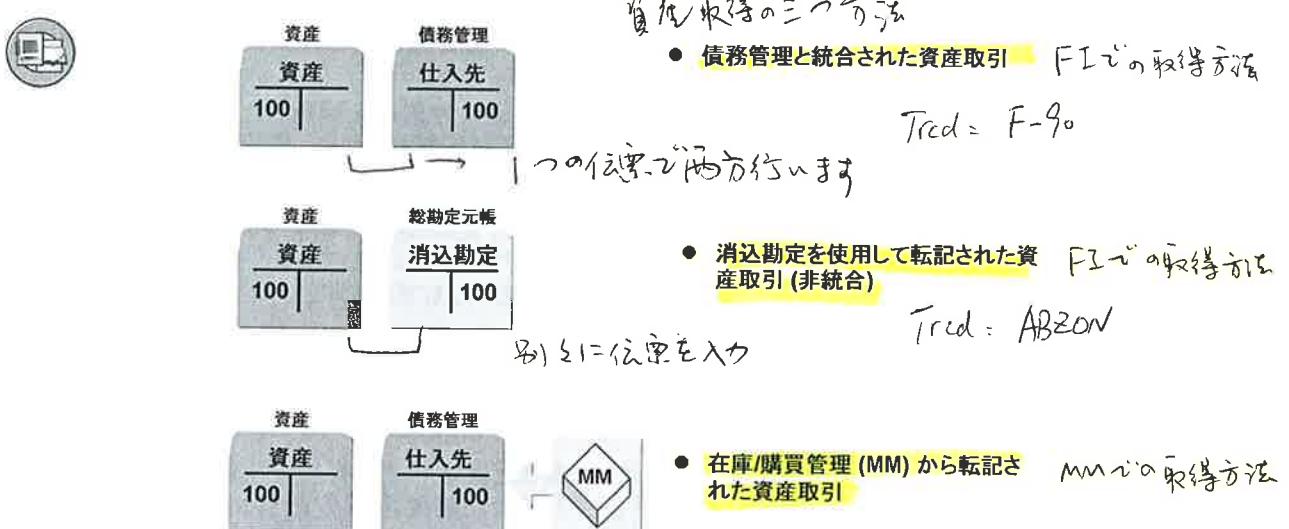


図 34: 資産取得 - さまざまなオプション

取得転記は、その取引を主に担当している部門で登録することができます。

ビジネスパートナからの資産取得: 外部からの取得:

- FI-AA では、債務管理(通常、仕入先請求書が使用可能な場合)への統合はありますが、購買発注への参照はありません。
- 自動相手勘定入力を使用した FI-AA では、購買発注へのリンクと債務管理への統合はありません。この転記は通常、請求書が受領されていない場合、あるいは、個別ステップであらかじめ購買管理部門による請求書の転記が行われていない場合に使用されます。相手勘定コードを消し込む必要があります。
- スライドには非表示: 相手勘定入力消込を使用した FI-AA の場合: 最初の転記は通常、FI-AP で行われます。次に、資産転記では消込勘定の消込も行われます。
ただし、両方の部門において、逆の順序で転記を行うこともできます。つまり、自動相手勘定入力で資産を入力してから、仕入先請求書の貸方登録で消込勘定を消し込むこともできます。
- 在庫/購買管理 (MM): 資産の転記/有効化はロジスティクスで行われます。

内部生産による取得とは、一部またはすべてが自社で生産される商品やサービスの資本化のことです。このような内部生産商品またはサービスの原価は、資産に資本化する必要があります。通常、加工費を資本化するには、設備予算管理 (IM) で設備投資案件(指図/プロジェクト)を登録して、建設仮勘定に決済し、さらに最終資産に決済します。

最終的な取得方法 (ただし、あまり一般的ではない): すでに仕入先請求書が請求されている CO 指図を直接固定資産に決済します。このプロセスは管理会計のプロセスによって実行されます。

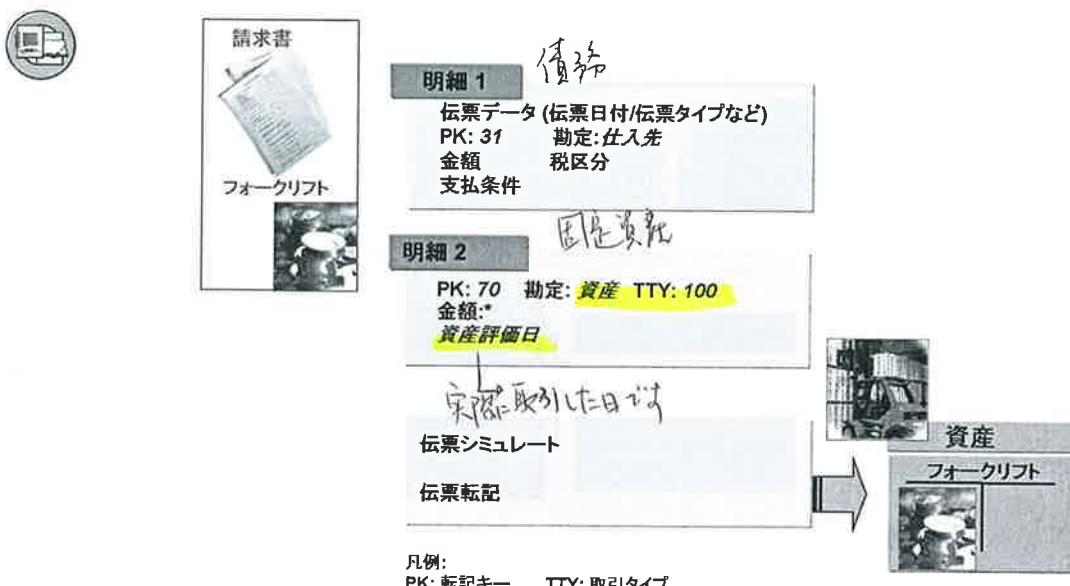


図 35: 資産取得: FI-AP との統合

1つの伝票で資産と仕入先に転記することができます。SAP Easy Access → 固定資産 → 記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 仕入先取得を選択します。

この転記は、債務管理で行われることが多くあります。この転記では、財務会計と固定資産管理の両方の要件が満たされます。

(TTY) 取引タイプ: 資産に転記する際には、取引タイプを入力する必要があります。
資産台帳では、取引タイプによって各取引が識別されます。

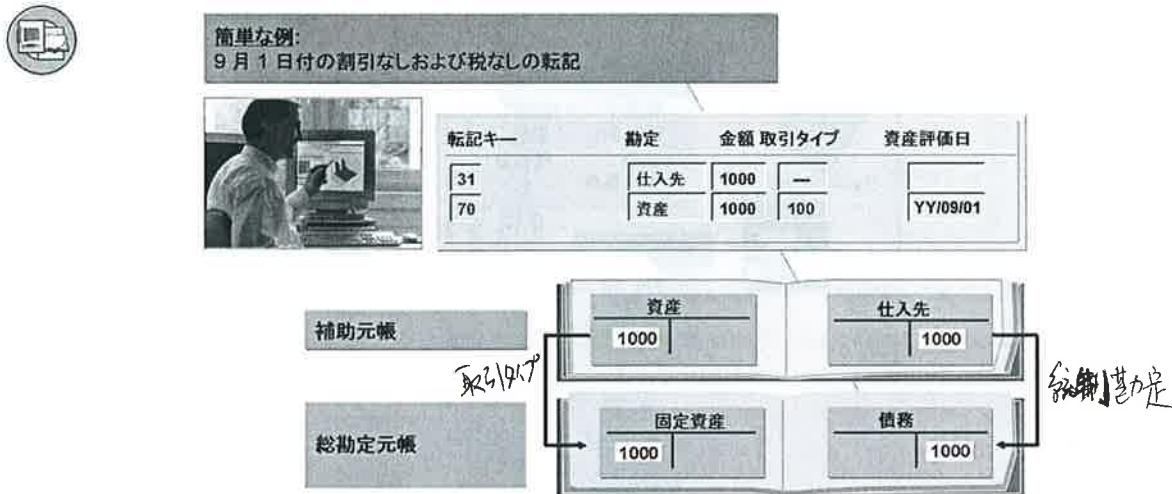


図 36: 統合資産取得: G/L 勘定

仕入先コードまたは資産勘定に転記する場合、同時に、関連する G/L 勘定 (買掛金または固定資産) が自動的に更新されます。

Account	Description	Amount	Curr	Tax	Cost Center	Profit Center
1000 1 31 1000	C.E.B. BERLIN	11,000,00	EUR	11		
2 70 11003	0000000002359 0000	9,700,00	EUR	11	1402	EE
3 40 193009	Cleaning supplier d	300,00	EUR	11		
4 40 154000	Input tax	1,000,00	EUR	11		
		0,00	EUR			

新総勘定元帳では、伝票には、常に、エントリビューおよび総勘定元帳ビューがあります。

- エントリビューには、転記 (マニュアルで行うことが多い) するときに伝票登録者が入力した明細 (金額および特性) が表示されます。補助元帳に格納されている転記金額が表示されます。
- 総勘定元帳ビューには、新総勘定元帳で伝票分割を使用している場合には、取引に応じて伝票にさらに多くの明細およびその他の金額を記載することができます。

注記: AC305 で使用している会社コードでは伝票分割が有効でないため、総勘定元帳ビューは常にエントリビューとまったく同じものとなります。

図 37: FI 伝票: 入力ビューと総勘定元帳ビュー

伝票分割は、新総勘定元帳で有効になった機能であり、会社コードの特性にもとづいて(完全な)貸借対照表を登録する場合に使用されます。標準(伝票分割)特性には、利益センタ、事業領域、またはセグメントなどがあります。



ヒント: 伝票分割は新総勘定元帳の機能であり、固定資産管理の直接ロジックおよび機能とは関係がないため、会社コード AA##に対しても有効化されません。

新総勘定元帳の全般、特に伝票分割の機能についてさらに学習するには、SAP 標準トレーニングコース AC210 を受講してください。

会社コード	1000		0
資産	3346		
会計年度	2000		
計画価額	簿価	比較	パラメータ
会計年度の期首および期末での計画価額と 転記額:			
<ul style="list-style-type: none"> - 取得価額 - 通常償却 - 臨時償却 - 評価増 - 減価償却累計額 - 正味帳簿価額 			
選択した会計年度の取引(資産伝票)と 減価償却の設定可能な表示			

図 38: 資産エクスプローラ (资产エクスプローラー上の会計年度の取引と減価償却の設定)

リリース 4.7 以降では、資産エクスプローラに“古い資産価額照会”的すべての機能が備えられており、これにより古い資産価額照会が完全に置き換えられています。

これまででは、資産価額照会では、ボタンを使用して各償却領域をナビゲートしていました。資産エクスプローラでは、償却領域が概要ツリーで表示され、そこから償却領域を選択することができます。さまざまなシンボルによって、たとえば、償却領域が実償却領域または派生償却領域であるかを簡単に識別することができます。

画面最上部にある項目には、選択した資産に関する情報(会社コード、資産番号、補助番号など)が表示されます。ボタンを使用して、資産エクスプローラから資産マスタデータにジャンプすることができます。

資産エクスプローラで直接、計画価額、簿価、および取引を印刷プレビュー形式で照会することができるほか、これらの情報の印刷とエクスポートを行うことができます。計画価額タブページでは、減価償却計算や償却の再計算機能を使用することができます。

R/3 リリース 4.6C から、画面領域(資産エクスプローラの左下)が組み込まれています。ここには、原価センタ、G/L 勘定、仕入先、従業員、購買発注、設備など資産関連の SAP オブジェクトが一覧表示されるのみでなく、対応するマスタデータオブジェクトに直接移動可能なリンクを設定することもできます。

リリース 4.6C 以降では、同様に、比較タブページを使用することができます。このタブページでは、複数の償却領域における数年間の資産価額の変動を同時に照会することができます。



資産伝票	
資産評価日:	20XX/09/28
転記金額	12,000.-
取引タイプ:	100
↓	
資産マスタレコード 3000002-0	
転記情報:	
有効化日付	20XX/09/28
一次取得日付	20XX/09/28
取得年度/期間	200x 009
評価:	
領域	通常償却開始日
01	20XX/09/01
02	20XX/09/01
20	20XX/09/01

図 39: 資産取得: マスタレコード変更

最初の取得転記時に、以下の情報が資産マスタレコードで自動的に更新されます。

- 資本化日付 (資産評価日から誘導)
- 関連するマスタレコードの初回取得日 (同じく資産評価日から誘導)
- 取得年度および取得期間 (転記日付から誘導)

固定資産管理のカスタマジングでは、会計取引の種類ごとに資産評価日の初期値を設定することができます。

取得転記の資産評価日と期間管理方法を使用して、通常償却の開始日が決定され(詳細については、償却キーを参照)、その日付が資産マスタレコードの償却領域に書き込まれます。

FI-AP(債務/債務管理)に統合された取得を転記すると、資産マスタレコードの項目元データに仕入先が自動的に入力されます。（P89 統合される場合）

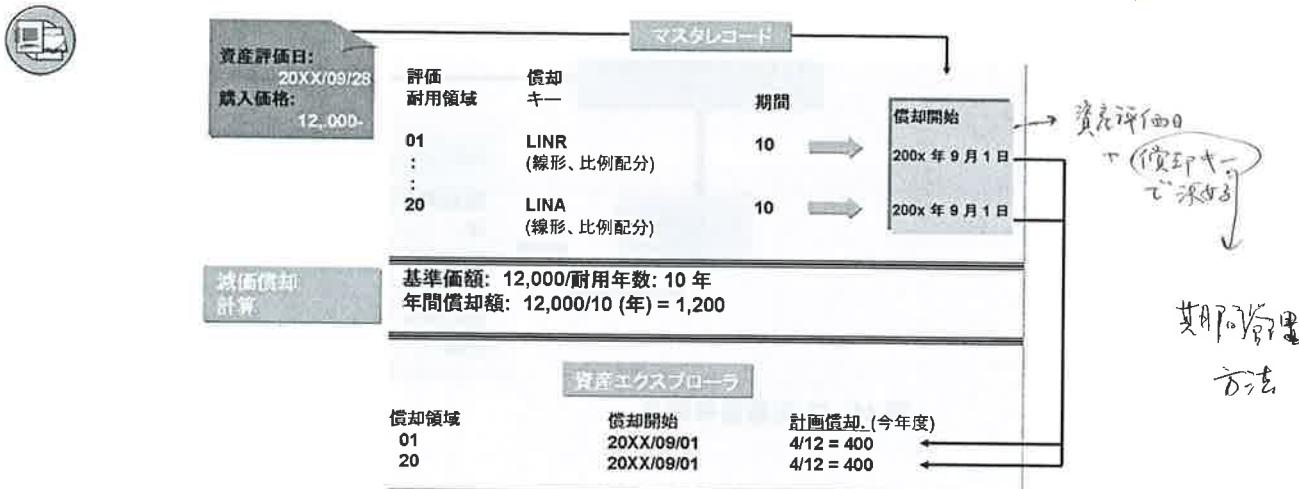


図 40: 資産取得: 値項目

と債却キー

資産評価日は資産が更新される実際の日付であり、この日付によって、(各償却領域の) 債却キーおよび償却開始日が決定されます。

償却開始日および償却条件にもとづいて、計画当期償却額(および計画金利額)が計算されます。さらに取引が転記されると、これらの金額が更新されます。



注意: 転記日付と資産評価日は必ず同じ会計年度でなければなりません。

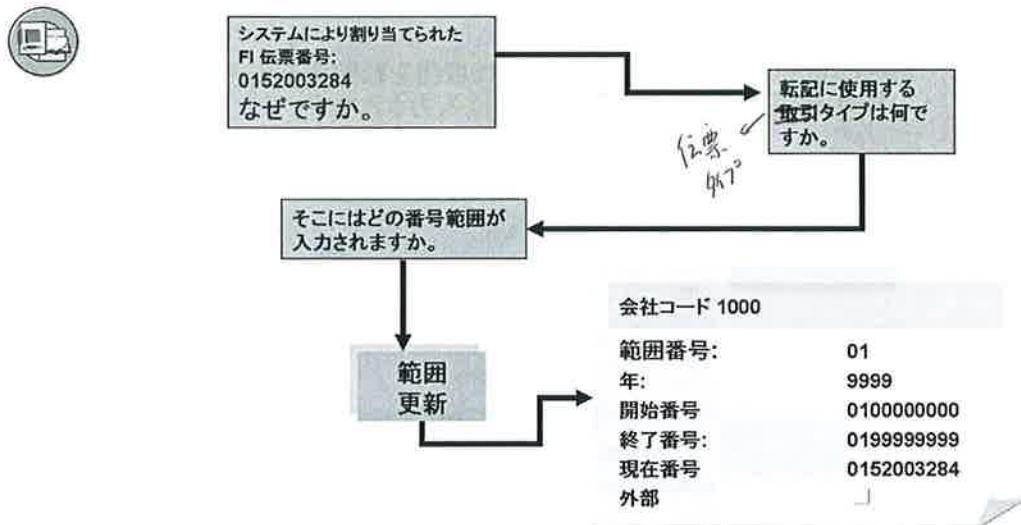


図 41: FI 伝票番号割当

FI 伝票番号を割り当てるための番号範囲間隔は伝票タイプに定義されます。

伝票タイプはすべてのクライアントにわたって定義されますが、FI 伝票番号範囲間隔は特に会社コード用に登録する必要があります。

間隔更新は、たとえば、カスタマイジングトランザクション *FBNI* を使用して実行することができます。FI 伝票番号割当を年度依存として定義しない場合、または定義することができない場合は、更新トランザクションで年度列に将来の年(最大 9999 年まで)を入力することができます。

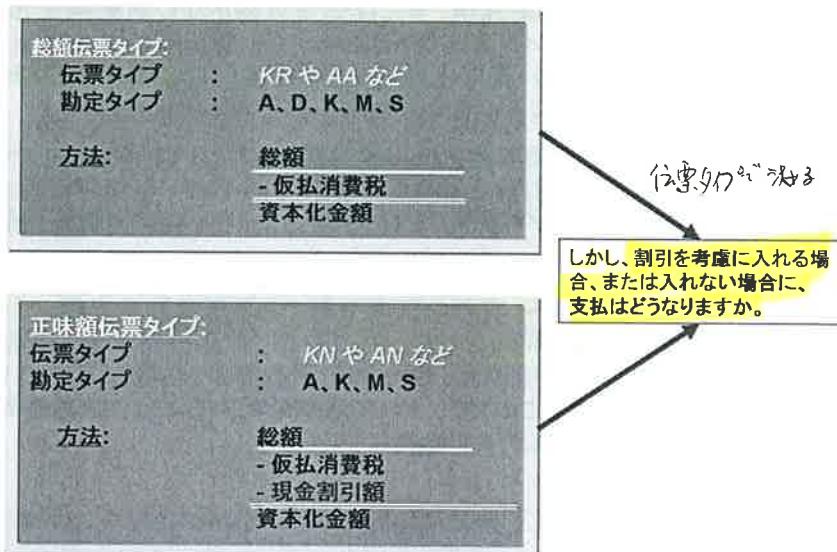


図 42: 総額または正味額伝票タイプ

SAP システムで伝票を登録するときは、システムから提案された伝票タイプを使用したり(トランザクションコード OBUI/カスタマイジングで財務会計(新規) → 財務会計共通設定(新規) → 伝票 → 初期値 → 定義: 初期値を参照)、独自の伝票タイプを入力したりすることができます。

すべてのクライアントにわたって定義される伝票タイプは、2 文字の英数字エントリです。

伝票タイプの定義には、特定の伝票タイプを持つエントリの入力時に許可される勘定タイプなどを指定します。また、対応する伝票タイプで登録した FI 伝票を“総額” 転記にするか、それとも“正味額” 転記にするかを定義します。



ヒント: この場合、“総額” または “正味額” のテキストでは税エントリが示されませんが、代わりに、自動的に現金割引額を算出して資産の資本化価額からその算出額を差し引くか(正味額伝票タイプ)、または現金割引額なしで資産を資本化する(総額伝票タイプ)オプションが示されます。

SAP 標準システムには、以下のような標準伝票タイプがあります。

- 総額伝票タイプ AA および KR
- 正味額伝票タイプ AN および KN

の場合は、下記フローラムが適用される

- ① 従来の総勘定元帳、または伝票分割がない新総勘定元帳：統合領収書を総額伝票タイプとして転記しますが、支払時に現金割引控除を受けます。資産に正しい資本化価額を表示するには、FI プログラム SAPF181 (損益調整) を使用して、後で現金割引額を差し引きます。

→ 月次処理

逆に、統合領収書を正味額伝票タイプとして転記する(まず、現金割引額を(通常)現金割引消込勘定に転記する)ものの、支払時に現金割引を(全額)受けない場合、プログラム SAPF181 によって、資産の資本化価額も修正されます。

- ② ヒント：有効な伝票分割のある新総勘定元帳：プログラム SAPF181 は必要なようになりました。これは、仕入先請求書の支払時にただちに資産が修正され、現金割引消込額が(必要に応じて)修正されないためです。この点について理解を深めるには、SAP 標準トレーニングコース AC210 を受講してください。

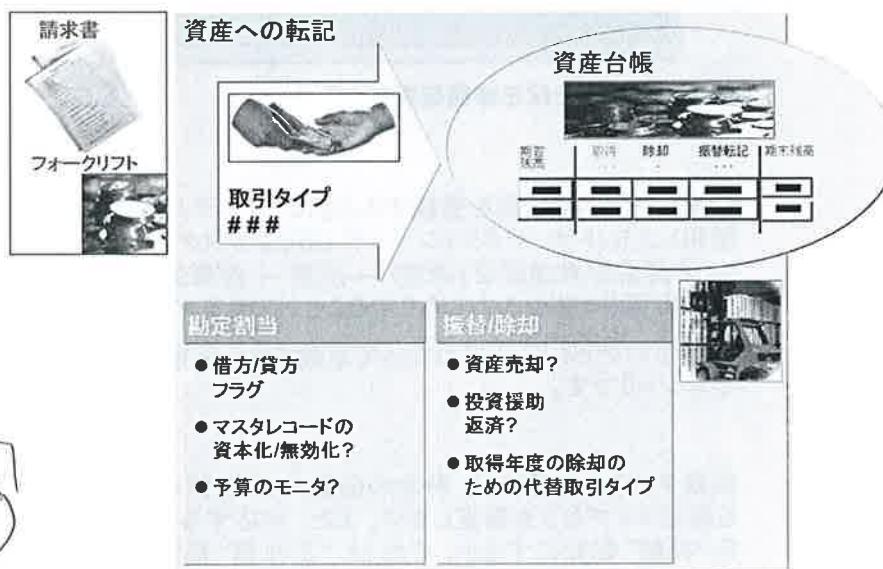


図 43: 取引タイプ

(固定資産関連)

取引タイプは、すべての転記で使用される必要があります。取引タイプによって、取得、除却、振替などが識別されます。

資産台帳レポートおよびその他の FI-AA レポートでは、取引タイプを使用してさまざまな種類の取引が識別され、個別に表示されます(取引タイプによって、たとえば前年度以前の取得の除却であるか、または当期取得の除却であるなど、金額の変化を資産台帳のどこに表示するかが特定されます)。

取引タイプによる
資産台帳の表示

↓ 資産台帳グループに表示
取引タイプ - 資産台帳グループに表示
資産台帳グループに表示する

必要に応じて、取引タイプを特定の償却領域に制限することもできます（取引タイプ 030: 取得: グループ償却領域のみなど）。

また、独自の取引タイプを定義することもできます。ただし、必要な取引タイプは、すべて標準システムに用意されています。取引タイプは、固定資産管理カスタマイジングの取引に、取引タイプにもとづいて保存されており、ここで、取引タイプをコピー、登録、および編集することができます。すべての取引タイプが 1 つの取引タイプグループに割り当てられています。この割当は事前定義されているものであるため、個々のカスタマが変更することはできません。

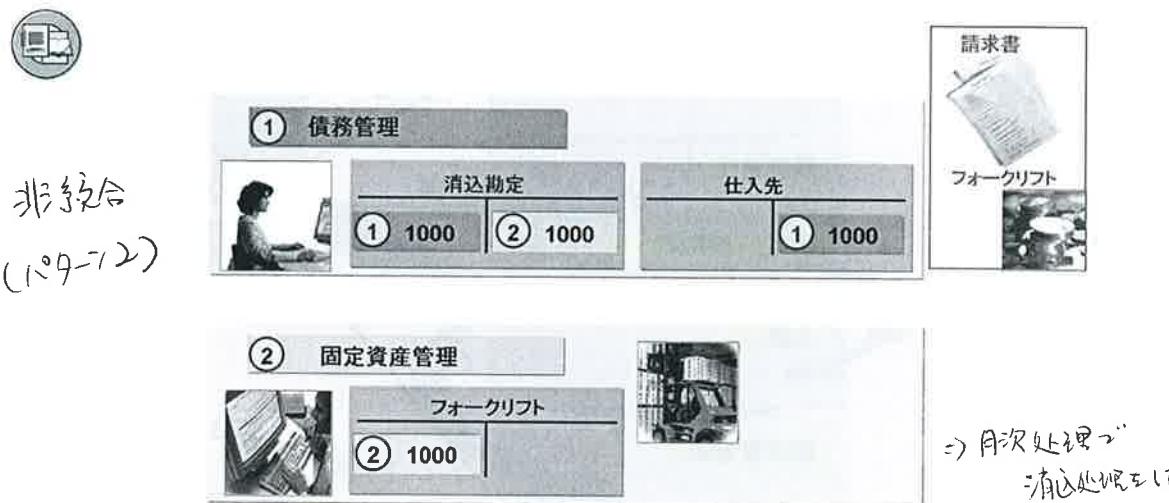


図 44: 消込勘定のある資産取得/自動相手勘定入力のある取得

資産取得転記が統合されていない場合は、通常、消込勘定を使用します。消込勘定とは、後で勘定を消し込むことができるよう、明細消込管理が設定された G/L 勘定のことです。

はん資化のみが届いた時 統合転記を行わない理由:

ABZON

固定資産 / 消込勘定

- 資産より前に請求書を受領した。
- 資産はすでに納品され使用されているが、請求書はまだ受領していない。

請求書が届いた時 例: FB60

債務管理から消込勘定に対して行われる転記（転記レコード: 借方: 消込勘定、消費税、貸方: 仕入先）と、固定資産管理から消込勘定に行われる転記（転記レコード: 借方: 資産、貸方: 消込勘定）。この順序は取引によって決まります。

消込勘定、反対勘定: 取得価額 (A090)

消込勘定は、マニュアルか、または自動消込プログラム SAPF124 を実行することによって、総勘定元帳の別のステップで消し込まれます。

非統合転記の別の方法として、前述の転記の2番目の部分を処理する際に消込勘定を消し込む方法があります。このプロセスには、トランザクションコードF-91を使用するか、または固定資産管理のアプリケーションパス記帳→取得→外部からの取得→消込：相手勘定入力を使用します。

リース4.6から、自動相手勘定入力がさらに簡略化され、拡張されています。以下の操作が可能になっています。

- 転記時に資産マスタレコードを新規登録する
- ワンステップで既存の資産マスタレコードを複数転記する

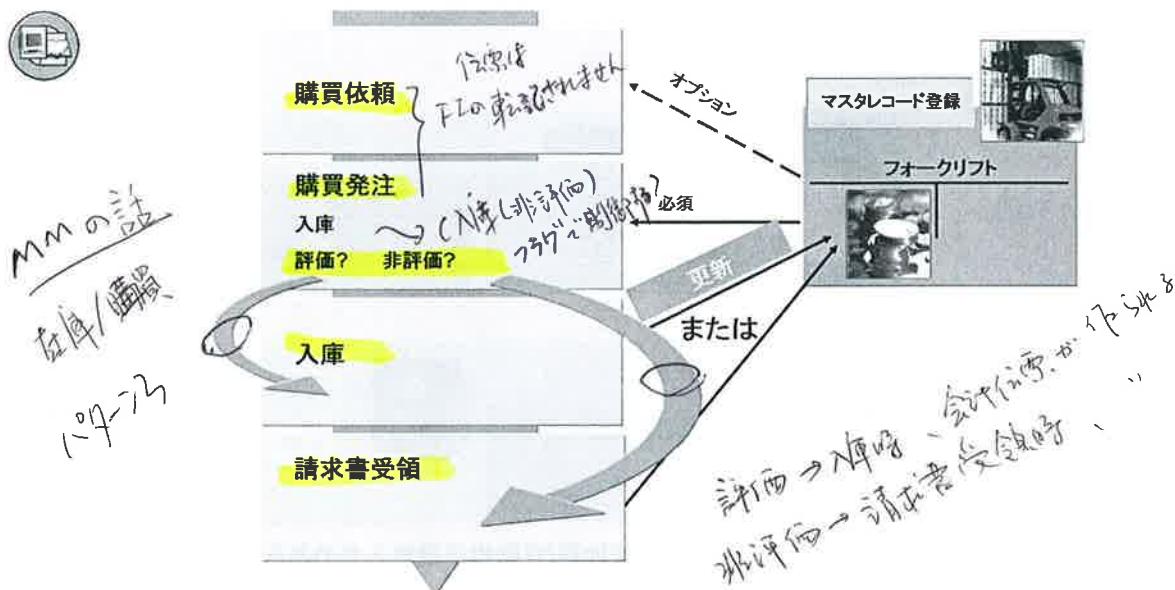
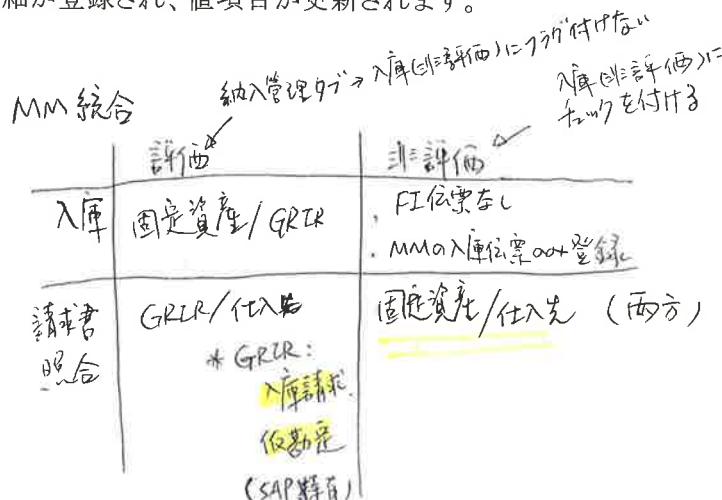


図 45: MM 統合による資産取得

図は、MM 統合による資産取得を示しています。この図は、購買依頼、購買発注、入庫、請求書受領、資産登録などのロジスティクスプロセス/アクティビティを示しています。

最初の処理ステップは、以下のように進めることができます。

- 購買依頼 (PReq) を登録します (オプション)。
- 必要に応じて、資産マスタレコードを登録します。
- 割当カテゴリ A (A は資産) を持つ購買発注を (PReq から) 登録します。購買発注では、明細詳細画面領域に資産マスタレコード番号を指定することができます。購買発注トランザクションで資産マスタを登録すると、さらに大規模な統合が実現します。
- 入庫: 購買発注を入力するときに、入庫が転記されると資産を固定資産管理に直接転記 (評価入庫) して資本化するか、請求書 (請求書受領) が転記されるまで資本化を行わないか (非評価入庫) を決定します。たとえば、請求書受領より前に評価入庫が行われます。請求書を後で受領した場合、請求書金額と入庫時に転記された金額との間に差異が生じことがあります。この場合は、資産に対して調整転記が行われます。非評価入庫の場合、資産が資本化されていないため修正は必要ありません。ただし、入庫の日付が資本化日付として使用されます。
- 請求書受領: 入庫が非評価である場合は、資産が資本化されます。明細が登録され、値項目が更新されます。



演習問題 5: 資産取得

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 固定資産管理/債務管理および在庫/購買管理でのさまざまな転記(統合および非統合)の実行
- 資産エクスプローラを使用した資産価額の照会と分析
- 取引の反対仕訳

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、統合および非統合資産取得を転記する際のさまざまなオプションをテストします。FI-AA ユーザ部門と債務管理部門の両方で資産取引を入力することができます。

タスク 1:

次のタスクを実行します。

1. 統合資産取得を転記できるように、会社コード AA## に仕入先 305## (## は、グループ番号) を登録します。

債務管理で“参照登録”機能を使用して仕入先を登録し、以下のデータを使用します。

仕入先: 305##

会社コード:AA##

勘定グループ: この項目には何も入力しないでください。

参照: 仕入先 1000 および会社コード 1000

エントリを確認し、第一画面で必須項目に値を入力します。エントリを保存します。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。



ヒント: マスタデータの章で登録した資産マスタレコードを使用します。

1. 最初のフォークリフトについて、今年度の 1 月 7 日付で仕入先 305## に取得を転記します。

割引の自動控除を使用する伝票タイプを選択します。

次へ

選択した購買価格には、(適用可能な売上税率または単純化したコース税率 10% [=> 税コード 11] で算出した) 消費税が含まれている必要があります。使用する税コードが不明な場合は、講師に質問してください。

保存後に表示されるデータを書き留めてください。

伝票番号: _____

2. 資産エクスプローラを使用して資産価額をチェックします。
3. 資産エクスプローラから転記済 FI 伝票にジャンプする方法を隣の受講者に説明して、転記先の(総勘定元帳の) 固定資産の貸借対照表勘定を記入します。_____
4. 資産エクスプローラで、償却領域 01(帳簿償却) の 儻却開始日を照会することはできますか。照会できる場合、償却開始日はいつですか。

5. 今年度のフォークリフトの計画償却価額は、償却領域 01(帳簿償却) と 儻却領域 20(計算) で同じですか。
6. 資産エクスプローラで、取得一覧と資産台帳における新しい取得の表示を確認します。
7. 資産エクスプローラから資産マスタレコードに移動し、変更をチェックします。

タスク 3:

以下のタスクを実行します。

1. 別の取得を転記します。ここでは、“自動相手勘定入力”を使用して、10 個のうちの最初の機械マスタレコード(機械 01)に取得価額(APC) 100,000 ユーロを転記します。
2. 資産価額をチェックします。
3. 資産マスタレコードの変更をチェックします。

タスク 4:

機械 02 から 05 のそれぞれに、外部資産取得(自動相手勘定入力)を以下のように転記します。

1. 機械 02 については、今年度の APC 100,000 ユーロを転記します。
2. 機械 03 と機械 04 については、前会計年度の 1 月 1 日付けで APC 100,000 ユーロを個別転記で転記します。
3. 機械 05 については、前会計年度の APC 100,000 ユーロと今年度の事後コスト 10,000 ユーロを転記します。

次へ

タスク 5:

以下のタスクを実行します。

- 前会計年度の取得を フォークリフト 2 に転記します。

タスク 6:

以下のタスクを実行します。

- 最初に資産マスタレコードを登録せずに、今年度の取得をクラス 3100 の(新しい)資産に転記します。つまり、取得転記時にマスタレコードを登録します。

タスク 7:

以下のタスクを実行します。

- PC Supralux Scenic 4000 グループ##について、以下の正味額が記載された請求書を受け取りました。

PC:	€ 1000
モニタ:	€ 500
キーボード:	€ 20

(資産番号と補助番号について)自動相手勘定入力ありの取得を最も簡単な方法で入力します。

- 次に、資産エクスプローラで本資産の価額を分析します。

タスク 8:

次のタスクを実行します。

- オプション:

資産機械 01 が誤った取得価額で意図せずに転記されました。伝票を反対仕訳し、正しい取得価額 **150,000** ユーロを転記してください。

タスク 9:

以下のタスクを実行します。

- 前の章の少額資産に関するオプションの演習問題を完了している場合にのみ、必要に応じて実行してください。

前会計年度の 7 月 1 日にオフィスキッチン用のコーヒー自動販売機、つまり少額資産に取得転記 **1,200** を実行してみてください。この転記は拒否されます。

次へ

2. 今度は転記を保持し、伝票日付を前会計年度 7月 1日、資本化価額を 800 ユーロとして試してください。
3. 資産エクスプローラで金額を確認します。
4. 今度は、今年度に同じ少額資産で別の追加取得を試してみます。たとえば、日付を本日日付、金額を 100 ユーロとします。転記を実行すると発行されるエラーメッセージに注意してください。償却キーについては、定期処理および減価償却の章で詳しく説明します。

タスク 10:

以下のタスクを実行します。

1. オプション: 特定の償却領域(グループ償却領域など)のみに金額が転記されるようにするには、どのようにすればよいですか。
2. 例として、取引タイプ 030 を参照してください。
3. 取引タイプ 030 を使用して、前の章で登録した PC 3 マスタレコードに転記を実行し、資産価額をチェックします。

タスク 11:

オプション: 資産取得に在庫/購買管理 (MM) 機能も使用することを予定している固定資産管理部門から、転記取引をテストするように依頼されました。



ヒント: 会社コード AA## には MM 統合が設定されていません。そのため、会社コード 1000 で転記をテストする必要があります。

以下のポイントでは、PC 取得の例を使用して、ロジスティクスプロセスチェーン 購買発注 - 入庫 - 請求書受領が順を追って処理されます。

1. 会社コード 1000 に資産(テキスト: PC 1000 グループ##)を登録します。資産クラス 3200(パーソナルコンピュータ)と原価センタ 1000 を使用します。

次へ

資産番号をメモしておきます。



ヒント: 会社コード 1000 の資産の償却領域が会社コード AA## の
償却領域とは異なる構造になっていいる可能性があることに注
意してください。これは、会社コード 1000 では別のグローバル
指向の償却表を使用しているためです。



ヒント: 購買発注トランザクションで(ロジスティクス従業員によって)
資産が登録されている場合、このステップは不要です。ただし、実
際にはこのようなケースはほとんどありません。ただし、この統合機
能を使用する場合は、“ダミー資産”を使用することができます。

2. PC の(標準) 購買発注を登録します。アプリケーションで、SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → 購買管理 → 購買発注 → 登録 → 仕入先/出庫プラント選定済を選択し、以下のデータを使用します。

仕入先: 1000 (C.E.B. BERLIN)

伝票日付: この項目は、現在日付のままにします

画面領域 ヘッダ/タブ/ページ組織データ:

購買組織: 1000 (IDES Germany)

購買グループ: 001 (Dietl, B.)

会社コード: 1000 (IDES AG)

画面領域 明細概要:

A (勘定割当タイプ): A

品目: 値を入力しない

テキスト(短): 購買発注 PC グループ##

購買発注数量: 1

OU = 発注単位: PC

納入日付: 現在日付 + 4 日間

正味価格: 2.000,-

品目グループ: 00103 (= 電子機器)

Plnt: 1000 (Hamburg プラント)

ここで Enter を選択すると、勘定割当タブのある明細画面領域が開
きます。

次へ

項目/列資産:この演習問題のステップ1で使用した資産マスタレコード番号を入力します。

画面領域: 明細 / 納入管理タブページ:

画面の右上で、**評価入庫**とするか**非評価入庫**とするかを決定することができます。評価入庫を入力するので、**変更しないでください**。

保存し、購買発注伝票番号を記入します: 45000

3. この資産について**資産エクスプローラ**を開始して、PC のデータをチェックします。
4. 買買発注伝票番号はすぐに表示されますか。
5. 資産のマスタデータに**資本化日付**が設定されていますか。
6. 次に、**ロジスティクス入庫**を転記し、ロジスティクスアプリケーションでトランザクション **MIGO** を選択します。これを行うには、SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → 在庫管理 → 入出庫登録 → 入庫 → 買買発注参照 → 買買発注番号選定を選択します。

以下の手順に従ってください。

画面上部の左から 3 番目の入力項目に購買発注番号を入力します。

ENTER を選択すると、入庫画面に購買発注のデータが入力されます。

まだ自動的には行われていない場合は、**詳細データ**を開き、最下部までスクロールし、**明細OK**を選択して **OK** 区分を設定します。エントリを確認します。

チェックを選択します。伝票が適切であれば、転記/保存することができます。

7. この資産について**資産エクスプローラ**を開始して、資産価額をもう一度チェックします。
8. ここで上記の購買発注の**請求書受領**を転記します。この請求書には月末の日付が設定され、以下の**(承認済)**金額が記載されています。

請求書金額(正味額): € 1,995

(売上) 税額(10%): € 199.50

請求書金額(総額): € 2,194.50

ここで、トランザクション **MIRO** を呼び出して、仕入先請求書のロジスティクス請求書受領を入力します。このためには、SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → ロジスティクス請求書照合 → 伝票入力 → 請求書登録を選択します。

請求書日付および転記日付として今月末の日付を入力します。金額項目は、最初は空のままとなります。

次へ

画面下部/テーブル下部を参照し、入力項目 購買発注/分納契約の右側に購買発注番号を入力します。

ENTER を押すと、関連する金額が購買発注から MIGO 画面にコピーされます。

画面に表示される正味発注額と前述の承認済正味発注額は一致していますか。

一致していない場合は、金額列で黄色の行の金額を正味請求書金額(1,995 ユーロ)に変更してください。エントリを確認します。

仕入先が請求書に正しい税を記載しているかどうかをチェックします。そのためにはまず、(画面の上部で) 正しい税コード(II)が設定されているかどうかをチェックします。次に、引き続き画面上部で 税額計算 チェックボックスを選択します。

この横(左側)に税額が表示されます。その額は前述の承認済売上税額と一致しますか。

税額が正しい場合は、請求書総額のみが不足した状態となります。請求書総額は右上に表示されます。赤信号の横に残高として表示されます。この金額は前述の請求書の金額と一致していますか。一致している場合、請求書チェックは完了です。

画面上部の入力項目 金額に請求書総額を入力します。

データを確認し、転記および保存します。

9. この資産について資産エクスプローラを開始して、資産価額をもう一度チェックします。

解答 5: 資産取得

タスク 1:

次のタスクを実行します。

- 統合資産取得を転記できるように、会社コード AA## に仕入先 305## (## は、グループ番号) を登録します。

債務管理で“参照登録”機能を使用して仕入先を登録し、以下のデータを使用します。

仕入先: 305##

会社コード: AA##

勘定グループ: この項目には何も入力しないでください。

参照: 仕入先 1000 および会社コード 1000

エントリを確認し、第一画面で必須項目に値を入力します。エントリを保存します。

- 債務アプリケーションメニューに移動し、SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → マスタレコード → 登録を選択します。

次に、説明に従って演習問題を進めてください。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。



ヒント: マスタデータの章で登録した資産マスタレコードを使用します。

- 最初のフォークリフトについて、今年度の1月7日付で仕入先 305## に取得を転記します。

割引の自動控除を使用する伝票タイプを選択します。

選択した購買価格には、(適用可能な売上税率または単純化したコース税率 10% [=> 税コード II] で算出した) 消費税が含まれている必要があります。使用する税コードが不明な場合は、講師に質問してください。

保存後に表示されるデータを書き留めてください。

次へ

伝票番号: _____

- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得
→仕入先取得を選択します。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
伝票日付	今年度の7月1日
伝票タイプ	KN(またはAN)
会社コード	AA##
転記日付	今年度の7月1日
転記キー	31
勘定	305##

エントリを確認し、続行します。

項目名/データ型	値
金額	例: 55,000 ユーロ
税額計算区分	選択
税コード	例: II
転記キー	70
勘定	フォークリフト1の資産マスタレコード番号
取引タイプ	100

エントリを確認し、続行します。

項目名/データ型	値
金額	* (または 55,000 ユーロ)

次に、メニュー>オプション>伝票→シミュレートを選択します。

保存します。

2. 資産エクスプローラを使用して資産価額をチェックします。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。

次へ

3. 資産エクスプローラから転記済 FI 伝票にジャンプする方法を隣の受講者に説明して、転記先の(総勘定元帳の) 固定資産の貸借対照表勘定を記入します。
 - a) 資産エクスプローラで、たとえば、表示されている取引をダブルクリックします。FI 伝票の資産番号の左側に、貸借対照表勘定が表示されます。

解答: 勘定 21000。
4. 資産エクスプローラで、償却領域 01(帳簿償却)の償却開始日を照会することはできますか。照会できる場合、償却開始日はいつですか。

- a) はい。資産エクスプローラのパラメータタブページを呼び出して照会することができます。

解答: 債却開始日は今年度 1 月 1 日です。

5. 今年度のフォークリフトの計画償却価額は、償却領域 01(帳簿償却)と償却領域 20(計算)で同じですか。
- a) 債却キーと耐用年数が異なるため、価額は同じではありません。これを照会するには、資産エクスプローラの比較タブページを呼び出し、2 つの領域を並べて照会します。
6. 資産エクスプローラで、取得一覧と資産台帳における新しい取得の表示を確認します。
- a) 資産エクスプローラを起動し、メニュー オプション ジャンプ → レポート呼出を選択します。
レポート選択ダイアログボックスで、資産取得一覧と資産台帳を選択します。
7. 資産エクスプローラから資産マスタレコードに移動し、変更をチェックします。
- a) 資産エクスプローラを起動して、ジャンプ → マスター データ 照会を選択します。
一般タブページの転記情報グループのデータ、元タブページの変更、および償却領域タブページの変更を確認します。

次へ

タスク 3:

以下のタスクを実行します。

1. 別の取得を転記します。ここでは、“自動相手勘定入力”を使用して、10個のうちの最初の機械マスタレコード(機械 01)に取得価額(APC)100,000ユーロを転記します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得→自動相殺仕訳のある取得を選択します。
△B20H
- 以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
既存の資産	機械 01 の資産マスタレコード番号
伝票日付	例: 本日の日付
転記日付	例: 本日の日付
転記金額	100,000

次に、補足→シミュレートを選択します。

転記/保存します。

2. 資産価額をチェックします。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。
3. 資産マスタレコードの変更をチェックします。
 - a) 資産エクスプローラを起動して、ジャンプ→マスタデータ照会を選択します。

タスク 4:

機械 02 から 05 のそれぞれに、外部資産取得(自動相手勘定入力)を以下のように転記します。

1. 機械 02 については、今年度の APC 100,000 ユーロを転記します。
 - a) 前のタスクの解答に従って、この取引を転記します。

次へ

2. 機械 03 と機械 04 については、前会計年度の 1 月 1 日付けで APC 100,000 ユーロを個別転記で転記します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。
- 次に、複数資産を選択し、以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
伝票日付、転記日付、資産評価日	01/01 前会計年度

資産一覧テーブルで、機械 03 と機械 04 の 2 つの資産番号とそれぞれの転記金額 100,000 ユーロを入力します。

シミュレートを選択します。

警告を確認します。

エントリを保存します。

3. 機械 05 については、前会計年度の APC 100,000 ユーロと今年度の事後コスト 10,000 ユーロを転記します。
- a) 固定資産管理で、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。まず、前会計年度の転記日付、伝票日付、および資産評価日で 100,000 ユーロを入力します。
- 次に、今年度の日付で、同じ資産への 10,000 ユーロの同じ取引の個別転記を実行します。

タスク 5:

以下のタスクを実行します。

1. 前会計年度の取得を フォークリフト 2 に転記します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。
- 前会計年度の転記日付、伝票日付、および起算日を選択します。
データをシミュレートしてから保存します。

次へ

タスク 6:

以下のタスクを実行します。

- 最初に資産マスタレコードを登録せずに、今年度の取得をクラス 3100 の新しい資産に転記します。つまり、取得転記時にマスタレコードを登録します。
a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得→自動相殺仕訳のある取得を選択します。
新規資産ラジオボタンを選択します。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
テキスト	例: Passat TDI
資産クラス	3100
原価センタ	例: T-F05A##
伝票日付	例: 本日の日付
転記日付	例: 本日の日付
記帳額	例: 30,000 ユーロ

次に、補足→シミュレートを選択します。

転記/保存します。

タスク 7:

以下のタスクを実行します。

- PC Supralux Scenic 4000 グループ##について、以下の正味額が記載された請求書を受け取りました。

PC:	€ 1000
モニタ:	€ 500
キーボード:	€ 20

次へ

(資産番号と補助番号について) 自動相手勘定入力ありの取得を最も簡単な方法で入力します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。

複数資産を選択します。

伝票日付、転記日付、および資産評価日として本日の日付を選択します。

画面上部にある入力項目資産に、PC *Siemens Scenic 400 グループ #* の番号を入力し、補助番号を選択します。

結果: 資産の資産番号とすべての補助番号が資産一覧テーブルに表示されます。

演習問題の指示に従って記帳額を入力します。

シミュレートを選択します。

転記/保存します。

2. 次に、資産エクスプローラで本資産の価額を分析します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

補助番号の入力項目で、補助番号 0 を * に置き換え、エントリを確認します。

タスク 8:

次のタスクを実行します。

1. オプション:

次へ

資産機械 01 が誤った取得価額で意図せずに転記されました。伝票を反対仕訳し、正しい取得価額 **150,000 ユーロ** を転記してください。

- 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 伝票の反対仕訳 → 他の資産伝票を選択します。

機械 01 の資産番号を選択し、エントリを確認します。

反対仕訳を選択します。

反対仕訳転記の詳細ダイアログボックスで、反対仕訳理由 *01* (当期の反対仕訳) を入力します。

エントリを確認します。

転記/保存します。

次に、演習問題の指示に従って、自動相殺仕訳のある取得を転記します。

タスク 9:

以下のタスクを実行します。

- 前の章の少額資産に関するオプションの演習問題を完了している場合にのみ、必要に応じて実行してください。

前会計年度の **7月1日** にオフィスキッチン用のコーヒー自動販売機、つまり少額資産に取得転記 **1,200** を実行してみてください。この転記は拒否されます。

- 前の演習問題の解答に従って統合または非統合資産取得を転記します。
- 今度は転記を保持し、伝票日付を前会計年度 **7月1日**、資本化価額を **800 ユーロ** として試してください。
 - この金額を転記します。
 - 資産エクスプローラで金額を確認します。
 - 前の演習問題の解答に従って資産エクスプローラを呼び出します。
 - 今度は、**今年度**に同じ少額資産で別の追加取得を試してみます。たとえば、日付を本日日付、金額を **100 ユーロ** とします。転記を実行すると発行されるエラーメッセージに注意してください。償却キーについては、定期処理および減価償却の章で詳しく説明します。
 - 前の演習問題の解答に従って、統合または非統合資産取得を転記します。取引の入力中に、ステータスラインにエラーメッセージが発行されます。そのエラーメッセージをダブルクリックします。

次へ

タスク 10: P99

以下のタスクを実行します。

1. オプション: 特定の償却領域(グループ償却領域など)のみに金額が転記されるようにするには、どのようにすればよいですか。

a) 解答: カスタマイジングで、特定の償却領域のみに転記するよう取引タイプを制限することができます。

2. 例として、取引タイプ 030 を参照してください。

a) 固定資産管理のカスタマイジングで、取引 → 取得 → 定義: 取得の取引タイプを選択します。

アクティビティ選択ダイアログボックスで、制限: 取引タイプ 債却領域を選択します。

必要に応じて、償却表 AA## を選択します。

テーブルで、取引タイプ 030 を選択します。ダイアログ構造で、償却領域詳細をダブルクリックします。

結果: 結果: 取引タイプ 030 では、償却領域 30 と 31 のみに転記されます。

3. 取引タイプ 030 を使用して、前の章で登録した PC 3 マスタレコードに転記を実行し、資産価額をチェックします。

a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → その他を選択します。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
固定資産	PC 3 のマスタレコード番号
取引タイプ	030

エントリを確認し、転記金額を入力します。

転記および保存します。

この資産について資産エクスプローラを開始します(トランザクション AW01)。償却領域 30 と 31 の資産価額を照会します。

次へ

タスク 11:

オプション: 資産取得に在庫/購買管理(MM)機能も使用することを予定している固定資産管理部門から、転記取引をテストするように依頼されました。



ヒント: 会社コード AA## には MM 統合が設定されていません。そのため、会社コード 1000 で転記をテストする必要があります。

以下のポイントでは、PC 取得の例を使用して、ロジスティクスプロセスチェーン 購買発注 - 入庫 - 請求書受領が順を追って処理されます。

1. 会社コード 1000 に資産(テキスト: PC 1000 グループ##)を登録します。資産クラス 3200(パーソナルコンピュータ)と原価センタ 1000 を使用します。

次へ

資産番号をメモしておきます。 3413



ヒント: 会社コード 1000 の資産の償却領域が会社コード A4## の
償却領域とは異なる構造になっていいる可能性があることに注
意してください。これは、会社コード 1000 では別のグローバル
指向の償却表を使用しているためです。



ヒント: 購買発注トランザクションで(ロジスティクス従業員によって)
資産が登録されている場合、このステップは不要です。ただし、実
際にはこのようなケースはほとんどありません。ただし、この統合機
能を使用する場合は、“ダミー資産”を使用することができます。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、**資産 → 登録 → 資産**を選択し
ます。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
資産クラス	3200
会社コード	1000

データを確認し、続行します。

項目名/データ型	値
テキスト	PC 1000 グループ ##
原価センタ	1000

すべてのマスタデータを入力したら、エントリを保存します。

2. PC の(標準) 購買発注を登録します。アプリケーションで、**SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → 購買管理 → 購買発注 → 登録 → 仕入先/出庫プラント選定簿**を選択し、以下のデータを使用します。

仕入先: 1000 (C.E.B. BERLIN)

伝票日付: この項目は、現在日付のままにします

画面領域ヘッダ/タブページ組織データ:

購買組織: 1000 (IDES Germany)

購買グループ: 001 (Dietl, B.)

会社コード: 1000 (IDES AG)

次へ

画面領域 明細概要:

A (勘定割当タイプ): A

品目: 値を入力しない

テキスト(短): 購買発注 PC グループ##

購買発注数量: 1

OUn = 発注単位: PC

納入日付: 現在日付 + 4 日間

正味価格: 2.000,-

品目グループ: 00103 (= 電子機器)

Plnt: 1000 (Hamburg プラント)

ここで Enter を選択すると、勘定割当タブのある明細画面領域が開きます。

項目/列資産: この演習問題のステップ 1 で使用した資産マスタレコード番号を入力します。

画面領域: 明細 / 納入管理タブページ:

画面の右上で、評価入庫とするか非評価入庫とするかを決定することができます。評価入庫を入力するので、変更しないでください。

保存し、購買発注伝票番号を記入します: 45000 17120

a)

3. この資産について資産エクスプローラを開始して、PC のデータをチェックします。
 - a) 固定資産管理で、資産 → 資産エクスプローラを選択します。
4. 購買発注伝票番号はすぐに表示されますか。
 - a) いいえ。すぐには表示されませんが、この資産について購買発注が登録されていることが画面領域資産関連対象でわかります。
表示されている購買発注日付をダブルクリックします。購買発注伝票番号が表示された購買発注画面が開きます。
5. 資産のマスタデータに資本化日付が設定されていますか。
 - a) いいえ。購買発注伝票が登録されただけで、“金額”は転記されていません。ただし、購買発注日付は表示されます。

次へ

6. 次に、ロジスティクス入庫を転記し、ロジスティクスアプリケーションでトランザクション *MIGO* を選択します。これを行うには、SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → 在庫管理 → 入出庫登録 → 入庫 → 購買発注参照 → 購買発注番号選定を選択します。

以下の手順に従ってください。

画面上部の左から 3 番目の入力項目に購買発注番号を入力します。

ENTER を選択すると、入庫画面に購買発注のデータが入力されます。

まだ自動的には行われていない場合は、詳細データを開き、最下部までスクロールし、明細 *OK* を選択して *OK* 区分を設定します。エントリを確認します。

チェックを選択します。伝票が適切であれば、転記/保存することができます。

a)

7. この資産について資産エクスプローラを開始して、資産価額をもう一度チェックします。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

8. ここで上記の購買発注の請求書受領を転記します。この請求書には月末の日付が設定され、以下の(承認済)金額が記載されています。

請求書金額(正味額): € 1,995

(売上) 税額(10%): € 199.50

請求書金額(総額): € 2,194.50

ここで、トランザクション *MIRO* を呼び出して、仕入先請求書のロジスティクス請求書受領を入力します。このためには、SAP メニュー → ロジスティクス → 在庫/購買管理 → ロジスティクス請求書照合 → 伝票入力 → 請求書登録を選択します。

請求書日付および転記日付として今月末の日付を入力します。金額項目は、最初は空のままとなります。

画面下部/テーブル下部を参照し、入力項目 購買発注/分納契約の右側に購買発注番号を入力します。

ENTER を押すと、関連する金額が購買発注から *MIGO* 画面にコピーされます。

画面に表示される正味発注額と前述の承認済正味発注額は一致していますか。

一致していない場合は、金額列で黄色の行の金額を正味請求書金額(1,995 ユーロ)に変更してください。エントリを確認します。

次へ

仕入先が請求書に正しい税を記載しているかどうかをチェックします。そのためにはまず、(画面の上部で) 正しい税コード(ID)が設定されているかどうかをチェックします。次に、引き続き画面上部で 税額計算 チェックボックスを選択します。

この横(左側)に税額が表示されます。その額は前述の承認済売上税額と一致しますか。

税額が正しい場合は、請求書総額のみが不足した状態となります。請求書総額は右上に表示されます。赤信号の横に残高として表示されます。この金額は前述の請求書の金額と一致していますか。一致している場合、請求書チェックは完了です。

画面上部の入力項目 金額 に請求書総額を入力します。

データを確認し、転記および保存します。

a)

9. この資産について 資産エクスプローラ を開始して、資産価額をもう一度チェックします。

a) 固定資産管理で、資産 → 資産エクスプローラ を選択します。資産の資本化価額を 5 ユーロ削減する別の取引が表示されます。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … システムでの統合および非統合の資産取得の登録/転記
- … 資産エクスプローラによるシステムでの資産取得の分析
- … FI 伝票についての理解

12月4日	得 売 4,400	固定資産売却收入 4,000	右記3つは 元に内力ガ
	減価償却累計額 700	固定資産 6,000	需要付
	固定資産收入追加 4,000	消費税 400	
	固定資産売却損 1,300		

レッスン：資産除却（賣却／舍む）

レッスンの概要

このレッスンでは、統合資産除却(債権管理との統合)および非統合資産除却について説明します。

* 資產除即期回勘定(固定資產收入次清)

資産除却収入(固定資産売却収入)の相手基づき

日本の子、国連資本輸入と、
国連資本輸入没有と同じ
英語では「在留資本」
(或高付 012-123)

レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ・ ... システムでの統合および非統合資産除却の入力

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、統合および非統合資産除却を転記する際に、個別処理か一括処理かに関係なく、さまざまなオプションが表示されることを希望しています。

 <p>- 取得日付: YYYY-1年1月1日 // 取得価額、正味額: 6,000 ユーロ//耐用年数: 10年 - YYYY年3月1日付けで完全除却 - 純売上/売却価格: € 4,000 (+ 10% 消費税)</p>	 						
<p>転記:</p> <p>伝票日付 YYYY年3月1日 転記日付 YYYY年3月1日 転記キー 01勘定: 得意先</p>							
<p>得意先明細</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">金額</td> <td style="width: 70%;">4400</td> </tr> <tr> <td>税計算</td> <td>税コード 10%</td> </tr> <tr> <td>PK 50</td> <td>勘定: 資産売却益</td> </tr> </table>		金額	4400	税計算	税コード 10%	PK 50	勘定: 資産売却益
金額	4400						
税計算	税コード 10%						
PK 50	勘定: 資産売却益						
<p>収益明細</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">金額</td> <td style="width: 70%;">*</td> </tr> <tr> <td>税コード</td> <td></td> </tr> </table>		金額	*	税コード			
金額	*						
税コード							
<p>固定資産除却</p>							
<p>資産: 30XX 補助番号: 0 取引タイプ: 210 資産評価日: YYYY年3月1日 金額: -- 割合: 100%/完全除却</p>							

図 46: 統合資産除却の重要なパラメータ

資産売上勘定から収益に転記するときに、資産除却チェックマークを選択します。

ダイアログボックスが表示されます。提案されない場合は、以下のデータを入力します。

- 資産番号
- 除却取引タイプ
- 資産評価日(除却の日付)
- 除却対象の資産の一部や、完全除却を表す区分など。

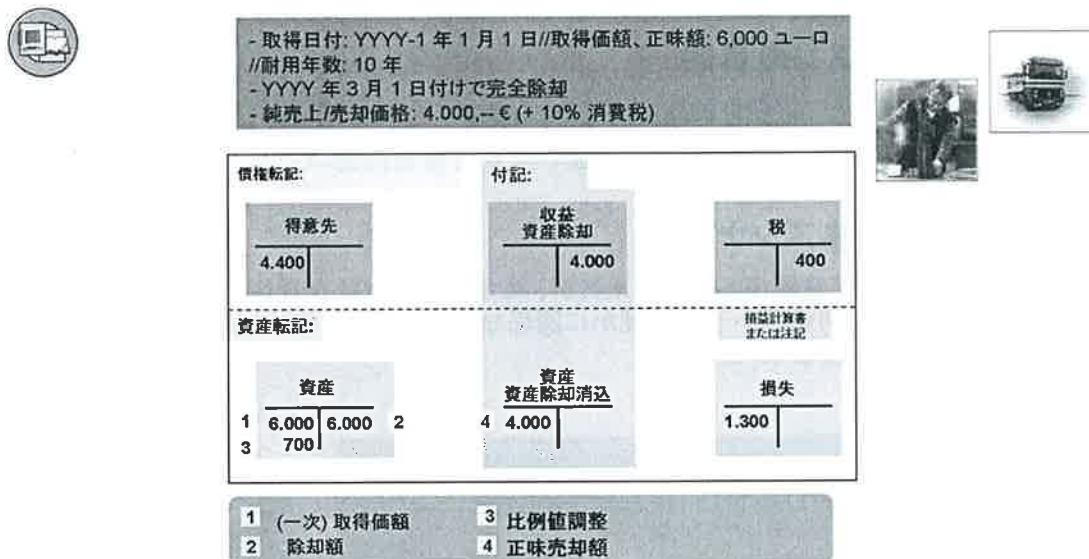


図 47: 資産除却: T 勘定モデル

上記の例は、収益のある完全除却を示しています。損益(この例では 1,300 ユーロの損失)が自動的に計算されています。さらに、資産価額と比例値調整(減価償却累計額)も算出されています。

除却の転記にはさまざまな方法があります。

- 収益および得意先のある除却(統合資産除却)
- 収益はあるが得意先はない除却(非統合)
- 収益のない除却(廃棄による資産除却)
- 最初の 3 つの除却は、それぞれ完全除却または部分除却として入力することができます。
- 一括資産除却(ワーリスト使用)
- 複数資産の除却(除却取引マニュアル転記内)

資産売却益と資産除却消込の勘定の金額は、貸借対照表の注記として表示します。

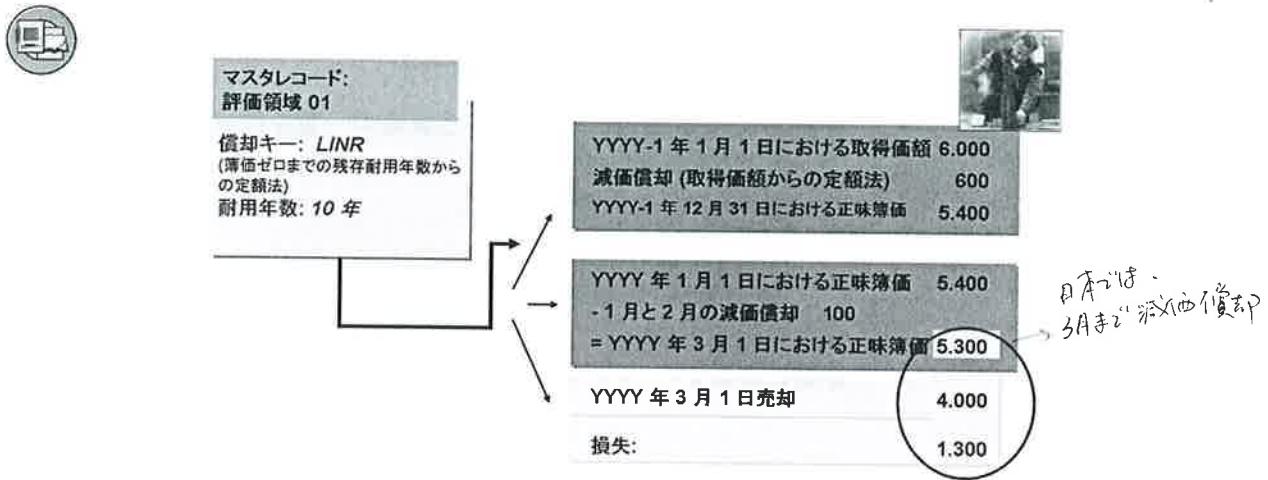


図 48: 資産除却: 損益の計算

資産除却の期間は、資産除却の資産評価日(資産除却日付)にもとづいて決定されます。期間管理方法(償却キーの期間管理キー)を使用すると、資産に(許可されている) 傷却転記の期間が自動的に計算されます。

償却キー

除却資産部分に適用されるその期間までの比例値調整(減価償却)が自動的に算出され、その減価償却が取り消されます。

同時に、資産除却が転記されます。

損益は、除却した資産の金額、比例値調整の金額、および資産に対して受け取った収益(売却価格)の残高となります。

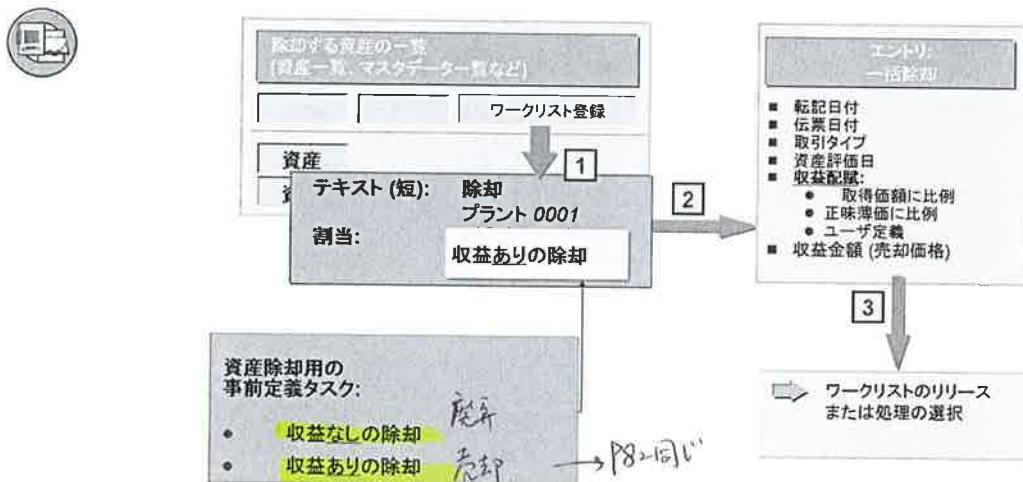


図 49: 一括除却(ワークリスト使用)

一括除却(廃棄/売却)は、システムで標準タスクとして定義されています。

一括除却を実行する手順は次のとおりです。

1. 資産レポートを使用して、除却する資産の一覧を作成します。
2. ワークリストを登録します。
3. ワークリストの目的を選択します。
 - 除却(廃棄)
 - 除却売却(収益あり)
4. 収益の配賦方法を入力します。
5. 必要に応じてワードリストを編集してからリリースします。

演習問題 6: 資産除却

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... 固定資産管理/債権管理でのさまざまな除却転記(統合および非統合)の実行
- ... 資産エクスプローラを使用した資産価額の照会と分析

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、資産除却を転記する際のさまざまなオプションについて学習し、テストしたいと考えています。

タスク 1:

機械 03 を今年度の 7 月 1 日に(完全に) 売却します。

1. まず、統合資産除却を転記できるように、会社コード AA## に得意先 305## (##=グループ番号) を登録します。債権管理で 参照登録機能を使用して得意先を登録し、以下のデータを使用します。

勘定グループ: そのまま(選択)

得意先: 305## 305##

会社コード: AA##

参照: 得意先 1000 および会社コード 1000

独自の判断にもとづいて、第一画面の必須項目にデータを入力し(たとえば、輸送区域として 0000000001 [北部地域] を選択できます)、エントリを保存します。

2. ここで、機械 03 の統合完全除却を転記します(資産評価日: 今年度の 7 月 1 日)。10,000 ユーロ(正味額)の売却価格/売却額を受け取ります。

選択した仮受消費税キーを使用して、自分で総売却価格を計算します。



注記: 作業を簡略化するために、仮受消費税を 10% にすると、トレーニングシステムでは税キー 10 (ワンゼロではなくワンオー) を使用することができます。



ヒント: ヒント: 使用する勘定コード表では、資産除却による売却額勘定のコードは 820000 です。

3. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産エクスプローラの資産価額をチェックします。

次へ

4. 資産台帳には、売却資産の金額がどのように表示されていますか。

タスク 2:

オプション:以下のタスクを実行します。

1. もう1つの資産(機械04)の一部(60%)を売却する必要があります。今年度に(統合)除却を転記し、任意の収益/売却価格を入力します。
2. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産エクスプローラの資産価額をチェックします。

タスク 3:

製造部門が、PC 02 を廃棄したいと考えています。

1. まず、前会計年度においてこの資産に資産取得を転記します。
2. 次に、現会計年度において資産除却(廃棄)を転記します。
3. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産価額をチェックします。資産は無効化されていますか。

解答 6：資産除却

タスク 1：

機械 03 を今年度の 7 月 1 日に(完全に) 売却します。

- まず、統合資産除却を転記できるように、会社コード AA## に得意先 305## (##=グループ番号) を登録します。債権管理で **参照登録** 機能を使用して得意先を登録し、以下のデータを使用します。

勘定グループ: そのまま (選択)

得意先: 305## 305##

会社コード: AA##

参照: 得意先 1000 および会社コード 1000

独自の判断にもとづいて、第一画面の**必須項目**にデータを入力し(たとえば、**輸送区域**として 0000000001 [北部地域] を選択できます)、エントリを保存します。

- アプリケーションで、SAP Easy Access → 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → マスタレコード → 登録を選択します。

次に、演習問題の記述に従って進み、債権管理アプリケーションメニューを終了します。

- ここで、**機械 03 の統合完全除却**を転記します(資産評価日: 今年度の 7 月 1 日)。10,000 ユーロ(正味額)の売却価格/売却額を受け取ります。選択した仮受消費税キーを使用して、自分で**総売却価格**を計算します。

→ **注記:** 作業を簡略化するために、仮受消費税を 10% にすると、トレーニングシステムでは税キー 10 (ワンゼロではなくワンオー) を使用することができます。

 **ヒント:** ヒント: 使用する勘定コード表では、**資産除却による売却額勘定**のコードは 820000 です。

- 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 除却 → 売却額のある除却 → 得意先売却を選択します。
以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
伝票日付	今年度の 7 月 1 日
転記日付	今年度の 7 月 1 日

次へ

項目名/データ型	値
期間	7
転記キー	01
勘定	305## (新規得意先)

エントリを確認し、警告が表示されても *Enter* を押してスキップし、続行します。

金額 (購入価格、総額)	例: 11,000 ユーロ (売上税 10% を含む)
税額計算	設定
税コード	例: 10
転記キー	50
勘定	820000

エントリを確認し、続行します。

金額	*
資産除却チェックボックス/チェックマーク	設定

Enter を押してエントリを確認します。

除却資産登録ダイアログボックスで、以下のデータを入力します。

固定資産	機械 03 の資産番号
取引タイプ	210
資産評価日	今年度の 7 月 1 日
完全除却チェックボックス/チェックマーク	設定

エントリを確認します。

転記/保存の前に、メニューバーの伝票→シミュレートを選択します。

システムが生成した値をチェックし、正しい値であれば転記および保存します。

次へ

3. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産エクスプローラの資産価額をチェックします。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。
4. 資産台帳には、売却資産の金額がどのように表示されていますか。
 - a) 資産エクスプローラで、メニュー オプション ジャンプ → レポート呼出を選択します。
レポート選択ダイアログボックスで、資産台帳レポートをダブルクリックして選択します。

タスク 2:

オプション:以下のタスクを実行します。

1. もう1つの資産(機械04)の一部(60%)を売却する必要があります。今年度に(統合)除却を転記し、任意の収益/売却価格を入力します。
 - a) 前のタスクで実行した手順を繰り返します。ただし、除却資産登録ダイアログボックスで完全除却を入力しないでください。代わりに、60%の部分除却を入力します。
2. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産エクスプローラの資産価額をチェックします。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

演習問題に記載された手順を実行します。

次へ

タスク 3:

製造部門が、**PC 02** を廃棄したいと考えています。

1. まず、前会計年度においてこの資産に**資産取得**を転記します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。

F4 ヘルプを使用して **PC 02** 資産を検索します。



ヒント: F4 ヘルプを使用しても **PC 02** が見つからない場合は、最後に編集した 10 個の資産のみが表示されている可能性があることに注意してください。この場合、すべての値押ボタンを使用すると、すべてのマスタレコードを表示することができます。

前会計年度の転記日付と伝票日付を選択し、任意の取得価額を入力します。

エントリを保存します。

2. 次に、現会計年度において**資産除却(廃棄)**を転記します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、転記 → 除却 → 廃棄を選択します。

PC 02 の伝票日付、転記日付、および資産評価日として本日日付を入力します。

転記および保存します。
3. 転記伝票、資産マスタレコードの変更、および資産価額をチェックします。資産は無効化されていますか。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

演習問題に記載された手順を実行します。

PC 02 のマスタレコードで除却日が設定されていることがわかります。

↓

無効化日付



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … システムでの統合および非統合資産除却の入力

レッスン: 資産振替 (会社間/関連会社間)

レッスンの概要

会社間 (1 つの会社コード内の取引) 資産振替および関連会社間資産振替



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... SAP システムでの資産振替 (会社間/関連会社間) の照会

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、資産振替 (会社間/関連会社間) を転記するためのさまざまな方法を学習したいと考えています。

特に、間違った資産クラスを選択したために発生する会社コード内での振替というトピックに關があります。企業内での資産振替と企業の境界を越えた資産振替のマッピングには、異なるバリアントを使用します。

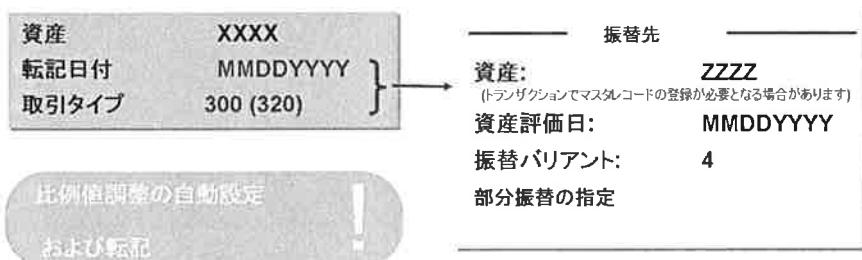


図 50: 資産振替 (会社内)

固定資産管理では、状況に応じて振替の種類を区別します。

- 1つの会社コード内の取引（会社間振替）
- 異なる会社コード間の取引（関連会社間振替） → 前述：同じクライアント

会社コード内振替の理由には、次のようなものがあります。

- マスタレコードが（前会計年度において）誤った資産クラスで登録され、転記されている。
- 資産を分割するか、または資産の一部を移転したい。そのため、資産の一部を新しい資産に振り替える必要がある。
- 建設仮勘定を決済して、最終資産に振り替えたい。



ヒント：振替を使用すると確かに建設仮勘定決済プロセスをマッピングすることができますが、SAP 標準システムには、建設仮勘定を分割および決済するための非常に便利なソリューションが備えられています。詳細については、この章の後半にある建設仮勘定のレッスンを参照してください。

デフォルトでは資産振替（会社間）に振替バリアント4が使用されます。振替バリアントの機能の1つは、振替を元資産および受取資産に記録する取引タイプを設定することです。すべての振替バリアントを参照するには、固定資産管理のカスタマイジングで取引→資産振替（関連会社間）→自動資産振替（関連会社間）→定義：振替バリアントを選択します。

リリース4.6以降では、資産振替（関連会社間）取引時に簡単に“新しい資産”を登録することができます。その場合、項目転送を使用すると、呼出時にどのエントリ項目を元資産から受取資産に振り替えるかを設定することができます。

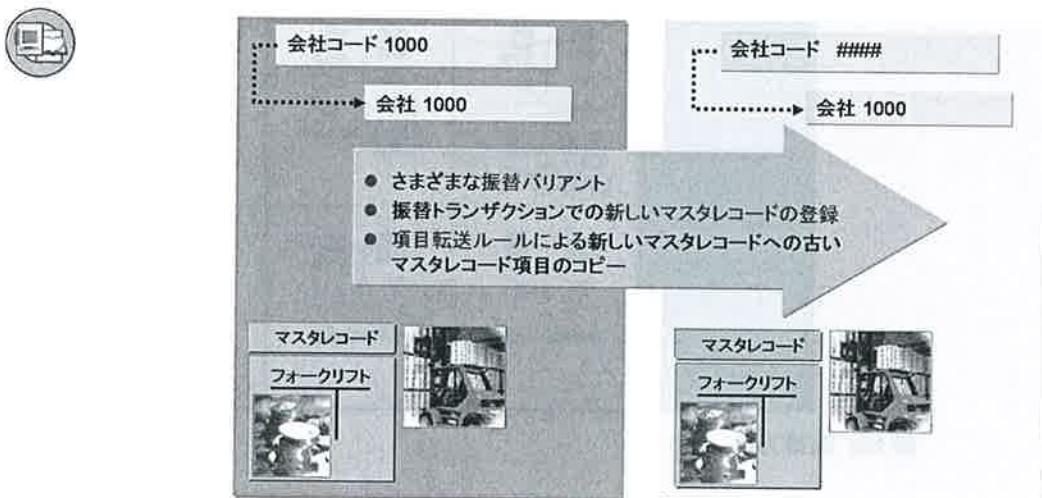


図 51：自動資産振替（会社間）

振替機能は、以下の場合に使用することができます。

- 資産を別の会社コードに売却し、所属情報(会社コードなど)を変更した。

振替では以下の区別が行われます。

- … (会社内の) 法的単位内の振替であるかどうか。両方の会社コードが同じ会社に属する場合、SAPでは関係タイプ 02 の振替をします。この場合、どちらの会社コードも“法的に独立していない”と見なされます。
- … それぞれ異なる会社に割り当てられている法的に独立した組織ユニット(会社コード)間で行われる振替であるかどうか。これらの会社コードは会社によって互いにリンクされることはないものの、単一の企業グループ(クライアントによるマッピング、つまりグループ)に属しています。この配置は関係タイプを使用して再定義することも可能であり、関係タイプ 01 の振替となります。

関係タイプは、会社コードの会社 ID を使用して自動的に決まります。この割当を再確認するには、固定資産管理のカスタマイジングで取引 → 資産振替(関連会社間) → 自動資産振替(関連会社間) → 定義: 振替バリアント → 確認: 会社コードの会社 ID を選択します。

この初期ルールの例外は、カスタマ固有のプログラム Exit で定義することができます。

会社の定義: 関連する商法に従って個別財務諸表を必要とする最も小さい組織。つまり、法的に独立した単位が会社であると言うことができます。



	総額法	正味額法	新評価方法												
元の会社コードでの元の金額	<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>30</td> </tr> </table> 売却益なし 消込勘定または残高による損失の勘定を使用した消込	取得 価額	減価 償却 累計額	100	30	<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>30</td> </tr> </table> 売却額 = 正味簿額 残価の統制勘定を使用した消込	取得 価額	減価 償却 累計額	100	30	<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>30</td> </tr> </table> 収益: 50 ユーロ 除去消込勘定および収益勘定による消込	取得 価額	減価 償却 累計額	100	30
取得 価額	減価 償却 累計額														
100	30														
取得 価額	減価 償却 累計額														
100	30														
取得 価額	減価 償却 累計額														
100	30														
目標会社コードでの新規金額	<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>30</td> </tr> </table> 統制勘定への転記	取得 価額	減価 償却 累計額	100	30	<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>70</td> <td></td> </tr> </table> (統制勘定への転記)	取得 価額	減価 償却 累計額	70		<table border="1"> <tr> <th>取得 価額</th> <th>減価 償却 累計額</th> </tr> <tr> <td>50</td> <td></td> </tr> </table> 統制勘定への転記	取得 価額	減価 償却 累計額	50	
取得 価額	減価 償却 累計額														
100	30														
取得 価額	減価 償却 累計額														
70															
取得 価額	減価 償却 累計額														
50															

図 52: 振替方法

SAP R/3 4.0 以降では、自動関連会社間振替を使用して振替の取得部分と除却部分をワンステップで入力することができます。

企業の階層組織構造によっては、組み合わせられたこの取引を会社間振替取引タイプとして転記することができます。

振替方法は、元の会社コードから目標会社コードに金額を振り替える方法を制御するために使用します。

総額振替方法を選択した場合、売却額を資産に追加することはほとんどありません。ほとんどの場合、会社内振替の取引タイプは総額振替方法とともに使用されます。この方法では、資産の“履歴”金額が目標会社コードに振り替えられます。

正味額法または新評価方法を使用する場合は、売却額を入力する必要があります。

資産除却で収益も損失もない場合、売却額は資産の正味簿価と一致します。

正味額法を使用すると、(元の会社コードの) 正味簿価が受取資産として資本化されます。

新評価方法を使用すると、売却額が受取資産として資本化されます。

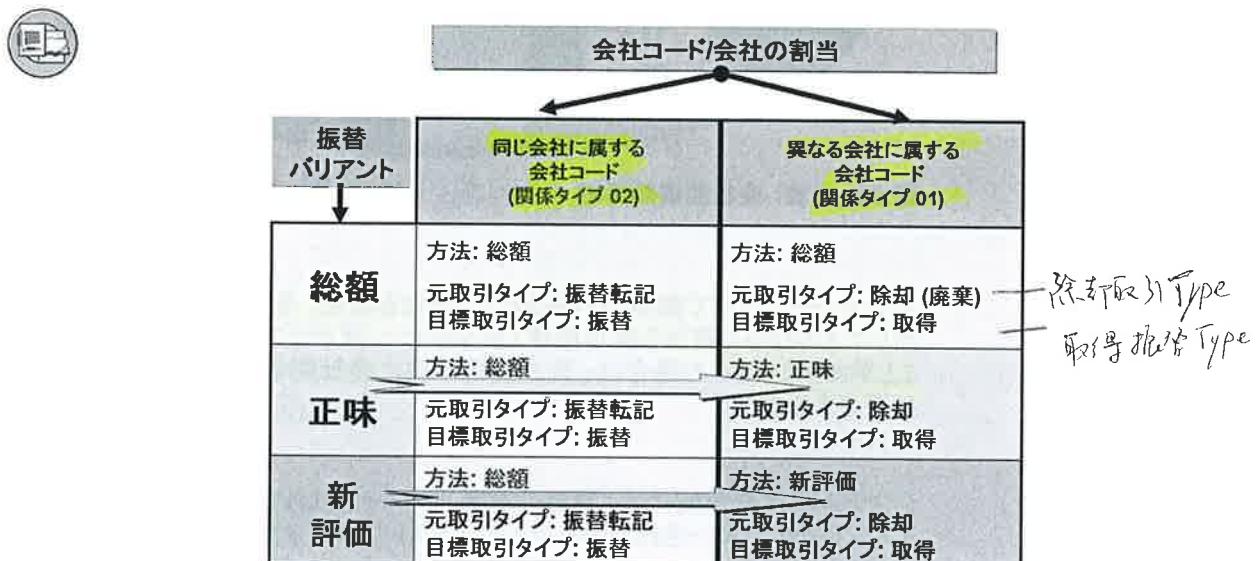


図 53: 振替バリエントの標準設定

→ 関係タイプ毎に 設定する

SAP 振替バリアント(取引タイプと振替方法の組合せ)の標準設定によって、振替の 80% が処理されます。



ヒント: これらの標準設定および資産振替に関するその他のさまざまな情報については、SAP ノート 327088 を参照してください。

標準 SAP では、関連タイプ 02(1 つの会社(番号)で 2 つの会社コードを持つ)の振替は、常に 1 つの法的単位(ある企業グループに属する会社)内の振替であり、そのため常に振替(会社間振替取引タイプで、かつ総額法を使用)で表されるということを前提としています。個々の会社コードは独立した法的実体ではないため、外部目的の貸借対照表は作成されません。

ここに自社の構造が反映されない場合は、(同じ取引タイプか、またはユーザ定義取引タイプで)独自の振替バリアントを定義する必要があります。

社内全体の一括振替を入力する必要がある場合は、最初に SAP ノート 379944 を参照してください。

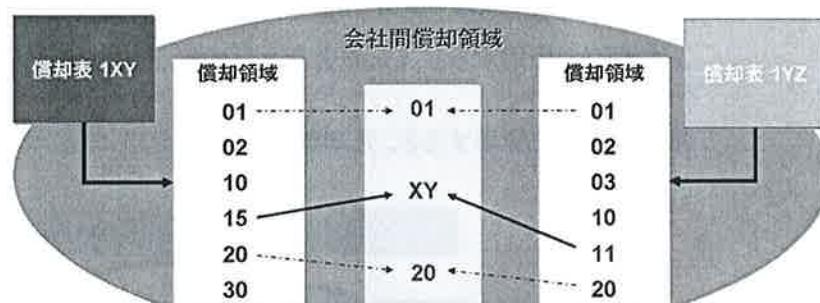


図 54: 振替: 会社間償却領域 (システム間償却領域)

会社コードによって割当先の償却表が異なる場合、各償却表には役割が同じでありながら異なる償却領域(異なるキー/異なる領域 ID)が存在することがあります。この場合は、資産振替の前に会社間償却領域を定義する必要があります。(次回開)

システム間償却領域には、独自の制御パラメータはありません。代わりに、クライアント全体で統一されているキーとテキストで構成されます。

対応する会社間償却領域をまだ定義していない場合は、会社間償却領域の総称入力としてアスタリスク(*)が入力されます。

ただし、システム間償却領域を使用するかどうかは慎重に決定してください。使用する場合は、償却領域キーが同じでも、振り替えられる他の償却領域すべてについてシステム間償却領域を定義する必要があります。

演習問題 7：資産振替（会社間/関連会社間）

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... (異なる資産クラス間の) 資産振替の実行
- ... 会社内および法的に独立した会社間の資産振替

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、資産振替（会社間/関連会社間）を入力する際のさまざまなオプションを学習したいと考えています。

誤った資産クラスを選択したことによる会社コード内の資産振替に特に関心があります。

タスク 1:

次のタスクを実行します。

1. 以下の点を再度確認してください。社用車（車両 3000 グループ ##）の資産マスタレコードを登録したときに、誤って正しくない資産クラスに登録しました（マスタデータの章の演習問題）。

前会計年度の 1 月にこのマスタレコードに 60,000 ユーロ（正味額）を転記します。

ところで、60,000 ユーロの社用車というのは実にすてきなものですね。

タスク 2:

誤りがあることに気付いたため、問題の資産を正しい資産クラス（=> 資産クラス 3100）の（新しい）資産マスタレコードに振り替える必要があります。

1. このため、会社コード AA## の資産クラス車両（クラス 3100）に、テキストを車両 3100 グループ ## として（新規）マスタレコードを登録し、資産番号をメモします。

資産番号: _____



ヒント: リリース 4.6 以降では、振替取引内にマスタレコードを新規登録することができます。項目転送ルールを呼び出して、旧マスタレコードのデータを新規マスタレコードの項目にコピーすることもできるため、時間を節約することができます。振替取引タイプを使用して、償却開始日を新規マスタレコードにコピーする方法を制御します。

次へ

2. 車両 3000 グループ## 資産の(全部)振替を新規マスタレコード(車両 3100 グループ##)に転記します。

転記日付および伝票日付として現在日付を入力します。



注意: ただし、今年度全体の正しい減価償却が計算されることが必要です。そのため、資産評価日を今年度の1月1日に設定する必要があります。

3. 両方の資産の資産価額を照会します。また、転記日付および資産評価日をチェックします。新しい資産では、元データおよび耐用年数をチェックします。

タスク 3:

1 つの会社に属する会社コード間の取引

1. **条件:** 異なる会社コードを使用してマッピングされている複数の小規模なユニット/支店が企業グループにあるとします。ただし、これらは同じ会社(会社 1000)に属するものとして(カスタマイジングで)定義されています。

社用車車両 3100 グループ##(前のタスクから正しい資産クラスに登録されている資産)の運転手が、今年度の12月23日に講師の会社コード(支店またはオフィス)に異動になります。異動先の会社コードは一般に AA00 であり、運転手と一緒に社用車も移動します。



注記: 講師が会社コード AA00 を使用していない場合、以下の演習問題では別の目標会社コードおよび目標原価センタを適宜使用する必要があります。

そのため、会社コード AA## から新しいオフィス(会社コード AA00)に資産を振り替える必要があります。



注意: 総額バリアントを使用して振替を実行します。その際、原価センタ T-F05E00 を指定して、新しい会社コード AA00 に新しい資産マスタレコードを登録します。

以下のデータを使用します。

次へ

資産評価日、伝票日付、転記日付:	今年度の 12 月 23 日
収益詳細:	収益なし
振替バリアント (追加詳細タブページ):	1
会社コード AA00 の振替取引に登録する資産のテキスト:	車両会社コード AA00/グループ ##
会社コード AA00 の新しい資産の原価センタ:	T-F05E00



ヒント: 標準 SAP システムでは、関係タイプ 2 の振替 (会社内振替) の場合には収益は転記されないものと想定されています。そうでない場合に別のモデルを実装するには、ユーザ Exit を使用することができます。

- もう一度、資産エクスプローラを呼び出して会社コード AA## から振り替えた資産 (資産車両 3100 グループ##) を照会します。



注意: 資産エクスプローラには常に、最後に編集した資産が表示されます。これは、会社コード AA00 の資産です。会社コード AA## に戻してください。

どの取引タイプが使用されましたか。

- ここで、振替の FI 伝票を照会します。
- “振替の両方のページ”、つまり振替に関わる両方の会社コードからの伝票を表示するために、ここで会社間 (伝票) 番号を呼び出すことができます。

タスク 4:

オプション: (企業の境界を越えた) 法的に独立した会社間の振替を実行します。

- 会社コード AA## の社用車の別の運転手が会社コード AA31 (会社 AC305) に転勤になり、車両とともに異動します。
まず、前会計年度の 1 月 1 日付で未転記の社用車のいざれかに金額 50,000 ユーロの取得を転記します。
- 次に、会社コード AA## での 2 年間の使用後、今年度の 12 月 31 日付で会社コード AA31 に資産を振り替えます。

次へ

どちらの会社コードも法的に独立しているので、**売却価格**も合意されます。新しい会社コード **AA31** に資産の正味簿価が入力されます。これは、3 年間で減価償却されます。

以下のデータを使用して振替を実行します。

起算日、伝票日付、転記日付: 今年度の 12 月 31 日

収益詳細: 領域 01 の正味簿価

振替先会社コード: AA31

振替バリアント: 7

新規資産(トランザクションで登録): はい

会社コード **AA31** の原価センタ: T-F05A31



ヒント: 振替バリアント 7 は、SAP が提供する標準振替バリアントの 1 つでもあります。これは事実上振替バリアント 2 を“総額振替”にしたものですが、会計年度中の振替であっても、振替元と振替先で減価償却が正しく計算されます。これは振替バリアント 2 では自動的に行われません。

3. 資産エクスプローラに両方の資産の金額を照会し、取引および両方の FI 伝票を分析します。
4. 次に、会社間番号照会のレイアウトを使用して、資産取引タイプ項目および取引/会社項目を表示します。

解答 7：資産振替（会社間/関連会社間）

タスク 1：

次のタスクを実行します。

- 以下の点を再度確認してください。社用車(車両 3000 グループ ##)の資産マスタレコードを登録したときに、誤って正しくない資産クラスに登録しました（マスタデータの章の演習問題）。

前会計年度の1月にこのマスタレコードに 60,000 ユーロ（正味額）を転記します。

ところで、60,000 ユーロの社用車というのは実にすてきなものですね。

- 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。

関連するマスタレコードの資産番号を選択します。

転記金額として 60,000 ユーロを選択します。

前会計年度の1月に転記日付と伝票日付を選択します（例：前会計年度の1月 20 日）。

タスク 2：

誤りがあることに気付いたため、問題の資産を正しい資産クラス（=> 資産クラス 3100）の（新しい）資産マスタレコードに振り替える必要があります。

- このため、会社コード AA## の資産クラス車両（クラス 3100）に、テキストを車両 3100 グループ## として（新規）マスタレコードを登録し、資産番号をメモします。

資産番号：_____



ヒント：リリース 4.6 以降では、振替取引内にマスタレコードを新規登録することができます。項目転送ルールを呼び出して、旧マスタレコードのデータを新規マスタレコードの項目にコピーすることもできるため、時間を節約することができます。振替取引タイプを使用して、償却開始日を新規マスタレコードにコピーする方法を制御します。

- 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 登録 → 資産を選択します。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
----------	---

次へ

項目名/データ型	値
資産クラス	3100
会社コード	AA##
名称	車両 3100 グループ ##
原価センタ	マスター車両 3000 グループ##の原価センタを参照してください。

保存します。

- 車両 3000 グループ## 資産の(全部) 振替を新規マスタレコード(車両 3100 グループ##)に転記します。

転記日付および伝票日付として現在日付を入力します。



注意: ただし、今年度全体の正しい減価償却が計算されることが必要です。そのため、資産評価日を今年度の1月1日に設定する必要があります。

- 固定資産管理アプリケーションで、記帳→振替→会社コード内振替を選択します。

演習問題の指示に従ってデータおよび日付を入力します。

振替取引で、シミュレートボタンを選択します。評価調整を参照してください。前会計年度の減価償却は完全に修正されていますか。

解答: はい。演習問題に従って転記金額およびデータを定義した場合は、伝票シミュレーションに 20,000 ユーロの評価調整が表示され、この調整が新しいクラス 3100 のマスタレコードに採用されます。

保存します。

- 両方の資産の資産価額を照会します。また、転記日付および資産評価日をチェックします。新しい資産では、元データおよび耐用年数をチェックします。

- 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。

資産エクスプローラでは、計画値タブの(下部にある)取引テーブルに振替の資産評価日が表示されます。

取引をダブルクリックするなどして FI 伝票にジャンプすると、伝票ヘッダに転記日付および伝票日付が表示されます。

資産エクスプローラで、(新しい) クラス 3100 資産のパラメータページを選択してください。

次へ

解答: 1年の経過耐用年数が表示されます。残存耐用年数は4年です。

資産エクスプローラから、(新しい)資産のマスタレコードに移動し、起点タブページを照会してください。

解答: (資産クラス 3000 の) 元の資産の資産番号が表示されます。

+ 取得日

タスク 3:

1つの会社に属する会社コード間の取引

- 条件: 異なる会社コードを使用してマッピングされている複数の小規模なユニット/支店が企業グループにあるとします。ただし、これらは同じ会社（会社 1000）に属するものとして（カスタマイジングで）定義されています。

社用車車両 3100 グループ##（前のタスクから正しい資産クラスに登録されている資産）の運転手が、今年度の 12 月 23 日に講師の会社コード（支店またはオフィス）に異動になります。異動先の会社コードは一般に AA00 であり、運転手と一緒に社用車も移動します。

→ **注記:** 講師が会社コード AA00 を使用していない場合、以下の演習問題では別の目標会社コードおよび目標原価センタを適宜使用する必要があります。

そのため、会社コード AA## から新しいオフィス（会社コード AA00）に資産を振り替える必要があります。



注意: 総額バリアントを使用して振替を実行します。その際、原価センタ T-F05E00 を指定して、新しい会社コード AA00 に新しい資産マスタレコードを登録します。

以下のデータを使用します。

次へ

資産評価日、伝票日付、転記日付:	今年度の 12 月 23 日
収益詳細:	収益なし
振替バリアント (追加詳細タブページ):	1
会社コード AA00 の振替取引に登録する資産のテキスト:	車両会社コード AA00/グループ ##
会社コード AA00 の新しい資産の原価センタ:	T-F05E00



ヒント: 標準 SAP システムでは、関係タイプ 2 の振替 (会社内振替) の場合には収益は転記されないものと想定されています。そうでない場合に別のモデルを実装するには、ユーザ Exit を使用することができます。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 振替 → 資産振替 (関連会社間)を選択します。振替対象の資産 (資産車両 3100 グループ ##) の資産番号は編集可能である必要があります。それ以外のデータについては、演習問題に記載されている情報を使用してください。新規資産を選択し、マスタデータボタンをクリックして、会社コード AA00 に登録する新しい資産のデータを入力します。
すべての必須データを入力した後、補足 → シミュレートを選択して伝票をシミュレートします。
シミュレートした FI 伝票を確認します。
転記および保存します。
メッセージが 3 つ表示されます。最後のメッセージに、会社コード AA00 の新しい資産番号が示されています。
- 2. もう一度、資産エクスプローラを呼び出して会社コード AA## から振り替えた資産 (資産車両 3100 グループ##) を照会します。



注意: 資産エクスプローラには常に、最後に編集した資産が表示されます。これは、会社コード AA00 の資産です。会社コード AA## に戻してください。

次へ

どの取引タイプが使用されましたか。

- 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。

会社コード AA##から資産車両3100 グループ##を選択します。計画値タブページの下部に取引が2つ表示されます。2つ目の取引が振替です。解答：取引タイプ300が振替に使用されました。

- ここで、振替のFI伝票を照会します。
 - ダブルクリックして資産エクスプローラからFI伝票に移動します。
- “振替の両方のページ”、つまり振替に関わる両方の会社コードからの伝票を表示するために、ここで会社間(伝票)番号を呼び出すことができます。
 - 伝票ヘッダに表示されている会社間(伝票)番号をダブルクリックします。

タスク4:

会社間(伝票)番号も成されず

オプション：（企業の境界を越えた）法的に独立した会社間の振替を実行します。

- 会社コード AA##の社用車の別の運転手が会社コード AA31（会社AC305）に転勤になり、車両とともに異動します。
まず、前会計年度の1月1日付で未転記の社用車のいづれかに金額50,000ユーロの取得を転記します。
 - 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得→自動相殺仕訳のある取得を選択します。

他のデータについてはすべて、演習問題に記載されている情報を使用してください。
- 次に、会社コード AA##での2年間の使用後、今年度の12月31日付で会社コード AA31に資産を振り替えます。
どちらの会社コードも法的に独立しているので、売却価格も合意されます。新しい会社コードAA31に資産の正味簿価が入力されます。これは、3年間で減価償却されます。
以下のデータを使用して振替を実行します。

起算日、伝票日付、転記日付: 今年度の12月31日

収益詳細: 領域 01 の正味簿価

振替先会社コード: AA31

次へ

振替バリアント:

7

新規資産 (トランザクションで登録): はい

会社コード AA31 の原価センタ: T-F05A31



ヒント: 振替バリアント 7 は、SAP が提供する標準振替バリアントの 1 つでもあります。これは事実上振替バリアント 2 を“総額振替”にしたものですが、会計年度中の振替であっても、振替元と振替先で減価償却が正しく計算されます。これは振替バリアント 2 では自動的に行われません。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 振替 → 資産振替(関連会社間)を選択します。

それ以外のデータについては、演習問題に記載されている情報を使用してください。

保存する前に、メニューバーの補足 → シミュレートを選択します。評価調整は元資産で 20,000 ユーロ修正する必要があり、会社コード AA31 の新しい資産の正味簿価は今年度の 12 月 31 日で 30,000 ユーロとなります。

保存します。

3. 資産エクスプローラに両方の資産の金額を照会し、取引および両方の FI 伝票を分析します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

2 つの資産のいずれかを選択し、FI 伝票に分岐します。伝票ヘッダには、会社間(伝票)番号も表示されています。その番号をダブルクリックして全部振替を照会します。

4. 次に、会社間番号照会のレイアウトを使用して、資産取引タイプ項目および取引/会社項目を表示します。

- a) 会社間番号の表示モードで、レイアウト選択.. ボタンのドロップダウンリストを選択し、エントリレイアウト変更... を選択します。テキスト列名での行をクリックして、アルファベット順に列セットをソートします。

エントリ取引タイプがある行(計 3 行)を選択し、そのうちの 2 番目のエントリを(左側の)テーブル表示された列にコピーします。次に、右側のテーブル列セットで取引/会社行を検索し、その行もコピーします。

コピーボタンを押します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … SAP システムでの資産振替（会社間/関連会社間）の照会

レッスン：建設仮勘定 (AuC)

レッスンの概要

このレッスンでは、建設仮勘定の付替および決済について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- … システムでの建設仮勘定の表示、付替、および決済

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員から建設仮勘定の決済のデモンストレーションを依頼されました。

特に、元の固定資産管理からの建設仮勘定、つまり設備予算管理 (IM) に統合されていない建設仮勘定の決済に関心があります。

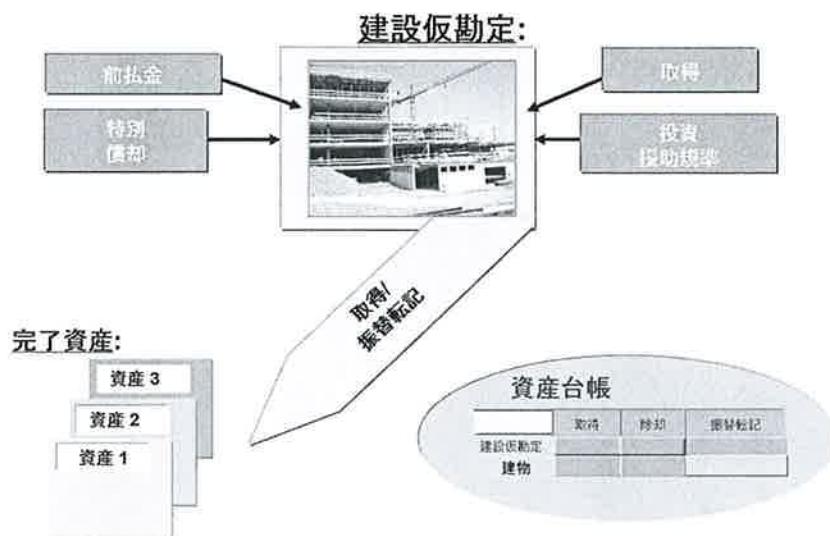


図 55: “完了資産”への建設仮勘定の決済

建設仮勘定には、固定資産管理に関するフェーズが 2 つあります。

- 建設段階
- 完成資産段階

建設仮勘定

- 建設仮勘定専用のマスクを登録
→専用の資本化入力を使用
- 資産が完了するまで支出は専用マスクで管理
- 完成後、完成資産に建設仮勘定を振替

通常、これらの 2 つの段階では 2 つの異なる貸借対照表項目に資産を表示しなければなりません。そのため、建設中フェーズと完了資産フェーズでは異なるオブジェクトや資産マスタレコードを使用して、資産を管理する必要があります。

建設段階から完成資産への振替は、建設仮勘定の資本化と呼ばれます。
FI-AA では、建設中フェーズの資産を(必要とする機能に応じて)以下のように管理することができます。

- “通常の” 資産マスタレコードとして(集計決済を使用)
- 明細管理ありの資産マスタレコードとして

建設仮勘定を資本化する場合は、(明細ベースごとに) 1 つ以上の完了資産に金額を振り替えます。

建設仮勘定を資本化する場合は、前会計年度の取引と今年度の取引が自動的に区別されます。これは、異なる取引タイプを使用して行われます。

また、大規模な設備投資案件に設備予算管理 (IM) を使用して、内部活動を追加することができます(さらに、システムにその内部活動をマッピングすることができます)。詳細については、SAP 標準コース AC020 で説明しています。

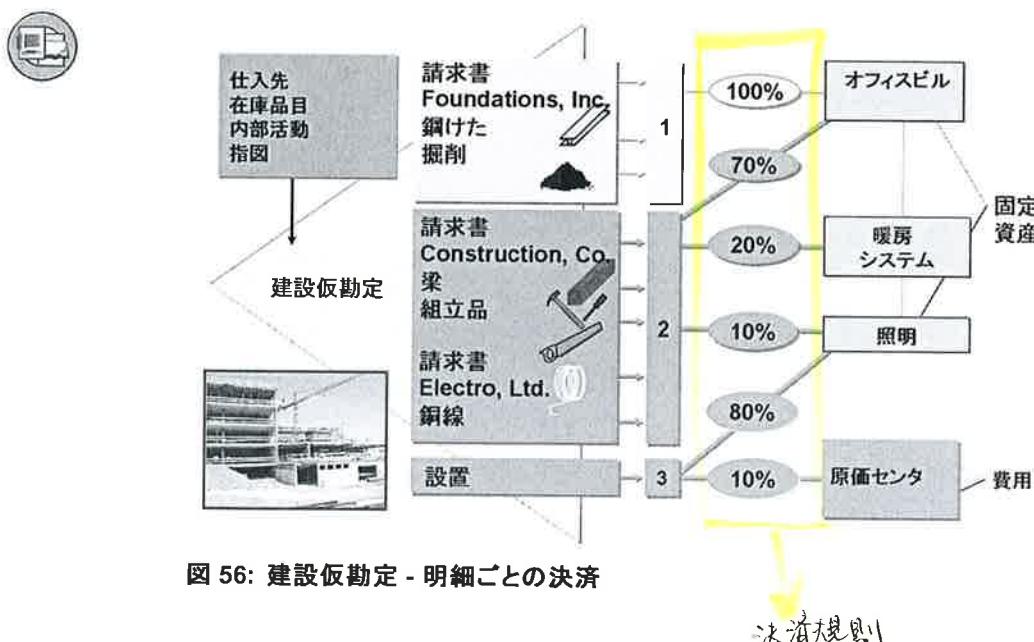


図 56: 建設仮勘定 - 明細ごとの決済

建設仮勘定を明細ごとに1つ以上の完了資産に決済するには、以下の処理を実行します。

→ 決済ルールを定義

- まず、**決済プロファイル**(標準システム: 決済プロファイル AI)を会社コードに割り当てます。そのためには、固定資産管理のカスタマイジングで取引 → 資本化: 建設仮勘定 → 定義/割当: 決済プロファイルを選択します。
- 同じレシーバに同一の割合で決済するすべての明細を選択します。
- これらの明細の**決済規則**を定義します。
- 決済規則を使用して、指定したレシーバに明細の決済を転記します。

この転記処理によって、決済規則が割り当てられているすべての明細が決済されます。

金額を使用して決済する場合は(リリース4.0以降で可能)、明細を1つずつ選択して決済する必要があります。

決済する場合は、すべての明細を一度に決済したり、各明細の100%を付け替えたりする必要はありません。

演習問題 8: 建設仮勘定 (AuC)

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 建設仮勘定の登録と転記、および建設仮勘定の“完了資産”への決済

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員から建設仮勘定の決済のデモンストレーションを依頼されました。特に、設備予算管理 (IM) と統合されていない建設仮勘定の決済に関心があります。

タスク:

建設仮勘定の転記、付替、および決済

- まず、会社コード AA## に決済プロファイルを割り当てる必要があります。SAP は、標準システムに決済プロファイル AI を提供しています。
- 次に、会社コード AA## のクラス建設仮勘定(資産クラス 4000) のマスタレコードに、(前会計年度および今年度の) 取得を (3 つ) 転記します。



ヒント: コース開始時の演習問題で資産マスタレコードを登録した際にまだクラス 4000 の資産を登録していなかった場合は、ここで登録することができます。

ただし、個人値一覧によっては、クラス 4000 のマスタレコードが F4 ヘルプに表示されないこともあることに留意してください。

建設仮勘定に以下の取得を入力し、転記日付、伝票日付、および資産評価日が正しいことを確認します。

前会計年度の 1 € 10,000 転記テキスト: 取得 1
月 1 日:

前会計年度の 10 € 60,000 転記テキスト: 取得 2
月 1 日:

今年度の 2 月 1 € 35,000 転記テキスト: 取得 3
日:

- 資産エクスプローラで建設仮勘定を確認し、前会計年度および今年度の取引を表示します。
- これで建設仮勘定の転記が完了したため、続いて取得の付替と“資本化”を実行することができます。

次へ

60,000 ユーロの取得を完全に(完了)資産 **機械 07** に付け替えます。

他の 2 つの取得を以下のように建設仮勘定に付け替え、決済します。資産 **機械 08** は 70%、資産 **機械 09** は 30% を決済します。



ヒント: コースが 1 月に開催されていない限り、決済日として現在の日付を入力することができます。コースが 1 月に開催されている場合は、決済日付として今年度の 2 月 18 日を使用してください。

必ず、テスト実行後に更新実行を開始してください。

付替取引の明細一覧では 3SAP 標準レイアウトを選択してください。これで転記テキストも表示されるようになります。

5. 次に、建設仮勘定の資産エクスプローラを呼び出します。建設仮勘定に全額が貸方転記されていますか。すべての貸方取引に同じ取引タイプが使用されていますか。
使用されていない場合、その理由は何ですか。
6. 資産エクスプローラおよび資産台帳で資産機械 07 から機械 09 の金額を確認します。
資産台帳では金額がどのように表示されていますか。

解答 8: 建設仮勘定 (AuC)

タスク：

建設仮勘定の転記、付替、および決済

1. まず、会社コード AA## に決済プロファイルを割り当てる必要があります。SAP は、標準システムに決済プロファイル AI を提供しています。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、取引 → 資本化: 建設仮勘定 → 定義/割当: 決済プロファイルを選択します。
アクティビティ選択ダイアログボックスで、割当: 決済プロファイル 会社コードを選択します。
決済プロファイル AI を会社コード AA## に割り当てます。
2. 次に、会社コード AA## のクラス建設仮勘定(資産クラス 4000) のマスタレコードに、(前会計年度および今年度の) 取得を (3 つ) 転記します。



ヒント: コース開始時の演習問題で資産マスタレコードを登録した際にまだクラス 4000 の資産を登録していなかった場合は、ここで登録することができます。

ただし、個人値一覧によっては、クラス 4000 のマスタレコードが F4 ヘルプに表示されないこともあることに留意してください。

建設仮勘定に以下の取得を入力し、転記日付、伝票日付、および資産評価日が正しいことを確認します。

前会計年度の 1 € 10,000 転記テキスト: 取得 1
月 1 日:

前会計年度の 10 € 60,000 転記テキスト: 取得 2
月 1 日:

今年度の 2 月 1 € 35,000 転記テキスト: 取得 3
日:

- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。
問題文に従って建設仮勘定に 3 つの取得を連続して実行し、転記処理で入力項目 テキストに適宜値を入力します。

次へ

3. 資産エクスプローラで建設仮勘定を確認し、前会計年度および今年度の取引を表示します。
 - a) 固定資産管理で、資産→資産エクスプローラを選択します。前会計年度の取得を表示するには、入力項目会計年度で前会計年度を選択する必要があります。
4. これで建設仮勘定の転記が完了したため、続いて取得の付替と“資本化”を実行することができます。

60,000 ユーロの取得を完全に(完了)資産 機械07に付け替えます。

他の2つの取得を以下のように建設仮勘定に付け替え、決済します。資産 機械08は70%、資産 機械09は30%を決済します。



ヒント: コースが1月に開催されていない限り、決済日として現在の日付を入力することができます。コースが1月に開催されている場合は、決済日付として今年度の2月18日を使用してください。

必ず、テスト実行後に更新実行を開始してください。

次へ

付替取引の明細一覧では 3SAP 標準レイアウトを選択してください。これで転記テキストも表示されるようになります。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、転記 → 建設仮勘定の資本化 → 振替ルールを選択します。

建設仮勘定の資産番号を入力します。

実行ボタンを選択します。

設定 → レイアウト → 選択... メニューバーを選択します。3SAP 標準レイアウトを選択して、転記テキストを表示します。

次に、金額が 60,000 ユーロの 取得 2 を選択します。

編集 → 配賦規則入力メニューを選択します。

テーブルで決済レシーバとして機械 07 のマスタレコード番号を入力し、エントリを確認します。

前画面に戻ります。取得 2 が緑信号とともに表示されます。

Ctrl キーを使用して、他の 2 つの取得をまとめて選択します。

もう一度編集 → 配賦規則入力を選択します。

テーブルで、決済レシーバとして機械 08 および機械 09 のマスタレコード番号とパーセント (70 および 30) を入力します。

エントリを確認します。

前画面に戻ります。

金額を保存します。

環境 → 決算実行メニューを選択します。

最初は テスト実行として、次に 更新実行として決済 → 実行を選択します。

5. 次に、建設仮勘定の資産エクスプローラを呼び出します。建設仮勘定に全額が貸方転記されていますか。すべての貸方取引に同じ取引タイプが使用されていますか。

使用されていない場合、その理由は何ですか。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

解答：貸方取引タイプは同じではありません。これは、前会計年度と今年度の建設仮勘定の取得であるためです。 P.98

6. 資産エクスプローラおよび資産台帳で資産機械 07 から機械 09 の金額を確認します。

次へ

資産台帳では金額がどのように表示されていますか。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。個々の資産の資産台帳に移動します。そのためには、ジャンプ→レポート呼出メニューを選びます。

ここでは個々の資産を1つずつ確認することができます。たとえば、資産機械07には再転記のみが表示されます。他の2つの機械には、再転記および取得が表示されます。

機械07から09の資産台帳をまとめて照会するには、固定資産管理アプリケーションで情報管理→固定資産管理レポート→財務諸表注記→国際版→資産台帳を選択します。

以下のデータを入力します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
資産番号	機械07から09の資産番号
ソートバリエント	0013
資産一覧ラジオボタン	選択

レポートを実行します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … システムでの建設仮勘定の表示、付替、および決済

レッスン: 臨時償却

レッスンの概要

このレッスンでは、臨時償却の入力（およびマッピング）に関するオプションについて説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... システムでの臨時償却の入力および分析

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員が、臨時償却を入力およびマッピングする際のさまざまなオプションを学習したいと考えています。

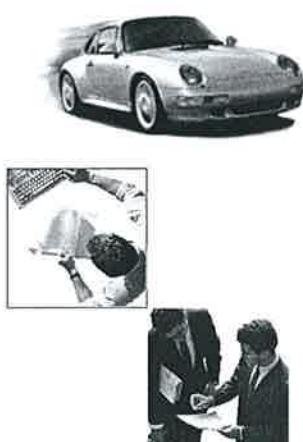


図 57: 臨時償却/現在評価償却

償却キーを使用してスケジュール可能な通常償却だけでなく、FI-AA で資産ごとにマニュアルで臨時償却を計画することができます。
 通常の償却に加える
 (償却領域に加える)

関連する取引タイプを入力すると、マニュアル償却の実行がシステムに認識されます。

ダイアログボックスで、減価償却を入力する償却領域を選択することができます。現在評価償却はたとえば帳簿償却には適用し、税償却には適用しないこともできます。

マニュアルで減価償却を計画しているのみであるため、FI 伝票は登録されません。この FI 伝票は、償却記帳プログラムを実行して初めて生成されます。

レポート: 特殊なレポートを使用してマニュアル償却を評価することができます。Easy Access → 固定資産 → 情報管理 → 固定資産管理レポート → 損益計算書の説明 → 國際版 → マニュアル償却

演習問題 9: 臨時償却

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... システムでの価額の長期臨時償却での減額のマッピング

ビジネスシナリオ

固定資産管理部門の従業員からシステムで資産価額の長期臨時償却での減額をマッピングするように依頼されました。

タスク：

前年度に納入され、資本化された 2 台目のフォークリフト(マスターデータの章および資産取引の章の以前の演習問題を参照)が、今年度において事故に巻き込まれました。

1. 本日の日付を使用して、価額の長期臨時償却での減額をシステムに入力します。臨時償却額は、管理目的償却領域よりも帳簿償却領域で高くなればなりません。
2. 資産価額を照会し、関連する取引をダブルクリックしても FI 伝票が表示されない理由を隣の席のコース受講者に説明してください。
3. 今年度取得の臨時償却を転記する場合、どの取引タイプを使用しますか。

解答 9: 臨時償却

タスク:

前年度に納入され、資本化された 2 台目のフォークリフト(マスタデータの章および資産取引の章の以前の演習問題を参照)が、今年度において事故に巻き込まれました。

1. 本日の日付を使用して、価額の長期臨時償却での減額をシステムに入力します。臨時償却額は、管理目的償却領域よりも帳簿償却領域で高くなればなりません。
 - a) 固定資産アプリケーションで、記帳 → マニュアル価額修正 → 臨時償却を選択します。
Prod. ARAA
資産フォークリフト 02 の資産番号を入力します。
エントリを確認し、臨時償却の金額を入力します。
エントリを確認します。他の償却領域が 1 つずつ提案されます。
領域 20 には低い価額を入力します。
明細ボタンを選択して、さまざまな償却領域の金額の概要を得し、必要な変更を加えます。
データを保存します。
2. 資産価額を照会し、関連する取引をダブルクリックしても FI 伝票が表示されない理由を隣の席のコース受講者に説明してください。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。表示された取引をダブルクリックします。
上記の質問に答えてください。システムには臨時償却のメモが残されているにすぎません。臨時償却は、償却記帳を実行して初めて、他の減価償却とともに転記されます。
3. 今年度取得の臨時償却を転記する場合、どの取引タイプを使用しますか。
 - a) 取引タイプ 650 です。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … システムでの臨時償却の入力および分析



章のまとめ

以下について学習しました。

- ... システムでの統合および非統合の資産取得の登録/転記
- ... 資産エクスプローラによるシステムでの資産取得の分析
- ... FI 伝票についての理解
- ... システムでの統合および非統合資産除却の入力
- ... SAP システムでの資産振替(会社間/関連会社間)の照会
- ... システムでの建設仮勘定の表示、付替、および決済
- ... システムでの臨時償却の入力および分析

4 章

定期処理および定期評価

章の概要

定期処理の章では、定期処理の概要について説明します。償却記帳実行について詳しく説明するほか、会計年度変更や年度末処理など、他のFI-AA決算処理について学習します。

減価償却を転記するには、まず、償却額を計算する必要があります。このため、この章では **償却キーおよび償却額の(再)計算** のトピックについて詳しく説明しています。

また、この章では、個々の**償却領域**およびその制御方法についても詳しく取り上げます。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ... 債却領域の詳細な分析および債却領域の設定
- ... 債却キーの構造および仕組みの説明および理解
- ... 債却額の(新しい)計算の理解、および時間依存債却条件のオプションについての説明
- ... 減価償却の転記および債却額の分析
- ... (固定資産管理の)会計年度変更および年度末処理のプログラムの実行

章の内容

レッスン: 債却領域、債却キー、減価償却計算、および転記	172
演習問題 10: 評価と減価償却	187
レッスン: 固定資産管理での会計年度変更と年度末処理	206
演習問題 11: (固定資産管理の) 年度末処理	211

レッスン: 債却領域、債却キー、減価償却計算、および転記

レッスンの概要

このレッスンでは、減価償却の計算および転記、債却キーの構造、および個々の債却領域の設定について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 債却領域の詳細な分析および債却領域の設定
- ... 債却キーの構造および仕組みの説明および理解
- ... 債却額の(新しい)計算の理解、および時間依存債却条件のオプションについての説明
- ... 減価償却の転記および債却額の分析

ビジネスシナリオ

イニシャルテストが完了しました。資産が登録され、転記されています。月次処理時において、固定資産管理部門を支援しようとしています。

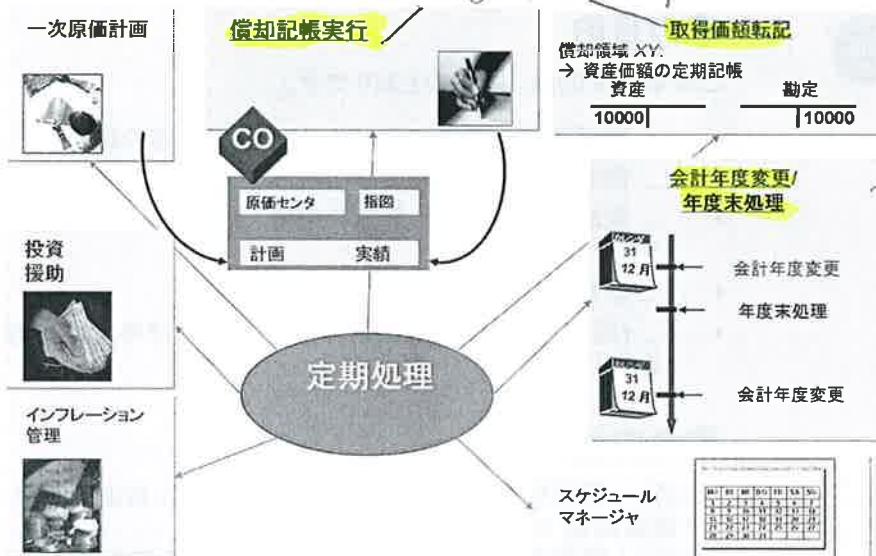


図 58: 定期処理: 概要

定期処理は、定期的に実行する必要がある固定資産管理のタスクで構成されます。

原価センタで一次原価の計画を行う場合、償却および金利の計算値を定期的に算出し、プログラムを使用して CO システムの一次原価計画に転送することができます。

投資援助は、特定の資産投資に対して企業が受け取る補助金です。このような補助金の対象となる資産には、資産マスタレコードに投資援助キーを設定します。投資援助の申請に関する指定はすべて、このキーの定義に保存されます。申請はマニュアルで転記することも、一括処理で転記することもできます。

インフレーション管理は、インフレ率やデフレ率が高い国で必要です。

FI-AA のスケジュールマネージャを使用して、定期的に繰り返されるアクティビティの定義、計画、処理、および管理を行うこともできます。“決算処理ツール”スケジュールマネージャについてさらに学習する場合は、SAP 標準コース AC690 を受講してください。

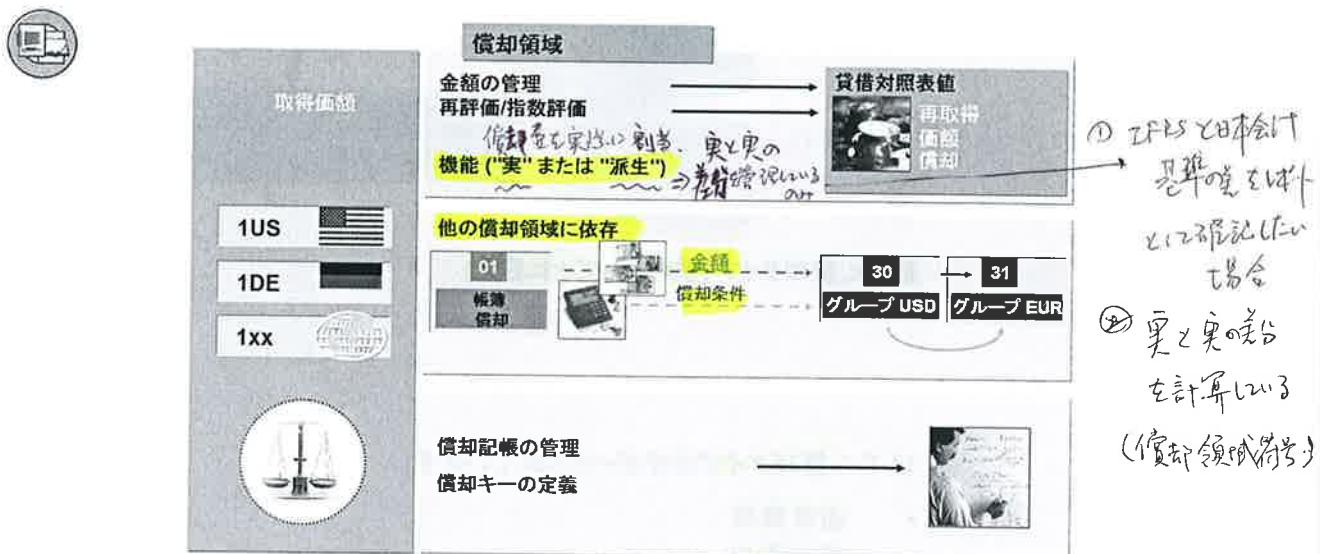


図 59: 債却領域の設定

償却領域は、2 文字の数値キーによってシステムで識別されます。

また、資産価額(取得価額、減価償却累計額)と減価償却を G/L 勘定に転記する方法を償却領域ごとに定義します。また、レポート専用の償却領域を定義することもできます。つまり、値の表示や償却計算は行われますが、G/L 勘定への値の転記は行われません。

償却領域では、特定の目的に応じた異なる金額を計算することができます(貸借対照表用、管理会計用、税務用)。

また、償却領域ごとに管理する必要がある金額(取得価額、プラス/マイナス正味簿価など)を定義します。

さらに、転記金額と償却条件を他の償却領域に受け渡す方法を償却領域ごとに定義します。



図 60: 傷却タイプ (傷却領域ごとに設定)

以下の傷却タイプがサポートされています。

- 通常償却
- 特別償却
- 臨時償却

通常償却:これは、通常の損耗による資産価額の計画的な償却です。

特別償却:これは、損耗に対する純粋な税務基準の減価償却を表します。この形式の減価償却は通常、資産価額に対するパーセントを元に減価償却を行います。このパーセントは税特権付与期間内で変動することがあり、資産の実際の損耗を考慮しません。

臨時償却:これは、資産の損傷などの資産価額の永続的な減価につながる例外的な状況に関連します。

生産高比例償却:この方法では、減価償却計算で活動の変動を考慮することができます。資産の季節使用量(トラックの走行キロや機械の生産単位数など)に応じて償却額が決定されます。

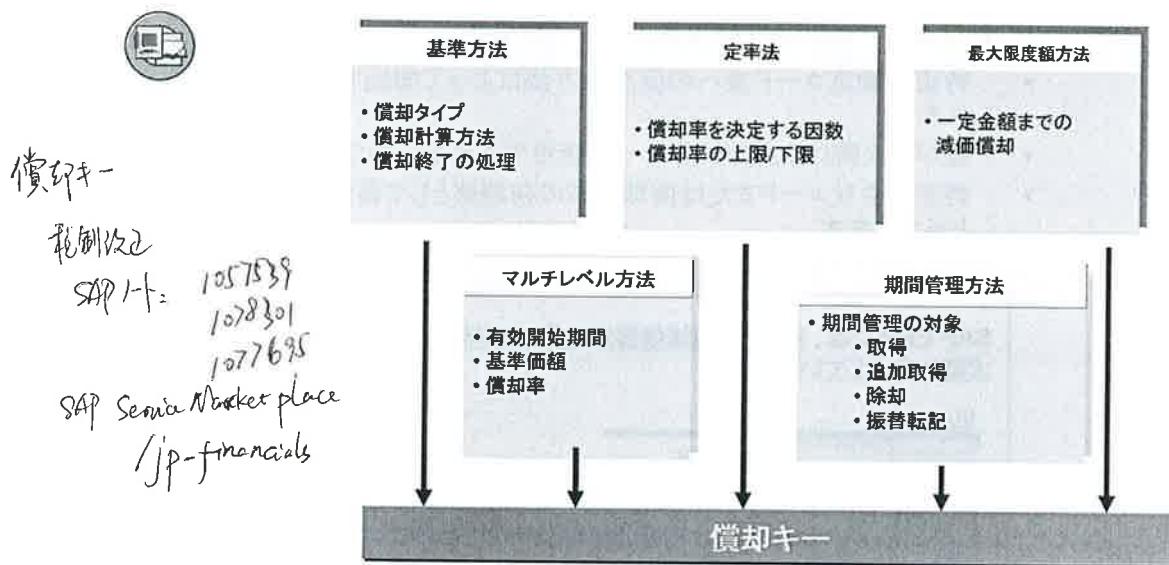


図 61: 債却キー - 計算方法

債却キー

例) JD10, JL10

SAP SEvice Market place
/jp-financials

初期化
SAP ID: 1057539
1078301
1077695

債却マスター
債却方法

基準法: 通常償却P%の%で計算
0014

定率法: 年定率P%の%で計算
0013

個々の計算方法は以下のとおりです。

マルチレベル: 何に対する何% → 基準法
079 定率法 = 取得価額 / 純資本 × 100% → 定率法
079

・最大限度額方法

・マルチレベル方法

・期間管理方法

期間管理方法 004 P95, 127) 处分価額キー

計算方法は、トランザクションコード AFAMA で債却キーに割り当てられます。

トランザクション AFAMA のカスタマイジングパス: 減価償却 → 評価方法 → 債却キー → 更新: 債却キー。

(4.6より前のリリースから4.6以降のリリースへの) アップグレード時に、古いテーブルは自動的に新しいテーブルに移行されます。新しい債却キーを使用することができるよう、その債却キーのステータスを有効に設定することが必要になる場合もあります。必要に応じて、トランザクションコード AFAMA でステータスを確認してください。

(処分価額): 何%まで減価償却を行うのか
JPS ↓ (取扱説明書)

(内部計算キーよりも) 計算方法が優れている点:

- 特定の勘定コード表への固有の方法によって国固有の要件が表されます。
- 数が増え続ける内部計算キーを使用する必要がなくなります。
- 特定の会社コードまたは償却領域の初期値として償却キーを入力することができます。



SAP ERP では、計算方法(減価償却計算)の詳細一覧の見やすさが大幅に向上しています。

リリース 4.7:

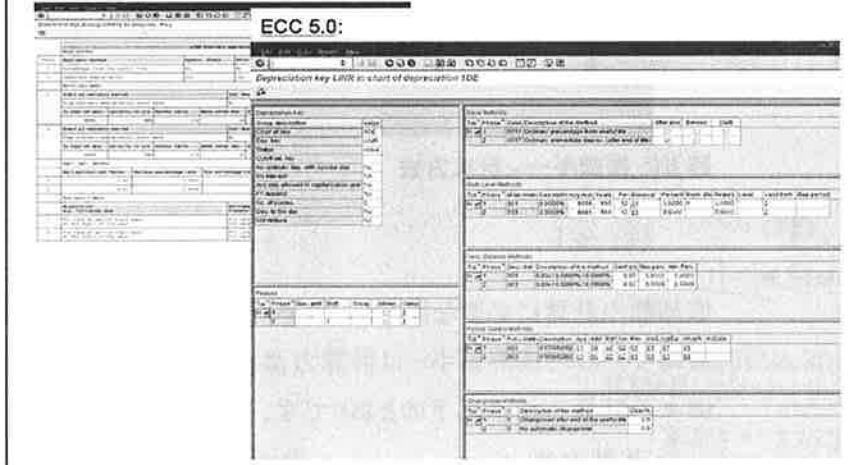


図 62: 方法の詳細一覧

償却キーに割り当てられている計算方法の詳細一覧は、トランザクション AFAMA を使用して、資産マスタレコードと資産エクスプローラから呼び出すことができます。

✓
トランザクション AFAMA

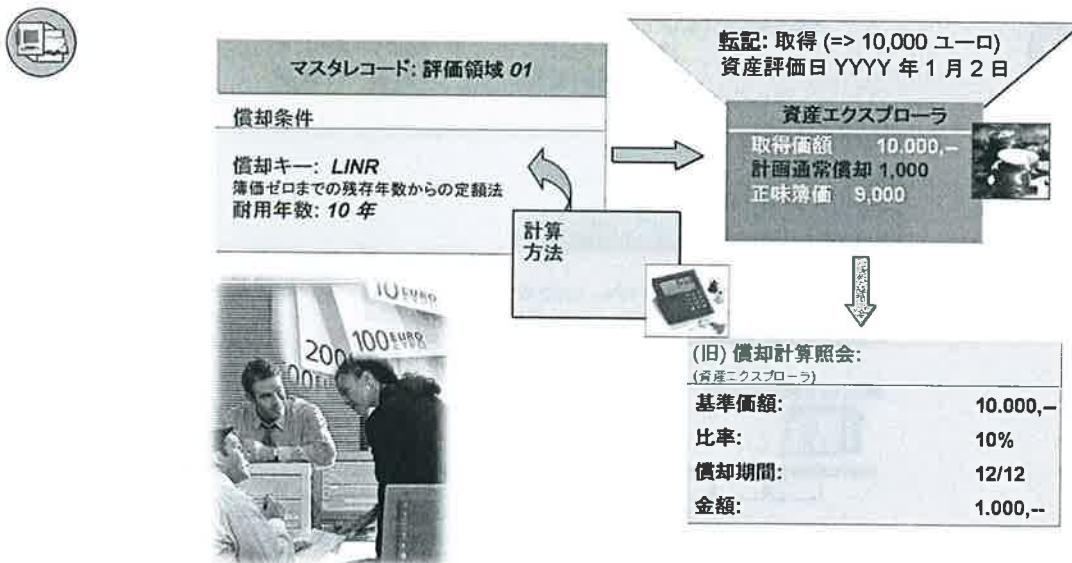


図 63: 傷却額の計算

償却条件は資産マスタレコードに保存されています。上記の例では、償却キーと耐用年数を使用して当期償却が計算されています。償却領域の目的に応じて、再評価や付加利息などの他の条件も計算されます。

資産評価日と期間管理方法を使用して償却開始日が算出されます。

資産エクスプローラでは、取引および償却領域ごとに資産価額と減価償却額が表示されます。

資産エクスプローラから、償却額の計算を照会することができます。



ヒント: たとえば、償却キーの設定に変更を加えても（カスタマイジング変更）、転記済資産および有効資産の償却額が自動的に修正されるこ→(承り) ないとはありません。これを行うには、減価償却の再計算を実行する必要があります。たとえば、トランザクションコード AS02 で行います。

AFAR 価値計算



ソリューション SAP ERP 6.0 (およびエンタープライズ拡張機能 EA-FIN が有効) では、減価償却の計算ロジックが "取引ベースの計算" から "期間範囲にもとづく計算" に変更

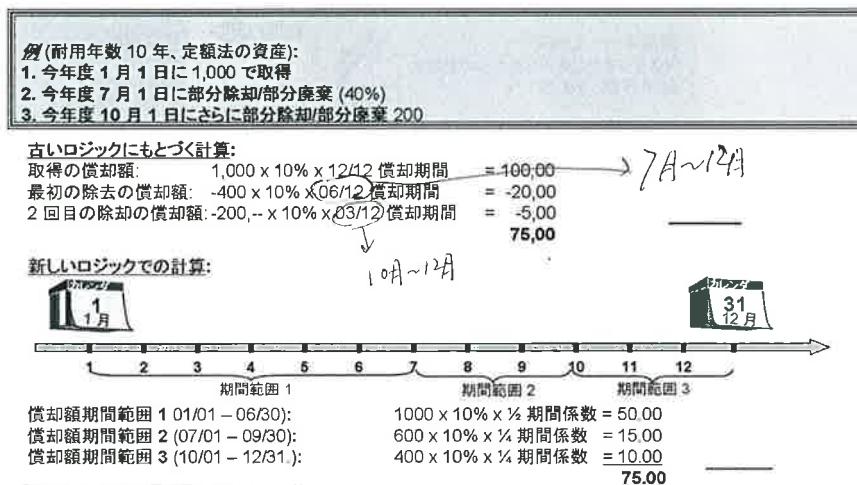


図 64: 期間範囲に基づいた減価償却計算

ドイツの非常に多くのケースでは、新規の計算プログラムでも旧ロジックとまったく同じ償却額が算出されます (スライドの例を参照してください)。

しかし、基本的には、減価償却の新しい計算方法 (償却エンジンの使用にも言及)の方が、正確に償却額を計算することができます。

新規ロジックでは、会計年度内のどの期間の参照値 (資産の購入価格や正味簿価など) が有効であるかがチェックされます。該当する資産の取引がない場合、減価償却計算の参照値は会計年度を通じて変わらず、1つの期間範囲 (期間 1 から 期間 12 まで) のみが使用されます。取引がある場合は、参照値はそのたびに変わり、(期間管理に応じて) 追加の期間範囲が使用されます。

期間範囲という新しい用語は、セグメントという用語と同じ意味で使用することができます。

ほとんどの場合、この償却方法変更はドイツで使用される償却キーには影響ありません。これは、後続の会計年度における取得が“各会計年度の期首”に処理されることが多いのです。その他の国の場合 (日本など)、後続会計年度における取得も“比例配分”で処理されるため、旧ロジックと新規ロジックで計算結果が異なります。



ヒント: 2つの計算方法の基本的な違いについては、SAP ノート 965032 を参照してください。

拡張 EA-FIN の有効化による、ECC 6.0 におけるその他の変更については、SAP ノート 1121965 の (ドイツ語または英語の) 添付文書を参照してください。



ソリューション SAP ERP 6.0 および有効かつ新しい減価償却計算では、資産マスタレコード更新のコンテキスト (トランザクションコード AS02 → **債却領域の詳細画面**) 内で、**共通の債却パラメータ時間依存**で管理することができます。

以下のパラメータを時間依存ベースで変更することができます:

- 債却キー
- 耐用年数 (年/期間)
- 債却可変部分
- 残存価額
- 残存価額 (%)

押ボタン (→ 債却領域の詳細画面) および を使用して、**債却領域ごとに債却条件の時間依存性を定義**することができます。

計算例:

図 65: 債却条件の時間依存性 (1)

時間依存の債却条件を使用する場合のロジックと方法は、マスタデータ領域の時間依存データの処理と似ています。このため、時間依存の変更は、新規範囲を登録することによっても定義されます。

概要:ECC 6.0 および有効な拡張 EA-FIN (財務拡張) による FI-AA 減価償却計算の新規機能:

- 期間範囲にもとづいた減価償却計算/債却エンジンによる減価償却計算
- 時間依存の債却条件
- 期間/月に対する(自動) 債却変更方法のサポート。ただし、これは標準的な方法ではなく、BAdI (ビジネスアドイン) *FAA_DC_CUSTOMER* を使用して実装する必要があります。

時間依存債却条件を保持する方法については、再度 SAP ノート 981222 (FAQ) を参照してください。



時間依存償却条件を使用した場合、SAP ERP 6.0 以前の減価償却計算と比べて、償却額に差額が生じることがあります。

計算例:

元の耐用年数が 5 年/定額法 (\rightarrow 正味簿価 ÷ 残存年数) の資産で、2 年後に耐用年数を 3 年に短縮します。

想定される初期状況:

- => 資産の取得年度がすでに終了している
- => 資産の耐用年数の 2 年目が未決済になっている
- => 耐用年数 3 年目の 1 月 1 日に時間依存の変更がある

変更に対して時間依存定義オプションのない
減価償却計算:

会計年度	取得額	減価償却
取得年度 (例: 2005 年 1 月)	10,000	- 2,000
取得年度 + 1		- 4,000
取得年度 + 2		- 4,000
Σ	10,000	- 10,000

ECC 6.0 による減価償却計算、時間依存の
償却パラメータを使用

会計年度	取得額	減価償却
取得年度 (例: 2005 年 1 月)	10,000	- 2,000
取得年度 + 1		- 2,000
取得年度 + 2		- 6,000
Σ	10,000	- 10,000

図 66: 債却条件の時間依存性 (2)

例では、時間依存償却条件を使用した結果、これまでよりも詳細に減価償却を計算できることを示しています。

時間依存の償却条件を使用しない場合、変更の影響として、すべての未処理(および将来の)会計年度が再計算されることになります。



ヒント: トランザクション AW01_AFAR を使用すると、どの減価償却計画金額が古い方法で計算されているかを示すことができます。



注記: 債却条件に対して時間依存の変更を行う場合、他のシステム依存性(債務領域の設定など)を無効にすることができる場合にのみ変更が可能になることを確認する必要があります。特に、債務額を減額する場合に注意が必要です。

例: 資産の債務領域 01 のみを変更します(時間依存による耐用年数の縮小を使用します)。領域 01 と領域 02 の両方を使用して、(派生)債務領域 03 の値を計算します(領域 03 = 02 - 01)。この領域 03 のカスタマイジング設定で、正味簿価がマイナスまたはゼロとしてのみ指定されていると仮定します。領域 01 の耐用年数のみを縮小すると、領域 01 の正味簿価が領域 02 の正味簿価より少なくなるため、領域 03 の正味簿価がプラスになります。システムではこの状態は許可されておらず、この耐用年数の縮小は有効になりません。

減価償却計算の新規ロジックでは、会計年度中の変更用に新規期間範囲が登録されます。

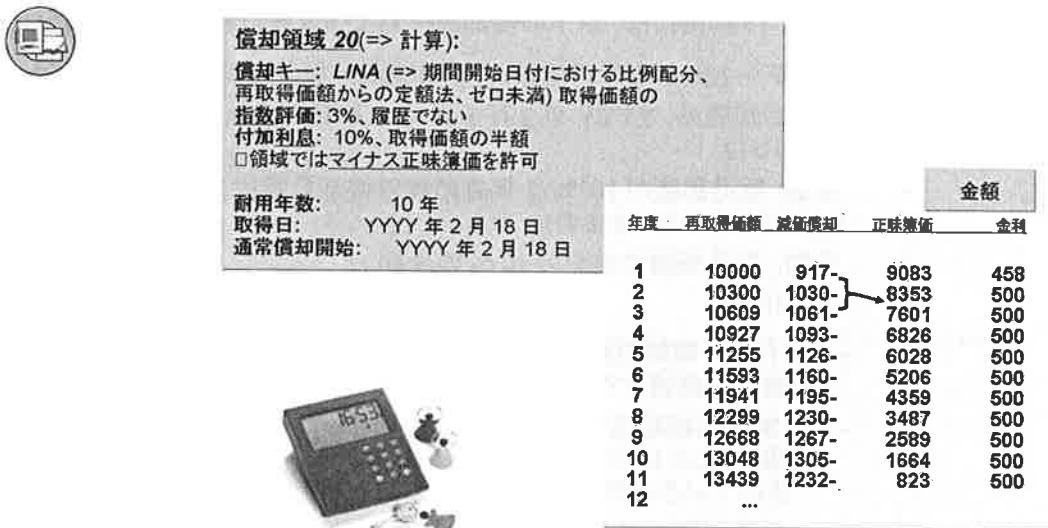


図 67: 管理目的償却領域

管理目的償却領域で金利を計算するかどうか、およびゼロ未満でも減価償却を継続するかどうかを定義することができます。償却領域を定義する際に、これらを指定します。

取得価額の指数化に指数集を使用することができるため、再取得価額を計算することができます。

上記のスライドの例には、以下の償却条件および情報が含まれています。

- 債却キー *LINA*: 再取得価額からの定額法、期間配分、カーブ/金利あり
- 通常償却開始: YYYY 年 2 月 1 日 → 1 年目の減価償却と金利: 当期値の 11/12
- 指数: 取得価額の 103% (2 年目の減価償却計算は、指標評価による再取得価額にもとづきます)
- 金利: 取得価額の半分の 10 % の金利
- 自動計算:
 - 予定償却期間終了後の償却: これは、予定耐用年数終了後も減価償却を継続することを示します。
 - 帳簿価額超過償却: 簿価がゼロになった後も減価償却を継続する場合、この区分を設定します。償却領域でマイナス正味簿価が許可されている必要があります (変更キーを使用することができます)。
 - 予定耐用年数終了後の有効年数 (カーブあり): 予定耐用年数ではなく、実耐用年数によって償却率が算出されます。

例: 耐用年数が 10 年のため、毎年度 1/10 の減価償却があるとします。この区分によって、たとえば取得価額の 1/10 の償却率が 11 年目には 1/11 に減少し、予定耐用年数終了後は償却額が (徐々に) 減額されます。

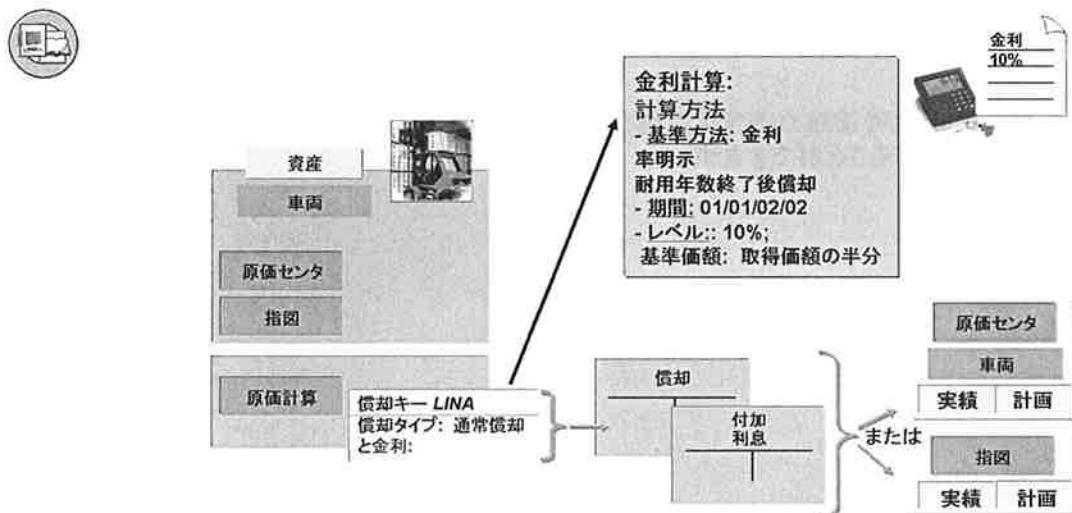


図 68: 付加利息

管理目的の場合、資産に投資した資本の付加利息を計算しなければならないことがあります。以下の設定を指定します。

- 債却領域で付加利息の計算を許可します。
- 会社コードおよび関連する債却領域で金利が転記されるように設定します。
- 債却タイプ金利の計算方法が割り当てられている債却キーを使用するか、そのようなキーを独自に定義します。
- 金利計算が再取得価額にもとづいている場合、指数評価による金利が計算されます。

定期債却記帳実行時に、金利が(定期的に)転記されます。これは、各債却領域の勘定設定に入力されている勘定に転記されます。さらに、各資産マスタレコードに入力されている原価センタまたは内部指図に追加勘定割当を行うことができます(減価償却の場合と同様)。

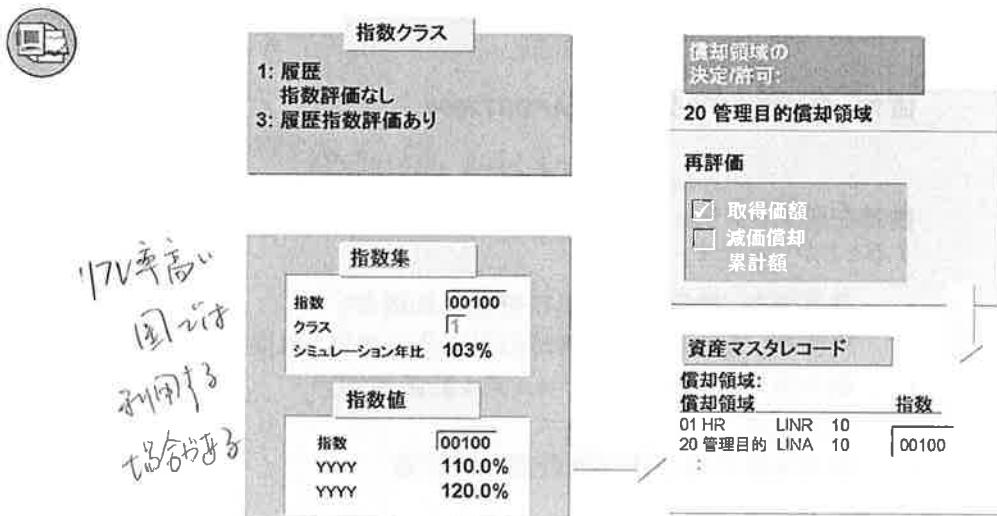


図 69: 再取得価額: 指数集

債却領域で再評価(指数評価)を使用する場合、資産または資産クラスの再取得価額の計算に使用するデフォルトの指数集を指定することができます。

会計年度ごとに、指数集の指数値を指定する必要があります。指定しない場合、シミュレーション年比に切り替えられます。

指数評価による再評価は、減価償却累計額や付加利息について計算することもできます(金利計算キーが再取得価額にもとづいている場合)。

総勘定元帳に転記するかどうかを債却領域で指定して、取得価額の再評価のみを転記するか、減価償却/金利も含めるかを指定します。

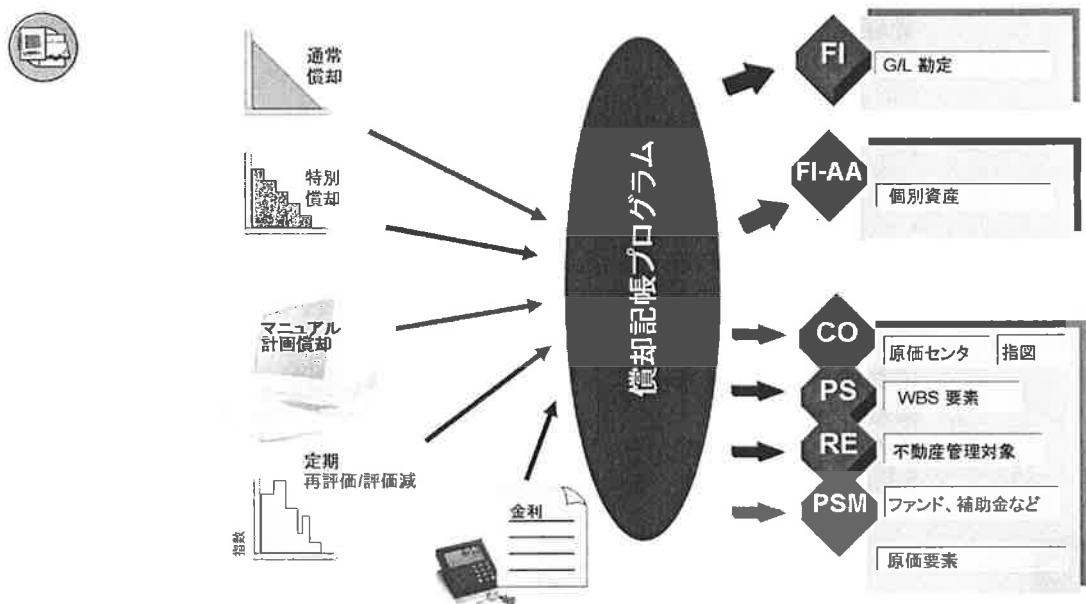


図 70: 債却記帳プログラム - RAPOST2000

債却記帳プログラム RAPOST2000 を使用して、必要に応じて以下を転記することができます。

- 通常償却 (帳簿償却および管理目的償却)
- 税償却、または特別税償却の引当金の割当と取崩
- 臨時償却 (または他のマニュアル計画償却)
- 付加利息
- 取得価額や減価償却累計額の再評価

リリース 4.6C 以前では、(総勘定元帳の債却記帳伝票が含まれている) バッチインプットセッションを開始するには、古い転記プログラム RABUCH00 を使用する必要がありました。実際に伝票を総勘定元帳に転記するには、バッチインプットセッションを処理する必要があります。

プログラム RAPOST2000 は、直接 G/L 勘定にセッションなしで転記し、(必要に応じて) 追加の勘定割当オブジェクトにも転記します。

テスト実行を使用すると、発生する可能性があるエラー (ロックされている原価センタなど) をチェックすることができます。発生したエラーは、エラー一覧に表示されます。

転記できるのは、実際の CO 勘定割当オブジェクトのみです。ただし、他のオブジェクトに追加の統計転記を実行することができます。



償却を転記するには、以下の設定を行う必要があります。

- 債却を転記する債却領域を設定します。P28
- 債却記帳に使用する G/L 勘定割当で指定します。P39
- 債却記帳の伝票タイプ (AF) を会社コードに割り当てます。P39
- 債却領域ごとに転記ルールおよび間隔を定義します。P41
- 勘定割当オブジェクトを有効化します。P41

① 債却コードが CO の
原価要素割れ(↓原価
要素)されることは
② 勘定割当オブジェクトが
決定されることは
例) 原価セタ

勘定割当オブジェクト					
勘定割当オブジェクト	勘定割当オブジェクト名	取引タイプ	取引タイプテキスト	勘定割当タイプ	勘定割当
KOSTL	原価セタ	*	一般取引タイプ	債却記帳	<input checked="" type="checkbox"/>
CAUFN	内部指図	*	一般取引タイプ	債却記帳	<input checked="" type="checkbox"/>
PS_PSP_...	WBS 要素	*	一般取引タイプ	債却記帳	<input type="checkbox"/>
IMKEY	不動産管理対象	*	一般取引タイプ	債却記帳	<input type="checkbox"/>

図 71: 勘定割当タイプの指定/有効化

これらの設定を行うために必要なメニューパスは、次のとおりです。

- 1: 固定資産管理のカスタマイジングで、評価 → 債却領域 → 定義: 債却領域を選択します。
- 2: 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 割当: 総勘定元帳勘定を選択します。
- 3: 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への債却額転記 → 定義: 債却転記の伝票タイプ → 定義: 債却転記の伝票タイプを選択します。このコンテキスト(および SAP ERP 6.0 以降を使用している場合は)、SAP ノート 890976 を参照してください。この SAP ノートでは、内部伝票番号割当に対する決算レポートの変換について説明しています。
- 4: 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への債却額転記 → 定義: 周期/転記ルールを選択します。
- 5: 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 有効化: 勘定割当対象を選択します。
- 6: 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 指定: 勘定割当対象の勘定割当タイプを選択します。
 - すべての有効な勘定割当オブジェクトを表示するプログラム RAACCOBJ01 (トランザクション: AACCOBJ) があります。



図 72: (テスト実行) RAPOST2000 ログ

以前のプログラム (*RABUCH00*) とは異なり、プログラム *RAPOST2000* ではテスト実行時にすべての必要なチェックが行われ、以下のエラーが記録されます。

- 不適当な勘定割当オブジェクト(COでロックされている原価センタなど)
 - 固定資産管理のカスタマイ징で見つからない勘定割当タイプ。勘定xxxxにはCO対象への割当が必要ですというエラーメッセージが返されます。
 - 償却記帳の勘定の欠如 勘定記入と記入方法が合っていない
 - RAPORT2000の第一画面で(カスタマイ징で入力されている“転記周期”に対して)誤って入力された会計期間
 - 償却領域の償却記帳同期に関する設定の欠如

エラーは、ログの最後に“赤信号”で示されます。エラー一覧押ボタンを選択すると、詳細を参照することができます。

RAPOST2000 のテスト実行には伝票シミュレーション機能もあります。ダブルクリックすると、ログからシミュレーション FI 伝票に直接移動することができます。

*RAPOST2000*の本稼動償却記帳実行を実施すると、転記実行ログでその期間(全体)のすべての伝票を参照することができます。対応するプログラムは*RAPOST2001*という名称であり、アクセスするには固定資産管理で定期処理→償却記帳→ログ照会を選択します。

演習問題 10: 評価と減価償却

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 債却領域の分析
- 債却条件変更 (マスタデータ) の分析
- 債却キーの理解および更新
- 債却額の計算の理解および制御
- 債却記帳の実行および分析

ビジネスシナリオ

FI-AA によるイニシャルテストが完了しました。資産が登録され、転記されています。月次処理時において、固定資産管理部門を支援しようとしています。

タスク 1:

次のタスクを実行します。

1. まず、通常償却を使用できる償却表 AA## の償却領域を IMG でチェックします。



ヒント: エントリは変更しないでください。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

1. 今年度の1月1日付で、データがまだ転記されていないクラス 3000 のマスタレコード (器具備品) のいずれかに 12,000 ユーロを転記します。
2. 資産エクスプローラを開始すると、償却領域 01 の償却キー LINR によって今年度の計画償却 4,000 が表示されます。これらが使用されていますか。
3. 変更モードで資産のマスタレコードに移動し、(少なくとも) 債却領域 01 と 02 の償却キーを LINR から LINK に変更します。変更を確定する前に、(償却領域 01 と 02 で) 耐用年数を 3 年から 2 年に縮小します。

変更を保存し、表示される警告メッセージをダブルクリックして呼び出して最後まで読んでください。

4. 資産エクスプローラで計画帳簿償却を再度分析します。計画償却額は変更されていますか。計画償却額の計算を照会してください。

次へ

5. 以前に呼び出された警告メッセージのテキストのいずれかに、“(1 対 1 の) 債却条件の取込”に関する状況が説明されています。

債務表 AA## のテーブルや制御オプションはカスタマイジングのどこにありますか。



注意: システムへの変更は行わないでください。

タスク 3:



ヒント: SAP R/3 4.6 以降では、債務キーの内部計算キーが 計算方法に置き換えられます。

SAP R/3 4.6 以降へのアップグレード後に“新しい”債務キーを使用できるようにするには、ステータスを移行から有効に変更する必要があります (アップグレード時に自動的に変更されない場合)。

- トレーニングシステムでは、すべての債務キーのステータスがすでに有効に設定されているはずです。
確認するには、債務表 AA## のカスタマイジング設定をもう一度参照します。
- このためのトランザクションコードは何ですか。

タスク 4:

オプション(ただし、日々の業務では一般的な例): SAP ノート 328780 のセクションを (コース固有の一部の補足情報とともに) 以下に示します。

- SAP ノート 328780、ページ 1

番号	328780
バージョン	8 (09/01/08 付)
公開	02.09.2008
言語	JP
テキスト	減税に関するドイツの法律に従つた変更
責任者	P. Musterman
コンポーネント FI-AA	固定資産管理

テキスト(長)/現象: この減税に関するドイツの法律の施行では、以下の法案が複合資産の評価に関係します。

次へ

1.

2. 4% から 3% への会社資産の建物の定額法の減額

解答：

1.

2. リリース 4.6A 以降の手順： 債却キー GL20 をコピーして新しい債却キーを登録してください（たとえば、テキストをリニア構築 3%/グループ##とした GR##など）。マルチレベル方法 007 を新しいマルチレベル方法 A##（##=各自のコンピュータ番号/テキスト：マルチレベル方法 A##/3%）に置き換えてください。値は以下のようになります。

取得年度	年度	期間	基準価額	パーセント
9999	999	12	01	3,0000

...

...

...

ここから、実際の演習問題となります。債却表 AA##について上記の“解答”を実装します。



ヒント：新しいマルチレベル方法を登録する場合、**参照**を使用して既存の方法（マルチレベル方法 007 など）をコピーし、そのコピーを変更することで、手順を簡単にすることができます。

2. (まだ転記されていない) 建物マスタレコード（資産クラス 1100）のいずれかを検索し、そのマスタレコードを今年度の 1 月 1 日付、1,000,000 ユーロで転記します。
3. 資産の計画償却額を分析します。
4. 資産を有効化し、分析した後、償却領域 20 以外のすべての領域の償却条件を GD50 からこの演習問題のステップ 1 で生成した新しい債却キー (GR##) に変更します。
5. 資産エクスプローラで金額を再確認します。新しい債却キーによって金額が正しく計算されていますか。

現在、当期の計画償却額はいくらですか。

償却領域 01 の資産が完全に取り崩されるのはいつですか。

次へ

タスク 5:

これはオプションであり、前の演習問題を完了している場合にのみ意味を持ちます。時間依存の償却パラメータのトピックで以下のタスクを解決してください。

- 例外:** 議会は(財政危機などのために)再度方針転換を図りました。今年度+1年の7月1日以降、(すでに有効化した資産を含め)あらゆる資産をその日付から10.5年以内に取り崩せるようになります。

このため、今年度+1年の7月1日以降、償却領域01と02では、前の演習問題で使用した建物の償却キーをGR##からLINRに変更します。また、両方の領域で耐用年数を12年に変更します。



注意: ECC 6.04 以降では、(基本的に)時間依存(この例では将来的な年)となるように加えた変更は即座に資産マスタレコードの**償却領域タブページ**に表示されます。“期間照会”は、(現時点では) 債却領域の詳細画面でのみ使用することができます。

- 資産エクスプローラで資産を分析します。今年度+1年の計画償却額を確認します。その額は、(30,000ユーロとなっている)今年度の計画額よりも多く、今年度+1に続く年の計画額よりも小さくなっている必要があります。
- 新しい減価償却計算を有効にしなかった場合、資産の償却条件はどのようなものになりますか。

タスク 6:

オプション:以下のタスクを実行します。

- 今年度の1月15日付で、クラス3200の未転記のマスタレコードのいずれかに金額7,000ユーロの取得転記を実行します。

- 管理目的償却領域(償却領域20)の金額をチェックします。

特に、**取得価額と(管理目的)金利**、および次会計年度まで指數(指數集00070)の効果がないことによるこれらの金額の**今後の推移**を確認してください。今年度の1年後から再評価行に金額が表示され、取得価額が増加します。この**再取得価額**にもとづいて、今年度の1年後の計画通常償却が計算されます。

- 指數クラス3に新しい指數集AA##(=>##=グループ番号)を登録します。

今年度を評価キー数値100の基準年度とし、3年間にわたって毎年度10指數ポイントずつこの金額を減額します。必要に応じて、この期間の後に+5%のシミュレーション年率(105%)を使用することができます。

- 償却領域20の資産で、指數集00070を新しい指數集AA##に置き換えます。

次へ

続いて資産エクスプローラに戻り、新しい指数集が指定された明細で再評価が計算されているかどうかを確認します。

タスク 7:

会社コード AA## の前会計年度全体の減価償却を転記します。

- まず、会社コード AA## に必要なすべての カスタマイジング設定が行われていることを確認します。

使用するクライアントの有効な勘定割当オブジェクトとして、最低でも 原価センタ(KOSTL)と内部指図(CAUFN)が必要です。追加のオブジェクトも有効化されます。実際にそうなっていますか。



注意: このテーブル内のエントリは変更しないでください。

他のオブジェクトも有効になっている場合があります。



注意: これらの演習問題は、米国ではこの方法で行うことができません。必要な場合は、講師から詳細情報を入手してください。

- 管理目的償却領域では、管理目的償却(原価)を資産マスタレコードの該当する原価センタに転記します。

勘定割当オブジェクト 原価センタについて、(償却領域 20)の会社コード “AA##” に勘定割当タイプ(減価償却勘定割当)が設定されているかどうかをチェックします。

実際にこのようになることは通常ありません。そのため、対応するエントリを登録します。

- 会社コード AA## で償却記帳用に指定されている伝票タイプをチェックします。
- 減価償却を転記することになっている会社コードのすべての償却領域が、デフォルトで毎月減価償却を転記することを確認します。
- さらに、償却表 AA## の領域 20(管理目的)では減価償却とともに金利が転記される必要があります。
- 前会計年度の 1 月について、会社コード AA## に償却記帳プログラムのテスト実行を実行します。
資産一覧を選択します。計画金額と転記予定金額を示す列を比較します。
- 前会計年度全体の減価償却をシングルステップで入力する必要があります。

次へ

そのため、前会計年度全体についてさらに(臨時) テスト実行を実行します。テスト実行のログを分析し、1つ以上のシミュレーション FI 伝票に移動します。

伝票タイプは適切ですか。

8. 前会計年度全体について、会社コード AA## に更新実行を(バックグラウンドで) 実行します。

出力デバイスとしてプリンタ LP01 を入力します。“即座に” ジョブを開始してください。

タスク 8:

以下のタスクを実行します。

1. 転記した償却記帳のログ(プログラム RAPOST2001)を呼び出します。
もう一度すべての資産を照会することもできます。その場合は、必要に応じて転記済伝票を照会することもできます。
2. ログから、スケジュールマネージャのモニタに直接移動します。プログラムの開始時刻と終了時刻はいつになっていますか。

タスク 9:

以下のタスクを実行します。

1. 資産エクスプローラを呼び出し、例として機械 03(完全除却が指定された機械)を使用し、前会計年度の減価償却に“転記済”的フラグが設定されているかどうかを確認します。
2. 資産エクスプローラから、機械 03 の減価償却が入力/転記された、対応する FI 伝票番号を照会することができますか。

タスク 10:

オプション: 以下のタスクを実行します。

1. 傷却記帳プログラムを使用して、傷却領域 20 から WBS 要素に管理目的の傷却を割り当てることにしました。
資産マスターで WBS 要素特性を更新し、このオブジェクトに実際に減価償却を転記する前に、固定資産管理のカスタマイジングで行っておく必要がある 2 つの基本設定は何ですか。

解答 10: 評価と減価償却

タスク 1:

次のタスクを実行します。

- まず、通常償却を使用できる償却表 AA## の償却領域を IMG でチェックします。



ヒント: エントリは変更しないでください。

- 固定資産管理のカスタマイジングで、減価償却→通常償却→設定: 債却領域を選択します。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

- 今年度の1月1日付で、データがまだ転記されていないクラス 3000 のマスタレコード(器具備品)のいずれかに 12,000 ユーロを転記します。

- 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得→自動相殺仕訳のある取得を選択します。

問題文に従って、転記画面にデータを入力します。

- 資産エクスプローラを開始すると、償却領域 01 の償却キー LINR によって今年度の計画償却 4,000 が表示されます。これらが使用されていますか。

- 固定資産管理で、資産→資産エクスプローラを選択します。

解答: はい。償却額は 4,000 ユーロです。

- 変更モードで資産のマスタレコードに移動し、(少なくとも) 債却領域 01 と 02 の償却キーを LINR から LINK に変更します。変更を確定する前に、(償却領域 01 と 02 で) 耐用年数を 3 年から 2 年に縮小します。

変更を保存し、表示される警告メッセージをダブルクリックして呼び出して最後まで読んでください。

- 固定資産管理アプリケーションで、資産→変更→資産を選択します。

演習問題の説明に従って変更します。



注意: 警告メッセージを確認した後、変更内容を必ず保存してください。

次へ

4. 資産エクスプローラで計画帳簿償却を再度分析します。計画償却額は変更されていますか。計画償却額の計算を照会してください。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

解答: はい。変更されています。計画償却額は(現在はわずか)2年間にわたって毎年度 6,000 ユーロです。

5. 以前に呼び出された警告メッセージのテキストのいずれかに、“(1 対 1 の) 債却条件の取込”に関する状況が説明されています。

償却表 AA## のテーブルや制御オプションはカスタマイジングのどこにありますか。



注意: システムへの変更は行わないでください。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、評価 → 債却領域 → 定義: 債却条件のコピーを選択します。

タスク 3:



ヒント: SAP R/3 4.6 以降では、償却キーの内部計算キーが計算方法に置き換えられます。

SAP R/3 4.6 以降へのアップグレード後に“新しい” 債却キーを使用できるようにするには、ステータスを移行から有効に変更する必要があります(アップグレード時に自動的に変更されない場合)。

1. トレーニングシステムでは、すべての償却キーのステータスがすでに有効に設定されているはずです。

確認するには、償却表 AA## のカスタマイジング設定をもう一度参照します。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、減価償却 → 評価方法 → 債却キー → 更新: 債却キーを選択します。

2. このためのトランザクションコードは何ですか。

- a) **解答:** 該当するトランザクションの名称は AFAMA です。

タスク 4:

オプション(ただし、日々の業務では一般的な例): SAP ノート 328780 のセクションを(コース固有の一部の補足情報とともに)以下に示します。

1. SAP ノート 328780、ページ 1

次へ

番号	328780
バージョン	8 (09/01/08 付)
公開	02.09.2008
言語	JP
テキスト	減税に関するドイツの法律に従つた変更
責任者	P. Musterman
コンポーネント FI-AA	固定資産管理

テキスト(長)/現象: この減税に関するドイツの法律の施行では、以下の法案が複合資産の評価に関係します。

1.

2. 4% から 3% への会社資産の建物の定額法の減額

解答:

1.

2. リリース 4.6A 以降の手順: 債却キー GL20 をコピーして新しい債却キーを登録してください(たとえば、テキストをリニア構築 3%/グループ##とした GR ##など)。マルチレベル方法 007 を新しいマルチレベル方法 A##(##=各自のコンピュータ番号/テキスト: マルチレベル方法 A##/3%)に置き換えてください。値は以下のようになります。

取得年度	年度	期間	基準価額	パーセント
9999	999	12	01	3,0000

...

...

...

次へ

ここから、実際の演習問題となります。償却表 AA##について上記の“解答”を実装します。



ヒント: 新しいマルチレベル方法を登録する場合、**参照**を使用して既存の方法（マルチレベル方法 007など）をコピーし、そのコピーを変更することで、手順を簡単にすることができます。

- a) **償却キーのコピー:** 固定資産管理のカスタマイジングで、減価償却 → 評価方法 → 債却キー → 更新: 債却キーを選択します。
 - b) **マルチレベル方法のコピー:** 固定資産管理のカスタマイジングで、減価償却 → 評価方法 → 債却キー → 計算方法 → 定義: マルチレベル方法を選択します。
 - c) **新しい債務キーへの新しいマルチレベル方法の入力:** 固定資産管理のカスタマイジングで、減価償却 → 評価方法 → 債却キー → 更新: 債却キーを選択します。
2. (まだ転記されていない) **建物マスタレコード**(資産クラス 1100)のいずれかを検索し、そのマスタレコードを今年度の1月1日付、1,000,000ユーロで転記します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得を選択します。
3. 資産の計画償却額を分析します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。
4. 資産を有効化し、分析した後、債務領域 20 以外のすべての領域の**債務条件**を GD50 からこの演習問題のステップ 1 で生成した新しい債務キー (GR##) に変更します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 変更 → 資産を選択します。演習問題の説明に従って変更を加え、その内容を保存し、警告メッセージを確認します。
5. **資産エクスプローラ**で金額を再確認します。新しい債務キーによって金額が正しく計算されていますか。
- 現在、当期の計画償却額はいくらですか。
- 債務領域 01 の資産が完全に取り崩されるのはいつですか。
- a) 固定資産管理で、資産 → 資産エクスプローラを選択します。
- 解答:** 年間計画償却額は 30,000 ユーロです。領域 01 の資産は、今年度 + 33 年で完全に取り崩されます。

次へ

タスク 5:

これはオプションであり、前の演習問題を完了している場合にのみ意味を持ちます。時間依存の償却パラメータのトピックで以下のタスクを解決してください。

1. **例外:** 議会は(財政危機などのために)再度方針転換を図りました。今年度+1年の7月1日以降、(すでに有効化した資産を含め)あらゆる資産をその日付から10.5年以内に取り崩せるようになります。

このため、今年度+1年の7月1日以降、償却領域01と02では、前の演習問題で使用した建物の償却キーをGR##からLNRに変更します。また、両方の領域で耐用年数を12年に変更します。



注意: ECC 6.04 以降では、(基本的に) 時間依存(この例では将来の年)となるように加えた変更は即座に資産マスタレコードの**償却領域タブページ**に表示されます。“期間照会”は、(現時点では) 債却領域の詳細画面でのみ使用することができます。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→変更→資産を選択します。

評価タブページを選択し、それをダブルクリックして、まず償却領域01を選択します。

追加間隔ボタンを選択します。

次に、間隔追加ボタンを選択します。(演習問題の説明に従った)新しい間隔は今年度+1年の7月1日が起点となります。演習問題の説明に従って、新しい期間の償却条件に変更を加えます。

領域01で新しい期間を登録した後、償却領域02にも同じ変更を加えます。

データを保存します。

2. 資産エクスプローラで資産を分析します。今年度+1年の計画償却額を確認します。その額は、(30,000ユーロとなっている) 今年度の計画額よりも多く、今年度+1に続く年の計画額よりも小さくなっている必要があります。

- a) 固定資産管理で、資産→資産エクスプローラを選択します。比較タブページに移動します。

次へ

3. 新しい減価償却計算を有効にしなかった場合、資産の償却条件はどのようなものになりますか。
- a) 任意のセッションで、左上のコマンドフィールドにトランザクションコード /oAW01_AFAR を入力します。

警告メッセージを表示するダイアログボックスを確認し、以下の注記を参照してください。



ヒント: 警告メッセージは、(旧減価償却ロジックでは) **今年度の締め処理を行っていないため、今年度が再び計算されている**ということを伝えています。

警告メッセージを確認した後、新しいセッションには(今年度の)計画償却額が表示されますが、その額は依然として **新しいロジック** で計算したものとなっています。

そのため、**償却再計算**ボタンを選択し、**旧ロジック**で計算すると計画償却額がどのように変わるかを確認します。

資産エクスプローラの**比較タブ**ページを呼び出すと、**旧ロジック**で計算した資産の耐用年数の年度がすべて表示されます。

タスク 6:

オプション: 以下のタスクを実行します。

1. **今年度の 1 月 15 日付**で、**クラス 3200** の未転記のマスタレコードのいずれかに金額 **7,000 ヨーロ** の取得転記を実行します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、**記帳 → 取得 → 外部からの取得 → 自動相殺仕訳のある取得**を選択します。タスクの説明に従って取得を転記します。
2. **管理目的償却領域 (償却領域 20)** の金額をチェックします。
特に、**取得価額と(管理目的)金利**、および次会計年度まで指標(指標集 00070)の効果がないことによるこれらの金額の**今後の推移**を確認してください。今年度の 1 年後から**再評価**行に金額が表示され、取得価額が増加します。この**再取得価額**にもとづいて、今年度の 1 年後の計画通常償却が計算されます。
 - a) 固定資産管理で、**資産 → 資産エクスプローラ**を選択します。領域 20 を選択してから、**比較タブ**ページに移動します。
3. **指標クラス 3** に新しい**指標集 AA##** ($\Rightarrow \#$ = グループ番号) を登録します。

次へ

今年度を評価キー数値 100 の基準年度とし、3 年間にわたって毎年度 10 指数ポイントずつこの金額を減額します。必要に応じて、この期間の後に +5% のシミュレーション年率 (105%) を使用することができます。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、特別評価 → 固定資産の再評価 → 指数化された再取得価額 → 定義: 指数集を選択します。
演習問題の説明に従って新しい指数集を登録します。
4. 債却領域 20 の資産で、指数集 00070 を新しい指数集 AA## に置き換えます。
続いて資産エクスプローラに戻り、新しい指数集が指定された明細で再評価が計算されているかどうかを確認します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 変更 → 資産を選択します。評価タブページに移動し、演習問題の説明に従って変更を加えます。
 - b) 次に、資産エクスプローラを呼び出します。固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。

タスク 7:

会社コード AA## の前会計年度全体の減価償却を転記します。

1. まず、会社コード AA## に必要なすべての カスタマイジング設定が行われていることを確認します。
使用するクライアントの有効な勘定割当オブジェクトとして、最低でも原価センタ(KOSTL)と内部指図(CAUFN)が必要です。追加のオブジェクトも有効化されます。実際にそうなっていますか。



注意: このテーブル内のエントリは変更しないでください。

他のオブジェクトも有効になっている場合があります。



注意: これらの演習問題は、米国ではこの方法で行うことができません。必要な場合は、講師から詳細情報を入手してください。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 有効化: 勘定割当対象を選択します。
2. 管理目的償却領域では、管理目的償却(原価)を資産マスタレコードの該当する原価センタに転記します。
勘定割当オブジェクト 原価センタについて、(償却領域 20)の会社コード “AA##” に勘定割当タイプ(減価償却勘定割当)が設定されているかどうかをチェックします。

次へ

実際にこのようになることは通常ありません。そのため、対応するエントリを登録します。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 指定: 勘定割当対象の勘定割当タイプを選択します。

テーブルで、会社コード AA# を選択します。

ダイアログボックスで、償却領域をダブルクリックして選択します。

テーブルで、償却領域 20 (管理目的) を選択します。

ダイアログボックスで、勘定割当オブジェクトをダブルクリックして選択します。

新規エントリを選択し、以下のエントリを登録します。

勘定割当対象:	KOSTL / 原価センタ
取引タイプ:	*
勘定割当タイプ:	償却記帳
チェックボックス 勘定割当:	選択

データを保存します。

3. 会社コード AA## で償却記帳用に指定されている伝票タイプをチェックします。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への償却額転記 → 定義: 債却転記の伝票タイプを選択します。

アクティビティ選択ダイアログボックスで、定義: 債却転記の伝票タイプを選択します。

解答: 伝票タイプ AF が指定されています。

4. 減価償却を転記することになっている会社コードのすべての償却領域が、デフォルトで毎月減価償却を転記することを確認します。

- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への償却額転記 → 定義: 周期/転記ルールを選択します。

テーブルで、会社コード AA# を選択します。

ダイアログボックスで、記帳ルールをダブルクリックして選択します。

これらの領域では毎月転記を実施する必要があるため、領域 01 または 20、あるいはその両方をダブルクリックします。

次へ

5. さらに、償却表 AA## の領域 20 (管理目的) では減価償却とともに金利が転記される必要があります。
- a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合→総勘定元帳への償却額転記→定義: 周期/転記ルールを選択します。
テーブルで、会社コード AA# を選択します。
ダイアログボックスで、記帳ルールをダブルクリックして選択します。
償却領域 20 をダブルクリックします。
項目グループ その他記帳設定で、金利転記区分を設定します。
エントリを保存します。
6. 前会計年度の 1 月について、会社コード AA## に償却記帳プログラムのテスト実行を実行します。
- 資産一覧を選択します。計画金額と転記予定金額を示す列を比較します。
- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理→償却記帳→実行を選択します。
以下のデータを入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	AA##
会計年度	前年度: CY-1
会計期間	01
計画転記実行ラジオボタン	設定
資産一覧区分	設定
テスト実行区分	設定

- メニューオプションプログラム→実行を選択します。
ダイアログボックスを確認します。
7. 前会計年度全体の減価償却をシングルステップで入力する必要があります。
- そのため、前会計年度全体についてさらに(臨時) テスト実行を実行します。テスト実行のログを分析し、1つ以上のシミュレーション FI 伝票に移動します。

次へ

伝票タイプは適切ですか。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理→償却記帳→実行を選択します。

今度は、以下のデータを使用します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	AA##
会計年度	前会計年度: CY-1
会計期間	12
臨時転記実行ラジオボタン	設定
資産一覧区分	設定
テスト実行区分	設定

メニューから、プログラム→実行を選択します。

ダイアログボックスを確認します。

8. 前会計年度全体について、会社コード AA## に更新実行を(バックグラウンドで)実行します。

次へ

出力デバイスとしてプリンタ LP01 を入力します。“即座に”ジョブを開始してください。

- a) RAPOST2000 のプログラム画面で以下のように値を入力します。

項目名またはデータ型	値
会社コード	AA##
会計年度	前会計年度: CY-1
会計期間	12
臨時転記実行ラジオボタン	設定
資産一覧区分	設定
テスト実行区分	設定しない

メニューから、プログラム → バックグラウンドで実行を選択します。

バックグラウンド印刷パラメータダイアログボックスで、出力デバイスとして LP01 を入力します。

続行を選択して確認します。

開始時刻値ダイアログボックスで、即時を選択します。

保存します。

タスク 8:

以下のタスクを実行します。

1. 転記した償却記帳のログ (プログラム RAPOST2001) を呼び出します。
もう一度すべての資産を照会することもできます。その場合は、必要に応じて転記済伝票を照会することもできます。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理 → 債却記帳 → ログ照会を選択します。
自分の会社コード、前会計年度、および期間 12 に関するレポートを実行します。
参照伝票列に表示されている数字のいずれかをクリックすると、FI 伝票および原価計算伝票に移動することができます。
2. ログから、スケジュールマネージャのモニタに直接移動します。プログラムの開始時刻と終了時刻はいつになっていますか。
 - a) このタスクの先頭部分 (ログの呼出) を完了した後、会社コード AA## の償却記帳ログ画面でスケジュールマネージャのログボタンを選択します。

次へ

タスク 9:

以下のタスクを実行します。

1. **資産エクスプローラ**を呼び出し、例として機械 03 (完全除却が指定された機械)を使用し、前会計年度の減価償却に“転記済”のフラグが設定されているかどうかを確認します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、資産 → 資産エクスプローラを選択します。
F4 ヘルプを使用して機械 03 を選択します。
前会計年度の金額を照会します。
記帳額タブページを選択します。
2. 資産エクスプローラから、機械 03 の減価償却が入力/転記された、対応する FI 伝票番号を照会することができますか。
 - a) 解答: はい。その方法として、転記済期間を表示している行を選択します。
償却ログ照会ボタンを選択します。

タスク 10:

オプション: 以下のタスクを実行します。

1. 債却記帳プログラムを使用して、債却領域 20 から **WBS 要素**に管理目的債却を割り当てることにしました。
資産マスタレコードで **WBS 要素**特性を更新し、このオブジェクトに実際に減価償却を転記する前に、固定資産管理のカスタマイジングで行っておく必要がある 2 つの基本設定は何ですか。
 - a) まず、勘定割当オブジェクト **WBS 要素 (PS_PSP_PNR2)** を有効化する必要があります。固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 有効化: 勘定割当対象を選択します。
 - b) 次に、会社コード AA## および債却領域 20 の勘定割当タイプ 債却記帳に対して、この勘定割当オブジェクトを定義/有効化する必要があります。固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 追加勘定割当対象 → 指定: 勘定割当対象の勘定割当タイプを選択します。説明に従って対応するエンティリを登録します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 債却領域の詳細な分析および債却領域の設定
- ... 債却キーの構造および仕組みの説明および理解
- ... 債却額の(新しい)計算の理解、および時間依存債却条件のオプションについての説明
- ... 減価償却の転記および債却額の分析

レッスン: 固定資産管理での会計年度変更と年度末処理

レッスンの概要

固定資産管理での会計年度変更と年度末処理プログラム
「独自の」



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- … (固定資産管理の) 会計年度変更および年度末処理のプログラムの実行

ビジネスシナリオ

これまでに資産の登録、転記、および償却が完了しました。次は、年度末処理で固定資産管理部門を支援する必要があります。

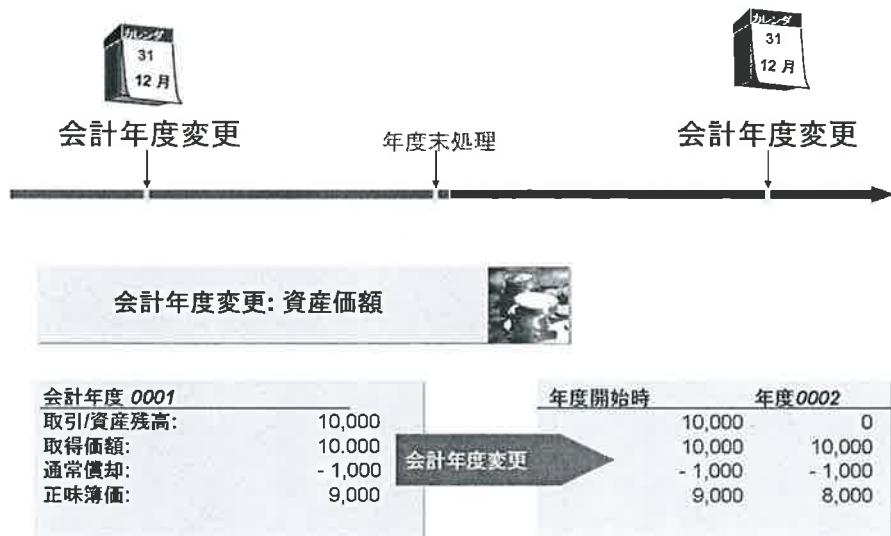


図 73: (固定資産管理の) 会計年度変更

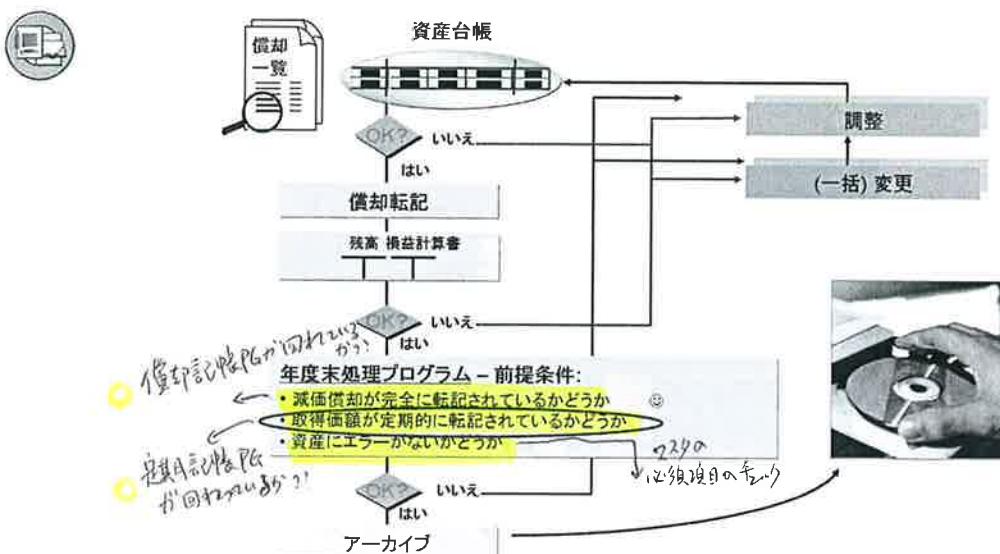
会計年度変更 Trcd: AJRW
新しい年度をオフンし、
昨年の残高などを繰り越す処理

年度末処理
前年度の合計取引をクローズする処理

会計年度変更プログラムによって、各資産の新しい当期値項目がオープンします。

- （本稼動システムで）このプログラムを起動できるのは最も早くても、今年度の最後の会計期間中です。
- 年度変更プログラムは会社コード全体に対して実行する必要があります。会社コード毎に
- 前会計年度の取引をすでにクローズしている場合にのみ、次の会計年度の会計年度変更を処理することができます。

会計年度変更プログラムと会計管理目的の年度末処理（プログラム）を混同しないでください。



(固定資産管理の) 年度末処理 - 準備

- 償却一覧と資産台帳のチェックが完了したら、減価償却を転記します。
- 領域が総勘定元帳に定期的に資産残高を転記する場合は、(更新実行で少なくとも1回は)定期的な資産残高転記に関するレポート (RAPERB2000) を開始する必要があります。
- 最終的な結果が適切でない場合は、償却シミュレーション、(一括)変更、または調整転記を実行することができます。
- 償却額を変更した場合は、償却記帳を再度実行する必要があります。

年度末処理プログラム (RAJABS00) では、以下の点がチェックされます。

- ... 減価償却および資産残高が全額転記されているかどうか
- ... 資産にエラーがないかどうか、資産が不完全でないかどうか

プログラムでエラーが見つからなければ、(各償却領域の)最後の決算会計年度が更新されます。また、レポートによって、資産領域からの転記を防ぐために、すべての決算会計年度がロックされます。

その後で決算会計年度を再オープンした場合、再度ロックするには、年度末処理プログラム **RAJABS00** を再実行する必要があります。

年度末処理プログラムにアクセスするには、固定資産管理アプリケーションで定期処理 → 年度末処理 → 実行を選択します。



リリース 4.7 以前: プログラム **RAPERB00** を使用して、定期転記領域から資産残高を入力することができます。 **RAPERB00** により、取得価額転記票が期間指定ベースでバッチインプットセッションに登録されます。その後で、このセッションを実行する必要があります。

リリース 4.7 拡張 1.10 または ECC 5.0 以降のオプション: プログラム **RAPERB2000** – プログラムをセッションなしで起動すると、資産残高が即座に(グループ)貸借対照表勘定に転記されます。

条件: 内部番号割当を使用する伝票タイプを定義し、会社コードごとにその伝票タイプを割り当てる必要があります。これにより、この伝票タイプの定期取得価額伝票が登録されます。

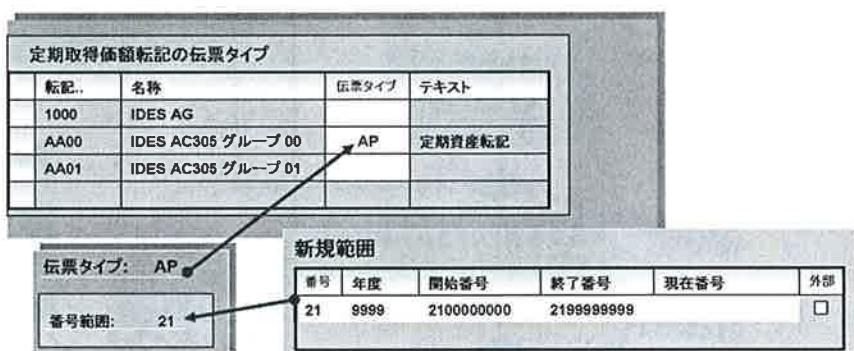


図 75: 定期取得価額転記のオプション

プログラム **RAPERB2000** を使用するための設定:

- (新規) 伝票タイプの定義:** 固定資産管理のカスタマイジング(またはFIのカスタマイジング)で、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への償却額転記 → 定義: 債却転記の伝票タイプ → 定義: 伝票タイプを選択します。伝票タイプには **AP** というような名称を付けることができます。
- 番号範囲間隔の登録:** 伝票タイプの定義から、番号範囲情報機能を選択して、番号範囲間隔の更新に直接ジャンプし、(単に)新規に間隔を登録します。このコンテキストでは、SAP ノート 890976 を参照してください。
- 会社コードに対する新規伝票タイプの登録:** 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への定期的な取得価額転記 → 指定: 資産価額定期記帳の伝票タイプを選択します。

プログラム **RAPERB2000** の開始: 固定資産管理アプリケーションメニューで、定期処理 → 定期記帳を選択します。

追加データ: SAP ERP の拡張 1.10 を使用してプログラム RAPERB2000 を実行します。固定資産管理アプリケーションメニューで、定期処理 → 定期記帳(新規)を選択します。

- テスト実行を実施すると、(ALV 形式の) 包括的なログが提供されます。ログから伝票のシミュレーションに直接アクセスすることができます。

演習問題 11: (固定資産管理の) 年度末処理

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... 固定資産管理の年度末処理プログラムのロジックの理解およびプログラムの実行
- ... 定期記帳プログラムの設定および実行

ビジネスシナリオ

数多くのイニシャルテストが完了しました。これまでに資産の登録、転記、および償却が完了しました。次は、年度末処理で固定資産管理部門を支援する必要があります。

タスク:

これまでの演習問題の一部を前会計年度に転記できるように、会社コード AA##における前会計年度の FI-AA コンポーネントの年度末処理が講師によってリセットされています。

会社コード AA##における前会計年度の年度末処理を実行する必要があります。

- 前会計年度(今年度 - 1年)の会社コード AA##に対して年度末処理プログラムのテスト実行を開始します。

どのようなことがわかりますか。

- 年度末処理を会社コード AA##で実行できるのは、転記する(定期)取引が残っていないことがシステムで確認された場合に限られるため、定期記帳プログラムを(更新実行として)開始する必要があります。

この目的に使用するプログラムが(リリース 4.7 拡張 1.10 以降では) RAPERB2000 です。

このプログラムはすぐに実行することができません。その前に、システム設定を行っておく必要があります。プログラム RAPERB2000 を実行しようとすると、別のエラーメッセージが表示されます。

- (FI) カスタマイジングに移動し、新しい伝票タイプ ##(## は各自のグループ番号)を定期記帳##という名称で登録します。テンプレートとして伝票タイプ SA を使用してください。使用することができない場合は、当面他のエントリを変更する必要はありません。

- 新規番号範囲間隔の登録: 次に、ダブルクリックして新しい伝票タイプ ##の詳細画面に戻ります。番号範囲管理に移動し、会社コード AA##の新しい番号範囲間隔 21 を登録します。

次へ

年度 9999 に有効と入力し、21 000 000 00 から 21 999 999 99 の伝票番号を割り当てます。



ヒント: SAP ERP では、間隔には内部番号割当が必要となります。
保存します。

5. 伝票タイプ ## の詳細画面に戻り(2 度目)、入力項目 番号範囲に新しい番号範囲間隔 21 を入力します。- テンプレートからの間隔 01 は引き続き表示されます。
6. 固定資産管理のカスタマイジングで、会社コード AA## に新しい伝票タイプ ##、つまり定期記帳を入力します。
7. 会社コード AA## のテスト実行で定期記帳プログラム RAPERB2000 を(再度)起動します。
8. RAPERB2000 のテスト実行で転記する伝票もない場合は、更新実行を開始する必要があります。バックグラウンド処理用に、プリンタ LP01 を選択し、即座に開始します。
9. (テスト実行) 会社コード AA## に対して(前会計年度の) 年度末処理が可能であるかどうかを再確認することができますか。
テスト実行でエラーが表示されなくなった場合は、更新実行を開始します。
10. 関連する取引で、前会計年度が会社コード AA## の“最後の決算会計年度”として入力されているかどうかをチェックします。

解答 11: (固定資産管理の) 年度末処理

タスク:

これまでの演習問題の一部を前会計年度に転記できるように、会社コード *AA##* における前会計年度の FI-AA コンポーネントの年度末処理が講師によってリセットされています。

会社コード *AA##* における前会計年度の年度末処理を実行する必要があります。

1. 前会計年度(今年度 - 1年)の会社コード *AA##* に対して年度末処理プログラムのテスト実行を開始します。

どのようなことがわかりますか。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理 → 年度末処理 → 実行を選択します。

説明に従ってデータを入力し、資産クラス建設仮勘定の入力項目を空白のままにしておきます。

メニューから、プログラム → 実行を選択します。表示されるメッセージを確認します。

注記: すべての取引が(定期的に)転記されたものではない可能性があるため、年度末処理を実行することができません。

2. 年度末処理を会社コード *AA##* で実行できるのは、転記する(定期)取引が残っていないことがシステムで確認された場合に限られるため、定期記帳プログラムを(更新実行として)開始する必要があります。

この目的に使用するプログラムが(リリース 4.7 拡張 1.10 以降では) *RAPERB2000* です。

このプログラムはすぐに実行することができません。その前に、システム設定を行っておく必要があります。プログラム *RAPERB2000* を実行しようとすると、別のエラーメッセージが表示されます。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理 → 定期記帳を選択します。テスト実行で会社コード *AA##* のプログラムを起動しようとすると、エラーメッセージが出力されます。

次へ

3. (FI) カスタマイジングに移動し、新しい伝票タイプ ##(## は各自のグループ番号) を定期記帳 ##という名称で登録します。テンプレートとして伝票タイプ SA を使用してください。使用することができない場合は、当面他のエントリを変更する必要はありません。
 - a) 財務会計(新規) のカスタマイジングで、財務会計共通設定(新規) → 伝票 → 伝票タイプ → 定義: 入力ビューの伝票タイプを選択します。
テーブルで、エントリ SA を選択し、(別名) コピー... を選択します。
この SA エントリを 2 文字のグループ/コンピュータ番号 ## で上書きし、Enter を選択してデータを確定します。
次に、上書きを選択し、伝票タイプ ## の名称を G/L 勘定伝票から定期記帳 ## に変更します。
保存します。
4. 新規番号範囲間隔の登録: 次に、ダブルクリックして新しい伝票タイプ ## の詳細画面に戻ります。番号範囲管理に移動し、会社コード AA## の新しい番号範囲間隔 21 を登録します。
年度 9999 に有効と入力し、21 000 000 00 から 21 999 999 99 の伝票番号を割り当てます。



ヒント: SAP ERP では、間隔には内部番号割当が必要となります。

次へ

保存します。

- a) 財務会計(新規)のカスタマイジングで、財務会計共通設定(新規)→伝票→伝票タイプ→定義: 入力ビューの伝票タイプを選択します。

伝票タイプ##をダブルクリックして選択します。

詳細画面で、(大きく広範な)番号範囲情報押ボタンを選択します。

会社コードAA##を対応する項目に入力し、メニューバーから間隔→変更を選択します。

次に、メニューバーから編集→間隔挿入を選択し、以下の値を入力します。

項目名またはデータ型	値
番号	21
年度	9999
開始番号	21,000,000 00 (スペースなしで入力してください)
終了番号	21,999,999 99 (スペースなしで入力してください)
外部番号割当	チェックマークを設定しない

エントリを確認し、保存します。

番号範囲間隔の移送に関する情報メッセージを確認します。

5. 伝票タイプ##の詳細画面に戻り(2度目)、入力項目番号範囲に新しい番号範囲間隔21を入力します。-テンプレートからの間隔01は引き続き表示されます。

- a) 財務会計(新規)のカスタマイジングで、財務会計共通設定(新規)→伝票→伝票タイプ→定義: 入力ビューの伝票タイプを選択します。

伝票タイプ##をダブルクリックして選択します。

項目番号範囲のエントリを01から21に変更します。

エントリを保存します。

オプション: 必要に応じて、取消伝票タイプをABから新規伝票タイプ##に変更することもできます。

保存します。

次へ

6. 固定資産管理のカスタマイジングで、会社コード AA## に新しい伝票タイプ ##、つまり定期記帳を入力します。
 - a) 固定資産管理のカスタマイジングで、総勘定元帳との統合 → 総勘定元帳への定期的な取得価額転記 → 指定: 資産価額定期記帳の伝票タイプを選択します。
会社コードを選択し、新規伝票タイプ ## を入力します。
保存します。
7. 会社コード AA## のテスト実行で定期記帳プログラム RAPERB2000 を(再度)起動します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理 → 定期記帳を選択します。
入力テンプレートにはすでに値が正しく入力されています - プログラムを実行し、情報メッセージを確認します。
結果: 通常、入力する伝票はありません。
8. RAPERB2000 のテスト実行で転記する伝票もない場合は、更新実行を開始する必要があります。バックグラウンド処理用に、プリンタ LP01 を選択し、即座に開始します。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理 → 定期記帳を選択します。
テスト実行のチェックマークを選択解除し、メニューからプログラム → バックグラウンドで実行を選択します。
プリンタ名 LP01 を入力し、続行を選択します。
即時を選択してジョブの開始日を選択し、保存を選択します。
9. (テスト実行の)会社コード AA## に対して(前会計年度の)年度末処理が可能であるかどうかを再確認することができますか。

次へ

テスト実行でエラーが表示されなくなった場合は、更新実行を開始します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理→年度末処理→実行を選択します。

説明に従ってデータを入力し、資産クラス建設仮勘定の入力項目を空白のままにしておきます。

テスト実行の場合、まずメニューバーからプログラム→実行を選択します。

更新実行： テスト実行のチェックマークを選択解除し、メニューからプログラム→バックグラウンドで実行を選択します。

プリント名 LP01 を入力し、続行を選択します。

即時を選択してジョブの開始日を選択し、保存を選択します。

10. 関連する取引で、前会計年度が会社コード AA## の“最後の決算会計年度”として入力されているかどうかをチェックします。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、定期処理→年度末処理→元に戻す→会社コード全体を選択します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- … (固定資産管理の)会計年度変更および年度末処理のプログラムの実行



章のまとめ

以下について学習しました。

- ... 償却領域の詳細な分析および償却領域の設定
- ... 償却キーの構造および仕組みの説明および理解
- ... 償却額の(新しい)計算の理解、および時間依存償却条件のオプションについての説明
- ... 減価償却の転記および償却額の分析
- ... (固定資産管理の)会計年度変更および年度末処理のプログラムの実行

5 章

情報システム

章の概要

情報管理の章では、FI-AA 情報管理の一部の標準レポートについて概要を説明します。資産台帳は、非常に重要なレポート/プログラムです。また、資産価額および償却パラメータのシミュレーションのトピックについても説明します。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ... さまざまな固定資産管理レポートの選択と実行
- ... 資産レポートのさまざまなソートと合計の設定
- ... 資産エクスプローラからの資産の償却(または取引、あるいはその両方の)予測の生成
- ... プログラム RASIMU02 による各種資産の償却予測の生成
- ... 資産台帳の実行
- ... 資産台帳のレイアウトについての理解
- ... 必要に応じた独自の資産台帳の設定

章の内容

レッスン: レポート選択	222
演習問題 12: レポート選択	225
レッスン: 金額シミュレーション	230
演習問題 13: 金額シミュレーション	233
レッスン: 資産台帳	242
演習問題 14: 資産台帳	245

レッスン: レポート選択

レッスンの概要

(固定資産関連)

このレッスンでは、SAP リストビューアおよびソート基準を含む、レポート選択について説明します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... さまざまな固定資産管理レポートの選択と実行
- ... 資産レポートのさまざまなソートと合計の設定

ビジネスシナリオ

年度末処理の準備についてプロジェクトチームと話し合っているときに、決算処理を行う前に資産の一覧を調整できるかどうかを財務会計の同僚が質問しました。SAP 標準システムには、さまざまなレポートがいくつか含まれています。

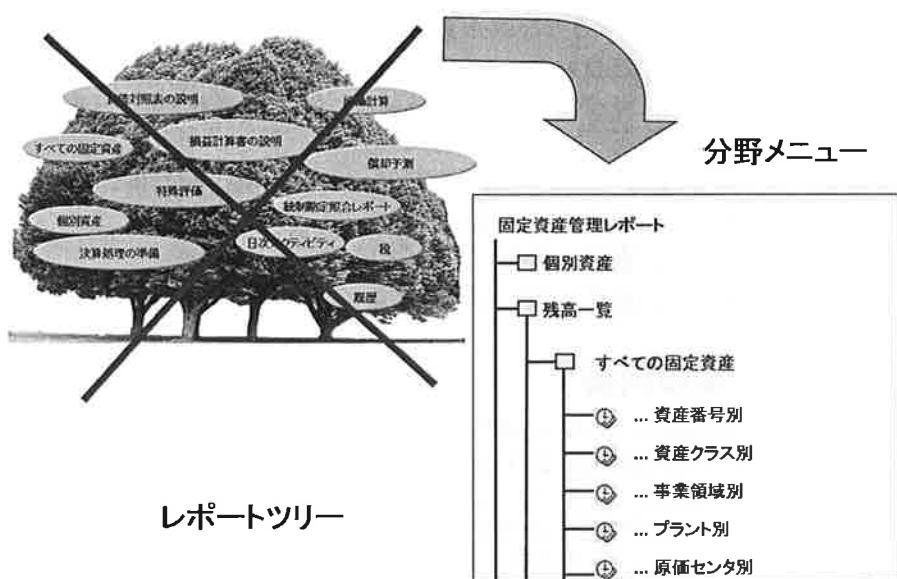


図 76: レポートツリーと分野メニュー

リリース 4.5までは、固定資産管理の標準レポート(および他のコンポーネントのレポート)は、1つのレポートツリーに含まれており、このツリーは固定資産管理のカスタマイジングに格納されていました。

レポートツリーはその後、分野メニューに置き換わりました。レポートの分野メニューは、*FIAA 固定資産管理情報管理*と呼ばれます。

この分野メニューは、*固定資産管理の分野メニュー (ASMN)* に埋め込まれています。→ *おもろいなまに(?)えさしにメニュー*

分野メニューは、分野メニュー更新 (トランザクション SE43) で照会および変更することができます。



- 利点:
- 列の表示/非表示
- ダブルクリックまたはマウスのドラッグによる列の書式設定
- フィルタ
- ソート
- 集計と小計の有効化
- 階層レベルの展開/圧縮
- クライアントおよびユーザ依存設定の保存 (表示パリヤント)
- テーブル計算におけるエクスポート機能 (=> ALV グリッドコントロール使用時の組込機能)
- 比較的簡単な資産レポートの追加項目表示 (=> ノート 335 065)

第6章から詳説

図 77: SAP リストビューア

リリース 4.6 から、資産レポートでは SAP リストビューア (ALV) が使用されます。このツールは、SAP システムにおけるレポート使用の標準化と簡略化のために使用されています。

グラフィック設計が新しくなり、これにより、ALV グリッドコントロールを使用して一覧やレポートの処理と照会を簡単に行うことができるようになっています。

リストビューアの重要な機能:

- 列の削除と挿入
- 昇順または降順による列内の値の整列
- 一覧内の 1 つ以上の列の合計や小計の計算
- 個々のレポート構造を保存したレイアウトの再利用
- フィルタの設定: 特定の基準を満たす行のみが表示されるように選択することができます。
- FI-AA で、“FIAA_SALVTAB_* 構造”を使用して、ALV レポートに任意の数の入力項目を追加することができます。

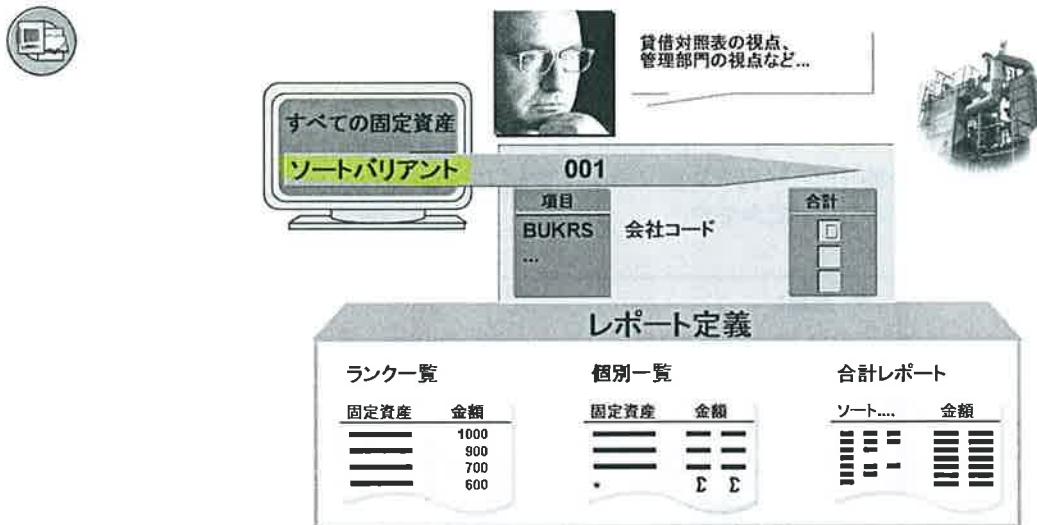


図 78: ソート基準

自由に定義可能なソート基準を使用してすべてのレポートでさまざまな方法でデータをソート/合計することができます。

ソートバリエントは、ABAP ディクショナリの項目で設定される最大 5 つのソートレベルで構成されています。

レポートでは、ソートレベルごとに合計を出力することができます。場合によっては、統計を出力することもできます。

- 合計列では、合計を出力するレベルを指定することができます。
- 統計区分を選択すると、グループレベルの合計のより詳細なブレークダウンを一覧で照会することができます。

ソートバリエントは、すべての FI-AA レポート/プログラムで使用することができます。

演習問題 12: レポート選択

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... レポートの実行
- ... ソートバージョンの使用
- ... 一覧内でのナビゲーション

ビジネスシナリオ

管理会計部門が固定資産管理部門に対して、原価センタにもとづいてソートされ、合計された転記済資産の一覧を提供するように依頼しています。

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

- 管理会計部門では、原価センタにもとづいてソートされ、合計された、会社コード AA## のすべての(転記済)資産の一覧を希望しています。このため、該当するソートバリエントを使用して、資産レポート(プログラム RABEST_ALV01)を開始する必要があります。
- オプション: “SAP メール”を使用して、前または後ろに座っているユーザにこの一覧を送信します。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

- 会社コード AA## の資産レポートを変更して、会社コードの資産が取得価額にもとづいて降順に表示されるようにします。
- (ユーザ固有の) 表示バリエント/(ユーザ固有の) レイアウトにこれらの設定を保存し、そのバリエントを再度呼び出します。

タスク 3:

次のタスクを実行します。

- ここで、動的選択機能をテストします。会社コード AA## で、テキストマスターデータ項目にグループ番号 ## を含む全(転記済)資産を検索します。

解答 12: レポート選択

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 管理会計部門では、原価センタにもとづいてソートされ、合計された、会社コード AA## のすべての(転記済)資産の一覧を希望しています。このため、該当するソートバリエントを使用して、資産レポート(プログラム RABEST_ALV01)を開始する必要があります。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → 固定資産管理レポート → 資産残高 → 残高一覧 → 資産残高 → ... 資産番号別を選択します。

以下の値を入力します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
レポート日付	今年度の 12 月 31 日
ソートバージョン	0014
資産一覧	選択

メニューから、プログラム → 実行を選択します。

2. オプション: “SAP メール”を使用して、前または後ろに座っているユーザーにこの一覧を送信します。
 - a) 演習問題 1 は終了していますか。はい。

次に、一覧 → メール受信者メニューバーを選択します。
 該当するユーザ名(通常は、AC305-##)を受信者として入力します。
 文書 → 送信メニューバーを選択します。

次へ

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

1. 会社コード AA## の資産レポートを変更して、会社コードの資産が取得価額にもとづいて降順に表示されるようにします。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → 固定資産管理レポート → 資産残高 → 残高一覧 → 資産残高 → ... 資産番号別を選択します。

以下の値を入力します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
レポート日付	今年度の 12 月 31 日
ソートバージョン	0013
資産一覧	設定

メニューから、プログラム → 実行を選択します。

取得価額列を選択します。

降順ソートボタンを選択します。

2. (ユーザ固有の) 表示バリアント/(ユーザ固有の) レイアウトにこれらの設定を保存し、そのバリアントを再度呼び出します。

- a) 演習問題 1 は終了していますか。はい。

設定 → レイアウト → 保存メニューバーを選択します。

バリアントの名称(たとえば、グループ番号である VAR##)を指定し、ユーザ固有区分を設定します。

バリアントを再度呼び出すには、まず、レポートを呼び出す必要があります。

設定 → レイアウト → 選択メニューバーを選択します。

バリアント VAR## をマウスクリックで選択します。

次へ

タスク 3:

次のタスクを実行します。

- ここで、動的選択機能をテストします。会社コード AA##で、テキストマスターデータ項目にグループ番号 ##を含む全(転記済)資産を検索します。

- これを実行する最善の方法は、資産一覧を使用する方法です。
固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → 固定資産管理レポート → 資産残高 → 残高一覧 → 資産残高 → ... 資産番号別を選択します。

以下の値を入力します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
レポート日付	今年度の 12 月 31 日
ソートバージョン	0013
資産一覧	設定

このプログラムはまだ実行しないでください。

編集 → 動的選択メニューバーを選択します。

表示される“フレーム”で、一般データフォルダを開きます。

テキストをダブルクリックします。

画面の“右側”で、項目 テキストに *##* と入力します。

メニューから、プログラム → 実行を選択します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... さまざまな固定資産管理レポートの選択と実行
- ... 資産レポートのさまざまなソートと合計の設定

レッスン: 金額シミュレーション

レッスンの概要

減価償却および取引のシミュレーション



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 資産エクスプローラからの資産の償却(または取引、あるいはその両方の)予測の生成
- ... プログラム RASIMU02 による各種資産の償却予測の生成

ビジネスシナリオ

年度末処理の準備についてプロジェクトチームと話し合っているときに、決算処理を行う前に貸借対照表方針の目標に合わせて資産一覧を調整することができるかどうかを財務会計の同僚が質問しました。

FI-AA 情報管理を調べ、固定資産のさまざまな評価をシミュレートする機能とプログラムを確認します。

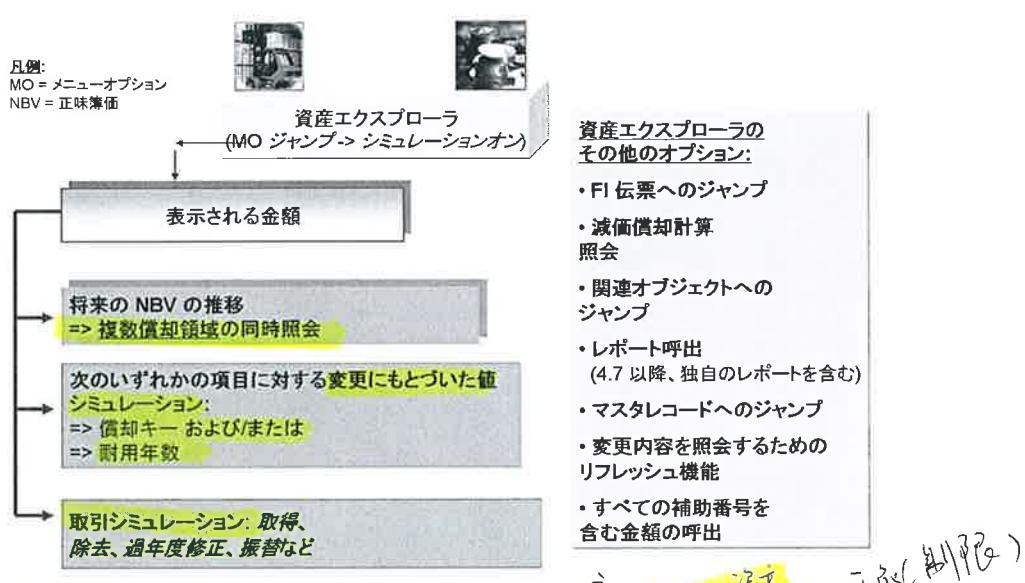


図 79: 資産エクスプローラによるシミュレーション

資産エクスプローラには、個々の資産マスタレコードを評価するための幅広い機能が用意されています。

補助番号項目にアスタリスク “*” を入力すると、資産番号とその資産番号に属する補助番号をまとめたレポートを依頼することもできます。

システムで減価償却計算の詳細表示を照会するには、償却計算照会機能を選択します。

記帳額タブページには、会計年度の計画データだけでなく、それまでに実際に転記されている金額も表示されます。

SAP R/3 4.7 以降では、資産エクスプローラを使用して、取引シミュレーションや償却シミュレーションを元に個々の資産の金額の推移を見ることができます。

資産エクスプローラから、その他のさまざまな資産レポートを開始することができます。リリース 4.7 以降では、これらのレポートに対して独自のレポートバリエントを登録することができます。登録するには、メニュー バージャンプ → レポート更新を選択します。

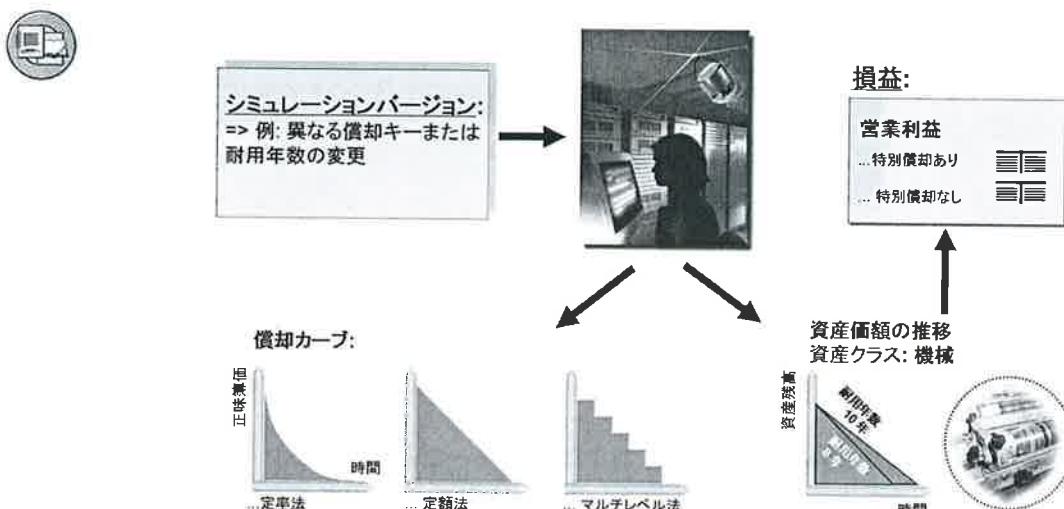


図 80: 減価償却シミュレーション

ここでいう、**シミュレーション**とは資産の評価に影響を及ぼす償却パラメータの実験的な変更を表します。この変更は、1つの資産、資産一覧全体、またはその一部に適用されます。

例では、**減価償却シミュレーションの標準レポート - レポート RASIMU02**について説明しています。

資産価額の推移をシミュレートする場合、シミュレーションバージョンを使用して重要な償却条件すべてを変更し、将来の会計年度における減価償却をシミュレートすることができます。次の図を参照してください。

→ **注記:** 資本投資予定額の減価償却を予測に含めることができます。このオプションを利用するには、CO の指図またはプロジェクトで計画投資額を計画原価として管理している必要があります。償却条件と計画開始日を指図またはプロジェクトに割り当てることで、将来の償却が表示されるようになります。



図 81: シミュレーションバージョン

シミュレーションバージョンを使用すると、償却方法の変更をシミュレートすることができます。

償却領域、資産クラス、および償却キーごとに、シミュレーションで選択する償却キーと耐用年数を指定します。資本化日付が有効期間の範囲に含まれない資産は除外されます。

演習問題 13: 金額シミュレーション

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... 将來の償却額の予測

ビジネスシナリオ

償却予測で資産の減価償却をシミュレートします。

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

- 転記されていない最後の社用車マスタレコード*に取得を転記します。
今年度の1月10日に金額50,000ユーロを転記します。
*転記されていないマスタレコードが場合は、単に、クラス3100に新しいマスタレコードを登録してください。
- 次の5年間におけるこの(1つの)資産の金額の推移を確認する最も簡単な方法は何ですか。
- 定額法による当期償却額はいくらですか。

- 税に関連した理由から、領域01および領域02の耐用年数を5年から4年に低減することを検討しています。この変更を資産エクスプローラでシミュレートします。
- 当期償却額はいくらになりますか。

- 前述の資産について、今年度の6月30日付で追加取得20,000ユーロをシミュレートします。

次へ

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

1. 次に、1つの資産だけでなく、複数の資産(資産クラス全体など)の金額の今後の年間推移を確認します。そのため、会社コード AA## およびクラス 3100 について減価償却シミュレーションレポート(プログラム RASIMU02)を呼び出し、今年度 + 2 年の 12 月 31 日までの金額を照会します。
2. この演習問題のタスク 1 の社用車とタスク 1 で確認した当期償却額がレポートにありますか。
3. プログラム RASIMU を使用して、年間の計画償却額ではなく今年度の月次償却額を照会するには、どのようにすればよいですか。
4. 次に、代替償却条件による複数の資産の減価償却を照会します。どの“オブジェクト”を使用する必要がありますか。

タスク 3:

オプション: 資産クラス 3100 (全体) に対して今年度 + 2 年までのシミュレーションを(再度)実行します。ただし、資産クラスの減価償却初期値 (LINR) ではなく、償却キー DG30 を使用します。



ヒント: 現在、ドイツでは、減価償却 DG30 が許可されなくなっているため、ここでは、シミュレーションバージョンのロジックについて理解するためにだけ取り上げています。

1. このことを行うには、まず、少なくとも償却領域 01 と 02 について上記のシナリオを表すシミュレーションバージョン ##(グループ番号) を登録します。計画耐用年数を変更する必要はありません。
2. 次に、会社コード AA## およびクラス 3100 に対して RASIMU02 を開始し、今年度 + 2 年の 12 月 31 日までの金額を照会します。

ただし、新規シミュレーションバージョン ##も使用します。これまでの演習問題の資産社用車の金額を確認すると、どのようなことがわかりますか。

解答: 金額がシミュレートされていません。

質問: その理由は何かですか。

RASIMU02 の選択画面に戻り、全選択押ボタンを選択します。

現会計年度の資本化処理(指図/WBS 要素) ボックス/グループフレームにスクロールダウンします。

(すべての) 資産価額が今年度の 1 月 1 日付けでシミュレートされていることがわかります。ただし、この時点では該当する社用車が資本化されていないため、レポートにはこの資産の金額が表示されません。

次へ

ラジオボタン「資本化による計画投資の償却シミュレーション基準削減を設定し、再度 RASIMU02 を開始します。」

今度は“代替額”を照会することができます。

この詳細については、SAP ノート 333818 を参照してください。以下は、このノートからの抜粋です。

会計年度の開始日現在の資産価額を使用することによって、すでに資本化されている計画資本投資の部分が 2 回（計画資本投資の計画値または予算値として 1 回、既に有効な固定資産への資本化転記として 1 回）カウントされることがなくなります。有効な固定資産についてのみ減価償却シミュレーションを実行する場合は、通常、期首資産価額の使用区分を設定しても意味がありません（そのため、プログラムでは無視されます）。



ヒント: ノートからわかるように、シミュレーションレポート（プログラム RASIMU02）は固定資産管理には関連しませんが、（通常は IN コンポーネントで）主な設備投資案件を実行する同僚には関連します。

解答 13: 金額シミュレーション

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 転記されていない最後の社用車マスタレコード*に取得を転記します。
今年度の1月10日に金額50,000ユーロを転記します。

* 転記されていないマスタレコードが場合は、単に、クラス3100に新しいマスタレコードを登録してください。

a) 固定資産管理アプリケーションで、記帳→取得→外部からの取得
→自動相殺仕訳のある取得を選択します。
演習問題の指示に従ってデータを入力します。
2. 次の5年間におけるこの(1つの)資産の金額の推移を確認する最も簡単な方法は何ですか。

a) 固定資産管理アプリケーションで、資産→資産エクスプローラを選択します。
比較タブページを選択します。
3. 定額法による当期償却額はいくらですか。
解答: 10.000,-€
4. 税に関連した理由から、領域01および領域02の耐用年数を5年から4年に低減することを検討しています。この変更を資産エクスプローラでシミュレートします。

a) 資産エクスプローラで、シミュレーションオン押ボタンを選択します。
パラメータタブページを選択します。
領域01の耐用年数005(年)を004(年)で上書きしてから、同じことを領域02で行います。
エントリを確認します。
計画価額タブページを選択します。
5. 当期償却額はいくらになりますか。
解答: 12.500,-€

次へ

6. 前述の資産について、**今年度の 6 月 30 日付で追加取得 20,000 ユーロをシミュレートします。**

a) 資産エクスプローラで、**計画値タブ**ページを選択します。

取引シミュレーション画面領域で、**取引/Simulation**を選択します。

資産取引シミュレーション画面で、以下の値を入力します。

項目名/データ型	値
伝票日付、転記日付、資産評価日	今年度の 6 月 30 日
伝票タイプ	AA
記帳額	20.000
取引タイプ	100

エントリを確認します。

メニューから、**取引 → コピー**を選択します。

タスク 2:

以下のタスクを実行します。

1. 次に、1 つの資産だけでなく、**複数の資産**(資産クラス全体など)の**金額の今後の年間推移**を確認します。そのため、会社コード AA## およびクラス 3100 について**減価償却シミュレーションレポート**(プログラム RASIMU02)を呼び出し、**今年度 + 2 年の 12 月 31 日までの金額**を照会します。

a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → 固定資産管理レポート → 債却予測 → 資本化済資産の減価償却(減価償却シミュレーション)を選択します。

以下のデータを入力し、レポートを実行します。

項目名/データ型	値
会社コード	AA##
資産クラス	3100
レポート日付	今年度 + 2 年の 12 月 31 日

2. この演習問題のタスク 1 の社用車とタスク 1 で確認した**当期償却額**がレポートにありますか。

a) **解答:** シミュレーションが正しく行われている場合は、このレポートにマスタレコードも表示されます。

次へ

3. プログラム **RASIMU** を使用して、年間の計画償却額ではなく**今年度の月次償却額**を照会するには、どのようにすればよいですか。

- a) レポート画面で、別の評価期間を選択する必要があります。

固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → 固定資産管理レポート → 債却予測 → 資本化済資産の減価償却(減価償却シミュレーション)を選択します。

レポート日付として今年度の 12 月 31 日を入力します。

メニューから、編集 → 全選択を選択します。

評価期間項目グループにスクロールダウンします。

月ラジオボタンを選択します。

レポートを実行します。

→ **注記:** 表示される情報が多すぎる場合は、もう一度資産クラス 3100 に選択を制限することができます。

4. 次に、**代替償却条件**による複数の資産の減価償却を照会します。どの“オブジェクト”を使用する必要がありますか。

- a) **解答:** シミュレーションバージョンを使用します。

AV7

次へ

タスク 3:

オプション: 資産クラス 3100(全体)に対して今年度 + 2 年までのシミュレーションを(再度)実行します。ただし、資産クラスの減価償却初期値(**LINR**)ではなく、償却キー **DG30** を使用します。



ヒント: 現在、ドイツでは、減価償却 **DG30** が許可されなくなっているため、ここでは、シミュレーションバージョンのロジックについて理解するためにだけ取り上げています。

1. このことを行うには、まず、少なくとも償却領域 **01** と **02** について上記のシナリオを表すシミュレーションバージョン ##(グループ番号)を登録します。計画耐用年数を変更する必要はありません。
 - a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理 → ツール → シミュレーションバージョンを選択します。
新規エントリを選択し、シミュレーションバージョン ##を登録します。
エントリを確認します。
新しいバリアントを選択します。
ダイアログ構造で、シミュレーション規則をダブルクリックして選択します。
新規エントリを選択します。
演習問題に記載されたシナリオを表す代入規則を(テーブル形式で)登録します。
2. 次に、会社コード **AA##** およびクラス 3100 に対して **RASIMU02** を開始し、今年度 + 2 年の 12 月 31 日までの金額を照会します。
ただし、新規シミュレーションバージョン ##も使用します。これまでの演習問題の資産社用車の金額を確認すると、どのようなことがわかりますか。
解答: 金額がシミュレートされていません。
質問: その理由は何ですか。
RASIMU02 の選択画面に戻り、全選択押ボタンを選択します。
現会計年度の資本化処理(指図/WBS 要素)ボックス/グループフレームにスクロールダウンします。
(すべての)資産価額が今年度の 1 月 1 日付けでシミュレートされていることがわかります。ただし、この時点では該当する社用車が資本化されていないため、レポートにはこの資産の金額が表示されません。
ラジオボタン「資本化による計画投資の償却シミュレーション基準削減」を設定し、再度 **RASIMU02 を開始します。**

次へ

今度は“代替額”を照会することができます。

この詳細については、SAP ノート 333818 を参照してください。以下は、このノートからの抜粋です。

会計年度の開始日現在の資産価額を使用することによって、すでに資本化されている計画資本投資の部分が 2 回(計画資本投資の計画値または予算値として 1 回、既に有効な固定資産への資本化転記として 1 回)カウントされることがなくなります。有効な固定資産についてのみ減価償却シミュレーションを実行する場合は、通常、期首資産価額の使用区分を設定しても意味がありません(そのため、プログラムでは無視されます)。



ヒント: ノートからわかるように、シミュレーションレポート(プログラム RASIMU02)は固定資産管理には関連しませんが、(通常は IN コンポーネントで) 主な設備投資案件を実行する同僚には関連します。

- a) **解答:** 解答については、演習問題を参照してください。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 資産エクスプローラからの資産の償却(または取引、あるいはその両方の)予測の生成
- ... プログラム RASIMU02 による各種資産の償却予測の生成

レッスン: 資産台帳

レッスンの概要

資産台帳の呼出および設定



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- ... 資産台帳の実行
- ... 資産台帳のレイアウトについての理解
- ... 必要に応じた独自の資産台帳の設定

ビジネスシナリオ

年度末処理における必須の作業として、資産台帳に資産を提示する必要があります。SAP では、デフォルトで、この目的に使用できるプログラム *RAGITT_ALV01* を提供しています。固定資産管理部門が、このプログラムがどのように機能するかについて理解したいと思っています。

資産台帳

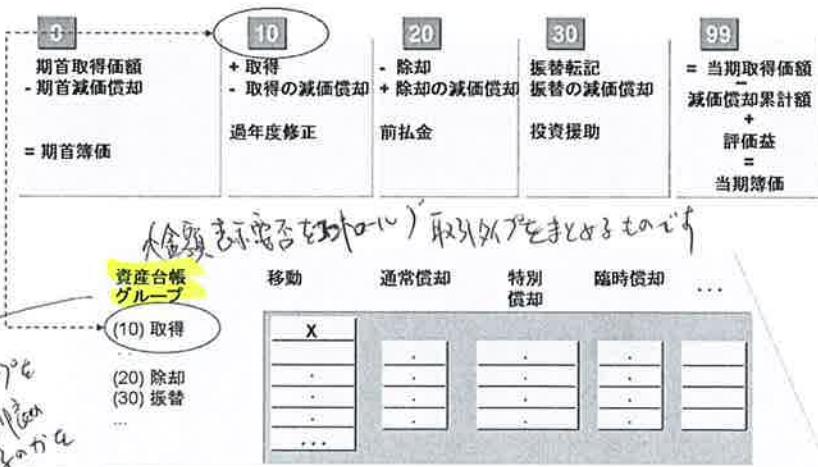


図 82: 資産台帳の構造

資産台帳は、非常に重要な年度末レポートまたは中間レポートです。

他のレポートと同様に、さまざまなソートバージョンや合計を、あらゆるグループレベルで作成することができます。

また、個々の資産に関する情報を含まない簡易合計一覧を作成することもできます。

資産台帳の合計照会から、個々の資産の資産台帳を呼び出すことができます。そこから、資産エクスプローラに移動することができます。

また、RRI(レポート間インターフェース)を使用して、他のFI-AAレポートプログラムを開発することもできます。

SAPでは、国依存の(資産台帳)バージョンを用意しています。これらは、特定の国の法的要件に準拠しています。また、独自の資産台帳バージョンを定義することもできます。

- サイズは、10行8列以内です。
- 資産台帳明細のヘッダを格納します。
- 資産台帳明細に値を提供する方法を定義します。

(資産台帳)バージョン：V179T

資産台帳バージョン

演習問題 14: 資産台帳

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- ... 資産台帳の実行および解釈

ビジネスシナリオ

年度末処理における必須の作業として、資産台帳に資産を提示する必要があります。SAP では、デフォルトで、この目的に使用できるプログラム *RAGITT_ALV01* を提供しています。固定資産管理部門が、このプログラムがどのように機能するかについて理解したいと思っています。

タスク：

以下のタスクを実行します。

1. 資産台帳 (プログラム *RAGITT_ALV01*) 要求し、ソートバリエント 13 および資産台帳バージョン 0001 を使用して、会社コード AA## のすべての資産を最初は個別に照会し、次にグループ合計として照会します。

解答 14: 資産台帳

タスク:

以下のタスクを実行します。

1. **資産台帳** (プログラム *RAGITT_ALV01*) 要求し、ソートバリアント 13 および**資産台帳バージョン 0001**を使用して、会社コード AA## のすべての資産を最初は個別に照会し、次にグループ合計として照会します。

- a) 固定資産管理アプリケーションで、情報管理→固定資産管理レポート→財務諸表注記→国際版→資産台帳を選択します。

演習問題の指示に従ってデータを入力します。

集計された会社コード行をダブルクリックして、資産ごとの台帳を照会します。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- ... 資産台帳の実行
- ... 資産台帳のレイアウトについての理解
- ... 必要に応じた独自の資産台帳の設定

復数元帳への場合

- 取得 20,000

- 償却

領域 01	(10年間)の定期償却	20,000	元帳
" 03	5	4,000	N1

元帳 17,000

領域 01 → PL, N1

減価償却累計額	2,000	資産 20,000	減価償却累計額 4,000	資産 20,000
預金	17,000		預金	17,000
元帳損	1,000		元帳益 1,000	

元帳には 01 のものが記入される。(PL, N1 両方)

差分償却領域 (派生)

領域 90 → N1

減価償却累計額 2,000	元帳損 1,000
	元帳益 1,000

→ 自動的に記述される
説定: パラレル評価領域



章のまとめ

以下について学習しました。

- ... さまざまな固定資産管理レポートの選択と実行
- ... 資産レポートのさまざまなソートと合計の設定
- ... 資産エクスプローラからの資産の償却(または取引、あるいはその両方の)予測の生成
- ... プログラム RASIMU02 による各種資産の償却予測の生成
- ... 資産台帳の実行
- ... 資産台帳のレイアウトについての理解
- ... 必要に応じた独自の資産台帳の設定

6 章

総勘定元帳、債権管理、および債務管理 の標準レポート

章の概要

SAP システムの総勘定元帳 (FI-GL)、債権管理 (FI-AR)、および債務管理 (FI-AP) には、どのような標準レポートがあるのでしょうか。これらのレポートへのアクセス方法や、独自の選択基準でそれらのレポートを開始する方法について理解する必要があります。また、これらの選択基準の保存方法についても理解しておく必要があります。ユーザは、可能な限り簡単な方法で標準の一覧を照会できることを希望しています。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- ・ 総勘定元帳、債権管理、および債務管理で必要となるレポートへのアクセス方法を示すデモ
- ・ 情報管理の重要性についての説明
- ・ レポートの実行
- ・ レポートバリアントの登録
- ・ レポート変数の使用

章の内容

レッスン: 情報管理	250
レッスン: レポートバリアントとレポート変数	255
演習問題 15: レポートバリアントとレポート変数	261

レッスン：情報管理

レッスンの概要

このレッスンでは、総勘定元帳、債権管理、および債務管理のレポートの検索に使用することができるさまざまな選択基準について学習します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 総勘定元帳、債権管理、および債務管理で必要となるレポートへのアクセス方法を示すデモ
- 情報管理の重要性についての説明
- レポートの実行

ビジネスシナリオ

総勘定元帳、債権管理、および債務管理を担当する従業員が、データアクセス用にさまざまなレポートを使用したいと考えています。



- 各モジュール → 情報管理
- 各エリアの情報管理 > Easy Access から
- 一般レポート選択画面
- ルート → 情報管理

● いずれかのロール (債権管理担当者や債務管理担当者など) にもとづくユーザー メニュー (Total = 7FCG)

● 一般: システム → サービス → レポート ABAP の PG を

- 利点: このメニューはどの画面でも使用可能
- 難点: レポート名がわかつていなければならぬ

呼び出す (Total = SA38)

図 83: レポートへのアクセス場所

必要とするレポートには、システムのさまざまな場所からアクセスすることができます。

- 重要なレポートには、各エリア（総勘定元帳、債権管理、債務管理）の情報管理を使用して、または一般レポート選択画面からアクセスすることができます。
- また、レポートはロールベースのユーザメニューにも含まれています。
- システムで、システムサービス→レポートを選択します。一般 ABAP プログラム実行画面が表示され、そこでレポート名を入力することができます。レポートの技術名称がわからない場合は、F4 ヘルプおよびプレースホルダ (RFD* など) を使用すると、総勘定元帳、債権管理、および債務管理に含まれているレポートに加えて、各エリアの情報管理にあるレポートの概要を把握することができます。

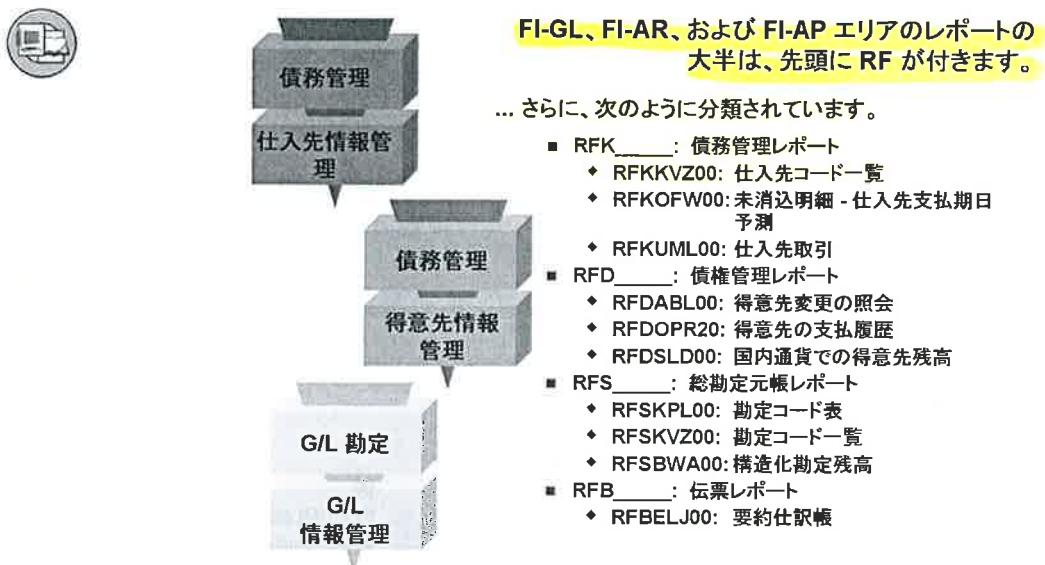


図 84: レポート名

標準レポートでは、多くの場合、レポート名に含まれている文字からレポートのタイプがわかります。たとえば、仕入先勘定コード一覧の名称は **RFKKVZ00**、得意先勘定コード一覧の名称は **RFDKVZ00**、G/L 勘定一覧の名称は **RFSKVZ00** です。

先頭に **RF** が付くレポートは、勘定タイプ別に分類されています。先頭に **RFK** が付くものは仕入先用、**RFD** が付くものは得意先用、**RFS** が付くものは G/L 勘定用、そして **RFB** が付くものは伝票レポートです。

プログラム文書を照会する場合は、I を選択します。

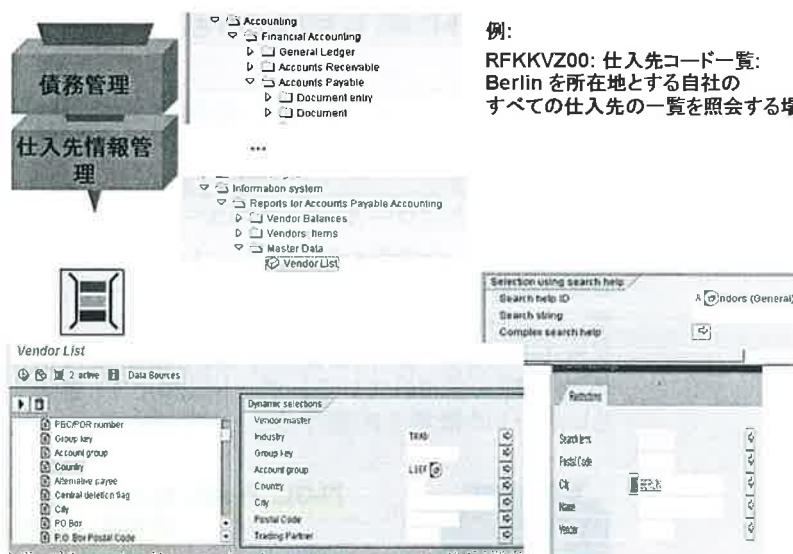


図 85: 仕入先情報管理: 債務管理レポート

仕入先情報管理は、仕入先残高、仕入先明細、マスタデータ、および支払処理のレポートに分割されています。この情報管理には、債務管理担当者が必要とするすべての重要なレポートが含まれています。

いき出力登録
抽出
追跡

動的選択では、さまざまな選択オプション(業種、勘定グループ、国、市区町村など)を指定することができます。

検索ヘルプを使用する場合は、さまざまなレポートに使用することができる複合選択オプションも使用可能になります。
マスクの値を使う場合

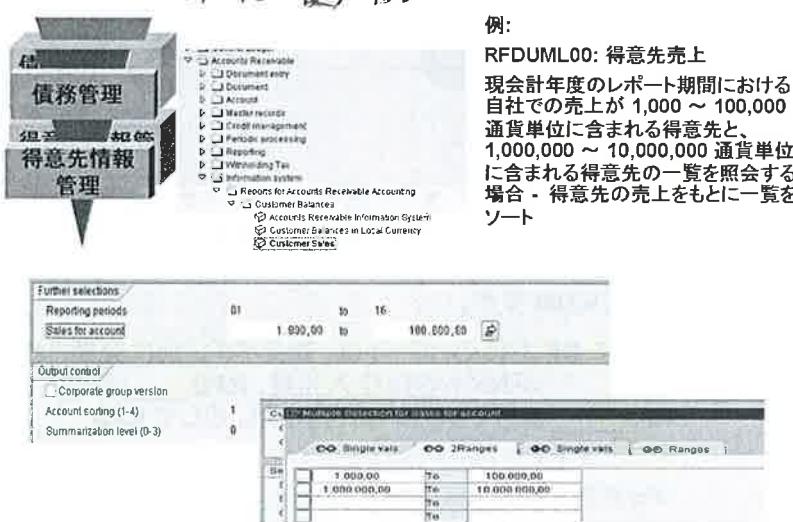


図 86: 得意先情報管理: 債権管理のレポート

選択と出力管理を使用することによって、一覧に表示するデータを制限することができます。たとえば、レポート RFDUML00(得意先売上)では、得意先の売上によってソートした現在または履歴の得意先一覧を生成することができます。そのためには、このレポートの実行前に追加選択を選択し、該当の間隔を入力します。

売上の入力時には、個別値や値の範囲を選択または除外することによって、個別値または値の範囲を指定することができます。



例：

RFSSLD00: G/L 勘定残高

選択した数値の G/L 勘定残高一覧を照会する場合 - 一覧には、期首総越残高の他、総越期間における合計とレポート期間における借方合計および貸方合計を表示

図 87: 総勘定元帳情報管理: 総勘定元帳レポート

G/L 勘定残高一覧には、レポート期間に基づく選択した合計値が表示されます。期首繰越残高、繰越期間の合計、レポート期間の借方合計と貸方合計、および各レポート期間末の借方残高と貸方残高を照会することができます。

一覧の最後には、会社コード別の合計と、国内通貨別のすべての会社コードの最終合計が表示されます。

ソート方法を選択することができます。また、これにより、集計レベルに基づいてデータを集計することもできます。たとえば、事業領域や G/L 勘定ごとにデータを集計することができます。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 総勘定元帳、債権管理、および債務管理で必要となるレポートへのアクセス方法を示すデモ
- 情報管理の重要性についての説明
- レポートの実行

レッスン：レポートバリアントとレポート変数

レッスンの概要

このレッスンでは、レポート変数の登録および使用方法について学習します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- レポートバリアントの登録
- レポート変数の使用

ビジネスシナリオ

総勘定元帳、債権管理、および債務管理を担当する従業員が、データセットへのアクセス用にさまざまな選択基準を使用したいと考えています。従業員は、データに素早く容易にアクセスできるようにこれらの選択基準(長期間変更されない選択基準もあります)を保存する必要があります。



● バリアント

■ 機能:

- ◆ 異なるバリアントに保管されているさまざまな選択基準を使用して、レポートを繰り返し実行することができます。

RFBELJ00: 要約仕訳帳		
会社コード	1000	~
伝票番号	1	~ 9999999
会計年度	2001	~
.	.	.
.	.	.

レポートの生成時に同じ選択基準を呼び出すには ...

- ◆ 必要な選択基準を 1 度入力します。
- ◆ 選択基準をバリアントとして保存します。

図 88: レポートバリアント: 選択基準

バリアントは、レポートに付けて選択する。
(使い回す不可)

1 つのレポートに対して複数のレポートバリアントを定義することができます。これらのレポートバリアントには、異なる選択基準が保存されます。バリアントとは、特定の数の保存済選択基準を示す選択メモリのことです。レポートを起動するたびに選択基準値を入力する代わりに、選択基準値を 1 回だけ入力し、バリアントとして保存しておきます。レポートの次回の実行時には、保存したバ

リニアントを使用することができます。固有の選択基準を指定してバリアントを登録すると、その後の処理で作業の時間と手間を省くことができるため、頻繁に、または定期的に使用するレポートでは特に役立ちます。

このように、1つのレポートで異なるレポートバリアントを登録し、それぞれのバリアントで、定義した選択基準に基づいて特定のタイプの情報を表示することができます。たとえば、レポートRFKKVZ00(仕入先コード一覧)の場合、国内の仕入先用のバリアントと国外の仕入先用のバリアントを登録することができます。

最初に、選択画面で必要な選択基準を入力します。以下の図は、それぞれのレポートで使用することができる選択基準のオプションを示しています。

ジャンプ→ バリアントを選択します。

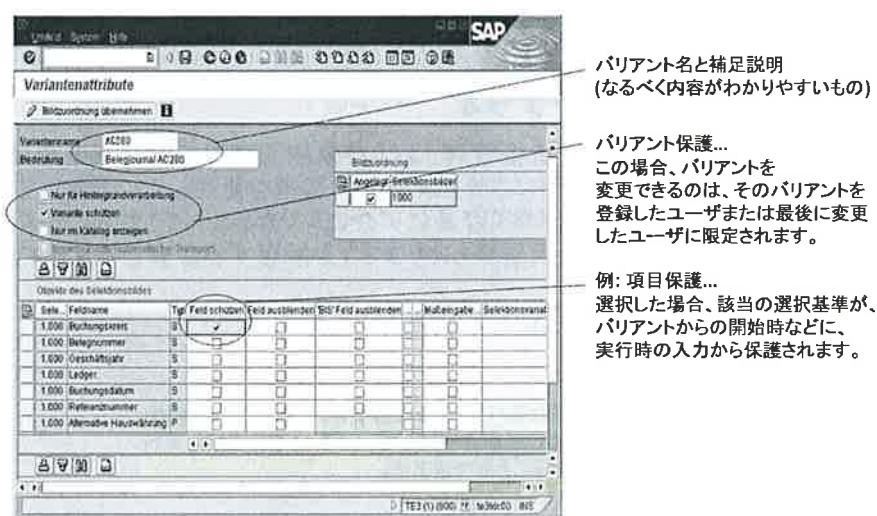


図 89: レポートバリアント: 属性

バリアントに対してバリアント属性を入力します。最初にバリアント名、次にテキストを入力します。

- ① バックグラウンド処理専用項目を選択した場合、そのバリアントはバックグラウンド処理に対してのみ使用可能になります。この項目を選択しないと、バリアントはバックグラウンド処理とオンライン処理の両方に使用可能になります。
- ② バリアント保護項目を選択した場合は、登録者以外がそのバリアントを変更することができなくなります。
- ③ カタログでの照会のみの区分を選択した場合、そのバリアントはカタログにのみ表示され、F4 入力ヘルプには表示されません。 (川入まい使わせない)
- 一部の項目に特定のプロパティを割り当てることができます。たとえば、保護項目、非表示項目、入力必須項目などの設定が可能です。
 - ④ ↳ 及び不可項目



選択基準:

T: TVARV のテーブル変数
D: 動的日付計算

選択基準:

T	D
例: 名称 内容 AC280-BUK 会社コード 1000,2000,3000 AC280-KRED 歐州勘定 債務エリア 7000 - 7900	例: 現在日付 月初より現在まで ...

図 90: レポートバリエント: 選択変数

レポートを起動するたびに選択基準値を入力する代わりに、選択基準値を1回だけ入力し、バリエントとして保存しておくことができます。レポートを呼び出してバリエントを使用するときに、現在の日付までの特定の値(特定の基準日までの未消込明細など)を照会する必要がある場合は、選択変数を使用することができます。

たとえば、特定の基準日までのすべての明細をレポートで照会する場合は、属性の更新(より具体的には選択画面オブジェクトの更新)時に選択変数押ボタンを選択して、選択変数のタイプを指定することができます。

現在のところ、以下の2つのタイプの選択変数を使用することができます(ただし、すべての選択基準に対してサポートされているわけではありません)。

- TVARV のテーブル変数
- 動的日付計算

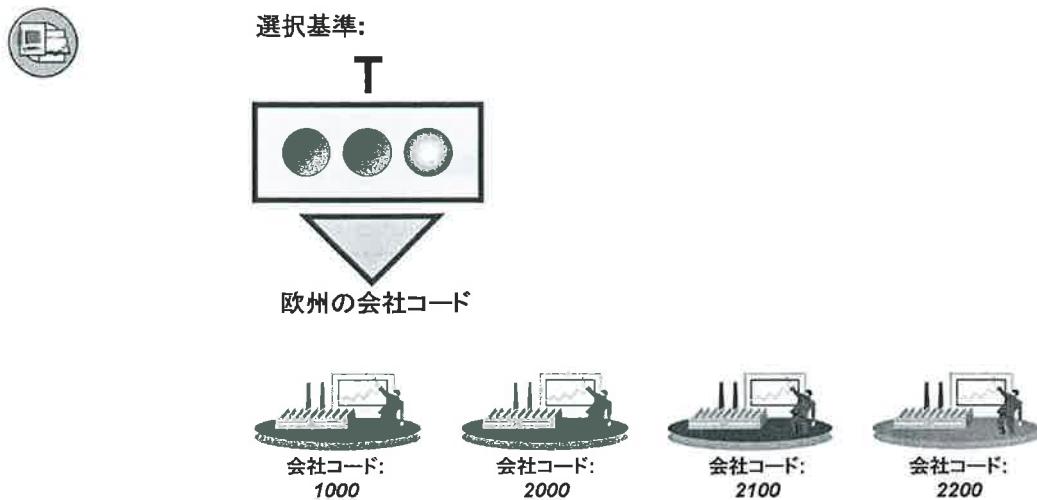


図 91: テーブル変数 → (グループ化したもの)

TVARV のテーブル変数: これらの変数は、各種のレポートで使用することができる統計情報を保管するときに使用します。この場合、バリアントの属性を保存するときに、関連処理 → 選択変数の更新を選択することによって、選択オプション、個別値、または間隔を指定するパラメータをテーブル TVARV に設定することができます。テーブル TVARV にこれらの選択変数を設定した後は、他のあらゆるレポートバリアントやレポートでそれらの変数を使用することができます。



図 92: 動的日付計算

動的日付計算:

これらの変数を使用する場合は、前提条件として、プログラムの対応する選択基準がタイプ **D** (日付) である必要があります。選択変数のタイプを T から D に変更すると、変数名項目への入力ができなくなります。値は、入力ヘルプを使用することによってのみ設定することができます。

演習問題 15: レポートバリアントとレポート変数

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- レポートバリアントの登録
- レポート変数の使用

ビジネスシナリオ

同じ選択基準を使用して同じレポートを繰り返し作成する必要があります。

タスク 1:

レポート RFBELJ00 (要約仕訳帳) のバリアントを登録します。

1. 名称およびテキスト AC280-1-## (## = 各自のグループ番号) を指定して、要約仕訳帳 RFBELJ00 のレポートバリアントを登録します。このバリアントでは、現会計年度における会社コード 1000 の伝票 0100000000 ~ 0199999999 だけが表示されるようにします。
登録したバリアントを使用して、このレポートを実行します。
2. 名称およびテキスト AC280-1-## のバリアントを変更して、このバリアントを保護バリアントとして設定します。会社コードを変更不能にします。会計年度を入力必須項目と設定し、0100000000 ~ 0199999999 の範囲の伝票のみでなく、1700000000 ~ 1799999999 の範囲の伝票と 1800000000 ~ 1899999999 の範囲の伝票も含まれるように伝票番号範囲を設定します。転記日付に対しては動的計算を選択し、転記日付を月初より現在までとして指定します。

他の項目はいずれも非表示に設定します。

タスク 2:

数多くの仕入先を意味のある方法でグループ化するために、勘定グループ別に勘定が分類されています。既存の仕入先マスタレコードの概要を把握するために、個々の仕入先を示す一覧が必要です。

1. レポート RFKKVZ00 を使用して、Berlin を所在地とする勘定グループ LIEF のすべての仕入先の一覧を表示するレポートバリアント AC280-2-## (## = 各自のグループ番号) を登録します。
会社コード 1000、2000、2200、3000、4000、5000、および 6000 の仕入先のみを組み込みます。この会社コード範囲は他のレポートにも関連し、それぞれの選択バリアントでこれらの会社コードを個別に設定したくないため、選択変数を使用することにします。

次へ

選択変数 AC280_GR## を登録します。

タスク 3:

オプション:

- 対象を絞った広告キャンペーンを展開するため、会社コード 1000、2000、2200、3000、4000、5000、および 6000 の現会計年度期間における売上が 100 ~ 1,000,000 通貨単位に含まれるハイテク産業 (HITE) と機械工学 (MBAU) の得意先の一覧を作成するよう依頼されました。このバリエントでは、売上の入力値を保護する必要があります。

データは、現基準日における換算レートの換算に換算レートタイプ M を使用して、通貨 USD で表示します。

名称およびテキスト AC280-3-## (## = 各自のグループ番号) としてバリエントを登録します。

タスク 4:

- レポート文書のメニューパスを指定してください。

解答 15: レポートバリアントとレポート変数

タスク 1:

レポート RFBELJ00 (要約仕訳帳) のバリアントを登録します。

- 名称およびテキスト AC280-1-## (## = 各自のグループ番号) を指定して、要約仕訳帳 RFBELJ00 のレポートバリアントを登録します。このバリアントでは、現会計年度における会社コード 1000 の伝票 0100000000 ~ 0199999999 だけが表示されるようにします。

登録したバリアントを使用して、このレポートを実行します。

- レポートバリアントを登録します。

メニューパス: システム → サービス → レポート

または SAP Easy Access メニュー:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳
レポート(新) → 伝票 → 一般 → 要約仕訳帳

項目名/データタイプ	値
プログラム	RFBELJ00

実行を選択します。

選択基準を入力します。

項目名/データタイプ	値
会社コード	1000
伝票番号	0100000000 ~ 0199999999
会計年度	当年度
元帳	OL

メニューパス: ジャンプ → バリアント → バリアント保存...

項目名/データタイプ	値
バリアント	AC280-1-##
テキスト	AC280-1-##

保存を選択します。

レポートを実行します。

次へ

メニュー・パス: システム → サービス → レポート

または SAP Easy Access メニュー:

会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 情報管理 → 総勘定元帳
レポート(新) → 伝票 → 一般 → 要約仕訳帳

新しいバリアント AC280-1-## を使用してレポート RFBELJ00 を実行します。

プログラム: **RFBELJ00**

プログラム → バリアント実行(またはバリアントボタン)

バリアント: **AC280-1-#**

Enter

実行

2. 名称およびテキスト AC280-1-## のバリアントを変更して、このバリアントを保護バリアントとして設定します。会社コードを変更不能にします。会計年度を入力必須項目と設定し、0100000000 ~ 0199999999 の範囲の伝票のみでなく、1700000000 ~ 1799999999 の範囲の伝票と 1800000000 ~ 1899999999 の範囲の伝票も含まれるように伝票番号範囲を設定します。転記日付に対しては動的日付計算を選択し、転記日付を月初より現在までとして指定します。

他の項目はいずれも非表示に設定します。

- a) メニューパス: システム → サービス → レポート

項目名/データタイプ	値
プログラム	RFBELJ00

ジャンプ → バリアントを選択します。

AC280-1-## を入力します。

バリアント → 変更 → 値変更を選択します。

伝票番号の後で複数選択ボタンを選択します。

範囲タブページを選択します。

0100000000 ~ 0199999999、

1700000000 ~ 1799999999、

および 1800000000 ~ 1899999999 を入力します。

実行を選択します。

バリアント → 属性(またはバリアント属性ボタン)を選択します。

次へ

項目名/データタイプ	値
バリアント保護	選択
会社コード	保護項目
会計年度	必須入力項目
転記日付以外のすべての項目	非表示項目を選択

項目名: 転記日付

押ボタン: 選択変数。選択 (マッチコード: 選択アイコン)

変数タイプ:

“D”(動的日期計算)を選択します。

変数名押ボタンを選択します(入力ヘルプを使用した入力のみ可能)。

“月初より現在まで”をダブルクリックします。

バリアントを保存します。

“バリアント AC280-1-## を上書きしますか”というメッセージが表示されたら、はいを選択します。

変更したバリアント **AC280-1-##** を使用してレポート **RFBELJ00** を実行します。

プログラム: **RFBELJ00**

プログラム → バリアント実行(またはバリアントボタン)

バリアント: **AC280-1-##**

Enter を選択します。選択オプションに注意します。

実行

タスク 2:

数多くの仕入先を意味のある方法でグループ化するために、勘定グループ別に勘定が分類されています。既存の仕入先マスタレコードの概要を把握するために、個々の仕入先を示す一覧が必要です。

- レポート **RFKKVZ00** を使用して、**Berlin** を所在地とする 勘定グループ **LIEF** のすべての仕入先の一覧を表示するレポートバリアント **AC280-2-##** (**##** = 各自のグループ番号) を登録します。

次へ

会社コード 1000、2000、2200、3000、4000、5000、および 6000 の仕入先のみを組み込みます。この会社コード範囲は他のレポートにも関連し、それぞれの選択バリアントでこれらの会社コードを個別に設定したくないため、選択変数を使用することにします。

選択変数 AC280_GR## を登録します。

- a) レポートバリアントを登録します。

メニューパス: システム → サービス → レポート: RFKKVZ00

または SAP Easy Access メニュー:

会計管理 → 財務会計 → 債務管理 → 情報管理 → 債務管理のレポート → マスターデータ → 仕入先一覧

レポート: RFKKVZ00

ジャンプ → バリアントを選択します。

項目名/データタイプ	値
バリアント	AC280-2-## (##=グループ番号)

バリアント → 登録を選択します。

編集 → 動的選択を選択します。

勘定グループを選択します。

押ボタン: 選択コピー(矢印)ボタンを選択します。

勘定グループ: LIEF (KRED)

検索ヘルプを使用して選択が表示されたら、以下のように入力します。

検索ヘルプ ID: A (仕入先一般)

市区町村: Berlin

Enter

編集 → 属性を選択します。

テキスト	AC280_2_##
------	------------

関連処理 → 選択変数の更新を選択します。

変数 → 変更を変更します。

“このテーブルはクライアント非依存です”というメッセージが表示されます。

次へ

Enter を選択します。

選択オプションタブページを選択します。

編集→登録を選択します。

名称: AC280_GR## (##=各自のグループ番号)

複数選択ボタンを選択します。

会社コード 1000、2000、2200、3000、4000、5000、および 6000 を入力します。

実行を選択します。

保存を選択します。

前画面を選択します。

項目名: 会社コード

押ボタン: 選択変数

変数タイプ: T: TVARV のテーブル変数

押ボタン: 変数名 (入力ヘルプを使用した入力のみ可能)

一覧から AC280_GR## を選択します。

バリエントを保存します。

バリエント AC280-2-## を使用してレポート RFKKVZ00 を実行します。

プログラム: RFKKVZ00

プログラム→バリエント実行(またはバリエントボタン)

バリエント: AC280-2-##

Enter を選択します。選択オプションに注意します。

実行を選択します。

タスク 3:

オプション:

- 対象を絞った広告キャンペーンを展開するため、会社コード 1000、2000、2200、3000、4000、5000、および 6000 の現会計年度期間における売上が 100 ~ 1,000,000 通貨単位に含まれるハイテク産業 (HITE) と機械工学 (MBAU) の得意先の一覧を作成するよう依頼されました。このバリエントでは、売上の入力値を保護する必要があります。

データは、現基準日における換算レートの換算に換算レートタイプ M を使用して、通貨 USD で表示します。

次へ

名称およびテキスト AC280-3-## (## = 各自のグループ番号) として
バリアントを登録します。

a) レポート: **RFDUML00**

名称およびテキストが **AC280-3-## (## = 各自のグループ番号)** の
バリアント

レポートバリアントを登録します。

選択

システム → サービス → レポート: **RFDUML00**

または SAP Easy Access メニューで以下のように選択します。

会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 情報管理 → 債権管理のレポート → 得意先残高 → 得意先売上

レポート: **RFDUML00**

ジャンプ → バリアントを選択します。

項目名/データタイプ	値
バリアント	AC280-3-## (## = グループ番号)

バリアント → 登録を選択します。

編集 → 動的選択を選択します。

産業分類: HITE (ハイテク) および MBAU

レポート期間: 1 から 16

勘定の売上金額: 100 ~ 1,000,000 通貨単位

会計年度: 現会計年度

出力通貨に換算: 選択

通貨: USD

換算レートタイプ: M

日付: 現在の日付

Enter

編集 → 属性を選択します。

テキスト: AC280-03-##

項目名: 会社コード

押ボタン: 選択変数

次へ

変数タイプとして、*T: TVARV* のテーブル変数を選択します。

押ボタン: 変数名(入力ヘルプを使用した入力のみ可能)

一覧から AC280_GR## を選択します。

勘定の売上金額で保護項目を選択します。

ER_DATUM(換算日付)

押ボタン: 選択変数。選択(マッチコード: 選択アイコン)

変数タイプ: “D”(動的日期計算)を選択し、変数名押ボタンを選択します(入力ヘルプを使用した入力のみ可能)。

現在日付を選択します。

バリアントを保存します。

バリアント AC280-3-## を使用してレポート RFDUML00 を実行します。

プログラム: RFDUML00

プログラム→バリアント実行(またはバリアントボタン)

バリアント: AC280-3-##

Enter を選択します。選択オプションに注意します。

実行

タスク 4:

1. レポート文書のメニューパスを指定してください。

a) レポート文書を選択します。

レポート選択画面でヘルプ→アプリケーションヘルプを選択します。

ヘルプ→アプリケーションヘルプ

新しいバリアントを登録し、以下の処理を行いました。

- 動的選択
- 選択変数



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- レポートバリエントの登録
- レポート変数の使用



章のまとめ

以下について学習しました。

- 総勘定元帳、債権管理、および債務管理で必要となるレポートへのアクセス方法を示すデモ
- 情報管理の重要性についての説明
- レポートの実行
- レポートバリアントの登録
- レポート変数の使用

7 章

リストビューア

章の概要

“ユーザ別の”未消込明細一覧の照会など、各ユーザがリストビューアの処理を効率よく行うにはどのようにすればよいでしょうか。SAP バリアントは役立ちますが、ユーザは一覧の外観について自分なりのアイデアを持っています。



章の目的

この章の目的は、以下のとおりです。

- SAP リストビューアのコンセプトに関する説明
- SAP リストビューアの機能の使用
- 特定の会社コードの明細を検索するための、勘定に対する選択基準の使用
- 検索ヘルプを使用した選択基準の選択
- ステータスとカテゴリにもとづく明細の選択
- 標準およびユーザ固有の画面レイアウトの変更

章の内容

レッスン: SAP リストビューアのデザイン.....	274
レッスン: 選択	281
演習問題 16: 選択	291
レッスン: 画面レイアウトの変更.....	296
演習問題 17: 画面レイアウトの変更.....	299

レッスン: SAP リストビューアのデザイン

レッスンの概要

SAP リストビューアでは、さまざまなタイプの伝票の照会、およびさまざまなデザインの使用が可能です。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- SAP リストビューアのコンセプトに関する説明
- SAP リストビューアの機能の使用

ビジネスシナリオ

会計部門のマネージャが、SAP システムで標準の一覧を作成する方法を確認したいと考えています。また、SAP リストビューアの機能について詳しく知る必要があります。



得意先明細一覧									
得意先明細一覧									
得意先			100056			名称			得意先グループ AC280-##
市区町村						Hockenheim			
SI Assignment	Doc. no.	Type	Doc. Date	S	Due	Amount in LC	LCurr.	Circ. Item	Text
■	1600000046	160000046 DZ	13.02.2000			2000-	EUR		
■	1800000012	180000012 DR	06.04.2000			100000	EUR		
■	1800000016	180000016 DR	12.05.2000			50000	EUR		
○	1400000012	1400000012 DZ	12.05.1999			50000	EUR	1400000012	
○	1800054102	1800054102 DR	12.03.1999			50000	EUR	1400000012	
○	1400000002	1400000002 DZ	15.01.1999			60000	EUR	1400000002	
○	180001324	180001324 DR	15.12.1998			60000	EUR	1400000002	

図 93: SAP リストビューア: 明細照会
(ABA)

SAP リストビューアは、あらかじめ定義されているデータから、人間工学に基づく標準の一覧を生成する汎用表示ツールです。

リストビューアは、統一されたインターフェースと一覧準備機能を提供することによって、SAP システムでの一覧の使用を標準化および簡素化します。

リストビューアでは、簡易一覧と階層順次リストを照会することができます。

SAP リストビューアは、ソートや集計、フィルタなどのインタラクティブ機能を多数備えています。

データの事前選択を行うことなく一覧のレイアウトを変更し、変更した一覧のレイアウトをバリエントに保存することができます。



図 94: SAP リストビューア: 伝票変更/照会

SAP リストビューアは、伝票を照会および変更するための以下の機能を備えています。

詳細選択

明細に関する詳細な情報を照会するには、まず対象の明細を選択します。その後、眼鏡アイコンを選択するか、または明細をダブルクリックすると、個々の伝票が表示されます。また、伝票を変更する必要がある場合は、鉛筆アイコンを選択して明細を呼び出すことができます。

明細選択 明細を1つ選択するには、明細一覧の左側で対象の明細を選択します。複数の明細を選択するには、1つの明細を選択した後、**Ctrl**キーを押しながら別の明細を選択します。すべての明細を選択するには、該当するアイコンを使用します。

複数の明細を選択した後に、該当の伝票で**一括変更**を実行することができます。明細一覧で変更を確認するには、一覧リフレッシュを選択します。変更が正常に行われなかった場合は、**変更エラーログ**で理由を照会することができます(対応する押ボタンを選択)。

伝票照会では**伝票明細ビュー**と**伝票概要**のどちらに分岐するかを選択することができます。会計編集オプションには、この選択のためのチェックボックスが含まれています。

Trcd: FB00



図 95: SAP リストビューア: 一般機能

SAP リストビューアの機能の一部として、以下に示す一般クロスアプリケーション機能が含まれています。

列選択: 1 つの列を選択するには、列ヘッダを 1 回クリックします。複数の列を選択するには、1 つの列を選択した後、**Ctrl** キーを押しながら対象の他の列を選択します。

一覧を昇順または降順でソートすることができます。一覧をソートするには、対象の列を選択してこの機能を選択します。

同様に、**フィルタ** の設定と削除も可能です。

集計: 特定の値の合計および小計を登録することができます。合計を生成するには、対象の列を選択してこの機能のアイコンを選択します。

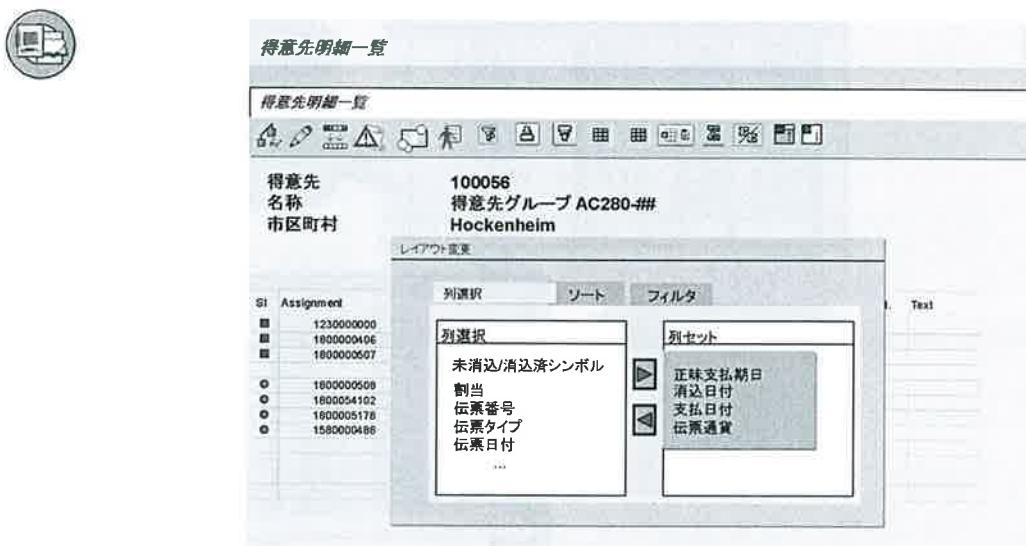


図 96: リストビューア: 表示バリアントおよび項目 (V1アット)

SAP 定義の表示バリアントの他に、独自の表示バリアントを登録することができます。これにより、一覧の独自のビューを定義することができます。

表示する項目を列セットの利用可能な項目から選択します。不要な項目は非表示にすることができます。希望する順序で列選択の項目をソートすることもできます。

また、すでに表示されている項目の他に、特別項目を列セットに追加することができます。詳細については、SAP ノート 215798 と 420591 を参照してください。

相手勘定コード情報が必要な場合は、SAP ノート 112312 を参照してください。これは標準システムのモディフィケーションではなく、業務取引イベントです。

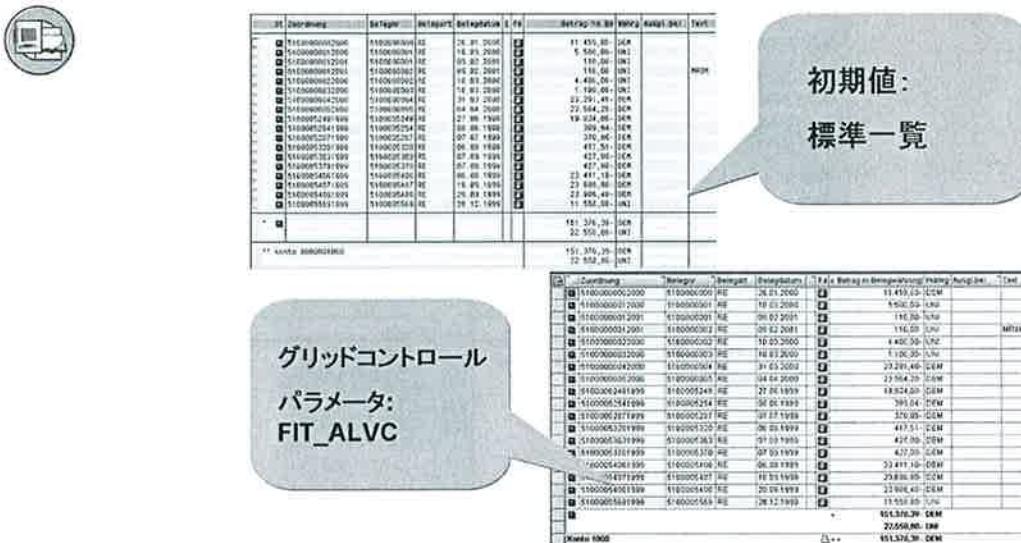


図 97: 明細一覧における標準一覧とグリッドコントロール

(ALV ListView)
一覧照会時には、ALV 標準一覧と ALV グリッドコントロール（グリッドデザイン）のどちらかを選択することができます。

一部の一覧では、これら 2 つのレイアウトを切り替えることはできません。これは明細一覧の特別な機能です。

特定の設定を行っていない場合は、ALV 標準一覧が表示されます。

ALV 標準一覧は基本的に印刷画面であり、この一覧では、複数勘定の明細の照会時に、ソートされた一覧の概要がよりわかりやすく表示されます。

グリッドコントロールデザインでは、比例テキストが表示されます。グリッドデザインは、SAP プログラムが提供するインターネットサービスの個別勘定のオンライン照会時に特に役立ちます。

SAP R/3 4.6C 以降、ユーザは設定→一覧切替を選択して、グリッドデザインを選択することができるようになっています。一覧を切り替えると、この一覧デザインがユーザパラメータ(パラメータ **FIT_ALVC**)に入力されます。

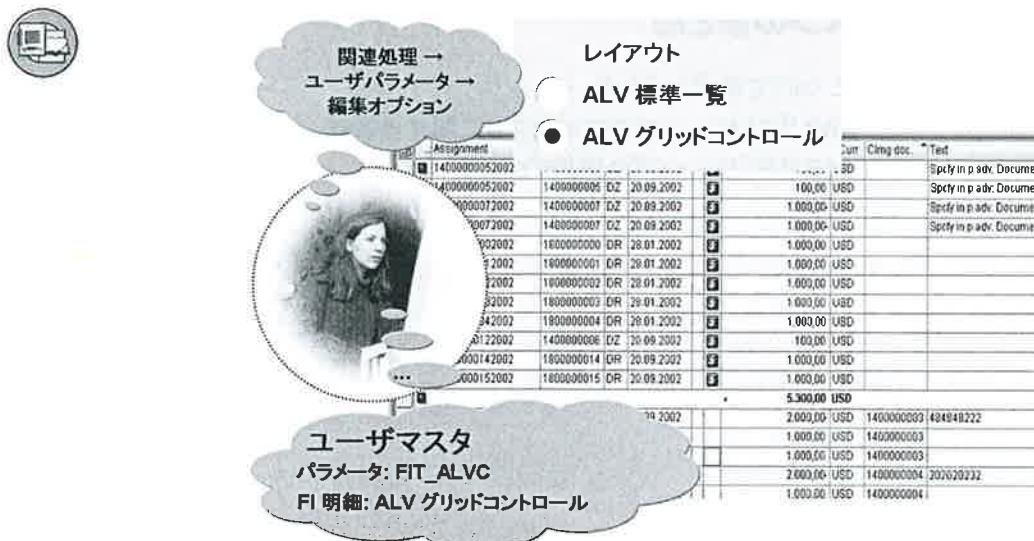


図 98: 一覧のユーザパラメータ

トランザクション FB00 の明細タブページにある会計編集オプションを使用して、設定を照会したり、必要に応じて変更したりすることができます。また、トランザクション SU3 でも、パラメータの照会および変更が可能です。

パラメータ ID を使用することによって、通常、一定の値が維持される項目のユーザ初期値を入力することができます。たとえば、一覧をグリッドコントロールに切り替えると、値がユーザパラメータに保存されます。一覧を呼び出すと、この値が対応するデザインで自動的に使用されます。つまり、一覧をマニュアルで再度切り替えなくても済みます。システムへの次のログオン時には、希望するレイアウトを再選択する必要はありません。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- SAP リストビューアのコンセプトに関する説明
- SAP リストビューアの機能の使用

レッスン：選択

レッスンの概要

受講者は特定の選択基準を使用して、分析対象の明細を選択することができます。これらの選択基準は以下のものに関連しています。

- 明細照会の対象とする勘定。これらの勘定は特定の会社コードにおいて登録されます。
- 検索ヘルプを使用して選択できる選択基準、およびステータスとカテゴリにもとづく明細自体の選択



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 特定の会社コードの明細を検索するための、勘定に対する選択基準の使用
- 検索ヘルプを使用した選択基準の選択
- ステータスとカテゴリにもとづく明細の選択

ビジネスシナリオ

会計部門の従業員が、SAP システムでの明細の選択方法について確認したいと考えています。

また、SAP リストビューアで使用できる選択基準について詳しく知る必要があります。



選択基準

- G/L 勘定/得意先コード/仕入先コード
- 会社コード

ユーザは、特定の基準を指定して、明細一覧画面に表示されるデータを制限することができます。



- 検索ヘルプを使用した選択
- 明細選択
 - 明細ステータス
 - 明細タイプ
- 明細出力

図 99: 明細一覧

特定の選択基準を使用して、評価対象の明細を選択することができます。

これらの選択基準は以下のものに関連しています。

- 明細照会の対象とする、特定の会社コード内の勘定
- 検索ヘルプを使用して選択できる選択基準
- ステータスとカテゴリにもとづく明細自体の選択

また、一覧出力に対して、以下のものを選択することができます。

- レイアウト
- 最大明細数

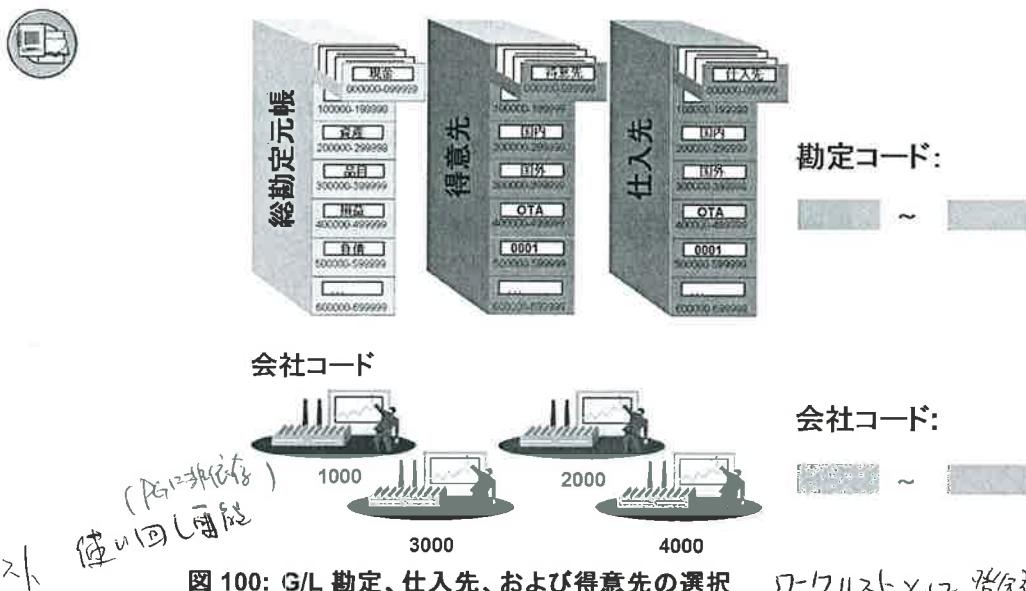


図 100: G/L 勘定、仕入先、および得意先の選択

ワークリスト : ワークリストと(会社コード)

(会社コード : 特別な会社コード)

G/L 勘定、得意先コード、および仕入先コードに対して勘定コード選択を行う際には、単一および複数選択によって、個々の勘定コードおよび勘定コード間隔を選択に組み込んだり、選択から除外したりすることができます。

ワークリスト使用項目を選択すると、各明細一覧の選択画面でワークリストの入力項目を有効化および無効化することができます。ワークリストが存在する場合、明細照会の選択画面の呼び出し時にワークリスト入力項目の有効化項目を選択すると、この選択画面がワークリストの入力項目付で表示されます。ワークリストの値の更新は、トランザクション OB55 で行えます。

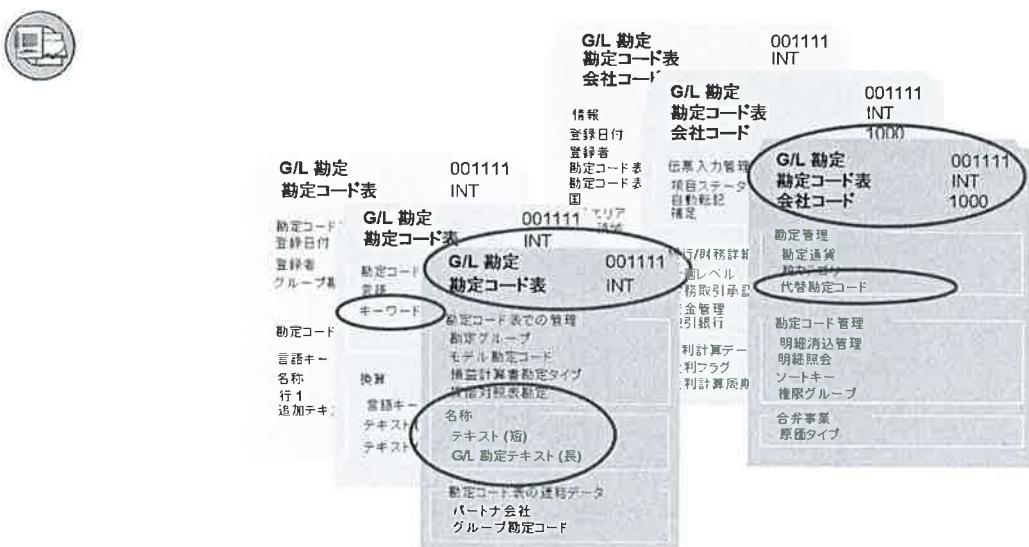


図 101: 検索ヘルプを使用した選択

検索ヘルプを使用した明細の選択時には、以下に示す**G/L 勘定明細一覧**の入力ヘルプが提供されます。

- 勘定コード表の G/L 勘定コード(会社コードの詳細と共に)
- 勘定コード表の G/L 勘定名(G/L 勘定テキスト(長))(会社コードの詳細と共に)
- 削除フラグおよびロックフラグ付の G/L 勘定
- キーワード
- 代替勘定コード

検索ヘルプを使用した明細の選択時には、以下に示す**仕入先明細一覧**の入力ヘルプが提供されます。

- 一般仕入先データ(検索語句、郵便番号、市区町村、仕入先名、仕入先コード)
- 仕入先国/会社コード
- 従業員番号による仕入先
- 購買、品目、またはプラント参照による仕入先

検索ヘルプを使用した明細の選択時には、以下に示す**得意先明細一覧**の入力ヘルプが提供されます。

- 一般得意先データ(検索語句、郵便番号、市区町村、得意先名、得意先コード)
- 得意先国/会社コード/勘定グループ
- 賃貸契約のある得意先
- 各販売グループの得意先、またはプラント参照付得意先
- 本店得意先

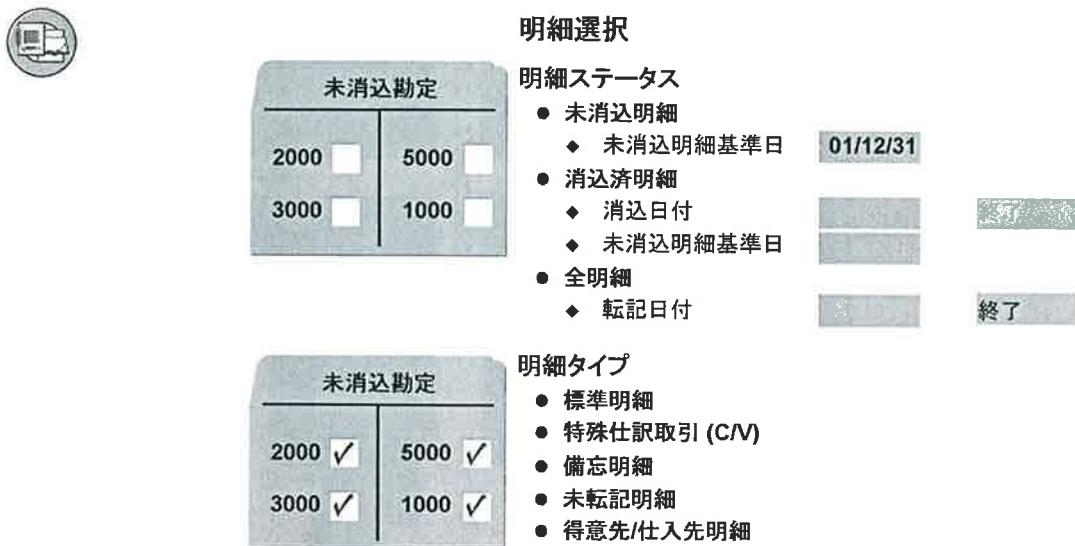


図 102: 明細選択

明細のステータスとカテゴリにもとづいて、明細一覧の明細を選択することができます。

未消込明細を選択する場合は、特定の時に消込が行われていない明細を選択します。初期値として現在の日付が表示されます。

消込済明細を選択すると、指定した消込日付に消込が行われた明細と、基準日にまだ消し込まれていない明細が表示されます。消込日付と基準日を指定しないと、消込済のすべての明細が表示されます。

未消込明細と消込済明細を照会する場合は、全明細を選択します。この選択は転記日付を指定して制限することができます。

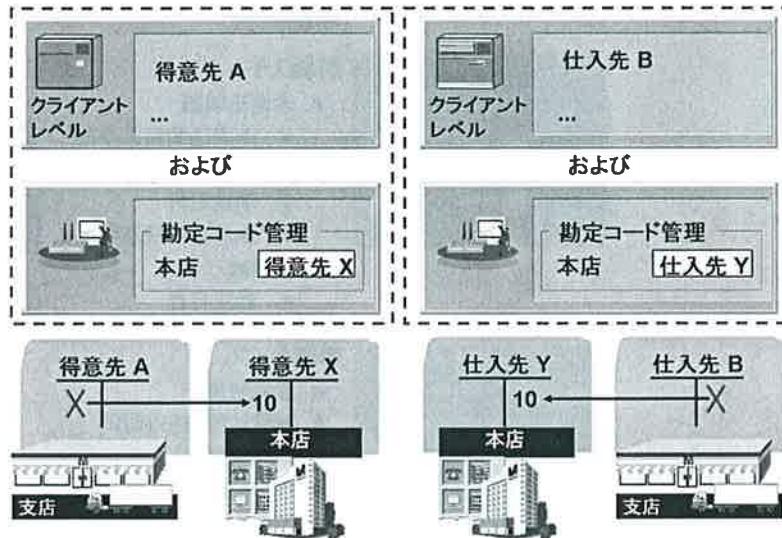
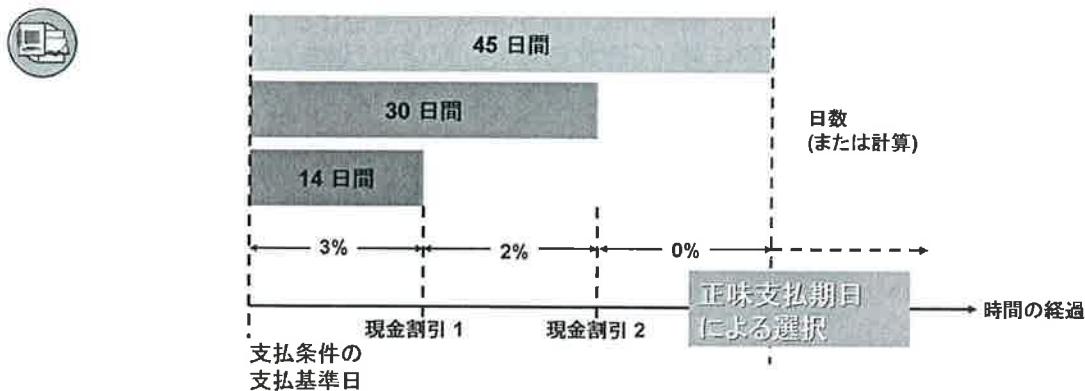


図 103: 本店/支店

業種によっては、得意先からの受注は地域ごと--つまり、支店ごと--に受け付け、請求書に対する支払処理は本店で一括して行う場合があります。そのため、SAP では、商品のフローとマネーフローを分けています。SAP システムでは、**本店勘定**と**支店勘定**を設定することができます。

支店勘定に転記された明細はすべて、自動的に本店勘定に転送されます。

各支店勘定に対して**支店/本店**フラグを選択すると、**ダイアログボックス**が表示されます。このダイアログボックスでは、本店で管理される明細を支店で照会可能にするかどうか選択することができます。（しないと、支店の明細が見れない）このダイアログボックスを無効にすると、本店で管理される明細項目に指定されている設定が自動的に適用されます。

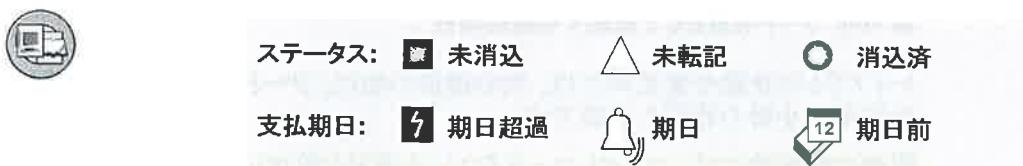


正味支払期日は、支払条件の基準日と支払条件内の最大日数から計算されます。

図 104: 正味支払期日による選択

明細の照会時には、正味支払期日による選択も可能です。

ユーザパラメータの編集オプションにある正味支払期日による選択項目を選択すると、選択画面で正味支払期日による選択の入力項目が有効化されます。



明細消込済/未消込アイコン

- 未消込明細: この明細は基準日までに転記されており、基準日より後に消込が行われたか、またはまだ消込が行われていません。
- 消込済明細: この明細は基準日までに転記と消込が行われています。
- 未転記明細: この明細は保留になっています。

基準日未消込明細の正味支払期日に関するアイコン

- 期日超過明細: 基準日の時点で正味支払期日を超過しています。支払が延滞しています。
- 支払期日明細: 基準日の時点で正味支払期日に至っています(割引なし)。
- 期日前明細: 支払期日は基準日より後です。

図 105: アイコンの凡例

ALV 標準一覧のヘッダには、明細ステータス(未消込、未転記、消込済)を示すアイコンと、支払期日(期日超過、期日、期日前)を示すアイコンの凡例を表示することができます。

明細照会の編集オプションで、一覧の呼出時にこれらの凡例を表示するかどうか選択できます。

注記: 基準日は、明細が未消込か消込済かを分けるときの決定要因として作用します。明細に対して遡及処理を行うことで、過去における基準日の時点でのその明細のステータスを照会することができます。基準日後に転記された明細は表示されません。

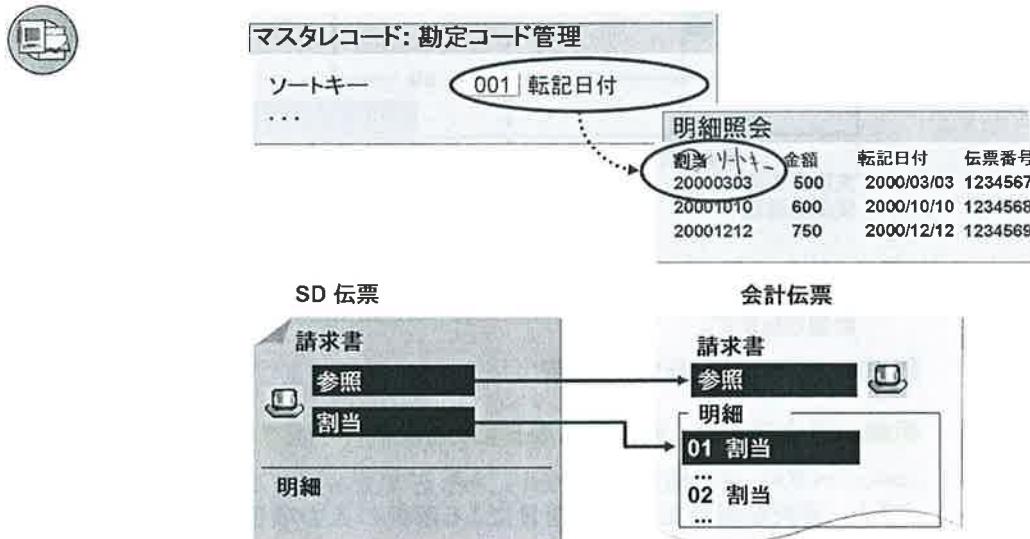


図 106: ソート項目として機能する割当項目

レイアウトの登録や変更時には、列の選択の他に、ソートにおけるソート基準の定義や小計の作成も可能です。

明細の転記時には、マスタレコードのソート項目の設定にもとづいて、明細に使用する割当項目への入力が自動的に行われます。

割当項目は、最大 4 つの項目（最大 18 文字）で構成することができます。たとえば、伝票番号（10 文字）と転記日付（6 文字）を表示する場合は、これらの項目名を割当項目定義に組み込みます。

得意先または仕入先マスタレコードで購買発注伝票番号ソートキーを選択した場合は、明細に使用する割当項目には得意先または仕入先の購買発注伝票番号が挿入されます。

総勘定元帳マスタレコードで原価センタソートキーを選択した場合は、該当の G/L 勘定明細を G/L 勘定に転記すると、明細に使用するこの G/L 勘定明細の割当項目に原価センタ番号が挿入されます。

明細照会では、割当項目の値による明細のソートが頻繁に行われます。次に、実際の例を示します。

- たとえば、SD で請求書を転記すると、FI で会計伝票が登録されます。会計伝票には、通常、SD の請求書の番号と異なる伝票番号が割り当てられます。この場合、参照と割当を使用することによって、その会計伝票の元となった SD 伝票を明らかにすることができます。FI 請求書における参照と割当は、SD 請求伝票の参照と割当からコピーされます。SD 伝票から FI に参照としてコピーする伝票番号(購買発注、受注、出荷、請求伝票)と、割当としてコピーする伝票番号を定義することができます。その後、これらの項目を FI での選択基準として使用できます。

演習問題 16: 選択

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- SAP リストビューアの使用 (例として明細一覧を使用)
- 明細一覧の選択で使用できる選択基準の確認

ビジネスシナリオ

会計部門で、SAP システムでの一覧からの明細の選択方法と、使用できる選択オプションについて確認したいと考えています。

タスク:

このレッスンでは、標準の一覧を準備するためのツールである SAP リストビューアについて学習したため、これから自分の作業領域で使用できるオプションについて調べることにします。この目的で、得意先明細一覧を照会します。

会社コード 1000 の得意先 1033 の得意先明細一覧を照会します。未消込明細を選択し、基準日として本日の日付を選択します。

1. 割当列をソートします。どのようなソートオプションを使用できますか。どのように処理を進めますか。
2. また、金額が 40 通貨単位以下の伝票のみを照会する必要があります。そのためには、どのようにしますか。また、すべての伝票を再表示するには、どのようにしますか。
3. また、得意先 1033 について、支払日付にもとづく小計の合計行を表示することにします。
4. ALV 標準一覧デザインだけでなく、グリッドデザインで一覧を表示できることを、同僚が教えてくれました。そのため、グリッドデザインを使用してみます。
5. 支払日付列と支払条件列を未消込/消込済/未転記明細アイコンの横に表示することにします。希望する位置に列を移動するには、どうしますか。
6. また、事業領域勘定割当を追加項目として一覧に挿入します。この項目はテキスト項目の左側に表示します。
7. 列の移動や新しい列の追加を毎回行いたくないため、必要な項目を適切な位置に配置し、事業領域勘定割当項目を追加した表示バリアントを登録することにします。

適切なユーザ固有表示バリアントを登録し、初期設定は使用せずに、AC280-D-## (## = それぞれのグループ番号) として保存します。表示バリアント AC280-D-## (## = それぞれのグループ番号) には、事業領域付という名称を付けます。

解答 16: 選択

タスク:

このレッスンでは、標準の一覧を準備するためのツールである SAP リストビューアについて学習したため、これから自分の作業領域で使用できるオプションについて調べることにします。この目的で、得意先明細一覧を照会します。

会社コード 1000 の得意先 1033 の得意先明細一覧を照会します。未消込明細を選択し、基準日として本日の日付を選択します。

1. 割当列をソートします。どのようなソートオプションを使用できますか。どのように処理を進めますか。
 - a) 会計管理 → 財務会計 → 債権管理 → 勘定 → 明細照会/変更(トランザクション FBL5N)の順に選択します。

得意先: **1033**

会社コード: **1000**

未消込明細

未消込明細基準日: 本日の日付

プログラム → 実行

- b) 昇順または降順で一覧をソートすることができます。

編集 → 昇順ソート/降順ソートと選択します。

(または、列にカーソルを合わせて該当のボタン(昇順ソートまたは降順ソート)を選択)

次へ

2. また、金額が **40** 通貨単位以下の伝票のみを照会する必要があります。そのためには、どのようにしますか。また、すべての伝票を再表示するには、どのようにしますか。

- a) フィルタ設定/フィルタ削除:

編集 → フィルタ設定

(または、列にカーソルを合わせてフィルタ設定ボタンを選択)

国内通貨: EUR

金額: ~ 40

Enter

その後、

編集 → フィルタ削除

3. また、得意先 **1033** について、支払日付にもとづく小計の合計行を表示することにします。

- a) 支払日付における小計:

まず、別のレイアウトを選択します。

設定 → 表示バリエント → 選択

(またはレイアウト選択ボタン)

1SAP-P を選択します。

支払日付列にカーソルを合わせます。

編集 → 小計

(または、小計ボタンを選択)

4. ALV 標準一覧デザインだけでなく、グリッドデザインで一覧を表示できることを、同僚が教えてくれました。そのため、グリッドデザインを使用してみます。

- a) 一覧切替:

設定 → 一覧切替

次へ

5. 支払日付列と支払条件列を未消込/消込済/未転記明細アイコンの横に表示することにします。希望する位置に列を移動するには、どうしますか。
 - a) 支払日付列と支払条件列を未消込/消込済/未転記明細アイコンの後ろに移動:

列にカーソルを合わせて、希望する位置までドラッグします(マウスの左ボタンを押しながらドラッグ)。

(または、設定 → 表示バリアント → 現行:
矢印を使用して、選択した行を上または下に移動)
6. また、事業領域勘定割当を追加項目として一覧に挿入します。この項目はテキスト項目の左側に表示します。
 - a) 追加項目(事業領域):

設定 → 表示バリアント → 現行:
列セット(右側)で、事業領域を選択します。
選択項目追加矢印を使用して、列選択(左側)に移動します。
矢印を使用して、選択した行を上または下に移動し、希望する位置に配置します。
7. 列の移動や新しい列の追加を毎回行いたくないため、必要な項目を適切な位置に配置し、事業領域勘定割当項目を追加した表示バリアントを登録することにします。
 適切なユーザ固有表示バリアントを登録し、初期設定は使用せずに、AC280-D-## (## = それぞれのグループ番号)として保存します。表示バリアント AC280-D-## (## = それぞれのグループ番号)には、事業領域付という名称を付けます。
 - a) 設定 → 表示バリアント保存と選択します。
固有の名称(AC280-D-##)のもとに、バリアントを保存することができます。
レイアウト保存: AC280-D-##
名称: 事業領域付
ユーザ固有を選択します。
続行を選択します。
“レイアウトが保存されました”というメッセージが表示されます。



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 特定の会社コードの明細を検索するための、勘定に対する選択基準の使用
- 検索ヘルプを使用した選択基準の選択
- ステータスとカテゴリにもとづく明細の選択

レッスン: 画面レイアウトの変更

レッスンの概要

ユーザはさまざまな標準レイアウトに対して補足設定を行うことができます。このレッスンでは、標準レイアウトとユーザ固有レイアウトについて学習します。



レッスンの目的

このレッスンの目的は、以下のとおりです。

- 標準およびユーザ固有の画面レイアウトの変更

ビジネスシナリオ

経理担当者が、一覧の照会時に、標準レイアウトやユーザ固有レイアウトなどのさまざまなレイアウトから選択したいと考えています。



Zeilendaten									
	Betragr.	Zahl.Dat.	Bewegl.	Hersteller	Fkt. Befrag in Belegwiederg.	Währ.	Ausgabef.		
5100000000020008	5100000000020008	16.01.2000	■		11.459,60-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	16.02.2000	■		8.550,60-DEM				
5100000000120001	5100000000120001	09.02.2001	■		110,60-DEM				
5100000000120001	5100000000120001	09.02.2001	■		110,60-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	16.03.2000	■		4.490,60-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	16.03.2000	■		1.110,00-DEM				
5100000000120004	5100000000120004	31.03.2000	■		73.251,40-DEM				
5100000000120004	5100000000120004	09.04.2000	■		22.064,20-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	16.05.2000	■		18.814,00-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	27.06.2000	■		39.04,00-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	09.06.2000	■		370,60-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	09.07.2000	■		411,20-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	06.08.2000	■		407,00-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	07.09.1999	■		447,00-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	07.09.1999	■		23.411,10-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	16.08.1999	■		23.610,00-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	01.09.1999	■		22.095,40-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	20.09.1999	■		15.1376,30-DEM				
5100000000120008	5100000000120008	29.12.1999	■		22.650,80-DEM				
5100000000120008	5100000000120008		■		11.553,00-DEM				
					151.376,30-DEM				
					22.650,80-DEM				
					151.376,30-DEM				

支払									
	Betragr.	Zahl.Dat.	Bewegl.	Spz.1	Spz.2	Spz.3	Nabsp.	ZM/ZSp	Fkt. Befrag in Belegwiederg.
5100000000020001	23.02.2001	14	1.000,-	30	2.000,-	■	R		110,00-DEM
5100000000020002	23.02.2001	14	1.000,-	30	2.000,-	■	R		110,00-DEM
5100000000020004	14.04.2000	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	23.291,40-DEM
510000524911071999	28.07.1999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	16.934,00-DEM
100005254	22.06.1989	2801	14	1.000,-	30	2.000,-	■	R	209,04-DEM
7000287	21.07.1999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	370,00-DEM
510000537828061999	28.06.1999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	417,51-DEM
510000538321051999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	427,00-DEM	
510000537821051999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	427,00-DEM	
510000540804101999	04.10.1999	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	23.998,40-DEM
510000558809012000	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	11.558,00-DEM	
510000000009022000	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	11.458,00-DEM	

条件									
	Betragr.	Zahl.Dat.	Bewegl.	Spz.1	Spz.2	Spz.3	Nabsp.	ZM/ZSp	Fkt. Befrag in Belegwiederg.
5100000000120008	14.04.2000	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	151.376,30-DEM

1SAP-P									
	Betragr.	Zahl.Dat.	Bewegl.	Spz.1	Spz.2	Spz.3	Nabsp.	ZM/ZSp	Fkt. Befrag in Belegwiederg.
5100000000120008	14.04.2000	2801	14	3.000,-	30	2.000,-	■	R	151.376,30-DEM

図 107: レイアウト

一覧の照会時には、さまざまなレイアウトから選択することができます。

SAP では、さまざまな標準レイアウトを提供していますが、これらのレイアウトは別の(標準)レイアウトで補うことができます。標準レイアウトはレイアウト名の先頭にスラッシュ(/)が付きます。デフォルトレイアウトとして、標準レイアウトを使用することができます。いずれかの表示バリアントが初期バリアントとして設定されている場合は、代替の表示バリアントを明示的に指定しない限り、一覧出力にこのバリアントが常に使用されます。

また、ユーザ固有表示バリエントの保存が可能である場合には、ユーザ固有レイアウトも選択することができます。

ALV 初期レイアウトは会計編集オプションで入力します。

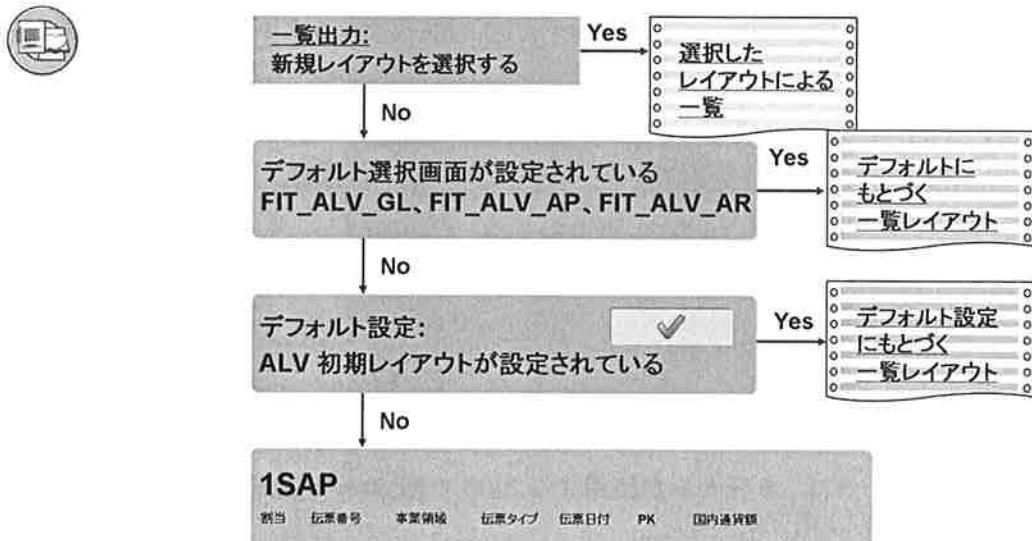


図 108: 標準レイアウト: デフォルトおよび初期レイアウト

標準レイアウトはすべてのユーザに適用されるレイアウトです。

ユーザは明細照会の一覧出力に自分が使用するレイアウトを選択することができます。必要に応じて、トランザクション FBL*N (仕入先の場合は * = 1, G/L 勘定の場合は 3、得意先の場合は 5) を次回呼び出したときに、このレイアウトを再び表示することができます。ユーザパラメータの会計編集オプションで、最後に使用したレイアウトがデフォルトとして保存されるように設定することができます。直近に指定したレイアウトを初期値として保存項目を選択すると、選択画面のレイアウトがデフォルトとしてユーザ設定に保存されます。ヒント: 別のレイアウトの選択によって、デフォルトレイアウトが誤って上書きされないようにするためにには、この項目を空白にしておきます。

レイアウトを選択しないと、ユーザパラメータからデフォルトの選択画面が選択されます。勘定タイプごとに、デフォルトの入力項目を設定することができます。

レイアウトの指定を行わず、またユーザパラメータでデフォルトの選択画面が設定されていない場合は、ALV 初期レイアウトが使用されます。ALV 初期レイアウトは、会計編集オプションでは定義できません。このレイアウトは、明細一覧自体でのみ定義可能です。ALV 初期レイアウトの設定は表示バリエント管理で行います。

表示バリエント管理でデフォルト設定を行っていないと、1SAP レイアウトが選択されます。

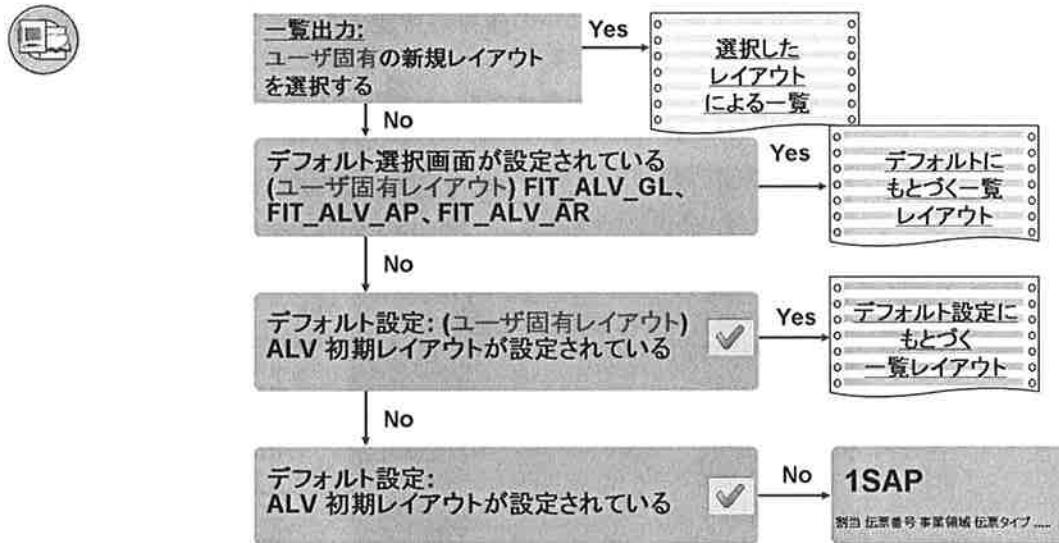


図 109: ユーザ固有レイアウト

ユーザは、自分のみが使用することができるユーザ固有レイアウトを登録することができます。

ユーザ固有レイアウトのみで作業を行う場合は、新しいユーザ固有レイアウトを使用して該当の明細一覧を呼び出します。それにより、ユーザパラメータの編集オプションで、デフォルト選択画面がこの新しいユーザ固有レイアウトによって更新されます。ユーザ固有レイアウトだけでなく、選択内の別のレイアウトも使用して明細一覧を呼び出せるようにする場合は、直近に指定したレイアウトを初期値として保存項目の選択を解除します。

優先順位に関しては、ユーザ固有の初期画面（デフォルトとして設定されたもの）が、一般初期バリアント（デフォルトとして設定されたもの）より優先されます。

演習問題 17: 画面レイアウトの変更

演習の目的

この演習の目的は、以下のとおりです。

- 画面レイアウトの変更と保存
- レイアウトの選択

ビジネスシナリオ

経理担当者は、一覧の選択時に標準レイアウトやユーザ固有レイアウトなどのさまざまなレイアウトから選択することができます。さらに、独自のレイアウトも追加したいと考えています。

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 会社コード **1000** の得意先 **1033** の未消込一覧を呼び出します。表示バリアント **AC280-D-##** を探し出します。この表示バリアントに対してデフォルト設定を選択し、再び保存します。未消込明細一覧を再度呼び出したときにはどのような表示バリアントが提案されますか。
2. 未消込明細の明細テキストで、売上がどのようにして得られたかを確認することができるようになります。明細テキストにフラットスクリーンというテキストが表示されるように、一括変更機能を使用してすべての明細を変更します。

タスク 2:

G/L 勘定明細一覧

1. 国産品の売上勘定 (**800000**) のすべての明細を確認するよう依頼されました。明細はいくつ表示されますか。
2. 転記日付を確認するには、まず伝票明細から伝票ヘッダに切り替える必要があります。しかし、伝票への分岐時にこの情報が即時に表示されるようにしたいと考えています。どのような方法がありますか。
3. また、転記先の利益センタの合計のみを、国内通貨による金額で表示する一覧を登録するよう依頼されました。明細の小計を分析するときに、伝票日付と伝票番号が表示されるようにする必要があります。この表示バリアント **AC280-PC-##** (## = 各自のグループ番号) はすべてのユーザが使用することができるよう設定し、テキストは**利益センタ #** にします。このような設定は可能ですか。
4. 利益センタ **1600** の明細の確認を必要としているユーザがいます。

次へ

5. 一覧のヘッダ明細で、G/L 勘定の番号、名称、および会社コードを確認し、さらにその勘定が属する勘定グループも確認する必要があります。

解答 17: 画面レイアウトの変更

タスク 1:

以下のタスクを実行します。

1. 会社コード **1000** の得意先 **1033** の未消込一覧を呼び出します。表示バリアント **AC280-D-##**を探し出します。この表示バリアントに対してデフォルト設定を選択し、再び保存します。未消込明細一覧を再度呼び出したときにはどのような表示バリアントが提案されますか。

a) 選択: 設定 → レイアウト → 選択

レイアウト設定 → ユーザ固有

表示バリアント **AC280-D-##** があります。

選択: 設定 → レイアウト → 保存

バリアント **AC280-D-##** を保存することができます。

このバリアントはユーザ固有として保持する必要があります。デフォルト設定を選択します。

続行を選択します。

以下のメッセージが表示されます。“既にレイアウトは存在します。
既存レイアウトを上書きしますか”

はいを選択して確定します。

以下のメッセージが表示されます。“レイアウトが保存されました。”

未消込明細一覧を再度呼び出します。バリアント **AC280-D-##** が表示されます。

2. 未消込明細の明細テキストで、売上がどのようにして得られたかを確認することができるようになります。明細テキストにフラットスクリーンというテキストが表示されるように、一括変更機能を使用してすべての明細を変更します。

a) 一括変更:

未消込明細一覧を呼び出して、編集 → 全選択を選択します。

編集 → 全選択

環境 → 一括変更 → 新規値(または一括変更を選択)

Enter を選択します。

一覧 → リフレッシュ

次へ

タスク 2:

G/L 勘定明細一覧

1. 国産品の売上勘定(800000)のすべての明細を確認するよう依頼されました。明細はいくつ表示されますか。

a) 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 勘定コード → 明細照会/変更(新)

G/L 勘定: 800000

会社コード: 1000

明細選択: 全明細

タイプ: 元帳 0L

プログラム → 実行

2. 転記日付を確認するには、まず伝票明細から伝票ヘッダに切り替える必要があります。しかし、伝票への分岐時にこの情報が即時に表示されるようにしたいと考えています。どのような方法がありますか。

a) 会計管理 → 財務会計 → 総勘定元帳 → 環境 → ユーザパラメータ → 編集オプション

タブページ明細

明細選択: ジャンプ.... 伝票概要

3. また、転記先の利益センタの合計のみを、国内通貨による金額で表示する一覧を登録するよう依頼されました。明細の小計を分析するときに、伝票日付と伝票番号が表示されるようにする必要があります。この表示バリアント AC280-PC-## (## = 各自のグループ番号) はすべてのユーザが使用することができるよう設定し、テキストは利益センタ ## にします。このような設定は可能ですか。

a) 明細一覧を再度呼び出します。

設定 → レイアウト → 現(またはレイアウト選択を選択)

列セットですべての列を選択します(Ctrlキーを押しながらクリック)。

右向き矢印(選択項目非表示)

列セット内:

- 利益センタ
- 金額(国内通貨)
- 伝票日付
- 伝票番号

次へ

左向き矢印 (選択項目追加) を使用して、これらの項目を列選択に追加します。

これらの項目を上記の順序で並べます。

ソート順序タブページ

列セットですべての列を選択します (Ctrl キーを押しながらクリック)。

右向き矢印 (選択項目非表示)

列セット内:

- 利益センタ

左向き矢印 (選択項目追加) を使用して、これらの項目を列選択に追加します。

昇順ソートを選択します。

小計を選択します。

Enter を選択します。

設定 → 集計レベル → ブレークダウン定義

レベル 1 (利益センタ) (または * ...) を選択します。

設定 → レイアウト → 保存

レイアウト: /AC280-PC-##

名称: 利益センタ

(* ... 設定 → 集計レベル → ブレークダウン定義を選択してブレークダウンを定義していない場合は、タブページで “保存” を選択します。

ソート順と小計を選択します。

合計レベルへブレークダウン: 1 *利益センタ

4. 利益センタ 1600 の明細の確認を必要としているユーザがいます。

- 小計アイコンを選択します。出力内の * を選択すると、選択した利益センタの明細が表示されます。

次へ

5. 一覧のヘッダ明細で、G/L 勘定の番号、名称、および会社コードを確認し、さらにその勘定が属する勘定グループも確認する必要があります。

a) 一覧ヘッダ:

設定 → レイアウト → 現行ヘッダ行

挿入 → 特性(または特性を選択)

変数タイプ: 特性関連テキスト変数

特性: 勘定グループ

テキストタイプ: テキスト(短)

値タイプ: 指定値のみ

書式: 強調、幅 25 を選択

挿入 → 特性(または特性を選択)

変数タイプ: 特性関連テキスト変数

特性: 勘定グループ

テキストタイプ: 値

値タイプ: 指定値のみ

書式: 幅 4

保存



レッスンのまとめ

以下について学習しました。

- 標準およびユーザ固有の画面レイアウトの変更



章のまとめ

以下について学習しました。

- SAP リストビューアのコンセプトに関する説明
- SAP リストビューアの機能の使用
- 特定の会社コードの明細を検索するための、勘定に対する選択基準の使用
- 検索ヘルプを使用した選択基準の選択
- ステータスとカテゴリにもとづく明細の選択
- 標準およびユーザ固有の画面レイアウトの変更